

仍テ政府ハ治山治水關係一切ノ事項ヲ統一企畫スルノ方途ヲ講スル爲速ニ内閣直屬官民合同ノ調査機關ヲ設置シ國策ノ確立遂行ヲ期スヘシ

右決議ス

右ハ昭和十二年三月十八日木村三郎君外十三名提出ス同月二十六日議事日程ヲ變更シテ會議ニ付シ提出者小山谷藏君ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

只今上程サレタ治山治水ノ根本策ニ關スル決議案ノ趣旨ノ説明ヲ致シタイト存ジマス、此決議案ハ決議案文ニ大體盡シテアルノデアリマスルカラ、案文ヲ朗讀致シマス

治山治水ノ根本策ニ關スル決議

治山治水ノ綜合統一ハ我カ國重要國策ノ一タルニ拘ラス現行ノ治山治水施設ハ往々輕重緩急ヲ謬リ剩ヘ機構ノ不合理ト法規ノ不備トニ因リ施行上連絡統制ヲ缺キ到底所期ノ實績ヲ期待シ得ス

仍テ政府ハ治山治水關係一切ノ事項ヲ統一企畫スルノ方途ヲ講スル爲速ニ内閣直屬官民合同ノ調査機關ヲ設置シ國策ノ確立遂行ヲ期スヘシ

右決議ス

提案ノ趣旨ト致シマシテ、只今朗讀致シマシタ案文ノ外ニ出デナイノデゴザイマス、デアリマスルケレドモ、吾々ハ政府ニ對シ其實行ヲ要求スル意味ニ於テ、簡潔ニ趣旨ノ説明ヲ致シタイト存ジマス、治水事業ノ極メテ重要ナル國策ノ一ツデアアルコトハ、今更申ス迄モアリマセズ、古ヨリ何レノ國ニ於キマシテモ、亦何レノ時代ニ於キマシテモ、治水事業ノ爲ニ爲政者ハ一方ナラザル苦心ヲ致シタコトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、我國ニ於キマシテモ明治以來歷代ノ内閣、政黨政派ノ如何ヲ問ハズ、此問題ノ爲ニ多大ノ力ヲ注イデ今日ニ至ッテ居ルノデア

リマス、其施設ノ重要ナルモノハ、言フ迄モナク所謂河川ノ改修デアリマス、河川ノ改修ヲ中心トシタル治水施設ノ爲ニ、歷代ノ内閣ガ其目的ヲ以テ多大ノ國費ヲ投ジ——若シ之ヲ累積致シマスレバ、思フニ十億ノ上ニ出ツル多大ノ國費ガ投ゼラレテ居ルノデアリマス、斯クシテ所謂河川改修工事ハ、著々トシテ其成績ヲ舉ゲ、今ヤ全國大小ノ河川、何レモ相當ナル治績ヲ舉ゲテ居ルノデアリマス、ソレニモ拘リマセズ、所謂水害ハ年々周期的ニ襲ヒ來ッテ、御承知ノ昭和九年十月ノ如キハ、驚クベキ災害ヲ全國各地、殊ニ農村民ニ與ヘテ居ルノデアリマス、諸君、歷代ノ内閣斯ノ如ク力ヲ盡シ、斯ル多大ノ國帑ヲ投ジテ、河川ノ改修工事ハ相當ノ成績ヲ收メテ居ルニ拘リマセズ、ソレニ反比例致シマシテ、災害ノ數ガ決シテ減退シナイノハ、何ガ爲メデアリマセウカ、治水工事ハ進ミ、多大ノ國費ヲ投ズル、災害ハソレニ比例シテ減退スベキ筈デアリマセウカ、政府統計ノ示ス所デハ、正反對ノ結果ヲ迎ッテ居ルノデアリマス、明治年代、大正時代ニ掛ケテ、我國水害ノ爲ニ被リシ所謂損害ハ、統計ノ示ス所ニ依リマス、云フト、五六千万圓程度ヲ超エナカッタモノガ、昭和時代ノ十年ヲ平均シテ見マス、驚クベシ、一億圓ノ上ニ出ツルト云フ、躍進的數字ガ現レテ居ルノデアリマス、諸君、治水工事、殊ニ河川改修ヲ中心トシタル治水事業ガ、アレダケノ成績ヲ舉ゲタ、其事實ヲ吾々ノ眼前ニ見ナガラ、正反對ニ災害ガ斯ノ如ク増加スルト云フコトハ、爲政者トシテハ、特ニ反省ヲ致サナケレバナラヌ事實デアルト信ズルノデアリマス、斯ノ如キ現象ハ抑、何ガ故デアリマセウ、蓋シ治水ニ對スル政府當局ノ施設ガ、所謂輕重緩急ヲ誤ッテ、河川改修工事ヲ中心トシテ、其成績ハ舉ッテ居リマセケレドモ、更ニ遡ッテ其根本ヲ究ムルト云フコトニ、甚ダ怠慢デアッタト云フ責任ハ、斷ジテ免レナイト信ズルノデアリマス、過去ノ治水ニ關スル政府ノ施設ヲ檢討致シテ見ルト、河川改修工事ニハ毎年數千万圓ノ國帑ヲ投ジテ居ル半面ニ、其根本トモ言フベキ、例ヘバ砂防工事デアルトカ、或ハ荒廢地ノ整備デアルトカ、更ニ遡ッテ所謂治山政策等ニ對スル國費ハ、實ニ貧弱言フニ堪ヘザルモノガアルノデアリマス、即チ一方河川改修工事ハ著々進ムニ拘リマセズ、只今御話シタヤウナ災害方面ニハ、正反對ノ現象ヲ來シタ所以デアリマス、東京

市ノ外ヲ流レテ居リマス荒川ノ改修工事ハ、此改修工事が出来マシテ以來、年々歳々東京市ヲ襲ウテ居ッタ水害ハ、今ヤ其跡ヲ絶ッタ申シテモ宜シイノデアリマス、然ルニ此根本トモ云フベキ治山或ハ砂防等ノ施設ニ對シテ、餘リニ怠慢デアリシ爲ニ、昭和九年、十年ノアノ慘憺タル災害ヲ、山村、農村地方ニ之ヲ見タノデアリマス、利根川ノ改修工事ハ、十四年ノ年月ト四千餘萬圓ノ巨額ノ國費ヲ投ジテ、諸君モ御覽ノ通り、蜿蜒數十里ニ跨ル堂々タル堤防が出来テ居リマス、サリナガラ昭和十年栃木、群馬地方ヲ襲ヒマシタ、アノ慘憺タル大水害ハ、抑、何ガ爲デアリマセウカ、或ハ山崩レトナリ、山津浪トナリ、土砂ノ崩壊トナリ、甚シキハ一部落全部土砂ノ底ニ埋没サレタト云フ悲惨事ガ、到ル處ニ繰返サレテ居ルノデアリマス、即チ斯ノ如キ事實ハ、所謂治水事業ノ根本政策ヲ誤リ、治水其モノニ何等ノ連絡ガナク、統一ガナク、何ノ主義方針モナイ結果デアルト云フコトヲ、明ニ物語ッテ居ルノデアリマス、斯様ニ觀察シテ參リマスト、所謂治水ノ目的ヲ達成センガ爲ニハ、此統一ナク連絡ナキ政策ニ根本的ノ改正ヲ加ヘテ、茲ニ一ツノ有力ナル機關ヲ設定致シマシテ、此不統一ヲ統制スルコトガ、目下ノ急務デアルト言ハナケレバナリマセヌ、是即チ此決議案ヲ提出スルニ至リマシタ主ナル理由デアリマス、斯ク致シマシテ吾々國民ノ要望ニ、政府モ亦茲ニ顧ミル所アリマシテ、本年提出サレタル豫算ヲ點檢致シマスト、從來トハ餘程其趣ヲ異ニシテ、此根本策ニ對シ相當ノ豫算ノ計上ヲ致シテ參ッタト云フコトハ、洵ニ隔世ノ感アリト申シテ宜カラウト思フノデアリマス、即チ本年豫算ニ計上サレタ所ノ河川改修費ハ、從來ト大シタ變リハアリマセヌ、政府直轄ノ河川改修並ニ中小河川改修事業トシテ、三千万圓ソコノ豫算ニ過ギナイノデアリマスガ、更ニ廣イ意味ニ於テノ治水ト重大ナル關聯ヲ有ッテ居リマス、所謂砂防事業ト致シマシテハ二百五十萬圓、又農林省所管ノ荒廢地整備費其他ノ治水事業費トシテ、五百五十餘萬圓計上サレタト云フコトハ、從來ノ豫算面ニハ殆ド見ルコトノ出來ナイ、飛躍的ノ進歩デアルト申シテ宜カラウト思ヒマス、併ナガラ一歩ヲ進メテ其内容ヲ點檢シテ見マスト、農林省ノ所管ニ屬スル治水事業、是ハ間ク所ニ依レバ十二箇年計畫デアリマシテ、七萬餘町歩ノ荒廢地ノ整理及ビ治山計畫ガ件

ウテ居ルノデアリマス、其總額ハ八千万圓ダト聞イテ居リマス、一方此農林省所管ノ治水計畫ト密接離ル、コトノ出來ナイ砂防計畫ハ、内務省所管ニ於テ五箇年計畫三千万圓ノ繼續費トナッテ居ルノデアリマス、此砂防計畫ハ農林省所管ノ治水計畫ト區別シテ考ヘルコトハ出來ナイモノデアルト吾々ハ信ズル、然ルニ一方ハ五箇年繼續デアルニ反シテ、片方ハ十二箇年繼續事業デアルトハ何タルコトデアリマセウ、荒廢地ノ整理、更ニ其根本デアル所ノ治山事業、此計畫ガ實現セズシテ、其下ニ砂防工事ヲ施シテ何ノ效果ガアルノデアリマセウ、更ニ此農林省所管ノ所謂治山政策ノ完備、其次ニ來ル所ノ砂防事業ノ完成、而シテ後ニ來ルモノガ所謂河川改修事業デナケレバナラナイノデアリマス、斯ノ如ク觀察シテ參リマスト云フト、隔世ノ感アル本年度ノ豫算ニ現レマシタ治水計畫ノ如キニ至リマシテモ、之ヲ從來ニ比シテ隔世ノ感ガアルト云フニ止ッテ、未ダ治水計畫ノ根本ニ對シテハ、政府ノ認識不足亦甚シト言ハナケレバナラナイノデアリマス、世間ニハ往々國際情勢ニ對スル認識不足ダト云フコトヲ聽クノデアリマスガ、斯ル國策ノ重大問題ニ對シテ政府自身ノ認識不足ヲ、政府ハ宜シク自ラ反省シナケレバナラスト信ズルノデアリマス、林内閣ハ庶政ヲ一新シテ、國民生活ノ安定ヲ重要ナル國策ノ一トシテ、今ヤ空前トモ稱スベキ歴大ナル豫算ヲ要求シテ、著々トシテ其政策ヲ進メントシテ居ルノデアリマス、此政府ガ最モ重點ヲ置イテ居ル問題ハ、言フ迄モナク所謂國防計畫デアリマスト、政府ノ語ル所ハ國際危機、此國際的危機ノ克服ノ爲ニ、國防計畫ノ充實ト云フコトヲ要求サレテ居ルノデアリマス、吾々モ此政府ノ要求ニ對シテハ、固ヨリ否認スル者デハアリマセヌ、併ナガラ獨リ外ヨリ來ル所ノ危機ノミニ止ラズ、年々歳々周期的ニ農村ヲ襲ヒ來ル所ノ、而モ年々一億餘萬圓ニ上ル歴大ナル災害ヲ來ス、此國內的危機ヲ看過シテハナリマセヌ、國際的危機ニ備ヘルト同様ノ意味ニ於テ、殊ニ國民生活安定ノ現實ノ問題ニ對シテハ、一層忠實ナル考慮ヲ政府ニ要求致サナケレバナリマセヌ、私ハ此意味ニ於テ、本決議案ノ精神ノ存スル所ヲ十分ニ御酌取リニナラレテ、同時ニ從來不統一ノ爲ニ斯ル矛盾ヲ來シ、斯ル損害ヲ國家ニ與ヘテ、數十年ノ間顧ミルコトヲ知ラナカッタ此政策ニ對シ、庶政一新ノ實ヲ擧ゲラレンコトヲ要求致

シマシテ、本決議案提出ノ趣旨ノ説明ヲ致シタ譯デアリマス

討論ニ入り武田徳三郎君、青木精一君、高岡大輔君及三浦虎雄君ハ執レモ賛成ノ演説ヲ爲ス

武田君ノ賛成演説

私ハ只今提案ニナリマシタ、治山治水ノ根本策ニ關スル決議案ニ、賛成ノ意見ヲ表明致シタイト存ズル者デアリマス、小山君ハ吾々本決議案提案者ヲ代表致サレマシテ、本決議ノ趣旨ノ在ル所ヲ詳シク御述ニナッタデアリマス、此上私ハ蛇足ヲ加ヘル必要ヲ認メナイ者デアリマス、併ナガラ此場合政府ニ一言要求ヲ致シテ置キタイト思フデアリマス、治水ノ必要ナコトハ申ス迄モアリマセヌ、又河ヲ治メント欲スルナラバ、先ヅ其源タル山ヲ治メナケレバナラヌト云フコトモ、是亦多ク語ルノ必要ヲ認メナイデアリマス、然ルニ從來政府ノ爲ス所ヲ見マスルト云フト、此極メテ明白ナル事柄ト矛盾シテ居ルコトガ甚ダ多イデアリマス、御承知ノ如クニ第一期治水計畫ナルモノハ、明治四十一年ニ定メラレマシテ、最初ハ十八箇年ニ一億九千万圓ト云フノ計畫致シタデアリマス、ソレガ遂ニ二十五箇年間延ビ、一昨年漸ク第一期ガ終ツタコトニナッテ居ルデアリマス、而シテ其内容ヲ檢討致シテ見マスルト云フト、歴代ノ政府ガ如何ニ治山事業ニ十分ナ諒解ガ無カッタコト云フコトガ分ルデアリマス、即チ此第一期計畫中、治山ノ爲ニ費ス所ハ、僅ニ全經費ノ八%シカ使ッテ居ラナイデアリマス、後ノ約九二%ト云フモノハ、治水ノ爲ニ使ッテ居ルデアリマス、勿論洪水ガ出マシテ、下流ノ氾濫ヲ見ル場合ニハ、人畜ニ被害ヲ及ボシ、田畑ニ被害ヲ及ボシマスノデ、之ニ適當ノ救済策ヲ施スト云フコトハ、一日モ忽セニスベカラザルコトデアリマス、是ガ爲ニ相當費用ヲ要スルト云フコトハ當然デアリマス、是ハ吾々ニ於テモ人後ニ落チル者デアリマセヌ、併ナガラ是等年々到ル處ノ災害ヲ防ガント致シマスルナラバ、先程小山君ノ縷々申述ベラレタ如ク、其源デアアル所ノ山ヲ治メルコトニ力ヲ入レナケレバ、年々歳々賽河原ノ如ク、水害ノ爲ニ吾々ハ

損害ヲ被ッテ、何時マデモ其損害ヲ除クノ途ガ發見サレナイデアリマス、殊ニ今日吾々ガ甚ダ遺憾ニ思ヒマスルコトハ、此治山ノ事ハ農林省ノ所管デアリ、治水ノ事ハ大體ニ於テ内務省ノ所管デアアルニ拘ラズ、此間ニ於テ何等連絡統一ガ取レナイデアリマス、殊ニ今年ノ豫算ヲ見マスルト云フ、此見合セ額ノ中、治水ニ關シ、農林省並ニ内務省ノ所管ニ於キマシテ、約五百万圓ノ減額ヲ見テ居ルデアリマス、ソレ等ハ現内閣ニ於カレマシテモ、治水事業並ニ治山事業ノ、我國ノ現在ニ於テ如何程急要ノモノデアラカト云フコトニ、認識ヲ缺イテ居ル一ツノ例證デハナイカト思フデアリマス、私ハ我國ノ從來ノ災害ノ狀況ヲ見マスルト、實ニ治山治水ノコトハ、一日モ忽セニスベカラザルコトデアアルト思フデアリマス、今小山君モ申サレタル如ク、最近ノ年々ノ水害ニ於テ、國民ノ被ル所ノ損害ハ一億ニ垂ント致シテ居ルデアリマス、而シテ大正十年カラ十箇年ノ平均ハ、六千三百万圓ニナッテ居ルデアリマス、治水事業ガ進ムニ從ッテ、却テ其國民ノ被ル所ノ損害ガ漸次多額ニ上ルニ至ッテハ、如何ニ政府者ガ怠慢デアラカト云フコトヲ、實地ニ立證スルモノデアルト私ハ確信スル者デアリマス、政府ニ於カレマシテモ、是等ノ事情ヲ考慮サレテ、斷乎トシテ治山治水ノ綜合統一ノ計畫ヲ立テラレンコトヲ、衷心ヨリ希望致ス者デアリマス、私ハ終リニ臨ンデ、此際政府ハ吾々ノ提案致シマシタ本決議案ニ對シテ、如何ナル意向ヲ御持チニナッテ居ルカト云フ、其意思ノ御表明ヲ願ヒタイト存ジマス、私ノ申上ゲルコトハ以上ニ止メテ置キマス

青木君ノ賛成演説

只今上程ニナッテ居リマス治山治水ノ根本策ニ關スル決議案ニ對シテ、吾々ハ賛意ヲ表スル者デアリマス、近年水害ノ頻發ニ依ッテ、其被害ヲ蒙ル程度ガ著シク高マッテ參リマシタコトハ、御承知ノ通りデゴザイマスルガ、是ガ根本救済ノ爲ニハ、ドウシテモ治山治水ヲ徹底的ニ實行シナケレバナラナイコトハ、申上ゲル迄モナイコトデアリマス、唯此決議案ノ内容カラ檢討致シマスルノニ、一ツノ觀點ヨリ政府ニ注意シテ貫ハナケレバナラナイ、一ツハ、此治山治水ノ計畫

ヲ立テ、之ヲ實行スル上ニ於テ、前ノ諸君ガ言ハレタ通り、政府トシテノ綜合統一ヲ缺イテ居ル、内務省ノ治水計畫、農林省ノ山林治水計畫、又用排水ノ計畫、或ハ又逓信省ノ電氣事業關聯ノ計畫、鐵道工事ノ問題等ガ支吾錯綜シテ、此治水問題ノ計畫ヲ立ツル上ニ於テモ、實行スル上ニ於テモ、幾多ノ支障ヲ來シ、是ガ爲ニ解決ガ遲レテ居ルコト著シイノデゴザイマス、本決議案ニ於テ、再檢討ヲ致ス爲ニ、官民合同調査會ヲ以テ、十分徹底的ノ立案ヲセヨト云フ要求ヲ致スノハ、茲ニ原因ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、尙ホ私共モ内務省ニ於テモ相當ノ治水計畫ヲ有ッテ居ラレルコトモ承知致シテ居ル、農林省山林局關係ニ於テモ、相當ノ計畫ヲ有ッテ居ラレマス、ガ之ヲ早く周到ナル注意ヲ以テ實行シテ呉レ、バ、ソレダケ被害ガ少クナルノデゴザイマスガ、早く實行出來ナイト云フノハ、之ニ要スル所ノ豫算ガ十分デナイカラアルノデアリマス、斯ウ云フ治水事業ノ如キ生産事業ニ對シテハ、政府ハ國費ヲ吝シムコトナク、ドンドン國費ヲ以テ賄ッテ、サウシテ此計畫ヲ一日モ早く完成スルヤウニ、心懸ケテ貫ハナケレバナラヌノデゴザイマス、ソレカラ先程申上ゲタ通り、此治水問題ニ付テハ、各省ノ入り亂レタ所ノ關係ガ、沿革的ニ禍ヲ致シテ居ル、殆ド此問題ニ付テハ、内務省ハ内務省ノ立前ニ割據シ、農林省ハ農林省、其他ノ省ニ於テモ各、自己ノ因縁情實ニ驅ラレテ、一ツノ問題ヲ解決スル爲ニモ、中々此役人同士ノ理解連絡ト云フモノガ付カナイノガ實情デアリマス、口ニ庶政一新ヲ叫ンデモ、役人ノ頭ニ精神的ニ庶政一新ノ氣分ガ持タレナイ間ハ、斯ウ云フヤウナ役人ガ小サナ役所ニ割據シテ、各、獨善主義ヲ發揮スルヤウデハ、治水治山ト云フヤウナ大キナ問題ノ解決ハ出來ナイノデアリマス、故ニドウカ此治水治山ノ問題ヲ、官民合同ノ力ガ解決スルノ方針ヲ立テラレルト共ニ、其事務ニ携ッテ居ル所ノ官吏ノ諸君ハ、其役所ノ權限問題トカ、感情問題トカ、サウ云フヤウナモノハ一掃シテ、大局カラ見テ、國家國民進ンデ以テ、お互ニ相理解シ、お互ニ讓歩シテ、サウシテ圓滿ナル理解ノ下ニ、其計畫ヲ著々解決セラレルヤウニ希望致ス者デアリマス、此意味ヲ以テ私ハ本決議案ニ贊成ヲ致シマス

高岡君ノ贊成演説

只今治山治水ノ根本策ニ關スル決議案ガ上程サレ、其提案理由ガ縷々述ベラレ、又是ガ提案ニ對シテ贊成ノ御演説ガアリマシタ、論旨ハ既ニ盡シテ居ルノデアリマス、私ハ茲ニ此席カラ一言述ベテ贊意ヲ表明シタイト存ジマス、我國ハ御承知ノ通り山國デアリマシテ、農耕地ハ僅ニ六百万町步デアリマス、或ル學者ノ説ニ依リマスレバ、更ニ三百五十万町步ノ開墾見込地ガアルト言ハレ、又農林省ノ數字ニ依リマシテモ、内地ニ百万町步、北海道ニ六十五万町步ノ耕地擴張見込地ガアルトコトデアリマス、併ナガラ是ガ實行實現ト云フコトハ、中々困難デゴザイマス、之ヲ諸外國ニ比較致シマスレバ、世界ノ集約的農業ノ典型的デアアル丁抹ニ比シマスレバ約八分ノ一、尙ホ「アイルランド」ノ如キ、殆ド耕地ノ見ルベキモノナイ國ニ比シマシテモ、其六分ノ一、五分ノ一ト云フヤウナ耕地デアリマス、然ルニ此僅カナ耕地ハ驟雨一タビ來レバ一夜ニシテ泥海ト化スノデアリマス、又工業地帯ニ於キマスル災害ハ、洵ニ吾々ノ憂フルモノガアルノデゴザイマス、近年吾々ノ眼前ニ展開サレマシタ水害ノ慘禍ト云フモノハ、餘リニモ深刻ナノデアリマス、先程ノ御演説ノ中ニモアリマシタ通り、其平均被害額ガ年々一億圓ニ達シ、昭和九年ノ大水害ノ如キハ、驚クベシ五億七千万圓ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、治水ノ根本ガ治山ニアルコトハ今更申上ゲル迄モアリマセヌ、徒ニ河水ノ氾濫ニ對シテノミ、其改修工事ニ狂奔スルコトヲ止メマシテ、速ニ是ガ根本タル治山行政ヲ完備セネバナラナイト存ズルノデアリマス、從來ノ政治竝ニ行政機構ニハ、不合理矛盾ノ點ガ多々アリマス、勿論ソコニ幾多ノ機關ガアリ、熱心ニ是ガ對策ヲ考究サレテ居リマセウガ、残念ナコトニハ、其間何等ノ統一サレル所ガナイノデアリマシテ、即チ俗ニ申シマスル勞多クシテ功少イモノガアルコトデアリマス、政府ハ此慘害ヲ未然ニ防グベク、將又勞多ク功亦大ナラシムルベク、政府當局ハ是等諸機關ヲ統合スルト共ニ、國策ノ一タルベキ此治山治水ノ根本策ヲ樹立シ、茲ニ官民ヨリ成ル調査機關ヲ設置シ、飽マデ是ガ實效實績ヲ擧ゲラレンコトヲ要望シ、此決議案ニ贊意ヲ表スル者デアリマス

三浦君ノ賛成演説

本案ニ對シマスル賛成ノ理由ハ、最早前ノ諸君ニ依リマシテ盡キテ居リマス、私ハ簡單ニ申上
ゲマスルガ、今日尙ホ洪水ノ慘禍ニ日本ガ惱ムト云フコトハ、聖代ノ遺憾事デアリマス、而モ
治水ニ多クノ力ヲ注イデ、治山ノコトヲ忘レテ居ッタト云フコトモ、亦甚ダ遺憾ナコトデアリマ
ス、然ルニ今回ノ治山治水一切ノ事業ヲ統一スル、官民合同ノ治山治水ノ根本策ニ關スル決議
案ガ、各派一致ヲ以テ提案セラレマシタコトハ欣快ニ堪ヘマセヌ、東方會ハ雙手ヲ舉ゲテ本案
ニ賛成致シマス

起立採決ノ結果全會一致之ヲ可決ス
河原田内務大臣ハ政府ノ所見ヲ述フ

治水治山ノ必要ナコトハ申スマデモアリマセヌ、政府ハ從來各省其他ニ於テ十分連絡ヲ取ツテ其
方ニ努メ、又將來モ努メル積リデアリマス、尙ホ御決議ノ趣旨ニ付キマシテハ、篤ト研究考慮
ヲ盡シタイト思ヒマス

即日右決議ハ大橋内閣書記官宛送付セリ

一 人權蹂躪根絶ニ關スル決議案

人權蹂躪根絶ニ關スル決議

政府ハ近時頻發セル人權蹂躪ノ事蹟ニ鑑ミ速ニ適當ナル方策ヲ樹立シ以テ其ノ弊竇ヲ根絶スヘ

右決議ス

右ハ昭和十二年三月二十二日小泉又次郎君外五十五名提出ス同月二十五日議事日程ノ順序ヲ變更
シテ會議ニ付シ提出者一松定吉君ハ左ノ趣旨辯明ヲ爲ス

諸君、私ハ只今上程セラレマシタ民政黨、政友會、昭和會ノ共同提案ニ係リマス人權蹂躪根絶
ニ關スル決議案ノ趣旨辯明ヲ致スコトヲ得マシタノハ、深ク光榮トスル所デゴザイマス、此際
決議文ヲ朗讀致シマス

人權蹂躪根絶ニ關スル決議

政府ハ近時頻發セル人權蹂躪ノ事蹟ニ鑑ミ速ニ適當ナル方策ヲ樹立シ以テ其ノ弊竇ヲ根絶
スベシ

右決議ス

人權ヲ尊重致シマスコトニ依ッテ國家ノ隆昌ヲ來シ、國民ノ慶福ヲ増進スルコトハ言フ迄モゴ
ザイマセヌ、人權ヲ蹂躪スルコトニ依リマシテ國家ヲ衰退ニ導キ、國民怨嗟ノ聲ヲ聞クニ至リ
マスルコトハ、是亦當然ノコトデアリマス、此故ニ我國御歴代ノ天皇ハ、常ニ民ノ身ノ上ニ大
御心ヲ注ガセ給ヒマシテ、仁慈ノ政ヲナサルコトヲ以テ、政治ノ要道ト致サレマシタコトハ、
私共國民ノ常ニ尊崇措ク能ハナイ所デゴザイマス、明治大帝ガ又常ニ皇祖皇宗ノ御遺訓ヲ奉
戴セラレマシテ、民草ノ上ニ大御心ヲ注ガセ給ヒマシタコトハ、私ガ喋々スル迄モゴザイマセ
ヌ、「民ノタメニ心ヲヤスム時ゾナキ身ハコ、ノエノ内ニアリテモ」照ルニツケクモルニツケテ
思フカナワガ民草ノウヘハイカニト」斯ノ如キ御聖歌ヲ拜スルニ及ビマシテ、私共ハ常ニ其大
御心ノ有難サニ對シマシテ、襟ヲ正サナイ時ハナイノデゴザイマス、斯様ナ意味ニ於キマシ

テ、明治大帝ハ封建時代ニ於テ吾々國民ノ權利ヲ認メザリシ事實ヲ痛嘆セラレマシテ、憲法ヲ御發布ニ相成リ、而シテ吾々臣民ノ權利義務ヲ憲法上ニ御欽定遊バセラレマシタコトハ、私共ノ最モ有難ク感ズル次第ゴザイマス、憲法第二十三條ニハ、法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシト明定セラレテ居リマス、又憲法二十五條ニハ、法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシト明定セラレテ居リマス、又刑事訴訟法ニ於キマシテハ、現行犯若クハ準現行犯ノ場合ニ、檢事並ニ司法警察官ニ或ル特權ヲ與ヘテ居ル以外ニ、非現行犯ノ場合ニ於キマシテハ、特別ノ明文アル場合以外ニハ、斷ジテ權力ヲ用ヒルコトヲ禁ジテアリマスルコトハ、諸君御了知ノ通りゴザイマス、若シ斯ノ如ク法文ノ規定ニ反シマシテ、檢察ノ事務ニ從事致シマスル者ガ、人ヲ毆打シ、拷責シ、暴行ヲ加ヘル如キコトガアリマシタ時ニハ、刑法ハ重キ刑罰ヲ以テ之ニ臨ンデ居リマスルコトモ、是亦私ガ喋々スル必要ガナイノデゴザイマス、然ルニ今日犯罪搜查ノ實情ヲ見マスルニ、警察官ハ投書、密告、其他見込ニ依リマシテ、良民ノ寢込ミヲ襲ヒ、或ハ良民ノ旅行先ヲ追撃致シマシテ、法規ニ依ラズ、承諾同行名義ノ下ニ、之ヲ警察署ニ連行シ、承諾留置ノ名義ノ下ニ、之ヲ留置場ニ監禁シ、承諾家宅搜索ノ名義ノ下ニ、濫リニ家宅ニ侵入シ、甚シキハ人ノ身體檢査ヲ爲シテ憚ラナイヤウナコトヲ敢行シテ居ルコトガ、今日ノ現狀デアリマス、而シテ其違法ヲ糾彈サレルヤ、彼等ハ直チニ是ハ違法デハナイ、是ハ適法ノ行爲ナリトシテ、行政執行法第一條ヲ持出シテ、其責任ヲ回避セントスル狀況ニアリマスルコトガ、今日日本全國ニ行ハレル警察官ノ不法ナ處置デアリマス、諸君、御承知ノ如ク行政執行法ノ第一條ハ泥醉者、癡癩者、自殺ヲ企ツル者等ニ對シマシテ、之ヲ救護スル爲ニ檢束ヲ認メテ居リマス、又公安ヲ害スルガ如キ場合アル時ニ、之ヲ豫防スル爲ニ豫防檢束ヲ認メテ居リマス、但シ斯ノ如キ檢束處分ハ犯罪搜查ノ爲ニ用ユベキモノデハアリマセヌ、即チ警察規則勵行ノ意味ニ於テ、一時ノ便法トシテ認メラレタル規則デアリマシテ、法ハ其翌日ノ日没前ニ必ズ之ヲ釋放スルコトヲ命ジテアルノデアリマス、然ルニモ拘ラズ、釋放ドコロデハナイ、之ヲ留置場ニ押込メマシテ、幾日

モ幾日モ之ヲ留置致シマシテ、サウシテ其目的ハ犯罪搜查ノ爲ニ之ヲ引出シテ取調べテ居ルコトガ、今日ノ實情デアリマス、最初ノ間ハ日没前ニ釋放シナケレバナイト云フ法文ヲ正シク解釋シテ、一度警察ノ門前ニ之ヲ連レ出シ、隣ノ警察署ノ刑事巡查ガ直チニ之ヲ捕ヘテ自分ノ署ニ連行シ、其翌日ノ日没前ニハ、其署ニ於テ再ビ同一ノコトヲ繰返スガ如ク、所謂監廻檢束ヲ實行致シマシテ、二十日間デモ、三十日間デモ、不法ヲ敢テ致シテ居ッタノデアリマス、其後ニ至リマシテハ、門前マデ連レ出シテ、是デ釋放シタリト稱シテ、直チニ又引戻シテ同ジ留置場ニ入レテ、サウシテ幾日間デモ之ヲ拘禁シ、取調べヲ繼續スル、即チ引戻檢束ヲ實行致シテ居リマシタ、最近ノヤリ方ハ如何デアルカト言ヒマス、監廻檢束、引戻檢束ノ如キハ、全ク手續ヲ省略致シテ左様ナ手續ヲシナイバカリデハナク、書類ノ上ニ於テ毎日々檢束ヲ再改シタルガ如ク記載致シマシテ、而モ其理由ニハ、自殺ノ虞アリト云フ護謨印ヲ捺シマシテ、之ヲ留置シテ犯罪ノ取調べヲ居ルノデアリマス、諸君、若シ眞ニ自殺ノ虞アルガ爲ニ檢束致シタモノト致シマスルナラバ、何故ニ親族故舊ヲ警察ニ喚出シテ、サウシテ之ヲ引渡シテ、自殺ノ虞ナキニ至ラシメル所ノ、適當ナル處置ヲ執ラナイノデアリマスカ、左様ナコトハ一切致シマセヌ、又左様ナコトヲスレバ、數日間檢束ガ出來ナイカラデアリマス、諸君、斯様ナコトヲ致シマシテ、而モ此行政執行法ノ檢束ニ對シマシテハ、異議ヲ申立テル方法ガ法律ニ認メテアリマセヌ爲ニ、親族故舊及ビ其救出シテ依頼セラレマシタ辯護士ト雖モ、何等施スベキ手段ナク、不法ノ檢束デアリ、不法ノ逮捕、監禁デアルト云フコトヲ承知シナガラ、施スベキ術ノナイト云フコトガ今日ノ實情デアリマス、諸君、眞ニ吾々法治國家ト致シマシテ、斯ノ如キ不都合ナコトノ行ハレテ居ルコトヲ考ヘル時ニ於テ、國民代表タル吾々ト致シマシテハ、斷ジテ之ヲ不問ニ付スルコトハ出來ナイノデアリマス、斯ノ如キ不都合ナルコトヲ禁止スル意味ニ於キマシテ、御承知ノ如ク刑事訴訟法ガ改正セラレマシタ時ニ、強制處分ノ方法ヲ新ニ制定致シマシテ、召喚、留置、家宅搜索等ノ必要ナル場合ニハ、檢事ハ豫審判事ニ要求ヲ致シマシテ、此強制處分ニ依ッテ合法ナル處置ヲ執ルコトヲ命ジタノデアリマス、之ニ依ッテ斯

ノ如キ違法ノ措置ヲ禁止シタノデアリマス、然ルニ今日此強制處分ナルモノハ繁ク行ハレテ居ルニ拘ラズ、依然トシテ行政執行法ノ濫用セラレテ居リマスルコトハ、全ク二重ニ彼等ニ自由ヲ拘束スル權利ヲ認メタ結果トナリマシテ、吾々ハドウシテモ之ヲ容認スルコトハ出來ナイノデアリマス、行政執行法ノ濫用ニ對シマシテハ、常ニ本院ニ於テ左様ナコトヲ杜絶シナケレバナラナイト云フコトデ、數回其改正案ガ議決セラレマシテ、貴族院ニ回サレタコトハ皆様御承知ノ通りデアリマス、何デモ齋藤内閣ノ時デアッタト思ハレマスガ、本院ヲ最初ニ通過致シマシテ貴族院ニ參リマシタ、貴族院デハ斯ノ如キ人權蹂躪ノ行爲ガ、全國的ニ行ハレテ居ルト云フコトニ大イニ注意ヲ拂ハレマシテ、之ヲ可決セント致シタノデアリマスガ、時ノ政府ハ之ヲ可決セラレテハ、犯罪捜査ハ全ク出來ナイノデアアル、就中治安維持法ノ犯人ヲ逮捕審問スルノニハ、此法律ヲ用フルニアラザレバ方法ナキニ依リ、治安維持法ノ改正法律案ヲ提出スルマデ、暫定的ニ之ヲ否決シテ貫ヒタイトノ、祕密會ノ席上ニ於テ政府カラ懇請セラレマシタトカ云フコトデ、委員諸君モ其懇請ヲ容レ、一時之ヲ否決セラレタノデアアルトコトデアリマス、所ガ其後提案セラレマシタ所ノ治安維持法ノ改正法律案ハ、餘リニ強制力ヲ用フル點多カリシ爲メ、當院ニ於テ二回共之ヲ審議未了ニ終ラシメマシタノデアリマス、其結果今日ニ至ル迄、此行政執行法ニ依ル不法檢束ガ行ハレテ居ルノデアリマシテ、我人共ニ眞ニ遺憾トスル所デアリマス、ソレバカリデハアリマセヌ、其當時貴族院ハ内務大臣、司法大臣ニ對シテ、然ラバ暫定的ニ此案ヲ否決スルガ故ニ、兩大臣ハ協議連署ノ上全國ノ知事、檢事正ニ對シテ、行政執行法ヲ濫用シ、犯罪捜査ノ用ニ供スルコトヲ斷ジテ禁止スルト云フ、嚴重ナル訓示ヲ發セラルベシト要求致シマシタ結果、司法大臣、内務大臣ハ連署ノ上、之ヲ全國ノ地方長官、警視總監、檢事正ニ内訓ヲ發シ、嚴重ニ左様ナ不都合ヲシテハナラヌト禁止シタノデアリマス、併ナガラソレハ何等ノ效果モゴザイマセヌ、相變ラズ今日マデ濫用セラレテ居リマス、是ハ歴代政府ノ重大ナル責任デアルト私ハ斷言スルノデアリマス、更ニ甚シキニ至リマシテハ、逮捕、監禁シタバカリデハアリマセヌ、密告、投書、其他ノ捜査ニ依リマシテ探リ得タル事實ヲ先入主トシテ、頭

ノ中ニ織込シテ、サウシテ良民ヲ拉致シテ、其先入主ノ事實ニ適合セザル供述ヲ爲ス場合ニ於テハ、其良民ニ對シテ車夫、馬丁モ聞クニ堪ヘザル罵詈謗言ヲ弄シ、甚シキハ暴力ヲ以テ毆打、拷責シ、其結果取調ヲ受ケテ居ル良民ヲ傷害シ、死ニ至ラシムルガ如キ幾多ノ事例ノ實在スルコトハ、洵ニ以テ容易ナラザル事柄ナリト考ヘテ居ルノデゴザイマス、諸君御承知ノ如ク刑事訴訟法ハ、取調ヲ爲ス官吏ニ對シマシテ、被告人ニ對シテハ丁寧親切ヲ旨トシナケレバナラナイ、警察官ガ人ヲ調ベル時ニハ單獨デハイケナイ、立會人ヲ置イテ、サウシテ丁寧親切ニ取調ヲシナケレバナラナイ、而モ被疑者其他取調ヲ受ケル者ガ利益ノ供述スル時ニハ、ソレヲ調書ノ上ニ明記シテ、被告ノ利益ヲ圖ラナケレバナラナイ、婦女ノ身體ヲ檢査スル場合ニハ、必ズ成年ノ婦女ヲシテ立會ハセナケレバナラナイ、家宅搜索ヲスル時ニハ、何處マデモ秘密ヲ保持シナケレバナラナイ、捜査ヲ受ケル者ニ對シテハ、ソレ等ノ人ノ名譽ヲ毀損シテハナラナイ、名譽保持ノ方法ヲ講ジナケレバナラナイ、被疑者其他ノ名譽ヲ毀損シテハ絕對ニ相成ラナイ、警察官ガ人ヲ裁判所ニ勾引スルト云フヤウナ場合ニ於テハ、必ズ令狀ヲ其者ニ示サナケレバナラナイ、身體檢査、家宅搜索ヲスル場合ニハ、裁判所ノ令狀ヲ示サナケレバナラナイ、令狀等ハ相手方ガ要求シタ時ニハ、快ク之ヲ提示シナケレバナラナイ等、法ハ丁寧親切ニ行動スベキコトヲ命ジテ居ルニ拘ラズ、只今ノ警察官等ノヤリ方ヲ見マズレバ、斯ノ如キ丁寧親切ナル行動ハ藥ニシタクモナイノデアリマシテ、全ク國民ヲ土塊ノ如ク、奴隸ノ如ク考ヘテ、聞クニ忍ビザル所ノ暴行凌虐ヲ加ヘ、侮辱ヲ浴セ掛ケルト云フヤウナ態度デアアルノデゴザイマス、諸君、今是等ノ點ニ關シマシテ、二三ノ主ナル實例ヲ御報告致シマスルコトハ、甚ダ私ノ遺憾トスル所デアリマスルガ、是亦已ムヲ得ナイノデゴザイマス、是ハ少シ遠方デアリマスカラ、恐ラクハ御覽ハ出來ナイダラウト思ヒマスガ、全部是ハ警察官ガ數人立會ノ上デ、被疑者ニ對シテ言語ニ絶スル暴行凌虐ヲ加ヘ、サウシテ彼等ヲ審訊致シテ居ル所ノ寫眞デアリマス、此寫眞ハ左様ナ目ニ遭ハセラレマシタ人々ガ其記憶ヲ辿リマシテ、刑事巡査ガ彼等ニ加ヘタル行動ヲ實演ヲシテ、ソレヲ寫眞ニ寫シ、以テ告訴發ノ證據物件トシテ檢事局ニ提出致シ

タ控ゴザイマス、是ハ一昨年神奈川縣ノ縣廳並ニ横濱市役所ニ起リマシタ、水道、瓦斯其他ノ納入ニ關シマスル吏員、官吏ト實業家トノ間ニ行ハレタリトシテ、嫌疑ヲ受ケテ取調ベラレマシタ、彼ノ瀆職事件ニ關係致シタ事實デアリマス、之ニ依リマシテ幾多ノ被疑者ノ人々ハ全ク手酷キ拷問ヲ受ケ、暴虐ナル處置ヲ受ケマシテ、身體ニ傷害ヲ加ヘラレ、ソレガ爲ニ憤慨ヲ致シマシテ、自分カラ其暴行ニ耐ヘ兼ネテ、遂ニ自殺ヲ決意シテ、死ノ結果ヲ見タ事實ヲ申立テ、居ルノデゴザイマス、即チ橋坂ト申シマスル縣廳ノ役人ハ、斯ノ如ク遺言書ヲ認メテ自殺ヲ致シマシタ、又生野ト云フ神奈川縣ノ役人モ、警察官ノ非常ナル拷問ニ遭ヒマシテ、心ニモナク虚偽ノ自白ヲ致サセラレマシタ結果、是亦是等ノ關係者ガ自分ト同ジヤウニ、斯ノ如キ拷問ニ遭フコトヲ恐レ、責任ヲ感ジマシテ、斯ノ如ク遺言書ヲ認メマシテ自殺ヲ致シマシタ、遺書ノ寫真デアリマシテ、是亦告訴發ノ時ニ證據書類トシテ提出致シタモノデゴザイマス、ソレカラ今一ツハ、同ジク神奈川縣ニ於ケル我黨ノ岡崎久次郎君ノ選舉ニ關係致シマシタソレ等ノ關係者ヲ、藤澤警察署ノ刑事巡查、神奈川縣ノ縣派出ノ巡查ガ數人寄りマシテ、實ニ酷イ、或ハ毆責、撲り責、蹴り責、萬歳責、馬乘責、膝乘責、首締責、這ヒ責、焙り責、炭火責、熱湯責、手錠上り責、暴力責ト云フヤウナ、開クモ恐ロシイ暴行凌虐ヲ加ヘマシテ、サウシテ彼等ヲシテ虚偽ノ自白ヲサセマシテ、遂ニ此事ガ東京辯護士會ノ問題トナリ、辯護士ノ中ニ於テ設ケラレマシタ、人權蹂躪調査委員安東正臣君外九名ガ現場ニ出張致シマシテ、取調ノ結果、其人權蹂躪振リノ甚ダ殘忍デアルト云フコトニ憤慨ヲ致シマシテ、辯護士會ガ共同シテ、此警察官ヲ相手ニ人權蹂躪ノ告訴發ヲ致シタ事實デアリマス、又奈良縣ニ於キマシテ服部代議士ノ關係者ハ、同ジク非常ナル拷問ヲ受ケマシテ、下市警察署、ソレカラ龍田警察署、御所警察署、八木警察署等ニ、服部代議士ノ爲ニ運動ヲシタ關係者ヲ召喚致シマシテ、是亦暴行凌虐ヲ加ヘ、遂ニ或者ハ其暴行凌虐ニ耐ヘ兼ネテ自殺ヲ致シタ者ガアルノデゴザイマス、最近斯ノ如キ問題ガ、當院ノ本會議及ビ豫算總會ニ於テ問題ニナツテ居ル當時、東京市淀橋區ノ八百屋ノ乗村神一郎ト申シマスル若者ガ、本年二月二十六日戸塚警察署ノ刑事巡查カラ同署ニ連行致サレ

マシテ、故ナキニ數日ノ間留置場ニ放リ込マレマシテ、遂ニ二日目カラ二階ノ取調室ニ上ゲラレマシテ、數人ノ刑事巡查ガ寄ツテタカッテ踏ンダリ、蹴ッダリ、ブン殴ッダリシテ、遂ニ何事モナイト云フコトデ、三月二日ニ釋放セラレマシタ、所ガ彼ハ左ノ肋骨ヲ折ラレテ居リマシタ爲ニ、醫師ノ診斷書ヲ取ツテ、只今當該官憲ニ向ツテ告訴ノ手續ヲ致シテ居リマス、今一ツハ京都ノ伏見警察署ニ於テ行ハレタ事件デアリマシテ、我黨ノ福田關次郎代議士ガ非常ナル熱心ヲ以テ之ヲ取調ベマシタ結果、ソレ等ノ事實ガ明ニナリ、田中辯護士ニ依リマシテ、京都ノ檢事局ニ告訴ヲ提起セラレテ居ルノデアリマス、其事實ハ餘リニモ殘忍デアリ、餘リニモ口ニスルコトヲ憚ルヤウナ、婦女子ニ對シマスル凌虐デアリマス、其大要ヲ申シマスルナラバ、淀ノ競馬ニ參リマシタ田中シンナル者ガ、何カ馬券ヲ買取ルニ、詐術ヲ用ヒタリトカ云フヤウナ嫌疑ノ下ニ、伏見署ニ連行セラレマシテ、數日ノ間留置場ニ留置セラレ、サウシテ取調ヲ受ケルニ當リマシテ、身體ノ局部ヲ露出セシメ、碁盤ノ上ニ座ラセラレ、見ルニ忍ビザル行動ヲ敢テシタ事實デアリマス、又堀田ハルト申シマスル當年四十歳前後ノ者ガ、同ジク伏見警察署ニ連行セラレマシテ、數日ノ間拷問ニ遭ヒ、最後ニハ其同女ノ著物、褌袴、腰卷等モ一切奪ハレマシテ、全身ヲ裸體ニサレテ、裸體ノ儘兩足ヲ縛リ上ゲ、之ヲ逆サマニ吊上ゲマシテ、サウシテ更ニ恐ルベキハ局部ニ木刀様ノ物ヲ挿入致シマシテ、暴行凌虐ヲ敢テシタノデアリマス、今一ツハ高瀬シゲト云フ三十五歳ニナル婦人ニ對シテモ、同様ナル凌虐ヲ致シマシタ結果、卵巢、下腹部ニ障碍ヲ生ジマシテ、深夜醫師ヲ招イテ「カンフル」注射ヲシテ、僅ニ死ヲ免レタト云フ事實デアリマス、聞ク所ニ依リマスレバ、京都ノ辯護士會ハ、之ヲ重大視致シマシテ、辯護士會ノ決議ニ依ツテ、其處分方ヲ京都地方裁判所松井檢事正ニ要求致シテ居ルトノコトデゴザイマス、諸君、ソレ以外ニ私ノ手許ニ集ツテ居リマスル是等ノ材料ハ、悉クソレト同ジ、若クハソレニ準ズルヤウナ事柄デアリマシテ、傷害ノ結果痲疾、自殺、死ニ至ラシメラレタト云フヤウナ、幾多ノ事例ガ此袋ノ中ニ納メラレテ居ルノデアリマス、是ハ何レ後刻當該官憲ノ方面ニ、參考ノ爲ニ御廻シスル考ヘデアリマスカラ、特ニ事新シク茲ニハ御報告ヲ申上ゲマセヌ、

諸君、斯ノ如キ不都合ナ行爲ガ、今日昭和ノ御代ニ、殆ド全國的ニ行ハレテ居ルト云フコトハ洵ニ遺憾ニ堪ヘマセヌ、本人ハ勿論デアリマス、ソレ等ノ人ノ妻子眷族、親族、故舊、一人トシテ之ニ對シテ憤慨ヲ致サナイ者ハアリマセヌ、私共ハ只今御報告ヲ申上ゲマシタ京都伏見ノ事件ヲ聞クニ至リマシテハ、全身ニ粟ヲ生ジタノデアリマス、一體斯ノ如キ人權蹂躪ノ事實ノ起ルニ至リマシタ動機原因ヲ考ヘマスルナラバ、是亦大イニ注意シテ斯ノ如キコトヲ艾除シナケレバナリマセヌ、人權蹂躪ガ斯ノ如ク其度ヲ高メルニ至リマシタ所以ノモノハ、實ハ彼ノ治安維持法違反ノ被疑者ヲ取調ブルニ當リマシテ、彼等ガ其事實ヲ容易ニ自白シナイコトニ原因ヲ致シマシテ、之ヲ行政執行法ニ依ッテ數十日間、或ハ數百日間拘留シテ、サウシテ之ヲ拷責シ、是等ニ對シテ有ユル暴行凌虐ヲ加ヘタ事實アリタルニ拘ラズ、不俱戴天ノ仇ナリトシテ、總テノ人々ガ目ヲツブツテ居ッタト云フコトガ、遂ニ彼等ヲシテ増長セシメルニ至リタル一ツノ原因デアルト思ハレマス、ソレ以外ニ彼等ヲシテ斯ノ如キ極端ノ行爲ヲ爲スニ至ラシメマシタコトハ、所謂官吏ノ身分保障令ノ爲ニ、官僚獨善主義ニ陥リタル結果デアルト斷言シナケレバナリマセヌ、諸君、官吏ノ身分保障令ハ、官吏ヲシテ官僚獨善主義ニ陶醉セシメル爲メ設ケラレタ法規デハゴザイマセヌ、此コトハ官吏モ十分知悉シテ居ル筈デアリマス、内閣ノ更迭スル度毎ニ轉任ヲ命ゼラレタリ、誠首セラレタリスルヤウナコトデハ、安ジテ職務ニ從事スルコトガ出來ナイバカリデナク、常ニ不安ノ状態ヲ繰返サナケレバナラナイ點ハ、國家ノ爲ニ甚ダ不穩當デアルト云フコトヲ痛感セラレマシタ結果、齋藤内閣ノ當時ニ山本内務大臣ノ手ニ依ッテ、是等ノ弊害ヲ除去スル爲ニ制定セラレタル勅令デアルトハ言フ迄モナイコトデアリマス、然ルニ官吏ノ或者ハ此精神ヲ忘却致シマシテ、己レ獨リ尊キガ如ク考ヘ、民衆ニ對スル態度ノ傲慢ナルニ至リマシテハ、實ニ聞クニ堪ヘナイ行動ガ多イノデアリマシテ、眞ニ慨歎ニ堪ヘマセヌ、彼ノ犯罪檢舉ノ任ニ在ル所ノ司法警察官ヤ檢事ノ中ニモ、往々ニシテ取調ヲ受ケツ、アル國民ニ對シマシテ、實ニ畏多イコトデアリマスケレドモ、「俺ハ 天皇陛下ノ名ニ於テ貴様ヲ調ベルノデアル、俺ハ 天皇陛下ノ御名代トシテ貴様ヲ調ベル、ソレ故ニ俺ノ取調ニ對シテ不實ノ供述ヲスル者ハ國賊デアルト云フヤウナ、眞ニ不都合千萬ナル言動

ヲ敢テスル者ガアルニ至リマシテハ、沙汰ノ限リデハアリマセヌカ、是等ノ官吏ハ身分保障令ノ有難キヲ忘レマシテ、自ラ保障令撤廢ノ墓穴ヲ掘リツ、アルモノデアリマス、由來官尊民卑ノ弊風ハ、我等ノ先輩ガ幾多ノ犠牲ヲ拂ッテ是ガ革正ニ力ヲ致シタノデアリマス、然ルニ今又彼等官吏ニ依ッテ此弊風ヲ繰返スニ至リマシテハ、國民ノ代表者デアアル我等ノ斷ジテ容認スルコトノ出來ナイ所デアリマス、諸君、民ハ國ノ寶デアリ、大御寶デアルト宣ハセ給ウタ聖天子ノ大御心ヲ拜察スル時ニ於テ、民ハ我身ノ生ミシ子ナレバト宣ハセ給ヒシ、聖歌ヲ心ニ思ヒ浮ブル時ニ於テ、又 明治大帝ノ「國ノタメアダナス仇ハクダクトモ、イツクシムベキ事ナ忘レソ」チヨロツノ民ノ心ヲサムルモ、イツクシムベキ事ナ忘レソ」ニ於キマシテハ、吾々ハ官尊民卑ト云フヤウナ間違ッタ思想ガ、今日行ハレテ居ルコトニ對シテハ、痛撃ヲ加ヘザルヲ得ナイノデアリマス、諸君、彼ノ白川樂翁公ノ坐右ノ銘ニ「爾ノ俸爾ノ祿民ノ膏ナリ民ノ脂ナリ、下民虐ケ易ク上天欺キ難シ」トアリマス、此語ノ意味ヲ要約致シマスルナラバ、「役人ヨ、オ前ノ今受ケテ居ル所ノ俸給ハ、百姓ノ膏ト汗ノ固リニ依ッテ、オ前ハ今其俸給ヲ受ケテ居ルノデアル、故ニオ前ガ下級民ヲオ前ノ權力ニ依リテ虐ゲルト云フコトハ、オ前ハ易イデアラウケレドモ、左様ナコトハ上ノ方デハ照覽マシマシテ居ルノデアアルガ故ニ、其暴行ハ何處マデモ仕遂ゲルコトハ出來ナイコトデアアルゾヨ」、斯様ナ意味デアルト私共ハ察シテ居ルノデゴザイマス、諸君、此言葉ハ眞ニ其通りデアリマシテ、現ニ官吏ノ受ケテ居リマスル俸給ハ、吾々國民ノ膏血ノ固リデアアル、其膏血ノ固リニ依ッテ俸給ヲ受ケ、之ニ依ッテ生活致シテ居ル所ノ官吏ガ、其國民ガ自分等ノ生活維持ノ資ヲ給シテ居ルト云フコトヲ忘レマシテ、サウシテ國民ヲ土塊ノ如ク遇スルニ至リマシテハ、實ニ沙汰ノ限リデアルト言ハナケレバナラヌノデアリマス、官吏タル者ハ國民ニ對シテ丁寧親切デナケレバナリマセヌ、官尊民卑ハ封建時代ノ夢デアッタト云フコトヲ悟ラナケレバナリマセヌ、官僚獨善ナドトハ以テノ外ノ誤レル思想デアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此考カラ矯正セラレナイ以上ハ、人權蹂躪ノ不祥事ハ止マナイノデアリマス、次ニ人權蹂躪ノ第二ノ原因ト致シマシテハ、指揮監督ノ任ニアル

所ノ檢事、地方長官、警視總監ナドニ於テ、人權蹂躪ノ事實ヲ默認シ、放任シ、彌縫シ、庇護スルノ弊ガアルノデアリマス、ソレバカリデアリマセヌ、斯クシテ犯罪ノ檢舉ヲ爲セバ、敏腕家トシテ其刑事ハ稱揚セラレ、賞状ヲ與ヘラレ、賞金ヲ與ヘラレ、之ヲ獎勵スルノ風ガアルノデアリマス、實ニ思ハザルノ甚シキモノデアリマス、是ガ若シ表沙汰トナレバ、世間ヨリヤカマシク言ハレルヤウナコトヲ庇護シ、證據ノ湮滅ヲ圖ルガ如キ者ガアリマス、人權蹂躪ノ告訴發テ受理シタル檢事局ニ於テハ、其ノ告訴發テ喜バナイ風ガアルノデアリマス、之ヲ受理シテモ容易ニ取調ベナイ傾向ガアルノデアリマス、取調ヲ始メテモ、通り一遍ノ取調ヲ濟マセマシテ、證據十分ナラズ、不起訴ト云フガ如キ處置ヲ取ツテ、平然タルモノガアルノデアリマス、諸君、其實例トシテ長野ニ一ツノ放火事件ニ關係シテ、一ノ人權蹂躪事件ガアリマシタ、其蹂躪セラレマシタ者ガ警察官ヲ相手取り、松本ノ檢事局ニ告訴致シマシタ所、松本ノ檢事局ハ取調ノ結果、證據十分ナラズトシテ不起訴ニ致シマシタ、告訴人代理人ハ東京控訴院光行檢事長ニ抗告ヲ致シマシタ、東京控訴院ヨリ檢事ガ出張シテ、親切丁寧ニ取調ベマシタ結果、明ニ人權蹂躪ノ證據ガ舉ツテ、其司法警察官ハ有罪ノ決定ヲ受ケテ公判ニ廻サレタコトハ、顯著ナル事實デアリマス、又青森ノ選舉事件ニ對シマシテ、或ル警察官ガ人權蹂躪ヲシタト云フコトデ、被害者ヨリ其警察官ヲ相手取り人權蹂躪ノ告訴ヲ提起シタニ拘ラズ、青森ノ檢事局ハ取調ノ結果不起訴處分ニ付シマシタ、此事ニ關シ抗告ヲ受理シタル宮城控訴院ノ和田檢事長ハ、青森ノ檢事正ヲ他ニ轉任セシメ、取調官ヲ代ヘテ丁寧ニ取調ベマシタ結果、此處ニモ人權蹂躪ノ事實ガ明瞭ニナリマシテ、是等警察官ハ豫審ニ廻サレテ公判ニ移サレタノデアリマス、神奈川縣ノ川崎市ニ於ケル瀆職事件ニ對シマシテモ同様デアリマスガ、是亦東京控訴院ノ檢事局ニ於テ慎重取調ノ結果、有罪ナリトシテ公判廻サレテ居ルノデアリマス、神奈川縣廳並ニ横浜市役所ノ水道疑獄等ノ瀆職事件ニ對シマシテモ、人權蹂躪ノ事實ガアリマシタ爲メ、被害者ヨリ關係警察官ニ對シ告訴ヲ提起致シマシタ所、最初ノ檢事ガ取調ベタ所ニ依リマス、證據十分ナラズトシテ、不起訴處分ニスル狀況ニアッタノデアリマスガ、係辯護士カラ事實ヲ指摘シテ再

取調ヲ要求致シマシタ結果、東京控訴院檢事局ニ於テ十分搜查致シマシタ爲メ、人權蹂躪ノ事實ガ明ニナリマシテ、ソレハ行政處分ヲ受ケ、係檢事ハ退職シ若クハ左遷セラレタコトハ、諸君モ新聞紙ニ依リ御承知ノコトト存ジマス、斯様ナコトハ最近ノ極ク僅少ノ一例デアリマスガ、檢事ニ於テ眞ニ事實ノ真相ヲ明ニセントスル誠意ヲ以テ取調ベニ從事サヘスレバ、必ず事實ノ真相ハ明ニナルモノデアリマス、然ルニ警察官ニ對スル告訴發テ受理シタ、檢事局ナドガ斯様ナ取調ニ對シ熱ヲ持タナイコトハ、私共ノ甚ダ遺憾ニ存ズル所デアリマス、又是等ノ監督ノ地位ニアリマスル者ガ、左様ナ非違ヲ敢テ致シタ官吏ニ對シマシテ、所謂之ヲ庇護スルノ狀況ニアリマス、是人情ノ然ラシムル所トハ言ヘ、私ヲシテ言ハシメマスルナラバ、ソレハ不純ノ人情デアリマス、僞善ノ人情デアリマス、斯ノ如キ不純僞善ノ人情ニ依ツテ彼等ヲ庇護シ、一面凌辱セラレタル陛下ノ赤子、監禁セラレタル無辜ノ良民ハ、ソレガ爲ニ訴ヘル所ナク救ヲ求ムル途ガナイヤウニ至ラシメラレルコトハ、實ニ言語道斷ノ處置デアルト言ハナケレバナリマセヌ、政治ハ、仁慈ト云フモノヲ其基本ニ致シテ居リマスルコトハ、我國御歴代天皇ノ御政治ニ對スル御精神デアルト拜察致スノデアリマス、然ルニ前述ノ如ク人權蹂躪ト云フガ如キ、畏多キ不祥事ヲ今日ノ聖代ニ見ルト云フニ至リマシテハ、眞ニ恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌ、是等ノコトニ對シマシテ、或ル檢事ハ斯様ナ述懐ヲ漏シタコトガアリマス、人權蹂躪ノ不法ニ相違ナイガ、併ナガラ之ヲ若シ嚴重ニ取締ルト云フコトニナレバ、犯罪檢舉ノ手が伸ビザルコトニナル、左様ナコトニナツテハ、治安維持ノ上ニ於テ大ニ寒心シナケレバナラナイガ故ニ、大概ナコトニシテ置カナケレバナラヌデハナイカト、諸君、指揮監督ノ任ニアル人ガ斯様ナ考ヲ持ツテ居ルガ故ニ、人權蹂躪ノ事實ハ、幾ラシテモ止マナイノデアリマス、彼等ハ人權蹂躪ノ行爲ヲ馴致スルモノデアルト、私共ガ決議文ノ理由書ニ認メタノモ、此意味デアリマス、諸君、犯罪ヲ檢舉センガ爲ニ、人權蹂躪ノ犯罪ヲ默認スルコトハ出來マセヌ、吾等ハ言ヒマス、諸君、人權蹂躪ヲ敢テ行ウテマデ、犯罪ノ檢舉ハ望マナイノデアリマス、諸君、吾々ハ犯罪ノ檢舉ハ法律ニ於テ許サレタル方法ノミニ依ツテ、檢舉セラレナケレバナラヌト云フコトヲ強ク主張ス

ル者デアリマス、斯ノ如キ暴行脅迫ニ依ッテ自白ヲ強要シ、其結果ハドウナルカト申シマスルト、此強要サレテ自白シタ所ノ虚偽ノ事實ガ、警察官ノ聴取書トナリ、檢事ノ聴取書トナリ、豫審判事ノ豫審調査ノ基本トナリ、是ガ良民ヲ罰スル所ノ有力ナル證據資料トナルデアルト云フコトヲ思ヒマスルト、洵ニ寒心ニ堪ヘナイデアリマス、警察官ノ取調ニ對シマシテ事實ヲ否認スレバ、今申上ゲマシタ手段ニ依ッテ拷責ヲ加ヘラレマス、已ムヲ得ズ虚偽ノ事實ヲ認メマスレバ、是ガ聴取書ニ作成セラレマス、其聴取書ヲ基トシテ檢事ニ送致セラレマス、送致ヲ受ケタル檢事ガ之ヲ調ベマシタ際、聴取書ノ事實ヲ其儘認ムル者ニ對シテハ問題ハアリマセヌガ、若シ之ヲ否認スレバ、オ前ハ再ビ警察ニ歸レト言ッテ、警察ニ差戻サレ、再ビ拷責ノ苦シムニ遭ハナケレバナリマセヌ、ソレガ爲メニ已ムヲ得ズ再ビ虚偽ノ事實ヲ認メル、是ガ檢事ノ聴取書トナルデアリマス、次ニ豫審判事ニ送致サレマシテ事實ヲ認メレバ宜シイガ、若シ否認スルコトアラバ、再ビ檢事ハ其者ヲ檢事廷ニ引入レマシテ、オ前ハ俺ニ言ウタノト豫審判事ニ對スル供述ト相違スルデハナイカト、實ニ恐ロシイ容貌ヲ以テ取調ヲ開始スルデアリマス、ソレガ爲メ已ムヲ得ズ又虚偽ノ事實ヲ認メナケレバナリマセヌ、而シテ其虚偽ノ申立ガ豫審ニ於テ有罪ノ決定資料トナリ、公判ニ廻サレマスルト、如何ニ其起訴事實ヲ否認セント致シマシテモ、公判ノ判事ハナゼオ前ハ——警察、檢事ハ別デアアルガ豫審判事ハオ前ニ對シテ人權蹂躪ハシナイ筈デアアル、故ニ豫審判事ニ對シテ眞實ノ申立ラシナカッタカト云フ、理詰メノ取調ニ遭ヒマスル結果、泣クノ、其豫審調書ヲ認メナケレバナラヌト云フ分如キコトガ、今日ノ裁判廷ニ頻々現レル實際デアリマス、眞ニ痛憤ニ堪ヘマセヌ、斯ノ如キ場合ニ於テ係辯護人ガ全力ヲ盡シテ無罪ヲ主張シ、新ナル證據ヲ擧ゲ得マシタ結果、幸ニシテ無罪ノ言渡ヲ受ケタト致シマシテモ、彼ノ蒙リタル精神上身體上ノ痛苦ハ、永久ニ之ヲ滅却スルコトハ出來マセヌ、御承知ノ如ク有名ナル人々ガ、斯ノ如キ刑事問題ノ爲ニ拉致セラレマシテ、有罪公判ニ廻サレテ、係辯護人ノ熱誠ナル辯護權ノ行使ニ依ッテ、無罪ノ言渡ヲ受ケマシテモ、社會上ノ地位ヲ持ッテ居ル、政界、實業界其他ノ方面ノ人々ガ、如何ニ無罪ニナリマシテモ、以前ノ如キ地位、聲望ヲ回復スルコトノ出來ナイコトヲ考ヘ

ル時ニ於テ、如何ニ其結果ノ重大デアアルカト云フコトヲ痛感シナケレバナラヌデアリマセヌカ、諸君、斯ノ如クニシテ吾々ガ僅ニ慰メラレルモノハ、當院ヲ通過シ、貴族院ノ承認ヲ得マシテ法律トナリマシタ所ノ、彼ノ刑事補償法ノ救済方法一アルノミデアリマス、併ナガラ一日僅カ五圓以下ノ補償金ヲ貰ッタカラト云ウテ、其全身ニ受ケマシタ創痕ハ終生癒エナイノデアリマス、斯ノ如キコトヲ考ヘマスルナラバ、此者ガ無罪ノ判決ヲ受ケテモ、人ハ公明正大ニナッタト喜ンデ呉レマシテモ、世人ヨリ彼ハ固圍ノ人トナッタデアアル、彼ハ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタ人デアルト云フコトハ、終生拭フコトガ出來ナイノデアリマス、此事ヲ考ヘル時ニ於テハ、檢舉ノ任ニ當ル者ハ、餘程注意シナケレバナラヌト同時ニ、裁判ノ衝ニ當ル者ハ、所謂形式證據ニ囚ハレズシテ、刑事訴訟法ニ認メラレテ居リマスヤウニ、自由心證主義ニ依ッテ、眞ノ事實ヲ擱ヘテ、罪ヲ犯シタリトノ確證ノナイ限りニハ、證明不十分ナリトシテ無罪免訴ノ言渡ヲ爲シ、由テ以テ是等不遇ノ人ニ對シテ幾分ノ慰安ヲ與ヘルヤウニ、注意シナケレバナラヌト考ヘテ居ルデアリマス、諸君「罪アラバ我ヲ答メヨ天津神民ハ我が身ノ生ミシ子ナレバト宣セ給ウタ 聖歌ヲ按ズル時ニ於テ、容易ニ人ヲ逮捕監禁スルコトハ出來ナイ、假ニ合法的ニ逮捕監禁スル場合ニ於テモ、ソレ等ノ局ニ當ル者ハ餘程注意シナケレバナラナイト考ヘルノデアリマスガ、況ヤ何等ノ法律命令ニ依ラズシテ、不法ニ逮捕監禁シテ、サウシテ人權ヲ蹂躪スルガ如キコトニ至リマシテハ、實ニ言語道斷デアリマシテ、政府ノ其責任ノ重大ナルコトヲ痛感シナケレバナラヌト考ヘテ居ルデアリマス、我國ニ於テハ御慈愛ヲ以テ政治ノ基トナサラナイ天皇ハ居ラセラレナカッタデアリマス、彼ノ廣田内閣ノ時代ニ於キマシテハ、吏道刷新ト云フコトヲ政綱ノ一ニ掲ゲラレマシタケレドモ、彼ノ選舉干渉、人權蹂躪ノ聲ガ全國ニ瀰漫シ、囂々タル非難ノ起ッタコトハ御承知ノ通りデアリマシテ、選舉肅正ハ却テ人權蹂躪ノ汚名ニ葬ラレタデアリマス、林内閣ハ其政綱ノ一ト致シマシテ、所謂祭政一致ト云フコトヲ掲ゲラレタデアリマス、憲法ノ條章ニ依ッテ 天皇陛下ノ有難キ大御心ヲ心トシテ國民ニ臨ミ、政治ヲ行フデアルトノ趣旨ハ、林總理大臣ニ於テ何回モ言明セラレタコトデアリマス、然ル以上

ハ 陛下ノ赤子デアアル所ノ國民ニ對シテ、最モ重大ナル關係アル、人權蹂躪根絶ニ關スル決議案ノ上程セラレマシタ此場合ニ於キマシテハ、林總理大臣タルモノ、議員ノ要求ガナクモ、自分カラ進ンデ出席セラレ國民代表、大多數ヲ代表スル私ノ壇上ノ叫ビヲ聽キ、成程是ハ重大デアアル、成程是ハ大切ナコトデアアル、吾々ノ今マデ此點ニ重キヲ置カナカッタコトハ、上 陛下ニ對シテ恐懼ニ堪ヘナイノデアアルト、其思ヲ新ニスルコトガ本當デアアルト考ヘルノデアリマス、法制局長官位ヲ此席ニ出シテ、此重大ナル所ノ決議案ノ說明ヲ聽カセルニ至ッテハ、如何ニ政府ガ人權尊重ト云フコトニ重キヲ置カナイト云フコトガ明ニ分ルノデアリマシテ、私ハ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、然ラバ之ヲ改善スルノニハドウスレバ宜シイノデアリマセウ、私ハ所謂官僚獨善主義ヲ先ヅ排撃シナケレバナリマセウ、次ニ人權蹂躪ノ行為アリタル警察官及ビ檢事等ニ對シマシテハ、徹底的ニ之ヲ糾彈ヲシナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレバカリデハアリマセウ、斯ノ如キ行為ノアツタ時ニハ、其監督ノ地位ニ在ル所ノ上官ニマデ、其責任ヲ問フ位ノ決心ガナカッタラバ、此弊風ハ芟除スルコトガ出來ナイノデアリマス、第三ニハ、先刻申上ゲマシタ通り、裁判所ハ形式證據ニ囚ハレルコトナク、本當ニ公判中心主義ニ依リ自由心證主義ヲ發揮致シマシテ、其真相ヲ把握スル心掛ヲ持タナケレバナリマセウ、此意味ニ於テ、私ハ彼ノ帝人事件ニ於テ、藤井裁判長ガ既ニ二百數十回ノ公判ヲ開イテ居ルト云フ點ニ對シマシテハ、多少非難ノ餘地ハアリマスケレドモ、事實ノ真相ヲ擱ム上ニ於テ、眞ニ公判中心主義ヲ發揮シテ、審理ヲ繼續セラレテ居ルコトニ對シテ、多大ノ敬意ヲ表スル一人デアリマス、ソレカラ警察官ノ犯罰搜查ニ關スル法規ノ改正ニ付テ注意シナケレバナリマスマイ、次ニハ警察官及ビ檢事ノ素質改善ニ付テ相當ノ注意ヲ必要トスルノデアリマス、次ニハ犯罪搜查術ヲ教授シテ、彼等ヲシテ徒ニ自由ヲ強要スルガ如キ行動ニ出デシメズシテ、科學的ニ搜查術ヲ練習セシメ、法律學ノ研究バカリデハナク、心理學、教育學、社會學、宗教學、政治學、物理學、道德學、各方面ノ教育ヲ施シマシテ、彼等ヲシテ再ビ斯ノ如キコトナカラシメルヤウニ、注意スルコトガ必要デアアルト思フノデアリマス、斯様ナコトニ致シマスナラバ小學校ヲ卒業シタ位ノ人

人ノ多キ警察官ノ教育程度ヲ引上ゲ、高等ノ教育ヲ受ケテ相當ノ知識經驗ヲ有スル人々カラ警察官ヲ採用シ、同時ニ待遇ノ改善、即チ物質上ノ待遇ハ勿論、位階勳章等ノ待遇モ大イニ改善優遇スルヤウニシナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ對シマシテ、政府ハ大イナル決心ヲ以テ是ガ實行ニ當ラナケレバ彼等ノ非違ヲ改メントスルガ如キハ百年河清ヲ俟ツト同ジデアアルト思フノデアリマス、私ハ政府ニ御考ヲ願ヒタイコトハ、犯罪ヲ搜查スルニ方リ、政府ハ不法ニ人ヲ逮捕監禁セズシテ、被疑者ヲ取調ブルノ對策ヲ持セテ居ラル、カドウカ、現行法ノ運用ノミニテハ十分デナイト思フガ、十分デナイトセラル、ナラバ何等カノ對策ヲ持テ居ラル、カドウカ、在朝在野ノ權威者ヲ網羅スル委員會ヲ設ケテ、是等ノ對策ヲ練ル必要ハナイカドウカ、即刻人權蹂躪ノ行為ナキヤウ、全國警察官及ビ檢事ニ對シテ、有效適切ナル手段方法ヲ講ズベキ何等カノ對策ヲ考ヘテ居ラル、カドウカ、考ヘラレテ居ルナラバ、其對策ハドウデアアルカト云フコトニ付テ、適當ノ機會ニ發表セラレンコトヲ要望スルノデアリマス、之ヲ要シマスルニ、本院ハ屢、政府ニ對シマシテ警告ヲ發シ、是ガ是正ヲ迫ッタニ拘ラズ、有效適切ナル對策ヲ樹立スルコトナク、一時ヲ糊塗シテ今日ニ至リタル結果、人權蹂躪ノ事實ハ全國ニ瀰漫シ、國民怨嗟ノ聲囂々タルニ至ッタノデアリマス、若シ此儘ニ放置センカ、國家ノ基礎ヲ危クスルニ至ラン、仁慈ニ富マセ給フ 聖天子ノ治下ニ於テ、祭政一致ノ政治ヲ標榜シテ居ル所ノ林内閣ニ於テハ、此弊害ヲ根絶スル爲ニ、速ニ適當ナル方策ヲ樹立シ、以テ人心ノ不安ヲ一掃シナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、是レ本案ヲ提出シタル所以デゴザイマス

松永東君ハ質疑省略ノ動議ヲ提出シ起立採決ノ結果之ヲ可決ス
 討論ニ入り加藤勘十君ハ反對、大石倫治君ハ賛成ノ演説ヲ爲ス
 加藤君ノ反對演説

明治維新ニ依ッテ封建制度ガ打破サレテ七十年間、憲法ガ制定セラレテ當ニ五十年、今ヤ建國二千六百年ノ祝典ガ舉ゲラレヨウトシテ居ル、此輝カシキ文化ノ歴史ヲ有スル我國ニ於テ、今提案セラレタルガ如キ人權蹂躪ノ根絶ヲ期スル決議ガ、此議場ニ於テ論議サレナケレバナラナイト云フコトハ、全國民ニ取ッテ是ヨリ以上ノ大キナ悲ミハナイト言ハナケレバナラナイノデアリマス、吾々ハ今提案ノ理由ヲ聽キマシテ、第一ニ感ズルコトハ、此決議案提出ガ、何ガ故ニ全院一致ノ共同提案、若クハ全院一致ノ共同賛成ガ行ハレナカッタカト云フコトニ對シテ、決議案提出者ハ大キナ反省ヲシナケレバナラヌト思フノデアアル、吾々ハ最初此案ノ提出ニ對シテハ、賛成ノ意圖ヲ有ッテ居ッタノデアリマス、然ルニ吾々ヲシテ何ガ故ニ賛成ヲスルコトヲ爲シ得ナイヤウニナラシメタカ、茲ニ私ハ此決議案ノ提案者ガ、自ラ大キナ反省ヲシナケレバナラナイコトヲ信ズル、私ノ反對論ノ第一ハ、決議案提出者ガ自ラ、何ガ故ニ全院一致ノ賛成ヲ求メルコトガ出來ナカッタカト云フコトニ對シテ、反省ヲ促スト云フコトガ其一ツデアリマス、今提案ノ理由ヲ聽イタノデアリマスガ、人權蹂躪ノ根絶ヲ期スルト云フコトハ、第一ニ何ヨリモ先ニ、國民ノ憲法ニ依ッテ保障サレタル政治的自由ガ確立サレナケレバナラナイノデアリマス、其憲法ニ依ッテ保障サレタル國民ノ政治的自由ノ確立ハ、獨リ警察裁判所ニ於テノ、或ハ檢事局ニ於テノ、人權蹂躪ガ根絶サレルト云フバカリデハナク、到ル處ニ言論集會結社ノ自由ガ確保サレナケレバナラナイノデアアル、國民ノ自由ヲ、言論ヲ、最モ正直ニ大膽ニ代表スベキ此議會ニ於テ、其國民生活ニ最モ重大ナル關係ノアル議案ガ、多數ノ法律ノ濫用ニ依ル力ニ依ッテ蹂躪セラレタト云フコト、是位大キナ人權蹂躪ハナイト言ハナケレバナラナイノデアリマス、又此神聖ナル議會ノ中ニ於テ、神聖ナル報道ノ任務ヲ有スル新聞記者ガ、政黨ノ院外團ノ暴力ニ依ッテ傷ケラレルガ如キハ、是レ亦人權蹂躪ノ著シキモノデアアル、サレバコソ此問題ニ對スル、所謂輿論ハ何ト言ウテ居ルカ、議會ハ世ノ輿論ニ聽ク所ガナケレバナラナイ、例ヘバ私ハ其一二ノ例ヲ舉ゲテ見ル、報知新聞ハ「何ノ人權蹂躪ゾ」ト云フ題下ニ、斯ウ言ッテ居リマス、喧シイ、マダ朗讀シナイデヤナイカ、喧シク言フナラ言ハヌゾ、宜インダヨ、引用ハ構

ハヌノダヨ——前ノ方ヲ省略シテ要點ヲ引用スレバ、「併ナガラ彼等ガアレ程熱心ニ肝腎ノ豫算審議ヲ其處除ケニシテマデ人權蹂躪ノ事實ヲ指摘スルハ、一ツニハ彼等ガ自ラ選舉ノ違反者トシテ彈壓ノ被害者ダッタカラデアリ、議會ヲ通ジテ官僚ニ對スル一種ノ復讐ヲ狙ッタモノデアアル、彼等ノ引用ガ大半選舉關係ニアルノモツレガ爲ダ、其處ヘ行ケバ社會大衆黨ガ東方會ヤ第二控室ヲ糾合シテ提出シタ人權蹂躪根絶ノ決議案ハ、議會關係者ノ問題ニ止マラズ、廣ク大衆ノ人權ヲ擁護スル意味ニ於テ遙ニ徹底シテ居ル、議會ガ若シモ文字通りノ國民代表ト云フノナラ、議員ハ何ヨリモ先ツ聲ナク、言葉ナキ大衆ノ忠實ナ代辯者デナクテハナラヌ、所ガ更ニ皮肉ナコトニハ、人權蹂躪ヲ強調スル民政黨ノ代議士會デ、傍聽中ノ新聞通信記者ガ二名マデモ、所屬院外團ノ爲ニ暴行負傷ヲ受ケタ事實ガアル、代議士會ハ例ノ喧シイ健康保險法案ノ黨議ヲ決メルモノダッタ、少シ意地悪ク考ヘレバ、アノ法案ヲ繞ッテ黨内ノ對立抗爭ガ暴露スルノヲ嫌ッテ、成ベク報道機關ヲ敬遠シタイト云フ卑屈ナ黨人心理ノ反映トモ思ハレル、更ニ又同ジ報知新聞ハ斯ウ言ッテ居リマス、「思想犯人ニ對シテヤッテ許サレルコトガ、選舉違反事件ニハ許サレナイコトノ不合理ヲ漏シテ居タコトヲ見テモ、他ノ事件、殊ニ思想犯人ナドニハ、ドシナコトヲシテモ宜イノカノ思想ガ一部ニアル一事ガ明白ダ、又朝日新聞モ言ッテ居リマス、「國民ヲシテ斯ノ如キ議會ノ決議ガ、疑獄事件ヤ帝人事件ノ如キ、財界官界財界ノ名士關係者ノ犯罪捜査ノ手ヲ緩メシメ、選舉肅正ノ手綱ヲ控ヘサセルコトナク、一般庶民ノ人權蹂躪ノ事實ヲ根絶セシムルニ結果センコトヲ祈ラシムルノデアアル、更ニ讀賣新聞ハ斯ウ云ッテ居リマス、「政黨ガ今日ニナッテ騒ギ出シタ主要ナ理由ハ、選舉違反事件ノ被告ニ拷問ヲ受ケタ者ガアッタカラノコトデ、其他ノ普通犯罪ヤ社會運動事犯ダケナラ、大抵ハ知ラヌ顔ヲシテ居ルノデアアル、選舉違反ノ場合ダケハ、オ手柔カニト云フヤウナ態度デハ、此問題ハ何時ニナッテモ解決シナイ、斯ノ如キ二三ノ所謂輿論ヲ代表スル新聞、記事ヲ引例シテ見テモ、此決議案提出ノ動機ガ何處ニアッタカト云フコトガ極メテ明瞭デアアル、私共ハ人權蹂躪ヲ根絶セシメヨウト云フ、其事自體ニハ微塵モ反對デハナイ、賛成ナノデアアル、ダガ此決議案提出ノ第一ノ理由ガ、

今言フヤウニ議員自ラガ反省シナケレバナラナイヤウナ、人權蹂躪ヲ犯シテ居ルト云フコトヲ自ラ反省シテ、其反省ノ上ニ全議員一致ヲ以テ提出サレナケレバナラナイト云フコトガ、第一ノ理由デアアル、第二ノ反對理由トシテハ、此決議案提出ノ動機ガ著シク不純デアアル、此點デアリマス、吾々ガサウシタニツノ點カラ此決議案提出ノ形式ニ反對スル傍ラ、吾々ガ如何ニ人權蹂躪其モノヲ根絶セシムル爲ニ、熱烈ナル長イ闘争ノ歴史ヲ有シテ居ルカト云フコトヲ申述セル、若シ日程變更ノ吾々ノ要求ガ容レラレルナラバ、當然諸君ノ決議案ト竝ンデ、吾々ノ贊成スル社會大衆黨ノ決議案ガ出ル筈デアッタ、然ルニ諸君ハ自分ノモノダケハ、日程ヲ變更スルコトニ政府ヲシテ同意セシメテ上程シナガラ、同じ趣旨ノ下ニアル社會大衆黨ノ提出シタ決議案ノ日程變更ニ反對シテ居ルノデハナイカ、此一ツノ事實カラ言ッテモ、如何ニ多數ガ自己ノ力ヲ頼ンデ、正シキ國民ノ聲ノ反映ヲ抑ヘ付ケテ居ルカト云フコトガ、此一ツノ事實ニ依ッテモ明瞭デアナイカ、吾々ハ若シ吾々ノ人權蹂躪ノ根絶ヲ期サントスル意思ガ那邊ニアルカト云フコトヲ明瞭ニスルナラバデス、大衆黨ノ提出シタ、サウシテ吾々ノ之ニ贊成シタ決議案ハ、最モ能ク之ヲ率直ニ表明シテ居ルノデアリマス、其意圖スル所ハ、政府ハ頻發スル人權蹂躪ニ鑑ミ、速ニ是ガ根絶ヲ期スルト共ニ、所謂人權蹂躪ガ社會運動違反ニ對スル苛酷ナル取締ニ發足スル事實ヲ認メ、今後社會運動事犯タリト否トヲ問ハズ、一切ノ違反ニ對シ、苟モ斯ル事態ノ起ラザルヤウ、斷乎タル處置ヲ講ズベキデアアル、此點ニ付キマシテハ、吾々ハ當然人權蹂躪ト云フ事態ガ、歴史的二見テドウシタ經過ヲ辿ッテ今日ニ來タカト云フコトヲ探索シナケレバナラナイ、舊イ封建時代ノ殘滓ガ、總テノ社會生活ノ形式ノ上ニ殘存シテ居ッタ、明治前半世紀ノ當時ノコトハ姑ク別ニシテ、最近ニ於テ人權蹂躪ノ問題ガ、此議會ニ於テ問題トナッテ來マシタノハ、昭和四年五年、田中政友會内閣當時カラノコトデアリマス、趣旨ハ贊成デアッテ、結論ハ反對デアアル、ソコドドウシテ然ラバ田中内閣當時ニ、此人權蹂躪ノ問題ガ議場ニ於テ問題トサレルニ至ツタカ、言フ迄モナク是ニハ社會運動、所謂左翼ノ二・一五、四・一六事件ノ檢舉ガ始ッタ、其檢舉ニ依ッテ起ッタ拷問事件、是ガ當時ノ議場ニ於テ吾々ノ同僚デアッタ山本宣治君ヤ、淺原健

三君ニ依ッテ問題トシテ取上ゲラレタノデアリマス、然ルニ當時政友會ヤ民政黨ノ諸君ハ、此人權蹂躪ノ顯著ナル事實ニ目ヲ瞑リ、耳ヲ塞ギ、一切之ヲ問題ニシナカッタデヤナイカ、而シテ其後此問題ガ喧シク問題ニナッテ來タノハ、所謂帝人事件ノ檢事局カラ公判ニ掛ケテノ拷問事件デアッタ、是デ諸君ノ手ニ依ッテ事案デ茲ニ取上ゲラレタノデアリマス、個々ノ經過カラ見マシテ、諸君ガ眞實ニ懇フルニ所ナキ大衆ノ人權蹂躪ノ問題ニ對シテハ、眼ヲ塞ギ耳ヲ閉デテ知ラヌ顔ヲシナガラ、一タビ自分達ノ直接大キナ利害關係ヲ持ッタ帝人事件ノ如キ、或ハ選舉事犯ニ依ル人權蹂躪ノ如キ問題ヲダケ取上ゲルト云フニ至リマシテハ、私ハ同ジク官僚ノ獨善主義ヲ責メ、官僚ノ專制の方針ヲ責メルニ付テモ、ソレデハ餘リニ身勝手デアアル、餘リニ得手勝手デアアル、我利々々デアアル、サウシタ我利々々ナ立場カラ官僚ヲ責メテモ、決シテ官僚ニ對スル力強キ攻撃力トハナラナイ、自己ノ局部的ナル利害關係ヲ離レテ、本當ニ全國民ノ政治的自由確立ヲ根幹トシテ此問題ヲ責メルナラバ、吾々モ固ヨリソレニ反對スベキ何等ノ理由ヲ持ッテ居ナイ、ニモ拘ラズ吾々ヲシテ贊成スル能ハザラシメテ居ルノハ、偏ニ諸君ノサウシタ我利々々のナ小乘のナ態度デアアル、殊ニ國民ノ政治的自由ノ問題ハ、單ナル形式ノ問題デハナイ、實際上ニドウスレバ大衆ガソレノ立場ニ於テ、自己ノ生活ヲ防衛シ、擁護スル力ヲ構成シ得ルカト云フコトデナケレバナラナイ、然ルニ諸君ハ常ニ大衆ノサウシタ生活防衛ノ爲ノ團結權、或ハ言論集會ノ權利ニ對シテハ、之ヲ積極的ニ妨害スル場合モアリ、消極的ニ知ラヌ顔ヲシテ看過ゴス場合モアル、サウシタ諸君ノ態度ニ依ッテ、ドウシテ是ガ眞實ニ國民全體ノ政治的自由獲得ノ爲ノ、人權蹂躪根絶ノ決議案デアルト云フコトガ言レルカ、更ニ私ノ此決議案ニ對スル問題ノ取扱方ニ於テ、今申シマスルヤウニ動機ガ著シク不純デアルト云フコトハ、此案ノ説明ヲサレマシタ説明ノ中ニ明瞭ニ現レテ居ルノデアリマス、即チ學セラレタル事實ハ、誰ガ聞イテモ人權蹂躪ト云フ、全國民ノ關心ヲ聚メル問題ヲ取上ゲテ、其實際ハ瀆職事犯ニ對スル辯護ノ外援工作デアアル、或ハ選舉事犯ノ公判ニ對スル牽制のナ意圖ヲ含ンダモノト感シラレルノデアリマス、サウシタ聞ク者ヲシテ純ナル動機カラ發シタモノデナイト云フコトヲ

感ゼシムルヤウナ決議案ハ、一度潔ク引込メテ、全院ノ完全ナル協調ノ下ニ更メテ提出サルベキガ本來デアアル、斯クシテコソ初メテ衆議院ノ完全ナル意思ノ一致デアリ、隨テ全國民ノ完全ナル意思ノ結晶デアルト言ヘルノデアリマス、是ナクシテ諸君ガ、一方ニ於テハ多數ノ力ヲ恃ンデ少數黨ノ言論ヲ抑壓シ、他ノ一方ニ於テハ人權蹂躪ノ問題ヲ取上ゲテ、或ハ之ヲ瀆職事犯、或ハ選舉事犯ノ裁判ノ牽制外援ニ利用シヨウト云フヤウナ考ヲ以テ提出サレタノデハ、此議場ハ諸君ノ多數ノ力ニ依ッテ通ルカモ知レナイガ、國民大衆ハ決シテ是ニハ満足ヲシナイデアラウト云フコトヲ私ハ斷言シ得ラレル、今申上ゲタヤウナ趣旨ノ下ニ、最初カラ言ッテ居リマスル通リ、人權蹂躪其モノヲ、日本國民ノ名譽ノ爲ニ、日本國家ノ文化ノ興隆ノ爲ニ、絶滅セシメナケレバナラヌト云フ趣旨ニハ、固ヨリ賛成デアアル、異議ハナイノデアアル、ダガソレガ爲ニ尙ホ一層此決議ヲシテ權威ヲアラシムル爲ニ、全國民ノ意思ヲ結晶セシムル爲ニ、一遍潔ク引込メテ欲シイ、斯ウシタコトガ此案ニ對シテ私ガ反對スル所以ナンデアアル、吾々ハ吾々ノ決議案ガ提出上程サレマスルナラバ、當然其趣旨辯明ガ行ハレル筈デアリマシタガ、吾々ノ決議案ハ諸君ノ多數ノ力ニ依ッテ抑ヘラレタ、故ニ趣旨ヲ明ニスルコトガ出來ナカッタ、趣旨ノ内容ニ於テハ大體大シタ變リハナイガ故ニ、要ハ吾々ノ趣旨辯明ガ出來ザルガ故ニ、吾々ノ立場ニ於テノ趣旨ハ之ヲ盡シ得ナカッタガ併ナガラ其内容ヲ今決議案提出者ガ説明サレタ具體的ナ事實ニ付テハ吾々ハ之ヲ否定スル者デハナイ、隨テ今言フヤウナ意味ニ於テ、偏ニ之ヲ一先ヅ撤回ヲ希望スル、斯ウシタ意義ニ於テ私ノ反對論ヲ終ル譯デアリマス

大石君ノ贊成演説

私ハ只今上程セラレマシタ人權蹂躪根絶ニ關スル決議案ニ對シマシテ、贊成ノ意ヲ表スル者デアリマス、提案者ヨリ詳細ニ互ル所ノ、全國ニ起リマシタ人權蹂躪、其他檢舉、裁判等ノ不當等ニ關シマスル事實ハ、詳細ニ論ジ盡サレアルノデゴザイマスカラ、私ハ再ビ之ヲ繰返スコトヲ避ケタイト存ズルノデアリマス、由來法ノ目的ハ先ヅ人心ヲ正シ、國家ノ機構ヲ維持シ、

社會ノ安寧秩序ヲ確保シ、併セテ國家ノ隆昌、國民ノ福祉ヲ増進スルコトヲ以テ、目的トスルモノト信ズル者デアリマス、カルガ故ニ職ニ法律警世ヲ司リ、之ヲ運用スル者ハ、至公至平、全ク私ヲ去リ感情ヲ捨テ、又情實ニ囚ハレズ、國民信賴ノ中心トナラナケレバナラヌコトハ、論ヲ俟タザルコトデアリマス、若シ苟且ニモ法ノ適用ヲ紊リ、感情ニ驅ラレ、規矩ヲ超エ、情實ニ走リテ、繩墨ヲ枉グルガ如キ行動ガアリマシタラバ、國民ハ法ヲ輕ンジ、刑罰ヲ怨ミ、其裁判ヲ信ゼザルニ至リ、法ノ威嚴ヲ損ジ、民心ハ爲ニ弛緩シ、秩序ハ從ッテ亂レマシテ、ドウシテ國家ノ安寧ハ保タレ、良風美俗ガ維持セラレルコトガ出來ルデゴザイマセウカ、國家ノ禍是ヨリ大ナルモノハナイト申サナケレバナラヌノデアリマス、故ニ局ニ當ル人々ハ大イニ戒心自肅ヲ要スル點デアリマス、一昨年行ハレマシタ縣會議員ノ選舉ト、昨春ノ衆議院議員選舉ニ現レマシタ、神奈川縣、青森縣、沖繩縣等ニ起リマシタル彼ノ人權蹂躪事件ノ如キハ、實ニ戰慄ヲ禁ジ能ハザル事實デアリマシテ、法治國タル我が帝國ノ名譽ヲ毀損シ、其信用ヲ失墜セシメマシタコト、頗ル甚大ナリト申サナケレバナラヌノデアリマス、否、昭和聖代ノ一大痛恨事ナリト歎ゼザルヲ得ナイノデアリマス、而モ前三縣下ノ事件ハ、單ニ表面化シタルモノデアリマスガ、若シ兩度ノ選舉中ニ起リマシタル所ノ警察當局ノ選舉干渉ヤ、選舉妨害ヤ、又檢察當局ガ事件ノ檢舉、捜査、訊問等ニ件ウテ行ハレタル幾多ノ人權蹂躪ガ、彼我其所ヲ異ニシテ摘發セラレマシタナラバ、其數枚舉ニ違アラザルノミナラズ、殆ド全國的ニ現レタリト想像スルニ餘リアルノデアリマス、併シ其當局者ハ僥倖ニモ檢察、捜査、訊問ノ鍵ヲ握ッテ居リマスガ故ニ、表面化スルニ至ラズシテ葬リ去ラレタルニアラズヤト疑ヲ持ツ者デアリマス、人權蹂躪、自由拘束ハ獨リ選舉干渉ニ止マリマセズ、其他ノ刑事事件ニモ屢々現レテ居リマスルコトハ明瞭ナル事實デゴザイマス、斯ノ如キ人權蹂躪ノ恰モ公然行ハレマスルコトハ、檢察當局ノ常識、修養、及ビ職務觀念ニ缺陷アルガ故ト思ハレマスガ、モウ一ツハ習性ニ偏スル點モ見逃スコトハ出來ナイノデアリマス、即チ屢々行ハレタ共產黨員ノ檢舉、其際ニハ相當手厳シキ措置ヲ執ラレタコトハ認メラレテ居ルノデアリマス、又暴力團ノ檢舉ニ際シマシテモ、過度ノ處置ガアツタ

ト云フコトモ認メラレテ居ルノデゴザイマスルガ、併シ共產黨員ニ對シ、或ハ暴力團ニ對シマシテハ、我が善良ナル國民ハ之ヲ指彈シテ居ルノデアリマスカラ、其過度ノ處置ニ對シマシテ深ク之ヲ咎メナカッタノデゴザイマス、然ルニソレヲ選舉ノ際ニ逆用ヲ致シマシテ、極端ニ之ヲ用ヒマシタ、斯様ナ事柄ガ習性ヲ現シタモノト私共ハ見ルノデゴザイマス、現ニ人權蹂躪ヲ行ヒ、其責任者トシテ處分セラレマシタル横濱ノ主任檢察官、ドウ云フコトヲ申シテ居ルカト申シマス、共產黨ノ檢舉訊問ニハ拷問ヲ認メテ置キナガラ、選舉違反事件ニ關シテノミ責任ヲ負ハシメラレ、處分セラレ、コトハ、洵ニ不可解デアルト云フ聲明ヲ出シテ居ルコトニ鑑ミマシテモ、一斑ハ以テ全豹ヲ證明スルコトガ出來ルデアラウト存ズルデアリマス、此習性ニ時トシテ觀念ヤ常識ノ缺如ヨリ持來タサレマスル感情、情實ガ加味セラレ、又我國官吏ノ通弊デアリマス所ノ優越感ガ手傳ヲ致シテ居ルコトハ、否メナイ事實デアルト存ズルデアリマス、苟モ人ヲ正サント欲スレバ、先ヅ己レヲ正シウシナケレバナラナイデアリマス、己レヲ正シウシ、眞ニ公平無私ノ心ヲ以テ行ハレマスル所ノ、檢舉又ハ裁判デアリマスラバ、萬一多少ノ錯誤過失ガゴザイマシテモ、國民ハ決シテ怨ヲ貽スヤウナコトハナイト存ズルデアリマス、然ルニ今日無告ノ國民ハ、悉ク其檢舉ヤ裁判ニ承服シ、満足シテ居ルノデゴザイマセウカ、否、檢察官ヤ裁判官ニ對シ、法ヲ輕ンジ怨ヲ懷カズシテ居ラレマセウカ、當局者ノ冷靜公平ナル所ノ觀察ト判斷トヲ望ンデ已マナイノデゴザイマス、然ルニ只今人權蹂躪根絶ヲ論ズル者ガゴザイマス、或ハ自己ノ利益ヲ擁護スルモノデアアル、或ハ關係者ノ庇護ヲ爲スモノデアルトカ云フヤウナ聲ヲ聞クノデアリマス、只今反對デアリマスルカ、贊成デアリマスカハ、ハッキリ分リマセヌガ、加藤勘十君ノ述ベラレタ中ニモ、此人權蹂躪ハ甚ダ動機ガ宜シクナイ、自己ノ非ヲ蔽ハントスルモノデアアルカノヤウナ御論旨モゴザイマシタガ、是ハ洵ニ誣ユルモ甚シキモノデアルト存ズルノデアリマス、先刻一松君ヨリ提案ノ趣旨中ニ述ベラレマシタル所ノ、京都伏見ニ起リマシタ事件ヲ初メト致シマシテ、全國ニ互ツテ斯様ナ人權蹂躪ガ行ハレテ居リマスルコトハ、到底其事實ヲ抹消スルコトハ出來ナイト存ズルノデアリマス、今ヤ、我國ハ内外多

事多難ノ時局ニ當面ヲ致シテ居リマスルガ、其中最大ナル關心事ハ何デアアルカト申シマスルト、此綱紀ノ弛廢、治安ノ紊亂、民心ノ弛緩、動搖ニ過グルモノハナイト信ズルノデアリマス、健全ニシテ不退轉ナル日本精神ノ所持者タルベキ我國民ノ間ニ、或ハ慌シキ國體明徴ヲ唱ヘネバナラヌ事柄ヤ、防共協約ヲ締結セネバナラヌ事柄ヤ、或ハ各階級、各方面ヲ通ジテ肅正ヲ強調セネバナラヌ事柄ヤ、國體擁護團體ヲ初メト致シマシテ、幾多ノ團體運動ヲ起サネバナラヌ状態ハ、國民思想ノ昏迷動搖ヲ物語ルモノデハナイデゴザイマセウカ、然ラバ之ヲ匡救シ、之ヲ矯正スルモノ、即チ人心ヲ正シ、安寧秩序ヲ確保スルモノハ、正シキ法ノ運用ニ俟タネバナラヌコトハ當然ナリト信ズルノデアリマス、私共ハ本決議案ニ言葉ヲ藉リマシテ徒ニ當局ヲ責メ、之ヲ窮地ニ陥レテ自ラ快哉ヲ叫ブモノデアリマセヌ、畏クモ 天皇ノ御名ニ於テ裁キヲ職ト致シ、國家ヲ代表シテ裁キヲ求メ、檢察ノ職ヲ奉ズル人々ヲシテ法ノ尊嚴威力ヲ恪守セシメ、至公至平以テ國民信頼ノ的トナリ、一點タリトモ國民怨嗟ノ聲ヲ聞カザルヤウ、自戒自肅ヲ促シ、其董督指揮ノ重任ニアル總理大臣、司法大臣、内務大臣ヲシテ、能ク憲法ノ大精神ニ則リ、上聖明ニ對ヘ奉リ、下國民ノ安寧幸福ヲ圖ル上ニ於テ、萬遺憾ナカラシムルコトヲ望ミ、眞ニ奉公ノ誠ヲ披瀝シタルニ外ナラヌデアリマス、願クハ速ニ滿場一致ノ御贊成ニ依リ本案ヲ成立セシメ、其精神ノ具現徹底ヲ希望シテ已マザル次第デアリマス、甚ダ簡單デアリマスルガ、之ヲ以テ贊成ノ趣旨ト致シマス

起立採決ノ結果之ヲ可決シ即日大橋内閣書記官宛送付セリ

一一 人權蹂躪ニ關スル決議案

人權蹂躪ニ關スル決議

政府ハ類發セル人權蹂躪ニ鑑ミ速ニ之カ根絶ヲ期スルト共ニ所謂人權蹂躪カ社會運動事犯ニ對スル過酷ナル取締ニ發足セル事實ヲ認メ爾後社會運動事犯タルト否トヲ問ハス一切ノ事犯ニ對シテ苟モ斯ル事態ノ起ラサルヤウ斷乎タル處置ヲ講スヘシ
右決議ス

右ハ昭和十二年三月二十三日河上丈太郎君外二名提出ス同月二十五日小泉又次郎君外五十五名提出人權蹂躪ニ關スル決議案議決ノ結果議決ヲ要セザルモノトナレリ

第七項 重要動議

一 建議案審査ヲ付託スル爲四十五人ノ常任委員ヲ設クルノ件

昭和十一年十二月二十七日全院委員長選舉終了後副議長ハ左ノ發議ヲ爲ス

此場合御諮リ致スコトガアリマス、今期議會ニ於テモ衆議院規則第四十四條ニ依リ建議案審査ノ爲メ常任委員ヲ設ケ、其數ハ四十五名ト致シタイト思ヒマス、之ニ御異議ハアリマセスカ
院議異議ナク四十五人ノ建議委員ヲ設クルニ決セリ

二 三十年以上ノ在職議員荒川五郎君ニ對シ院議ヲ以テ功勞ヲ表彰シ表彰文案ノ起草ハ之ヲ議長ニ一任スルノ件

昭和十一年十二月二十七日副議長ハ左ノ發議ヲ爲ス

此際本院議員トシテ在職三十年ニ達セラレマシタル荒川五郎君ニ對シ、先例ニ依リ院議ヲ以テ功勞ヲ表彰シ、尙ホ表彰文ノ起草ハ議長ニ一任セラレタイト思ヒマス、此議長發議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

院議異議ナク右發議ハ之ヲ可決ス

次テ副議長ハ左ノ文案ヲ朗讀ス

議員正五位勳二等荒川五郎君衆議院議員ニ當選スルコト十回在職三十年ニ及ヒ恆ニ憲政ノ爲ニ盡瘁シ民意ノ暢達ニ努ム衆議院ハ君カ積年ノ功勞ヲ多トシ特ニ院議ヲ以テ之ヲ顯彰ス

院議異議ナク右文案ハ之ヲ可決ス

次テ荒川五郎君ハ左ノ謝辭ヲ述フ

諸君、茲ニ新ニ儀容ヲ整ヘラレタ新議會ノ而モ開會ノ劈頭ニ於テ、貴重ノ時間ヲ以テ特ニ私ノ爲ニ表彰ノ典ヲ御舉ゲ下サイマシタコトハ、私ノ大ナル光榮トシテ深ク感謝致ス所デアリマス、一言御挨拶申上ゲテ衷心ノ謝意ヲ表シタイト存ジマス、諸君、私ハ明治三十七年三月初

メテ議員ニナリマシテ以來、滿三十年ノ長キ、其間碌々トシテ今日ニ至リマシタコトハ、洵ニ
 慚愧ノ至リニ堪ヘマセヌ、唯私ハ教育事業ヲ以テ私ノ天職トシ、生命ト致シ、全精神ヲ教育奉
 仕ニ捧グル者デアリマス、ソレニハ議席ヲ有ツコトガ必要ト認メマシテ、即チ選舉ニ立ツコト
 モ教育奉仕ノ一ツト考ヘ、自ラ身ヲ以テ教育者タランコトヲ覺悟致シテ居ル者デアリマス、勿論
 人ノ教育者ト申シテモ、徳望ヤ才學等ノ點ニ於テハ、勿論當ル所デアリマセヌ、ガ自ラ守リ自
 ラ努力シテ出來得ルコトハ、是ハ斷ジテ人ノ指彈ヲ受クルヤウナコトガアツテハ相成リマセヌ、
 飲食カラ男女ノ關係等、品行上ノコトヨリ、其他義理人情等ノ世事ニ關シテモ、斷ジテ人ノ指彈
 ヲ受クルヤウナコトガアツテハナリマセヌ、殊ニ立法ノ府ニ立ッテ法律ヲ作ル者ガ、法律ヲ犯シ
 テ相成リマセウカ、法律ニ忠實ナルコトハ國民ノ大切ナ資格ノ一ツト心得マス、私ハ此固キ信
 念ヲ以テ神明ニ誓ウテ諸事ニ當リ、殊ニ毎回ノ選舉ニモ臨ンデ居ル次第デアリマス、今既往三
 十年ノ跡ヲ顧ミマスレバ、轉々感慨ニ堪ヘナイモノガアリマス、從來教育ノコトハ立法ノ府デ
 ハ殆ド其聲ヲ聞カナイ、明治三十九年私ガ小學校教員給國庫補助ノ案ヲ出シマシタ時ハ議會内
 外ヲ通ジテ殆ド冷笑ヲ以テ迎ヘラル、有様デアッタノデアリマス、其後政友會ノ三土忠造君等
 カラ同種ノ案ガ出マシテ、漸次機運ヲ促シマシテ、遂ニ大正七年ニ至ッテ義務教育費國庫負
 擔法ト題シテ、政府ノ提案ヲ見ルニ至リマシタ、爾來此問題ハ盛ニ朝野ノ政論ヲ賑ハスニ至ッ
 タ次第デアリマス、勿論此義務教育ハ全國國民本位デアリマスカラ、國費ヲ以テモ十分普及徹底
 ヲ圖ランケレバナリマセヌガ、中等以上ノ教育ニ至ッテハ、是ハ主トシテ本人本位デアリマス
 カラ、寧ロ私學ノ經營ニ任ズベキモノデアリマシテ、殊ニ我國ノ如キ物資ノ乏シイ國ニ在ッテ
 ハ、艱苦缺乏ニ耐ヘ、惡戰苦闘ヲモノトシナイ獨力奮闘ノ士ヲ特ニ必要ト致シマス、ソレニハ
 官公立ノ如キ設備内容萬端ガ十分ニ整ウテ、謂ハ、溫室的ノ教育ヨリモ、野邊ノ草ガ風雨寒暑
 ヲ凌イデ、踏マレテモ、躓ラレテモ、能ク伸上ラントスルガ如キ、世ノ荒浪ニ耐ヘル私學ノ教
 育ヲ寧ロ必要ト存ジマス、殊ニ官公立ハ其教員ガ皆官吏デアリマシテ、此官吏ニ率キラレルカ
 ラ、ソコデ多クハ彼等學生ハ官僚的トナリ、サナキダニ官尊民卑ノ弊風ヲ益、助長シテ、是等

卒業生ハ多クハ官吏ヤ其他俸給生活者トナッテ、安キニ就カントスルノ傾ガアルコトハ、注
 意スベキコトト存ジマス、勿論官公立ニモソレノ特色ガアリマスガ、私ハ此私學ノ特色ヲ
 大イニ發揮スルコトガ國家ノ大事デアリ、殊ニ國費節約ノ上ニモ重要ナ關係ガアリト考ヘマシ
 テ、此見地カラ私學ノ隆昌發達ヲ圖ルコトガ大イニ必要ト存ジマス、ソレニ付キマシテハ彼等
 中等教員ノ待遇、殊ニ恩給法ヲ立テテ其老後安定ノ保障ヲ致スコトノ最必要アリト考ヘマシテ
 全國私立中等諸學校教職員ノ恩給法ヲ設ケマシテ、爾來努力シテ、今ヤ積立金二百二十餘萬圓
 ニ達シ、又畏多クモ上 陛下ヨリ有難キ巨額ノ恩賜金ヲ戴クノ光榮ニ浴シタ次第デアリマス、
 以上ハ學校教育ニ關シテノ事デアリマスガ、廣義ノ教育ハ我が民族ノ根本ニ遡ッテ、其素質ノ
 改善ヲ必要ト致シマス、私ハ多年研究ノ結果、先年皆サンノ御盡力ヲ得マシタ少年教護法ト
 ナリ、更ニ御願ヒ申シテ二回モ提出致シテ居リマス民族優生保護法案ノ如キハ、是レ我が民族
 素質ノ改善ノ根本ヲ成スモノト考ヘマス、斯様ニ教育ノ事タルヤ其範圍ガ極メテ廣ク且ツ重大
 デアリマシテ、私共教育ヲ以テ生命ト致シテ居ル者ノ、心血ヲ注イデ努力奮勵シナケレバナラ
 ヌ問題ハ中々少クアリマセヌ、私ハ酒ヲ廢メ、煙草ヲ廢メ、基將棋等ヲ斥ケテ、一意專心自彊
 息マズシテ居リマスケレドモ、遺憾ナガラ短才無力ニシテ、事志ニ適フ能ハザルヲ深ク遺憾ト
 致シマス、冀クバ滿堂忠誠ノ念ニ富マル、諸君ノ御示教御鞭撻ヲ得テ、幸ニ是等國家ノ根本問
 題ノ實現ノ歩ヲ進メタイト熱心ニ祈ッテ居リマス、今日斯ル皆様ノ偉大ナ御厚意ニ接シテ感慨
 無量ナルモノガアリマス、謹ンデ深厚ノ敬意ヲ表シ、厚ク御禮申上ゲマス

同日副議長ハ去ル十九日議員畔田明君逝去セラル洵ニ痛惜哀悼ノ至ニ堪ヘサル旨竝同君ニ對スル
 弔詞ハ去ル二十三日先例ニ依リ贈呈セル旨ヲ告クルヤ植原悅二郎君ハ發言ヲ求左ノ哀悼ノ辭ヲ述
 フ

植原君ノ哀悼ノ辭

諸君、私ハ此際諸君ノ御許シテ得マシテ故畔田明君ニ對シ、議員一同ヲ代表致シマシテ哀悼ノ意ヲ表シタイト思ヒマス、畔田明君ハ明治十八年五月長野縣松本市ニ生レラレタノデアリマス、其後東京帝國大學法科大學政治學科ニ學バレ、大正三年四月司法大臣秘書官ニ任セラレ、又同年秋大禮使典儀官ヲ仰付ケラレタノデアリマス、大正十三年ノ第十五回總選舉ニハ、郷里松本市ヨリ選バレテ衆議院議員トナラレ、又本年ノ第十九回總選舉ニハ長野縣第四區ヨリ選出セラレタノデアリマス、君ハ學生時代ヨリ此世ヲ去ラレル迄、政治ヲ其生命トセラレ、政治以外全ク他ヲ顧ミラレタコトナク、終生之ニ没頭セラレタ人デアリマス、前途春秋ニ富ム身デアリナガラ、長逝セラレマシタコトハ、眞ニ痛惜ノ至リニ堪ヘナイ次第デアリマス、茲ニ謹ンデ哀悼ノ意ヲ表シマス

三 本日はヨリ後繼内閣成立迄休會シ尙其ノ間議長必要ト認ムルトキハ隨時開會シ得ルノ件

昭和十二年一月二十五日本會議劈頭議長ハ左ノ發議ヲ爲ス

本日ノ議事日程ニ入ルニ先ダッテ御諮リ致シタイコトガアリマス、一昨二十三日内閣ヨリ書面ヲ以テ同日廣田内閣ハ辭表ヲ奉呈シタル旨ノ通知及後繼内閣ノ成立後マデ休會ヲ續ケラル、ヤウ配慮ヲ煩ハシ度シトノ申出ガアリマシタ、就キマシテハ本日はヨリ後繼内閣ノ成立スルマデ——成立スルマデ休會ヲ致スコトトシ、尙ホ其間議長ニ於テ必要ト認ムルトキハ、隨時開會シ得ルコトト爲スニ御異議アリマセヌカ

院議異議ナク右發議ハ之ヲ可決ス

四 議員本多貞次郎君逝去ニ付院議ヲ以テ弔詞ヲ贈呈シ其ノ弔詞ハ議長ニ一任スヘシトノ動議

昭和十二年二月二十七日日本會議劈頭議長ハ議員本多貞次郎君昨二十六日逝去セラル洵ニ痛惜哀悼ノ至ニ堪ヘサル旨ヲ告クルヤ多田滿長君ハ右ノ動議ヲ提出ス

只今御報告ニナリマシタ故本多貞次郎君ニ對シ院議ヲ以テ弔詞ヲ贈呈致シタク、其弔詞ハ之ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス、本多君ノ政界竝ニ實業界ニ於ケル閱歷功績ニ付テハ、私ガ申上ゲルマデモアリマセヌガ、本日君ト永久ノ訣別ヲ告ゲネバナラヌ此際、私ハ諸君ノ御許ヲ得マシテ議員一同ヲ代表シ、故本多貞次郎君ニ對シ哀悼ノ微意ヲ表シタイト思ヒマス、本多貞次郎君ハ安政五年宇都宮ニ於テ生レラレ、大正六年ヨリ千葉縣會議員ニ當選セラレ、コトニ同、其間、同參事會員及ビ同縣會議員ニ舉ゲラレ、地方自治ノ爲ニ貢獻セラレタルコト誠ニ尠カラザルモノガアリマス、次デ大正九年五月第十四回總選舉ニ際シ、衆望ヲ負ウテ千葉縣第三區ヨリ選出セラレテ本院ニ議席ヲ占メラレ、爾來當選セラレ、コト四回ニ及ビマシタ、而シテ其間資源審議會委員、鐵道會議議員紀元二千六百年祝典評議委員會委員ヲ仰付ケラレ、全院委員長ニ當選セラレ、等、君ガ國家憲政ノ爲ニ盡瘁セラレタルコトハ實ニ多大ナルモノガアリマス、尙ホ君ハ京成電氣軌道、渡良瀬水電、葛飾瓦斯、大同電氣、三共電機工業ノ各株式會社ノ社長トナリ、且ツ社團法人鐵道同志會、電氣協會、帝國鐵道協會ノ理事及ビ評議員、日本經濟聯盟會評議員、東京商工會議所議員トナラレ、實業界ニ貢獻セラレタル功績モ亦實ニ多大ナルモノガア

リマス、更ニ君ハ昭和二年千葉縣下ニ於テ國府專學院ヲ創設セラレ、其總裁トシテ教育ノ爲ニモ大イニ盡瘁セラレツ、アッタノデアリマス、然ルニ過般來ニ豎ノ冒ス所トナリ、濫焉トシテ逝去セラレマシタルコトハ、誠ニ痛惜哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、茲ニ謹ンデ弔意ヲ述ベテ、微意ヲ表スル次第デアリマス

院議異議ナク右動議ハ之ヲ可決ス

次テ議長ハ左ノ弔詞ヲ朗讀シ即日之ヲ贈呈セリ

衆議院ハ議員勳四等本多貞次郎君ノ長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

五 議員武富濟君逝去ニ付院議ヲ以テ弔詞ヲ贈呈シ其ノ弔詞ハ議長ニ一任スヘシトノ動議

昭和十二年三月四日會議劈頭議長ハ議員武富濟君一昨二日逝去セラル洵ニ痛惜哀悼ノ至ニ堪ヘサル旨ヲ告クルヤ小林綺君ハ右ノ動議ヲ提出ス

只今御報告ニ相成リマシタル故武富濟君ニ對シ、院議ヲ以テ弔詞ヲ贈呈致シ、其弔詞ハ之ヲ議長ニ一任スルノ動議ヲ提出致シマス、諸君、此際私ハ諸君ノ御許シヲ得マシテ、議員一同ヲ代表シ、故武富濟君ニ對シ哀悼ノ微意ヲ表シタイト存ズルデアリマス、故武富濟君ハ明治二十三年四月愛知縣碧海郡刈谷町ニ於テ生レラレ、長ジテ東京帝國大學法科大學ニ入學セラレ、明治三十七年七月同大學ヲ卒業セラレ、ヤ、司法官試補ニ補セラレ、次イデ檢事ニ任ゼラレ、千葉地方裁判所檢事、東京地方裁判所檢事等ニ歷任セラレタノデアリマス、在職中彼ノ日糖事件若ク

ハ幸徳等ノ大逆事件ニ付檢察ノ衝ニ當リ、其敏腕ヲ揮ハレタルコトハ世人ノ能ク知ル所デアリマス、大正元年官界ヲ去ツテ辯護士トナラレ、翌二年ニハ東京辯護士會常議員會議長ニ舉ゲラレ、甘粕憲兵大尉ノ辯護人ニ官選セラレタル等、君ガ法曹界ニ於テ人權擁護ノ爲ニ盡サレタル功績ハ洵ニ甚大ナルモノガアリマス、斯クテ大正十三年五月第十五回總選舉ニ際シ、郷里ナル愛知縣ヨリ衆望ヲ負ウテ當選セラレテ、衆議院議員トナリ、爾來前後通ジテ五回當選セラレ、長ク本院ニ其議席ヲ占メラレタノデアリマス、其間拓務參與官トシテ拓務行政ニ參與セラレ、阿片委員會委員及ビ選舉制度調査會委員ヲ仰付ケラレ、又懲罰委員長ニ當選セラレ、等、國家憲政ノ爲メ奮勵努力セラレツ、アリマシタコトハ、諸君御承知ノ通りデゴザイマス、君ハ資性豪放ニシテ義氣ニ富ミ、私ヲ捨テ、公ニ報ズルノ士デアラレマシタ、近來益々練達堪能ノ域ニ入ラレ、世上モ亦君ニ俟ツモノ極メテ多カリシニ、昨夏以來ニ豎ノ冒ス所トナリ、吾々ハ其快癒ノ一日モ速カナランコトヲ祈リツ、アリマシタノニ、今濫焉トシテ幽明界ヲ異ニセラレタルコトハ、洵ニ痛惜哀悼ニ堪ヘザル次第デアリマス、茲ニ謹ンデ衷心ヨリ哀悼ノ微意ヲ表スル次第デアリマス

院議異議ナク右動議ハ之ヲ可決ス

次テ議長ハ右ノ弔詞ヲ朗讀シ即日之ヲ贈呈セリ

衆議院ハ議員正五位勳三等武富濟君ノ長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ贈呈ス

六 議員前田幸作君、同龜井貫一郎君ヲ懲罰委員ニ付スルノ件

昭和十二年三月十九日本會議劈頭議長ハ左ノ宣告ヲ爲ス

諸君、昨日討論終局ノ動議採決ノ際ニ於キマスル前田幸作君及ビ龜井貫一郎君ノ行動ハ議場ノ秩序ヲ紊シ、議院ノ騷擾ヲ醸シタルモノト認メマス仍テ議長ハ議員前田幸作君、同龜井貫一郎君ノ兩君ヲ懲罰委員ニ付スルコトニ致シマス

第八項 懲罰事犯ノ件

- 一 議員前田幸作君懲罰事犯ノ件(議長宣告)
- 二 議員龜井貫一郎君懲罰事犯ノ件(議長宣告)

右二件ハ昭和十二年三月十九日議長宣告(第七項六參看)ニ依リ懲罰委員ニ付託セラレ委員會ハ審査ノ末議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ議員前田幸作君ニ對シ三日間、議員龜井貫一郎君ニ對シ二日間ノ各出席停止ヲ命スヘキモノト決シ三月二十二日報告書ヲ議長ニ提出セリ

同日中山福藏君ハ議事日程ヲ變更シテ懲罰事犯ノ件ヲ一括上程シテ審議スヘシトノ動機ヲ提出シ記名投票ヲ以テ採決ノ結果之ニ決ス

仍テ議事日程ヲ變更シ右二件ヲ一括シテ會議ニ付シ衆議院規則第二百六條ニ依リ祕密會ヲ開ク

次テ會議ヲ公開ニ復シ副議長ハ祕密會ノ結果ニ付委員會報告ノ通議決シタル旨ヲ報告シ仍テ左ノ宣告ヲ爲ス

議員前田幸作君ニ對シ議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ三日間ノ出席停止ヲ命ス

議員龜井貫一郎君ニ對シ議院法第九十六條第一項第三號ニ依リ二日間ノ出席停止ヲ命ス

第九項 請 願(議院法第六十四條第二項ニ依ルモノ)

- 一 戰公病死者遺族並傷痍軍人優遇ニ關スル請願外千九百六十五件

(特別報告第二號)戰公病死者遺族並傷痍軍人優遇ニ關スル請願 (特別報告第三號)祝祭日舉國一齊現地遙拜ニ關スル請願 (特別報告第四號)俱知安町ニ稅務署設置ノ請願 (特別報告第六號)産業組合課稅反對ニ關スル請願外十四件 (特別報告第七號)産業組合課稅ニ對スル請願 (特別報告第八號)所得調査委員優遇ニ關スル請願 (特別報告第一〇號)北海道ニ於ケル地種變更免租期間延長ニ關スル請願 (特別報告第一一號)縣社赤城神社昇格ニ關スル請願 (特別報告第一二號)縣社岩隈八幡宮昇格ニ關スル請願 (特別報告第一三號)神饌米獻納ニ關スル請願

(特別報告第一四號)消防組員優遇ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第一五號)火災豫防ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第一六號)島田川治水工事急施ノ請願 (特別報告第一九號)月形村峯延間石狩川ニ橋梁架設ノ請願 (特別報告第二三號)俱知安町ニ製糖工場設置ニ關スル請願 (特別報告第二四號)機船底曳網漁業根據地存置ノ請願 (特別報告第二五號)直島製煉所鑛煙害善後策ニ關スル請願 (特別報告第二六號)日清戰役以來ノ全殊勳者ヲ靖國神社ニ合祀ノ請願 (特別報告第二七號)宇都宮市附近ニ軍馬購買所設置ニ關スル請願 (特別報告第二八號)兵役義務者及傷痍軍人待遇改善急施ニ關スル請願 (特別報告第二九號)幸久郵便取扱所ヲ三等郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第三〇號)吉川村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第三一號)今和泉村大字利永ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第三二號)新改郵便取扱所ヲ無集配郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第三三號)永野田郵便取扱所ヲ無集配郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第三四號)系引村ニ無集配郵便局又ハ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第三五號)東中郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第三六號)平郡郵便局ニ電信電話事務開始ノ請願 (特別報告第三七號)伊保内郵便局ニ電信電話架設ノ請願 (特別報告第三八號)船員保險法制定ニ關スル請願 (特別報告第三九號)無線羅針局増設ニ關スル請願 (特別報告第四〇號)船舶検査官ヲ採用ニ關スル請願 (特別報告第四一號)海難防止講演會後援ニ關スル請願 (特別報告第四

二號)天賣、燒尻兩島苦前港間ニ命令航路開設ノ請願 (特別報告第四三號)苦前村ニ航路標識施設ノ請願 (特別報告第四四號)敷香町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第四五號)瀧川町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第四六號)下川根村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四七號)中川村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四八號)苦前村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四九號)人權尊重ニ關スル請願 (特別報告第五〇號)日本少年指導會ニ對シ國庫助成ノ請願 (特別報告第五一號)町村立小學校舍新增改築費國庫補助法制定ノ請願 (特別報告第五二號)大塚神社附近古墳調査ニ關スル請願 (特別報告第五三號)岡山、牛窓間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第五四號)俱知安驛定山溪、洞爺湖兩溫泉間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第五八號)瀧川、砂川間複線敷設ノ請願 (特別報告第六七號)愛宕村ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第六八號)東京驛東口本建築鐵道驛開設ニ關スル請願 (特別報告第六九號)旭田村大字落合ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第七〇號)新改信號所ニ簡易停車場併置ノ請願 (特別報告第七一號)苦前村字力晝ニ乗降場設置ノ請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年二月二十六日議長ニ提出ス

(特別報告第七二號)天照皇大神祝祭日制定ノ請願 (特別報告第七三號)萬世一系ノ皇統御太元

竝肇國ノ紀元ニ關スル請願 (特別報告第七四號) 公文書ノ平易化ニ關スル請願 (特別報告第七五號) 原始的娛樂ニ對スル課稅免除ノ請願 (特別報告第七六號) 酒造法制定ニ關スル請願外二十四件 (特別報告第七七號) 酒造稅法改正ニ關スル請願外十三件 (特別報告第七八號) 酒類販賣業免許制度制定ノ請願 (特別報告第七九號) 舊高知藩士族家祿賞典祿給與未濟額下附ニ關スル請願外一件 (特別報告第八〇號) 岩手縣南地方ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第八三號) 大鹿村大字鹿鹽ニ於ケル岩鹽試掘ニ關スル請願 (特別報告第八四號) 甲種防火地區內假設建築物除却期限延長ニ關スル請願 (特別報告第八五號) 甲種防火地區建築補助金交付期限延長ニ關スル請願 (特別報告第八六號) 千種忠顯神社建設ニ關スル請願 (特別報告第八九號) 質屋取締法中改正ノ請願 (特別報告第九〇號) 穀類搗精製粉取締法制定ノ請願 (特別報告第九一號) 「奈良月瀬線」及「月瀬上野線」ヲ指定府縣道ニ復活ノ請願 (特別報告第九二號) 理髮業者ニ對スル營業稅免除ノ請願 (特別報告第九三號) 兵役義務者及傷痍軍人待遇改善急施ニ關スル請願外六件 (特別報告第九四號) 產業組合課稅反對ニ關スル請願外四件
 以上ノ報告書ハ昭和十二年三月九日議長ニ提出ス

(特別報告第九八號) 五郷山部分林無償下附ニ關スル請願 (特別報告九九號) 山村住民救濟

ニ關スル請願 (特別報告第一〇〇號) 東川、柳津間ニ林道竝用道開設ノ請願 (特別報告第一〇一號) 岩船沖合機船底曳網漁業ニ關スル請願 (特別報告第一〇二號) 機船底曳網漁業全廢ニ關スル請願 (特別報告第一〇三號) 海洋漁業振興ニ關スル請願 (特別報告第一〇四號) 漁村指導機關整備ニ關スル請願 (特別報告第一〇六號) 沿岸漁業ノ調整竝資源培養ニ關スル請願 (特別報告第一〇七號) 漁業經營改善ニ關スル請願 (特別報告第一〇八號) 水產物利用ノ改良振興ニ關スル請願 (特別報告第一一〇號) 水產行政機構改革ニ關スル請願 (特別報告第一一一號) 鱈ノ洄游及棲息狀況調査ニ關スル請願 (特別報告第一一二號) 震災保險法制定ノ請願外一件 (特別報告第一一四號) 帝國陸海軍ニ齒科軍醫設置ノ請願外一件 (特別報告第一一五號) 本名村ニ郵便局又ハ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一一六號) 苫前村上平驛附近ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第一一七號) 野迫川村大字中ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第一一八號) 住吉村ニ郵便局設置ノ請願 (特別報告第一一九號) 高根村大字六日市場ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第一二〇號) 華川郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第一二一號) 屋島郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第一二二號) 田頭郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第一二三號) 越來郵便取扱所昇格竝電話事務開始ノ請願 (特別報告第一二四號) 佐那河内郵便局ニ電信電話事務開始其ノ他ノ請願 (特別報告第一二五號) 伊島郵便局ニ電

話事務開始ノ請願 (特別報告第一二六號) 海難ニ基ク船員ノ業務上過失處罰ニ關スル刑法規定改正其ノ他ノ請願 (特別報告第一二七號) 郡山市ニ地方裁判所支部設置ノ請願 (特別報告第一二八號) 俱知安町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第一二九號) 門川町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一三〇號) 大島村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一三二號) 市山村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第一三三號) 高知刑務所移轉ニ關スル請願 (特別報告第一三三號) 借地、借家法並商事調停法施行ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十日議長ニ提出ス

(特別報告第一三四號) 小學校教員俸給全額國庫支辨ノ請願 (特別報告第一三五號) 日光杉並木保護施設ニ關スル請願 (特別報告第一三六號) 映畫對策確立實施ニ關スル請願 (特別報告第一三七號) 播丹鐵道買收ノ請願 (特別報告第一三八號) 橫莊鐵道買收並未成區間速成ノ請願 (特別報告第一三九號) 汽船會社救済ニ關スル請願 (特別報告第一四〇號) 高田、遠野間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第一四一號) 河内、向原間省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第一四二號) 岩國、萩間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一四四號) 青岩鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一四八號) 本郷、今福間鐵道速成ノ請願外一件 (特別報告第一四九號) 河内、向原

兩驛間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一五一號) 長倉、御前山間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一五三號) 江差、瀬棚間鐵道路線實測ニ關シ久遠村編入ノ請願 (特別報告第一五五號) 戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外八十二件 (特別報告第一五六號) 地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制定ニ關スル請願外二十九件 (特別報告第一五七號) 國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外三件 (特別報告第一六一號) 利根川本支派川根本治水工事施行ノ請願 (特別報告第一六二號) 天神川改修工事線上施工ノ請願 (特別報告第一六四號) 浦河漁港修築並第二期擴張工事施行ノ請願 (特別報告第一六五號) 境港ニ移入半檢疫所設置ノ請願 (特別報告第一六六號) 境港ヲ食肉輸移入取締規則第二條ニ依ル海港ニ指定ノ請願 (特別報告第一六七號) 第二期森林治水事業計畫樹立實施ノ請願 (特別報告第一六九號) 林道網計畫樹立實施ノ請願 (特別報告第一七〇號) 災害防止林業施設計畫樹立ニ關スル請願 (特別報告第一七一號) 流網漁業制限其ノ他ニ關スル請願 (特別報告第一七二號) 種子島ニ種馬所分場設置ノ請願 (特別報告第一七三號) 兵役義務者及傷痍軍人待遇改善急施ニ關スル請願外十八件 (特別報告第一七四號) 酒造稅法改正ニ關スル請願外四十件 (特別報告第一七七號) 震災保險法制定ノ請願 (特別報告第一七八號) 人權尊重ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十二日議長ニ提出ス

(特別報告第一七九號)濟生會診療機關用地諸公課免除ノ請願 (特別報告第一八一號)贅澤品輸入税一部改定ニ關スル請願 (特別報告第一八二號)揮發油輸入關稅定率引上並揮發油稅制定ニ關スル請願 (特別報告第一八三號)早岐町ニ酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第一八四號)近江神宮創建ニ關スル請願 (特別報告第一八五號)村社室古、阿古師兩神社昇格其ノ他ノ請願 (特別報告第一八六號)埼玉縣朝霞町外六箇町村ヲ東京市ニ編入ノ請願 (特別報告第一八七號)町村特別稅段別割ニ關スル法律改正ノ請願 (特別報告第一八九號)新宮川治水應急施工ノ請願 (特別報告第一九〇號)河原町大字稻常並國英村大字片山地域ヲ千代川改修區域ニ編入ノ請願 (特別報告第一九一號)鍼灸醫術ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第一九二號)美瑛村字美瑛忠別ヨリ東旭川村字上米飯ニ至ル區間ニ自動車道開鑿ノ請願 (特別報告第一九三號)三石村船入洞擴張ノ請願 (特別報告第一九五號)飲食物防腐劑取締規則一部改正ノ請願 (特別報告第一九六號)國立食料研究所設置ノ請願 (特別報告第一九八號)鬼怒川流域ニ灌溉用貯水池設置ノ請願 (特別報告第二〇〇號)門川漁港修築ノ請願 (特別報告第二〇一號)鱒ヶ澤漁港第二期修築工事急施ノ請願 (特別報告第二〇二號)留萌港ニ人造石油工場設置ノ請願 (特別報告第二〇三號)指宿町十町區ニ郵便局設置ノ請願 (特別報告第二〇四號)敦賀驛前ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第二〇五號)篠原郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第二〇六號)

鹿兒島、熊毛間ニ長距離電話施設ノ請願 (特別報告第二〇七號)野中南通ヲ電話普通加入區域ニ編入ノ請願 (特別報告第二〇八號)朝鮮ニ衆議院議員選舉法施行ノ請願 (特別報告第二一〇號)鳥栖町ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第二一一號)大樹村大樹市街ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二一二號)山田村又ハ志和池村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二一三號)海老町ニ區裁判所出張所設置ノ請願外一件 (特別報告第二一四號)江ノ浦、田結、戸石三箇村ヲ長崎區裁判所管轄ニ變更ノ請願 (特別報告第二一七號)宮崎高等農林學校ニ獸醫科設置ノ請願 (特別報告第二一九號)官公立吃音矯正所設置ノ請願 (特別報告第二二〇號)島原鐵道買收ノ請願 (特別報告第二二二號)能登鐵道買收並三明、三井間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二二三號)西之表ヨリ浦田及島間ニ至ル區間ニ省營自動車運輸開始ノ請願 (特別報告第二二五號)伊東、下田間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二二六號)留萌、川上間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第二二八號)酒造稅法改正ニ關スル請願外四十二件 (特別報告第二二九號)地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制定ニ關スル請願外二十九件 (特別報告第二三〇號)國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外九件 (特別報告第二三一號)戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外百八十六件

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十五日議長ニ提出ス

(特別報告第二三二號)大麻祭創定ニ關スル請願 (特別報告第二三三號)元北海道廳森林監守ノ恩給ニ關スル請願 (特別報告第二三四號)官公衙學校宿直規程制定ノ請願 (特別報告第二三五號)必需物資貯藏ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第二三六號)川島稅務署復活ニ關スル請願 (特別報告第二三七號)國立民衆銀行法即時制定ニ關スル請願外二件 (特別報告第二三八號)清水町ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第二三九號)高鍋町ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第二四〇號)青森縣上北郡内ニ酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第二四二號)輸入製革關稅改訂ニ關スル請願 (特別報告第二四三號)香川縣ニ國立製鹽試驗場設置ノ請願 (特別報告第二四五號)煙草耕作者救濟ノ請願 (特別報告第二四六號)村社飯綱神社昇格ニ關スル請願 (特別報告第二四七號)村社岩隈八幡宮昇格ニ關スル請願 (特別報告第二四八號)警察官待遇改善ニ關スル請願 (特別報告第二五〇號)釜石港ヲ第二種重要港灣ニ選定ノ請願 (特別報告第二五二號)太平橋架替工事急施ノ請願 (特別報告第二五三號)釜石港ニ防浪建築築造ノ請願 (特別報告第二五四號)層電峽、留邊藥町間自動車道開鑿ノ請願 (特別報告第二五六號)救癩設備擴張促進ニ關スル請願 (特別報告第二五八號)混砂精白米發賣禁止其ノ他ニ關スル請願 (特別報告第二五九號)沿岸漁業振興ニ關スル請願外一件 (特別報告第二六一號)裝蹄師法制定ノ請願 (特別報告第二六一號)天間林村ニ國有種馬種付所設置ノ請願

願 (特別報告第二六三號)伊勢崎ニ輸出織物檢査所支所設置ノ請願 (特別報告第二六四號)各市場鮮魚取引公休日廢止ノ請願 (特別報告第二六五號)中央卸賣市場取扱手数料引下ノ請願 (特別報告第二六六號)陸海軍人待遇改善ニ關スル請願 (特別報告第二六七號)大隅半島ニ陸軍飛行聯隊設置ノ請願 (特別報告第二六八號)多和村字經座ニ郵便局設置ノ請願 (特別報告第二六九號)檜枝岐村ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第二七〇號)生子菅村ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第二七一號)大根占町字池田ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第二七二號)百引村大字下百引ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第二七三號)戶多郵便取扱所ヲ三等郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第二七四號)江釣子郵便取扱所ヲ集配郵便局ニ改定並電信電話事務開始ノ請願外一件 (特別報告第二七五號)沼江郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第二七六號)八丈島、青ヶ島間郵便物臨時航送ニ關スル請願 (特別報告第二七七號)大崎鼻ニ燈臺設置ノ請願 (特別報告第二七八號)根室、擇捉島間定期命令航路開設ノ請願 (特別報告第二七九號)安平村字早來ニ區裁判所設置ノ請願 (特別報告第二八〇號)龍丘村大字時又ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二八一號)志度町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二八二號)加美村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二八三號)玖珠町大字塚脇ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第二八四號)駄知町ニ區裁判所出張所設置ノ請願

(特別報告第二八五號) 刑務所ニ於ケル武道具製造販賣廢止ニ關スル請願 (特別報告第二八七號) 小學校教員待遇改善ニ關スル請願 (特別報告第二八八號) 小學校教員年功加俸ニ關スル請願 (特別報告第二八九號) 鯨ヶ澤町ニ國立海洋觀測所及測候所設置ノ請願 (特別報告第二九〇號) 公共圖書館費國庫補助法制定ノ請願 (特別報告第二九二號) 吉備高島宮址保存施設ニ關スル請願 (特別報告第二九三號) 國鐵主要夜行三等客車内ニ適當ナル安眠器設備ノ請願 (特別報告第二九四號) 長門鐵道買收其ノ他ノ請願 (特別報告第二九五號) 壽都鐵道買收ノ請願 (特別報告第二九六號) 國有鐵道敷設ニ因ル民營自動車業ノ損失補償ニ關スル請願 (特別報告第二九七號) 狩太、虻田兩驛間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第二九八號) 諫早、佐世保兩驛間「ニガソリ」運轉開始ノ請願 (特別報告第二九九號) 北濃、城端間鐵道敷設ノ請願外一件 (特別報告第三〇〇號) 越美南線速成ノ請願外一件 (特別報告第三〇一號) 湯澤、本莊間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三〇三號) 下付知、下呂間鐵道速成ノ請願 (特別報告第三〇五號) 幾春別、新得間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三〇七號) 南部鐵道速成ノ請願 (特別報告第三〇九號) 森、柿坂間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三一一號) 釜石港ニ臨港鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三一二號) 日出鹽驛ニ貨物取扱開始ノ請願 (特別報告第三一三號) 諫早、大村兩驛間ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第三一四號) 江丹別村字下江丹別ニ簡易停車場設置其ノ他ノ

請願 (特別報告第三一五號) 川越驛建設ニ關スル請願 (特別報告第三一六號) 細江村大字杉崎ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第三一七號) 川東、谷田川兩驛間ニ簡易停車場設置ノ請願 (特別報告第三一九號) 諫早驛構内廣場擴張ノ請願 (特別報告第三二〇號) 酒造税法改正ニ關スル請願外三十件 (特別報告第三二四號) 戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外三百六十三件 (特別報告第三二五號) 地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制定ニ關スル請願外三十二件 (特別報告第三二六號) 國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外十件 (特別報告第三二八號) 震災保險法制定ノ請願外一件 (特別報告第三三〇號) 火災豫防ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第三三一號) 兵役義務者及傷痍軍人待遇改善急務ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十五日議長ニ提出ス

(特別報告第三三二號) 室蘭市ヲ根據トスル機船底曳網漁業存續ニ關スル請願 (特別報告第三三三號) 吾田村ニ郵便局設置ノ請願 (特別報告第三三四號) 伊北村大字鹽澤ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第三三五號) 日野谷村ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第三三六號) 羅漢郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第三三七號) 上熊野郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第三三八號) 謝花郵便局ニ集配並電信電話事務開始ノ請願 (特別報告第三三九號) 日

比原郵便局ニ電信電話事務開始ノ請願 (特別報告第三四〇號) 北濱郵便取扱所ヲ三等郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第三四一號) 水沼郵便取扱所移轉ノ請願 (特別報告第三四二號) 旭村大字近永ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第三四三號) 私立中等學校ニ對シ國庫補助金交付ノ請願 (特別報告第三四四號) 私立中等學校ニ對シ低利資金貸下ノ請願 (特別報告第三四五號) 戰公傷病死者遺族子孫ノ小中等學校ニ於ケル授業料免除ノ請願 (特別報告第三四六號) 忠臣玉井西阿ノ事蹟ヲ教科書ニ掲載ノ請願 (特別報告第三四七號) 皇子空也上人御墳墓確定ニ關スル請願 (特別報告第三四八號) 紀元二千六百年祝典事業中ニ高千穂靈域保存施設編入ノ請願 (特別報告第三四九號) 紀元二千六百年祝典事業中ニ日向國聖蹟顯彰ヲ加フルノ請願 (特別報告第三五〇號) 口之津鐵道買收ノ請願 (特別報告第三五一號) 余市、余別間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第三五二號) 大井、下呂兩驛間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第三五三號) 沼田、日光間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第三五四號) 成東、佐原間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第三五八號) 直江津、六日町兩驛間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三五九號) 愛山溪鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三六〇號) 厚内、忠類間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三六三號) 油津港ニ臨港鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三六四號) 七尾、氷見間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三六六號) 網干驛廣村間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三六七號)

「桐野驛」ヲ「宮田驛」ト改稱ノ請願 (特別報告第三六八號) 宮ヶ濱驛名變更ノ請願 (特別報告第三六九號) 吉塚驛ニ急行列車停車ノ請願 (特別報告第三七〇號) 延岡、日ノ影間鐵道完成年度線上其ノ他ノ請願 (特別報告第三七一號) 紀勢東線起點ヲ相可口驛ニ存置ノ請願 (特別報告第三七二號) 西川原地内舊中井信號所附近ニ岡山東驛設置ノ請願 (特別報告第三七三號) 六條村ニ上六條驛設置ノ請願 (特別報告第三七四號) 伊北村大字石伏ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第三七五號) 飯塚市ニ稅務署設置ノ請願 (特別報告第三七六號) 酒母、醪及麴取締法改正ノ請願 (特別報告第三七七號) 勝目村ニ葉煙草收納取扱所設置ノ請願 (特別報告第三七八號) 村社高千穂神社昇格ノ請願 (特別報告第三七九號) 縣社穗觸神社昇格ノ請願 (特別報告第三八〇號) 伊弉諾神社ノ社號ヲ神宮ニ改稱ノ請願 (特別報告第三八一號) 公益質屋經營費國庫補助ニ關スル請願 (特別報告第三八二號) 平町平窪村合併反對ノ請願 (特別報告第三八四號) 福渡、足守線縣道變更認可保留ノ請願 (特別報告第三八五號) 八木、高田兩町間國道改修ノ請願 (特別報告第三八六號) 北上川改修ニ因ル漁業被害救済ニ關スル請願 (特別報告第三八七號) 木曾川上流改修區域延長ノ請願 (特別報告第三八九號) 澁春別川治水促進ノ請願外一件 (特別報告第三九〇號) 様似漁港修築ノ請願 (特別報告第三九三號) 豐橋市外三郡内原野國營開墾促進ノ請願外二件 (特別報告第三九四號) 雄國沼築堤ニ關スル請願 (特別報告第三九五號) 大

蘆國有林野無償交付ニ關スル請願 (特別報告第三九六號) 高野原國有林ヲ馬產用限定地ニ編入ノ請願 (特別報告第三九七號) 特殊會社設立ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第三九八號) 產業綜合ニ關スル法律制定ノ請願 (特別報告第三九九號) 地方食品卸賣市場法制定ノ請願 (特別報告第四〇一號) 酒造税法改正ニ關スル請願外十一件 (特別報告第四〇二號) 國立民衆銀行法即時制定ニ關スル請願外三件 (特別報告第四〇五號) 戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外三百三十八件 (特別報告第四〇六號) 地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制定ニ關スル請願外四件 (特別報告第四〇七號) 國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外三件 (特別報告第四〇八號) 沿岸漁業振興ニ關スル請願 (特別報告第四一〇號) 帝國陸海軍ニ齒科軍醫設置ノ請願 (特別報告第四一一號) 兵役義務者及傷痍軍人待遇改善急施ニ關スル請願外三件 以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十九日議長ニ提出ス

(特別報告第四一四號) 皇室用御饌料田設置ニ關スル請願 (特別報告第四一五號) 贈位申請ニ關スル內規改正ノ請願 (特別報告第四一九號) 對露民間債權者求償權ニ關スル請願 (特別報告第四二二號) 國內外字出版物及輸出品標記ニ我カ國號ヲ正確ニ改定ノ請願 (特別報告第四二二號) 縣社武田神社昇格ニ關スル請願 (特別報告第四二三號) 利根川用排水事業廢止ノ請願 (特

別報告第四二四號) 三崎半島三机、鹽成間運河開鑿ノ請願 (特別報告第四二五號) 猿ヶ石川改修ノ請願 (特別報告第四二七號) 船川港修築工事擴張其ノ他ノ請願 (特別報告第四二八號) 人工甘味質取締規則一部改正ノ請願 (特別報告第四二九號) 脊椎骨調整醫師法規制定ノ請願 (特別報告第四三〇號) 常呂、武華兩川治水工事速成ノ請願 (特別報告第四三一號) 白老村ニ漁港築設ノ請願 (特別報告第四三三號) 群馬郡中部用水事業急施其ノ他ノ請願 (特別報告第四三四號) 花岡鑛山鑛毒除害設備實施並鑛煙毒賠償法制定ニ關スル請願 (特別報告第四三五號) 横瀨町大字坂本ニ三等郵便局設置ノ請願 (特別報告第四三六號) 上ノ加江町大字矢井賀ニ郵便取扱所設置ノ請願 (特別報告第四三七號) 住用村字東城ニ無集配郵便局設置ノ請願 (特別報告第四三八號) 諸鈍郵便取扱所昇格ノ請願 (特別報告第四三九號) 水元郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第四四〇號) 笠利郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第四四一號) 大路郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第四四二號) 姉體郵便局ニ集配事務並電話架設ノ請願 (特別報告第四四三號) 浦和市ヲ借地、借家法施行區域ニ編入ノ請願 (特別報告第四四四號) 水元村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四四五號) 飯野村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四四六號) 高原町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四四七號) 豊頃村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四四八號) 士幌村ニ區裁判所出張所設置ノ請願

願 (特別報告第四四九號) 東京市新市域ニ於ケル小學校二部教授撤廢ニ關スル請願 (特別報告第四五〇號) 神跡調査ニ關スル請願 (特別報告第四五一號) 民謠保護振興ニ關スル請願 (特別報告第四五二號) 召集軍人家族等鐵道乘車優遇ニ關スル請願 (特別報告第四五三號) 漬物類鐵道運賃輕減ニ關スル請願 (特別報告第四五四號) 永野田驛ニ驛員配置ノ請願 (特別報告第四五五號) 高森、柳井間及高森、渡里間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第四五六號) 野付牛町ヲ起點トスル阿寒國立公園地帶周遊省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第四五七號) 大曲、本莊間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第四五八號) 阿土海岸鐵道速成ノ請願 (特別報告第四六一號) 石卷、志津川間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四六五號) 佐呂間、津別間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四六六號) 宇野、金光間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四六七號) 本所區三ツ目通ニ省線電車停車場設置ノ請願外一件 (特別報告第四六八號) 六條村大字下六條ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第四六九號) 原谷村大字檜原ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第四七〇號) 大越、神俣兩驛間ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第四七一號) 飯塚市ニ稅務署設置ニ關スル請願 (特別報告第四七二號) 產業組合課稅ニ關スル請願 (特別報告第四七四號) 酒造稅法改正ニ關スル請願外九件 (特別報告第四七七號) 戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外九十三件 (特別報告第四七八號) 地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制

定ニ關スル請願外四件 (特別報告第四七九號) 國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外二件 (特別報告第四八〇號) 沿岸漁業振興ノ請願 (特別報告第四八二號) 戰公傷病死者遺族子孫ノ小中等學校ニ於ケル授業料免除ノ請願 (特別報告第四八三號) 東京驛東口本建築鐵道驛開設ニ關スル請願外十件 (特別報告第四八四號) 村社室古、阿古師兩神社昇格其ノ他ノ請願 (特別報告第四八五號) 愛山溪鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四八六號) 高田、遠野間省營「バス」運輸開始ノ請願以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十二日議長ニ提出ス

(特別報告第四八七號) 山瀬村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第四八八號) 佐世保市ヲ借地、借家法並借地借家調停法施行區域ニ編入ノ請願 (特別報告第四八九號) 不動産登記法中改正其ノ他ノ請願 (特別報告第四九〇號) 妻權擁護ニ關スル請願 (特別報告第四九一號) 刑法中一部改正ニ關スル請願 (特別報告第四九二號) 民法中一部改正ニ關スル請願 (特別報告第四九三號) 旭川市ニ官立高等工業學校建設ノ請願 (特別報告第四九四號) 津山市ニ蠶繭絲專門學校創設ノ請願 (特別報告第四九五號) 德島市ニ測候所設置ノ請願 (特別報告第四九六號) 古庄驛ニ客車乘入並遠距離貨物運賃割引ノ請願 (特別報告第四九七號) 東海道線列車運行一部改正ニ關スル請願 (特別報告第四九八號) 日和佐町ヲ起點トシ那賀郡西部及海部郡北部ニ至ル區

間ニ省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第四九九號) 城端、白鳥間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第五〇〇號) 上越西線鐵道敷設ノ請願 (特別報告第五〇三號) 上山、白石間鐵道速成ノ請願 (特別報告第五〇四號) 關ヶ原、木之本間鐵道速成ノ請願 (特別報告第五〇五號) 牟岐線阿波中島、羽ノ浦兩驛間ニ簡易停車場設置ノ請願 (特別報告第五〇六號) 奥名田村大字口坂本ニ停車場設置ノ請願 (特別報告第五〇七號) 新見驛構内伯備線昇降場ニ上家新設ノ請願 (特別報告第五〇八號) 千歲村字「ママチ」ニ陸軍飛行隊設置ノ請願 (特別報告第五〇九號) 鬼籠野郵便取扱所ヲ三等郵便局ニ改定ノ請願 (特別報告第五一〇號) 船岡郵便局ニ集配事務開始ノ請願 (特別報告第五一一號) 牟岐町出羽島ニ無線電信局設置ノ請願 (特別報告第五一二號) 宇和島市ニ廣島遞信局海事部出張所設置ノ請願 (特別報告第五一三號) 甲種防火地區内假設建築物除却期限延長其ノ他ノ請願 (特別報告第五一四號) 地方制度ニ於ケル選舉ニ等級選舉制採用ノ請願 (特別報告第五一五號) 婦人ニ參政權附與ノ請願 (特別報告第五一六號) 代書人規則改正ノ請願 (特別報告第五一七號) 御眞影冒瀆行爲取締ニ關スル請願 (特別報告第五一九號) 三鷹、下連雀間村道ヲ府縣道ニ編入ノ請願 (特別報告第五二〇號) 新治村大字猿ヶ京、三國村大字淺貝間國道改修促進ノ請願 (特別報告第五二二號) 太田川改修年度繰上ノ請願 (特別報告第五二二號) 天鹽河口修築ノ請願 (特別報告第五二三號) 膽振支廳管内民有未墾地年

賦拂込ニ關スル請願 (特別報告第五二四號) 印旛沼干拓ニ關スル請願 (特別報告第五二六號) 利根水源涵養禁伐保安林設定ノ請願 (特別報告第五二七號) 軍乘馬供給資源涵養ニ關スル請願 (特別報告第五二八號) 釧路市ニ石炭液化工場設置ノ請願 (特別報告第五二九號) 天祖奉齋ノ普及獎勵ニ關スル請願 (特別報告第五三〇號) 孝道振作ヲ目的トスル國祭日制定ノ請願 (特別報告第五三一號) 報國祈願大祭施行ノ請願 (特別報告第五三三號) 廣瀨村ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第五三五號) 那賀、海部、名東、名西、板野各郡ニ米葉煙草耕作許可ノ請願 (特別報告第五三六號) 中部千島開放ニ關スル請願 (特別報告第五三七號) 師範學校ニ宗教講座新設ノ請願 (特別報告第五三八號) 國會議事堂内ニ聖德太子尊像奉安ノ請願 (特別報告第五三九號) 小清水村ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第五四〇號) 名寄町ニ支廳並土木事務所設置ノ請願 (特別報告第五四二號) 留邊蘆町ニ區裁判所出張所設置ノ請願 (特別報告第五四四號) 酒造税法改正ニ關スル請願外四件 (特別報告第五四八號) 戶數割ノ廢止及地方財政調整交付金制度確立ニ關スル請願外五十二件 (特別報告第五四九號) 地方稅制改革及地方財政調整交付金制度制定ニ關スル請願外一件 (特別報告第五五〇號) 國民負擔ノ均衡ニ關スル請願外一件 (特別報告第五五二號) 根室、擇捉間命令航路開始ノ請願 (特別報告第五五三號) 成東、佐原間省營「バス」運輸開始ノ請願 (特別報告第五五四號) 東京驛東口本

建築鐵道驛開設ニ關スル請願外四十二件

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十四日議長ニ提出ス

昭和十二年三月二十九日議事日程ノ順序ヲ變更シテ右請願特別報告ヲ一括シテ會議ニ付シ委員長中亥歳男君ハ委員會ノ經過及結果ニ付左ノ報告ヲ爲ス

私ハ請願特別報告ニ關シマシテ、請願委員會ノ經過並ニ結果ノ御報告ヲ申上ゲタイト存ジマス、請願委員會ハ、委員會ヲ開催致シマスルコト十一回、分科會ヲ開催致シマスルコト四回デアリマシテ、最終ノ委員會ヲ終了致シマスルマデニ、受領致シマシタ請願ノ案件總數ハ二千三百三十二件ノ多數ニ達シタノデアリマス、其中ノ最重要ナル案件デアルト存ジマスルモノハ、地方稅制改革、地方財政調整交付金制度ノ確立、電力國營問題、國立民衆銀行法ノ即時設定、小作法ノ制定、地方選舉ニ等級選舉採用ノ件等デアリマシテ、就中此地方財政調整交付金制度ヲ確立セヨト云フ請願ハ、各地ニ互リマシテ相當多數ノ數ニ上ツテ居ルノデアリマス、之ニ依ツテ見マスルト、請願ノ多クハ何レモ國民生活ニ直接緊密ナル關係ヲ有ツ案件ガ多イノデアリマス、即チ如何ニ國民多數ノ要望ガ、直接帝國議會ニ反映致シテ居ルカト云フコトヲ窺ヒ知ルコトガ出來ルノデアリマス、委員會ハ是等ノ案件ニ付キマシテ、ソレレ、紹介議員ノ説明ヲ求め、又之ニ對スル政府ノ意見ヲ徵シマシテ、慎重ニ審議ヲ致シマシタ結果、採擇致スベキモノナリト云フ議決ヲ致シマシタ案件ハ二千二百十四件デアリマス、又政府ニ參考トシテ送付スベキモノナリト決定致シマシタモノガ百七件デアリマス、採擇スベカラズト決定致シマシタモノガ二件、尙ホ取下ゲヲ許可致シマシタモノ、審議未了ニ相成リマシタモノ、何レモ各、一件ヅ、デアリマス、是等ノ内容ノ詳細ニ付キマシテハ、時間ヲ省キマス意味ニ於キマシテ、請願委員會ノ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、此際一言申上ゲタイコトハ、御承知ノ

通り今期議會ハ、議會開會中ニ内閣ノ更迭ヲ見マシタ關係上、多クノ時日ヲ空費致シマシテ、審議日數ハ多ク縮メラレタノデアアルニモ拘リマセズ、斯様ニ多數ノ請願案件ヲ悉ク豫定通り議了致シマシタコトハ、全ク委員各位ノ御精勵ノ結果ニ外ナラヌノデアリマシテ、私ハ茲ニ委員各位ニ對シテ、深甚ナル謝意ヲ表スル者デアリマス、以上御報告申上ゲマス、何卒宜シク御審議ノ程ヲ御願スル次第デアリマス

院議異議ナク右各請願特別報告ハ孰レモ委員會報告ノ通採擇スルニ決シ即日夫々意見書ヲ附シ政府ニ送付セリ

二 金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願外百五十九件

(特別報告第一號)金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ關スル請願外四件 (特別報告第五號)砂糖消費稅改正率修正ニ關スル請願外一件 (特別報告第二〇號)幌泉漁港修築ノ請願 (特別報告第二一號)高島町ニ漁港築設ノ請願 (特別報告第二二號)苫前漁港修築ノ請願 (特別報告第五五號)安藝阿賀、志和口兩驛間鐵道敷設ノ請願外二件 (特別報告第五六號)上富良野驛、中茶屋間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第五七號)瀧川、濱益間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第五九號)松本、高山間鐵道速成ノ請願 (特別報告第六〇號)俱知安、南小樽間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第六一號)添牛内、古丹別間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第六二號)野澤、柳津間鐵道

敷設ノ請願 (特別報告第六三號) 春秋橫斷鐵道敷設ノ請願 (特別報告第六四號) 木曾福島、久々野間鐵道ヲ豫定線ニ編入ノ請願外六件 (特別報告第六五號) 徳佐、高森間鐵道ヲ豫定線ニ編入ノ請願 (特別報告第六六號) 大杉又ハ穴内ヨリ船戸ニ至ル鐵道ヲ豫定線ニ編入ノ請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年二月二十六日議長ニ提出ス

(特別報告第八一號) 北海道ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第八二號) 北海道農業金融政策ニ關スル請願 (特別報告第八七號) 官幣大社阿蘇神社造營ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月九日議長ニ提出ス

(特別報告第九六號) 室蘭港修築工事完成年度繰上促進ノ請願 (特別報告第九七號) 歌棄村ニ船入澗築設ノ請願 (特別報告第一〇五號) 漁村金融改善ニ關スル請願 (特別報告第一〇九號) 漁船保險制度創設ノ請願

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十日議長ニ提出ス

(特別報告第一四三號) 深川、下蘆別間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一四五號) 船引、浪江間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一四六號) 上川、上士幌間鐵道速成ノ請願 (特別報告第一四七號)

江差、瀬棚間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一五〇號) 小倉ヨリ伊田、大隈ヲ經テ鳥栖ニ至ル鐵道敷設ノ請願 (特別報告第一五二號) 金澤、樽見間鐵道速成ノ請願 (特別報告第一五四號) 白ノ浦港ニ石炭貯藏所設置ノ請願 (特別報告第一五八號) 津、大阪府守口間府縣道ヲ國道ニ編入ノ請願 (特別報告第一五九號) 荒川改修工事完成促進ノ請願 (特別報告第一六〇號) 久慈川改修促進ノ請願 (特別報告第一六三號) 社會事業團體ニ對シ助成金下附ノ請願 (特別報告第一六八號) 森林火災保險國營ニ關スル請願

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十二日議長ニ提出ス

(特別報告第一八〇號) 產業組合ニ對スル有價證券移轉稅賦課反對ノ請願外十三件 (特別報告第一九四號) 類似村大字鶴苦村船入澗急速築設ノ請願 (特別報告第一九七號) 伊豆沼國營干拓ニ關スル請願 (特別報告第一九九號) 東北地方ニ於ケル國有林野解放其ノ他ノ請願外一件 (特別報告第二〇九號) 岐阜地方裁判所並同區裁判所改築ノ請願 (特別報告第二一五號) 私立大學國庫補助法制定ノ請願 (特別報告第二一六號) 私立大學教職員優遇ニ關スル請願 (特別報告第二一八號) 盲及聾啞學齡兒童就學義務制度確立ニ關スル請願外二件 (特別報告第二二三號) 阿波池田、川之江間鐵道速成ノ請願 (特別報告第二三四號) 大樹、浦河間鐵道敷設ノ請願 (特

別報告第二二七號)白ノ浦港貯炭場設置並松浦線ノ石炭輸送能力増進ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十五日議長ニ提出ス

(特別報告第二四四號)鹽ノ賠償價格改訂ニ關スル請願外一件 (特別報告第二五一號)庄川改修
促進ニ關スル請願 (特別報告第二五五號)泊村字澁井ニ船入澗築設ノ請願 (特別報告第二六
〇號)燒津漁港修築ノ請願 (特別報告第二八六號)私立大學國庫補助金下附ニ關スル請願 (特
別報告第二九一號)書道振興獎勵ニ關スル請願 (特別報告第三〇二號)湖南鐵道敷設ノ請願外
五件 (特別報告第三〇四號)山川、枕崎間鐵道速成ノ請願 (特別報告第三〇六號)瀬棚、岩内間
鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三〇八號)三戸、毛馬内間鐵道速成ノ請願 (特別報告第三一〇
號)盛、釜石間鐵道速成ノ請願 (特別報告第三一八號)常磐線平驛ニ北側乗降口新設ノ請願
(特別報告第三二二號)產業組合ニ對スル有價證券移轉稅賦課反對ノ請願外三件 (特別報告第
三二九號)東北地方ニ於ケル國有林野解放其ノ他ノ請願外五件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十七日議長ニ提出ス

(特別報告第三五五號)新居濱、伊野間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第三五六號)新宮、若櫻間鐵

道敷設ノ請願外一件 (特別報告第三五七號)敦賀、武生間海岸線鐵道建設ノ請願 (特別報告
第三六一號)櫻松線速成ノ請願 (特別報告第三六二號)吹田、龜岡間鐵道敷設ノ請願 (特別報
告第三六五號)標茶、厚岸間鐵道速成ノ請願 (特別報告第三八三號)東京、那須間國道改良工
事急施其ノ他ノ請願外一件 (特別報告第三八八號)牛淵川上流改修ノ請願 (特別報告第三九
一號)厚岸町大字床潭村ニ船入澗築設ノ請願 (特別報告第三九二號)久遠漁港第二期修築工事
施行ノ請願 (特別報告第四〇〇號)產業組合ニ對スル有價證券移轉稅賦課反對ノ請願外四件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十九日議長ニ提出ス

(特別報告第四一三號)屯田兵ノ恩給ニ關スル請願 (特別報告第四一六號)樟腦樹植林並製腦事業
保護ニ關スル請願 (特別報告第四一八號)鹽賠償金引上ニ關スル請願 (特別報告第四二〇號)
我カ國名呼稱統一ノ請願 (特別報告第四二六號)淀川低水工事繼續施行ノ請願外一件 (特別
報告第四三二號)木古内村ニ漁港築設ノ請願 (特別報告第四五九號)豊浦、定山溪間鐵道敷設ノ
請願 (特別報告第四六〇號)福渡、落合間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四六二號)久留米ヨリ
福島、山鹿、植木ヲ經テ熊本ニ至ル鐵道敷設ノ請願 (特別報告第四六三號)鉧路、北見相生間
鐵道速成ノ請願 (特別報告第四六四號)留邊桑、伊頓武華間鐵道速成並延長ノ請願 (特別報

第二章 議事

第三節 議案

第二款 議案ノ討議及表決

第九項 請願

告第四七三號)産業組合ニ對スル有價證券移轉稅賦課反對ノ請願外五件 (特別報告第四八
號)東北地方ニ於ケル國有林野解放其ノ他ノ請願外九件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十二日議長ニ提出ス

(特別報告第五〇二號)弘前、田代間鐵道速成ノ請願 (特別報告第五〇二號)弘前、田代間鐵道
豫定線延長ノ請願 (特別報告第五二五號)國有林所在町村交代金制度改正ニ關スル請願 (特
別報告第五三二號)檀原神宮神域ヲ中心ニ神都特別聖地計畫實施ノ請願 (特別報告第五四一
號)廣尾、様似間鐵道敷設ノ請願 (特別報告第五四三號)金鷄勳章年金令改正並殊勳者優遇ニ
關スル請願 (特別報告第五四五號)産業組合ニ對スル有價證券移轉稅賦課反對ノ請願外三件

(特別報告第五五一號)伊豆沼國營干拓ニ關スル請願外一件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十四日議長ニ提出ス

右各請願特別報告ハ目的同一ノ議案議決ノ結果先例ニ依リ採擇ト看做シ三月二十九日夫々意見書
ヲ附シ政府ニ送付セリ

三 俱知安町ニ酒精製造工場設置ニ關スル請願外八十七件

(特別報告第九號)俱知安町ニ酒精製造工場設置ニ關スル請願 (特別報告第一七號)助産師法制
定ノ請願 (特別報告第一八號)產婆法制定ノ請願外一件

以上ノ報告書ハ昭和十二年二月二十六日議長ニ提出ス

(特別報告第八八號)二十五歲未滿飲酒禁止法制定反對ノ請願 (特別報告九五號)產婆法制定
ノ請願外二十二件

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月九日議長ニ提出ス

(特別報告第一二三號)戰役並事變從軍軍人優遇ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十日議長ニ提出ス

(特別報告第一七五號)產婆法制定ノ請願外九件 (特別報告第一七六號)二十五歲未滿飲酒禁止
法制定反對ノ請願外一件

以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十二日議長ニ提出ス

(特別報告第一八八號)小作法即時制定ニ關スル請願
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十五日議長ニ提出ス

(特別報告第二四一號)自轉車同部分品及附屬品輸出統制稅ニ關スル請願 (特別報告第二四九號)二十五歳未満者及學生生徒飲酒禁止法制定反對ノ請願外二件 (特別報告第二五七號)勞働組合法及小作法即時制定ニ關スル請願中小作法即時制定ニ關スル件(政參第六號參看) (特別報告第三二二號)二十五歳未満飲酒禁止法制定反對ノ請願 (特別報告第三二三號)產婆法制定ノ請願 (特別報告第三二七號)小作法即時制定ニ關スル請願外十六件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十七日議長ニ提出ス

(特別報告第四〇三號)二十五歳未満者及學生生徒飲酒禁止法制定反對ノ請願外一件 (特別報告第四〇四號)二十五歳未満飲酒禁止法制定反對ノ請願外二件 (特別報告第四〇九號)小作法即時制定ニ關スル請願 (特別報告第四一二號)勞働組合法及小作法即時制定ニ關スル請願中小作法即時制定ニ關スル件(政參第七號參看)
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月十九日議長ニ提出ス

(特別報告第四一七號)野付牛町ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第四七五號)二十五歳未満者及學生生徒飲酒禁止法制定反對ノ請願外四件 (特別報告第四七六號)二十五歳未満飲酒禁止法制定反對ノ請願外一件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十二日議長ニ提出ス

(特別報告第五一八號)建築業者取締法制定ニ關スル請願 (特別報告第五三四號)釧路市ニ無水酒精製造工場設置ノ請願 (特別報告第五四六號)二十五歳未満飲酒禁止法制定反對ノ請願外二件 (特別報告第五四七號)二十五歳未満者及學生生徒飲酒禁止法制定反對ノ請願外一件
以上ノ報告書ハ昭和十二年三月二十四日議長ニ提出ス
右各請願特別報告ハ其ノ趣旨同一又ハ相反スル議案未決ノ結果採擇スルヤ否ヲ決スルニ至ラス

第三章 質問及答辯

本期議會ニ提出セラレタル質問主意書ハ四十八件ニシテ内一件ハ撤回セラレ四十七件ハ執レモ口

頭質問ヲ爲スニ至ラス而シテ書面答辯アリタルモノ三十二件、答辯ナキモノ十五件トス緊急質問ハ一件ニシテ口頭答辯アリタリ

一 河川ノ水利開發統制及淀川ノ水利開發ニ關スル質問

一 河川ノ水利ヲ開發シ其ノ利用ヲ統制増進スルニハ方今ノ我カ國情ニ鑑ミ幾多重要問題ヲ解決スヘキ基本的國策ニシテ政府ハ速ニ之カ計畫ニ著手シ其ノ實現ヲ期スルノ要アリ政府ノ之ニ關スル所見如何

二 淀川水系ノ利用開發ノ爲政府ニ於テ琵琶湖ニ相當ノ施設ヲ爲スハ近畿地方ニ對シ將來發展ノ原動力ヲ與フル所以ニシテ眞ニ國家的重大問題ナリト認ム政府ハ現ニ如何ナル施設ヲ爲スノ覺悟ヲ有スルヤ
右及質問候也

右ノ質問主意書ハ昭和十一年十二月二十六日中山福藏君提出ス翌十二年二月二十三日河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

一 河川ノ水利開發統制ニ關スル件

輓近人口ノ増加、産業ノ發達ニ伴ヒ水ノ利用年次増加シ大都市及工業地域ニ於テハ飲料水、工業用水、防火用水、都市河川溝渠ノ淨化用水等ノ窮乏ヲ訴ヘ又地方農村ニ在リテハ灌漑用水ノ不足ヲ訴フルノ實情ニアリ從テ河水ノ利用ヲ開發シ又ハ其ノ利用ヲ統制シ以テ之等諸問題ノ解決ヲ圖ルハ喫緊ノ要務ト認メ政府ハ昭和十二年度ヨリ右調査費ヲ豫算ニ計上シ置キタル次第ナルヲ以テ豫算成立ノ上ハ銳意基本的調査ヲ施行スル見込ナリ

二 淀川ノ水利開發ニ關スル件

京阪神地方ニ於ケル水道用水、工業用水等ノ不足ヲ補フニ止マラス更ニ利用水量ヲ豊富ナラシムルコトハ之亦緊要ノコトナルモ之ニ對シ琵琶湖ノ利用ヲ如何ニスルヤノ問題ニ付テハ其ノ利害關係重大ナルヲ以テ慎重ニ考究スヘキモノト認ム
仍テ政府ハ前ニ述ヘタル豫算成立ノ上ハ何等カ適當ノ具體案ヲ樹立スルノ目途ヲ以テ之カ調査ヲ行ハントス
右及答辯候也

二 尾去澤鑛山中ノ澤鑛洋沈澱池ダム決潰ニ關スル質問

我が國工場、鑛山ニ於ケル災害ニ因ル勞働者ノ死傷數ハ近年頓ニ増加シテキル而シテ其ノ代表的災害トシテ尾去澤鑛山中ノ澤「ダム」決潰ノ慘事ヲ持ツニ至ツタコトハ最モ遺憾トスル所デア

ル
内務省工場監督年報ハ昭和九年度ニ於ケル工場勞働者災害死傷數ノ急増ヲ同年秋ノ關西風水

害ノ如キ自然的原因ニ歸シテ説明シテキルガ今回ノ尾去澤鑛山ノ災害ハ斯ノ如キ天災ノ結果發生シタモノニ非ザル點ニ注目スベキモノヲ持ツテキル其レ故左記諸項ニ付テ政府ノ明確且具體的ナル答辯ヲ要求スルモノデアアル

一 中ノ澤沈澱池決潰ノ原因ニ關スル件

商工省ノ昭和六年度「本邦鑛業ノ趨勢」ヲ繙クニ其ノ一五一頁ニ尾去澤鑛山ニ關シ「前年來繼續中ノ探鑛ハ本年度ニ於テモ數條ノ鑛脈ニ出會セリ、探鑛能率増進ノ爲鑿岩機十二臺、ガソリン機關車二臺、唧筒一臺ヲ増設シ又選鑛及製鍊ニアリテハ設備ノ改廢ヲ行ヒ尙沈澱池ノ増設ヲナセリ」ト記述シ此ノ探鑛能率増進ノ爲同鑛山ノ鑛產額ハ左表ノ如ク増進シタ

年	金		銅	
	瓦	瓦	瓦	瓦
昭和五年	四〇、一六二	二、七三二	四、九八三	八五七
六年	九五、一六九	三、三一五	五、七一五	五七三
七年	二一六、五七六	三、六七九	四、二二四	五、八九〇
八年	一九三、五三八	四、一六六	四、六六二	五、四五一
九年	二〇〇、七〇一	五、一九八	二、九九	五、三五四

(「本邦鑛業ノ趨勢」ニ據ル)

斯ル鑛產額ノ増加ハ當然鑛滓ノ増加ヲ結果スルノデアアルガ此ノ鑛滓ヲ貯有スベキ沈澱池ノ増設ハ後記スルガ如ク急造ニ次グ急造、科學的計畫ノ下ニ爲サレタモノト思量シ難ク愈々急造ニ堆積シテ行ク鑛滓ノ壓力ニ堪ヘ得ザル羸弱サヲ持ツニ至ツタ又金銀銅價ノ急激ナル騰貴ニ眩惑シタ鑛山經營者ハ更ニ沈澱池中ノ鑛滓カラ月々數千噸ノ硫化鑛ヲ採ラントスル計畫ヲ樹テ危險防止ノ念ヲ忘却シ公益治安ヲ顧ル暇ナク獨善的經營ニ没頭スルニ至ツタノデアアル見地ニ立ツテ先ヅ第一ノ質問ヲ爲スモノデアアル即チ

(1) 以上ノ見解ト相違スル資料アリトセバ之ヲ明示サレタク尙政府ノ所見ヲ明ニサレタシ鑛山ニ於ケル「ダム」決潰ノ事例ハ最近秋田縣下ニ於ケルダケデモ

昭和八年 吉野鑛山

昭和十一年八月 尾去澤鑛山ノ「ダム」破損

ト鑛山ノ「ダム」ハ非常時ガ叫バレタ茲數年間ニ相當ノ決潰事例ヲ起シテキルソシテ非常時軍需景氣ト「ダム」決潰トノ間ニ因果關係アルヤヲ思ハシメルモノガアル

近代軍需ハ鑛業ニ俟ツモノ甚大デ鑛業ノ擴張ナクシテハ近代軍備ヲ完ウシ得ナイノデアアルソシテ軍事費—陸海軍省費ハ最近急激ニ膨脹シ昭和六年(決算)ノ四億五千四百萬圓ハ同十一年ニハ十億六千一百萬圓(實行豫算)ニ増加シテキル然ルニ鑛業生産量指數ハ商工省ノ統計ニ

據レバ

	昭和六年	昭和十一年八月
銑	八三・三	一七〇・一
鐵	一〇四・七	一〇七・三
銅	九六・八	一二七・六
鑛業平均		

デ軍事費ノ膨脹力ニ及バナインデア膨脹スル軍事需要ニ應セントスル鑛業ハ是ニ勢ヒ生産力ヲ晝夜兼行デ動員シナケレバナラズ其レハ當然鑛産ニ懸命セシメツイ鑛産ニ伴ツテ生ズル排泄物處理ニ萬全ノ注意ト警戒トヲ向ケ得ザルニ至ラシメル之ハ利潤獲得ヲ至上命令トスル資本主義經營ノ當然ノ歸結デ三菱鑛業株式會社ガ最近ノ軍需景氣ヲ利シテ其ノ資本家的經營ノ本能ヲ發揮セル例ハ左記右會社考課狀ガ示唆シテキル

各期利益金	年配當率	役員賞與
第二八期(自昭和六年十月至同七年三月)	一、六八七 <small>千圓</small>	四 <small>%</small>
第三七期(自昭和十一年四月至同九年九月)	八、八六六	一二 <small>%</small>

即チ年配當率ハ三倍シ役員賞與ハ四倍シタルモ災害防止研究費ノ如キハ今回ノ尾去澤鑛山慘事後始メテ考課狀ニ現レタ始末デア

斯ノ如ク軍需景氣ノ伸暢ト一聯ノ「ダム」決潰事實トヲ照合スルト此ニ質問ノ第二點ガ生レル即チ

(2) 鑛山災害ハ軍需景氣時代ニ於ケル鑛山ノ資本家的經營ニ遠因ヲ持ツト思惟スルガ政府ノ所見如何

二 政府ノ監督ニ關スル件

鑛業法第七十一條並第七十二條ニ依リ廣汎ナル警察事務ハ商工大臣、鑛山監督局長ニ委ネラレテキル而シテ尾去澤中ノ澤「ダム」ノ危険ハ夙ニ豫見サレタ所デアル本員ノ如キハ昭和九年春以來度々尾去澤鑛山従業員ヨリ危険豫感ノ報告ヲ受ケ又ハ投書等ニ依リ之ヲ知り自ラ同鑛山ニ赴キ鑛山當局ニ對シ決潰防止ノ注意ヲ喚起セントシタルモ見張所ニ於テ入山ヲ拒絶サレタノデアアル又本年八月決潰ノ豫兆現レタ際仙臺鑛山監督局ハ二名ノ技手ヲ現地ニ派遣シタ由デアアルガ遂ニ決潰ヲ防ギ得ズ更ニ又十一月二十日第一大決潰後十二月二十二日第二大決潰デ應急工事ノ二箇ノ「ダム」モ突流サレルニ至ツタ鑛業法ニ鑛山ノ警察事務ガ商工大臣、鑛山監督局長ニ命ゼラレナガラ斯ル慘事ヲ惹起シタノハ政府ノ監督不行届ニ原因スルモノト斷定セザルヲ得ナイ此ノ點政府ノ所見果シテ如何

更ニ第一大決潰ニ次グ第二大決潰マデ約一箇月間政府ハ鑛業法第七十二條ニ基ク如何ナル處

置ヲ講ジタルヤ其ノ具體的處置ヲ明示サレタシ

三 責任者處分ニ關スル件

(1) 會社側ニ付テ

中ノ澤「ダム」ノ築造ハ土木工學ノ「イロハ」ヲサヘ無視シタ工事デ其レハ決潰ニ依テ天下周知ノコトトナツタ即チ

(イ) 其ノ土堰堤ノ傾斜度ガ全然沈澱池内容物ノ壓力ニ堪ヘザルモノナルコト

(ロ) 土堰堤ノ盛土ニ正規ノ羽金ヲ使用セザリシコト

(ハ) 土堰堤ノ増築ハ前二項ノ土木工學無視ヲ擴大シタル工事ナルコト

ハ特筆大書サルベキ點デアル

斯ル工事ヲ平氣デ爲シタ三菱鑛業株式會社ニ對シ、別ケテ其ノ責任者ニ對シ

第一點 責任者ハ當然鑛業權者タル三菱鑛業株式會社代表社員タルベシト思料スルガ如何

第二點 責任者ハ刑事上ノ責任ヲモ負フベキモノト思料スルガ如何尙「ダム」決潰ノ刑事上ノ責任ハ如何ナル範圍ニ及ブベキモノナルヤ

第三點 三菱鑛業株式會社代表社員ニ對シ今日マデ行政上及司法上ノ活動ヲ爲シヲラザル理由如何又爲シヲルトセバ其ノ經過如何

(2) 政府側ニ付テ

鑛業法上ニ監督權ヲ規定サレテキル商工大臣、鑛山監督局長ニ付テ見ルニ

第一點 土木力學ヲ無視シタ工事ヲ認可シタ過去並現在ノ當局ニ對シ行政上如何ナル程度ノ處分ヲ爲スヤ

第二點 唯單ニ行政上ノ處分ノミニ止マラズ刑事上ノ訴追ヲ爲ス意思アリヤ

四 民事上ノ損害補償對策ニ關スル件

尾去澤鑛山中ノ澤「ダム」決潰ト其ノ鑛滓流失トハ關係地區住民ニ多大ノ損害ヲ與ヘツアル(1) 鑛山從業労働者ニ對シ

尾去澤鑛山從業労働者數ハ前記「本邦鑛業ノ趨勢」ニ毎年報告サレテキルモノノ外恰モ工場ニ於ケル臨時工ノ如キ假使役ヲ相當ニ備役シテキル斯ル就勞者ハ「ダム」決潰ニ因リ鑛山ガ休業状態ノ爲所得ニ激減ヲ來シ又家事ノ都合ニ由リ轉業セントシテモ資金ナク生活ノ不安ハ漸ク加重シツツアル目下ハ僅ニ救恤金品ニ生命ヲ保ツテキル状態デアアルガ之トテ限度ガアル斯ル状態ニ對シ政府ハ

第一點 労働者ノ所得減少ニ對シ如何ナル具體的對策ヲ樹テツツアルヤ

第二點 労働者ノ歸郷乃至轉業ノ爲如何ナル具體的方策ヲ講ゼントスルヤ

第三點 斯ル對策、方策ハ會社側ニ一任シ政府ハ放任スル意思ナリヤ否ヤ
(2) 農漁民ニ對シ

有毒鑛滓ノ流失ハ附近農村ノ農耕ヲ今後數十年ニ互ツテ所謂「骨折リ損ノ草臥レ儲ケ」タラシメツツアル又河川沿岸ノ漁獲ニ絶滅的影響ヲ與ヘツツアル斯ル状態ニ對シ先ヅ政府調査ノ損害程度即チ關係農漁民數、耕地面積、農耕漁撈復舊ニ要スル年限ノ以上各項別ニ見タル損害金額概數ヲ公表サレタク更ニ次ノ點ニ付政府ノ所見ヲ問フ

第一點 損害賠償對策樹立ノ爲何等カノ公共的調査機關ヲ設置セントスル意思アリヤ否ヤ
第二點 損害賠償ハ會社側ノ處置ニノミ任セ只之ヲ監督スルダケデ積極的ニ例ヘバ有ラユル團體ノ代表者ヲ加ヘタ委員會ヲ設ケテ賠償ノ公平ヲ期セントスルガ如キ意思アリヤ否ヤ

五 河川浚渫改修ニ關スル件

鑛滓流入停堆ノ爲米代川ノ河床ハ隆起シ十一月二十日ノ大決潰ノ直後ノ如キ河流ハ逆流ヲ見タ程デアアル此ノ河床隆起ヲ忽セニスレバ明春ノ解雪期ノ大洪水ヲサヘ豫想サセルノデアアル然レバ米代川ノ浚渫ハ一日ヲ忽セニスルヲ得ザルト同時ニ數萬立方坪ノ鑛毒泥ノ浚渫ハ決シテ容易ナル業デハナイ政府ハ之ニ關スル次ノ諸點ニ對シ如何ナル所見ヲ持ツヤ

(1) 米代川へ流入堆積シタ鑛毒泥ヲ最短期間ニ處置スル爲如何ナル處置ヲ具體的ニ講ジツツアリヤ

(2) 右浚渫作業ニ要スル經費ノ負擔ハ如何ニシツツアリヤ凡テヲ三菱鑛業株式會社ニ負擔セシメツツアリヤ

(3) 大正五年四月十四日内務省訓令第四號ニ依リ「洪水氾濫ノ虞アル地方ニ於ケル水防施設方」ヲ通牒シテキルガ今回ノ鑛滓流失ニ因ル「洪水氾濫ノ虞」ニ對シテハ如何ナル對策ヲ採ラントスルヤ

(4) 明春解雪期米代川ノ洪水ガ河床變化ノ爲發生シタ場合其ノ民事上、刑事上ノ責任ハ誰ガ負フベキモノト思惟スルヤ

六 將來ノ災害防止ニ關スル件

既述ノ内務省、商工省ノ報告書ハ工場、鑛山ニ於ケル災害犠牲者ノ増加ヲ毎年警告シツツアル而シテ其ノ由ツテ來ル所マタ決シテ偶然ト斷ジ得ザルモノガアル其レ故尾去澤鑛山「ダム」決潰ハ其ノ胎生の萌芽ヲ全國ノ工場、鑛山ガ有シテキルト見ナケレバナラナイ之ガ拔本塞源的對策ヲ講ズルハ喫緊事デアアル政府ハ此ノ點ニ付テ次ノ對策ヲ採ル意思アリヤ即チ
勞働者ハ自己ノ職場ノ災害ニ對スル豫感ヲ最モ強ク感ズルモノデアアル其ノコトハ既ニ本員

ニ對スル尾去澤鑛山從業勞働者ノ「ダム」決潰ノ豫感注進ニ現レテキル斯ル勞働者ノ災害豫感ヲ組織的ニ生カス爲全國ノ工場、鑛山ニ即時勞働者、資本家兩者ノ代表ヲ以テ組織スル災害防止勞資共同委員會ヲ組織スル意思アリヤ
右及質問候也

本質問事項ハ目下社會ノ耳目ヲ聳動シツツアル問題デアルコト故政府ハ即時懇切丁寧ニ各項目別ニ答辯サレシコトヲ望ム

右質問主意書ハ昭和十一年十二月二十七日川俣清音君外一名提出ス翌十二年二月二十三日伍堂商工大臣、河原田内務大臣及鹽野司法大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、中ノ澤沈澱池決潰ノ原因ニ關スル件

近時鑛業ノ發達ニ伴ヒ鑛滓堆積場ノ設置セララルモノ漸増シ之ガ監督ニ關シテハ政府ニ於テモ萬全ヲ期シツツアル處ナリ然ルニ過般尾去澤鑛山中澤堆積場并止堤防決潰シ多數ノ死傷者ヲ出シ其ノ他多大ノ被害ヲ及ボシタルハ寔ニ遺憾トスル處ナリ而シテ本件災害ノ原因ハ中澤堆積場并止堤防が夜間ニ決潰シ大部分ヲ失ヒタル爲之ヲ明確ニスルコトハ困難ナルモ各般ノ事情ヨリ判斷スルニ決潰前數回ノ漏水アリタルニ不拘鑛山側ニ於テハ之ヲ重大視セズ其ノ原因ノ究明不充充分ニシテ漏洩的ナル應急處置ヲ講ジタルニ止リ而モ本鑛泥堆積方法ノ本旨ニ悖リ送泥シタルコト等ヲ大體ニ於テ主要ナル原因ト認ムベク而シテ前記ノ漏水ヲ生ジタルハ堤防ノ百尺地竝ノ部分ニ於テ弱點ヲ生ジ易キ工事ヲ爲シタリト思ハルルコト築堤材料ニ不均一ナル點アリタルコト及排水管ニ故障ヲ生ジ堤防内ニ軟泥部分ヲ生ジタリト思料セララルコト

二、政府ノ監督ニ關スル件

中澤堆積場并止堤防ニ付テハ其ノ設計支障ナキモノトシテ仙臺鑛山監督局ニ於テ認可シ爾後監督シ來リタルモノナリ而シテ第一回決潰後仙臺鑛山監督局長ハ鑛業法第七十二條第二項ノ規定ニ基キ鑛業權者ニ對シ一屍體搜索作業ニ關スル以外鑛滓ヲ下流ニ流下セシメザル様對策ヲ講ズルコト二堆積場内ノ殘留鑛滓ノ流下ヲ防止スル爲假并止堤防ノ築造ヲ爲スコト三警報機關ヲ完備スルコト四赤澤及青木澤堆積場并止堤防工事ヲ當分中止スルコト五鑛業ノ操業開始ノ際ハ鑛山監督局ニ豫メ申出ヅルコト等ノ事項ヲ命ジ置キタリ因ニ商工省ニ於テハ各鑛山監督局ニ對シ今回ノ災害ニ鑑ミテ現在ノ鑛滓堆積場其ノ他ノ工作物ニ付再檢討ヲ爲サシメ且鑛山監督局鑛業課長會議ヲ開催シ災害發生防止對策ニ付審議ヲ盡シタルガ尙重ネテ關係方面ノ技術者ノ參集ヲ求メ并止堤防ノ築造方法其ノ他ニ關シ協議シタリ

三、責任者處分ニ關スル件

(1) 本件ニ對スル司法處分ニ關シテハ目下所轄檢事局ニ於テ鋭意捜査中ナルトコロ専門家ノ鑑定ヲ必要トスル事項アリ未ダ捜査完了スルニ至ラズ從テ刑事責任ノ有無、範圍等ハ未ダ決定シ難シ
尙仙臺鑛山監督局ニ於テハ鑛業權者及技術管理者ニ鑛業法規違反ノ虞有之モノト認メ所轄檢事局ニ對シ告發ヲ爲シタリ
(2) 該鑛山ノ監督責任者タル仙臺鑛山監督局長ニ對シテハ戒飭ヲ爲シ且將來斯ノ種災害ノ發生セザル様嚴ニ注意シ置キタリ
四、民事上ノ損害、補償對策ニ關スル件
(1) 災害後鑛山ニ於ケル作業ハ一時中止ト爲リタルモ大部分ノ勞働者ハ災害後ノ應急措置ノ

作業ニ使用シ之ニ對スル賃金ハ標準報酬日額ニ依リ支給シ特ニ屍體搜索、復舊工事、夜間警備ニ従事スル者ニハ之ニ二割ヲ増額支給シ能フル限リ賃金ノ減收ヲ來サザル様注意シ居リシガ既ニ今日ニ於テハ浮游選礦以外ノ鑛業ノ再開ヲ許可シタルヲ以テ勞働者ノ賃金モ漸次舊ニ復スル見込ナリ又勞働者ノ歸郷又ハ轉業ヲ希望スルハ殆ド無之モ希望者アリタル場合ニハ歸郷旅費ヲ支給スベク、轉業ニ付テハ鑛業權者、職業紹介所協力シテ之ガ斡旋ヲ爲ス見込ナリ而シテ此等勞働者保護ノ諸對策ニ付テハ政府ニ於テモ充分留意シテ其ノ監督ヲ行ハントス

(2) 今回ノ災害ニ因ル被害農家戸數ハ六十三戸、被害耕地面積ハ花輪町及尾去澤町ニ於テ田地約三十町七段歩、畑地約二段三畝、損害金額ハ被害耕地復舊費トシテ約三萬四千圓ニ上ル見込ニシテ之ガ復舊ハ昭和十二年六月迄ニ竣功セシメ得ベシ但シ米代川流入鑛滓ニ因ル灌溉時及氾濫時ニ於ケル被害、第二次決潰ニ因ル被害並ニ農作物被害ハ目下不明ナリ又漁業被害ニ付テハ目下調査中ナリ而シテ前記損害ニ對スル賠償ノ公正ヲ期スルハ極メテ肝要ナルヲ以テ充分注意シ遺憾ナキヲ期シ居レリ

五、河川浚渫改修ニ關スル件

米代川ニ流出シタ鑛滓ハ河床ヲ上昇セシメタル爲對岸タル花輪町ノ耕地ニ氾濫シタルヲ以テ米代川右岸寄河川敷内ニ捷水路ヲ掘鑿スル一方右岸ノ河岸線ニ土俵ヲ以テ假堤ヲ築キ河水氾濫ヲ防止シ鑛滓ノ浚渫ヲ爲シ其ノ泥土ヲ以テ假堤ノ裏ニ築堤シ殘土ハ流出ノ虞ナキ箇所ニ堆積スル方針ヲ以テ所要經費約二十萬圓ハ之ヲ三菱鑛業株式會社ニ負擔セシメ現ニ工事施行中ナルガ右工事ハ本年三月中ニハ竣功ノ見込ニシテ融雪期ノ出水ニ際シ氾濫ノ虞ナキヲ期セントス而シテ米代川ハ殆ド無堤ニシテ沿岸ニハ未ダ特別ナル水防組織ヲ有セズ鑛滓流出ニ因ル洪水被害ノ増大ヲ防止スル爲現ニ前記工事ヲ施行セルモノナルヲ以テ之以上水防ニ關シ特ニ對策ヲ講ズルコトナキモ出水ニ對シテハ地元ニ於テ充分ニ警戒ヲ爲サシムル方針ナリ尙今春融雪期ニ於ケル米代川ノ洪水ヲ豫想セル場合ノ民事上及刑事上ノ責任者ニ付テハ現在

六、將來ノ災害防止ニ關スル件

ニ於テ之ヲ決定スルコトハ困難ナリ
工鑛業ニ於ケル災害ノ發生ヲ防止スルコトハ産業ノ發達ヲ圖ル上ニ於テ極メテ肝要ナルヲ以テ政府ニ於テハ防止上有效ナル各般ノ施設ヲ實施シ監督上遺憾ナキヲ期シツツアリ而シテ災害發生防止ニ付テハ勞働者ノ協力ニ俟ツ所大ナルコトハ言ヲ要セザルモノナル處各工場鑛山ニ在リテハ安全委員會其ノ他ヲ組織シ勞資相協調シテ災害防止ニ努メ相當ノ成績ヲ擧ゲツツアリ政府ニ於テモ右ハ極メテ有效適切ナルモノトシテ極力獎勵シ居ル處ナルガ將來ニ於テモ一層獎勵ニ努ムルコトト致度
右及答辯候也

三 戰役殊勳者待遇ニ關スル質問

一 金鷄勳章ハ君國ノ爲身ヲ以テ戰場ニ臨ミタル軍人中武功拔群ノ者ニ賜與セラレ畏クモ忠勇ヲ獎勵セムトノ詔ニ基キ更ニ國家ハ是等殊勳者ニ對シ一定ノ年金ヲ給與シ國防精神ノ鼓舞作興ヲ期シタルモノナリ然ルニ該金鷄勳章年金ノ制度ハ明治二十七年創設セラレ當時同ク勅令ヲ以テ給與セラレタル恩給ハ其ノ後制定セラレタル一般恩給ト共ニ法律ニ依リ給與セラレ四十餘年ノ間ニ給與額ハ幾倍ニモ改正増加セラレタルニモ拘ラス金鷄勳章年金ノミ僅ニ昭和二一年一部ノ改正ヲ實施シタルニ過キス政府ハ金鷄勳章年金御創定ノ趣旨ニ副フモノト信スルヤ

- 二 多年戰役殊勳者ノ待遇改善ニ付テ衆議院ハ幾度カ之カ建議案ヲ可決シ亦請願ハ貴衆兩院ニ於テ採擇セラレタルニ拘ラス遂ニ實施ニ至ラスシテ今日ニ及ヘルハ甚タ遺憾トスル所ナリ政府ハ本件ニ關シ其ノ後如何ナル研究調査ヲ爲シタルヤ
- 三 大正元年十二月當時ト大正十二年十二月當時及昭和五年十二月當時ト昭和十一年十二月現在ノ恩給受給者人員及同金額總計額並同ク金鵄勳章年金ノ受給者人員及同年金總計額ノ増減如何
- 四 一定年限ノ功勞ニ對スル恩給ト一死奉公ニ因ル金鵄勳章年金ニ對シ均シク一定ノ年金額ヲ給與シツツ前者ハ貨幣價值ノ推移ニ從テ改正セラレ後者ハ放任シテ何等願ミサルカ如キハ政府ニ於テ如何ナル理由ニ基クヤ
- 五 國防ノ有形的設備ノ優劣ハ結局國家ノ經濟力ノ優劣ト關聯シ不幸ニシテ英米等ニ比シ遜色アル場合ト雖日本精神ノ發揚ニ依リ即チ精神的國防力ニ依テ安全ヲ期シ得ルモノト信スルカ政府ハ信賞必罰主義ニ則リ今日ノ場合殊勳者待遇改善即行ノ意思アリヤ如何
- 六 庶政ノ一新カ要望セラレ殊ニ恩給ニ對シテハ事實上ノ増額ニモ等シキ恩給金庫法モ近ク制定セラレムトスル今日本問題ノ如キハ之ヲ等閑ニ付スルヲ許サス英國ニ於テハ年金ハ下士卒ノミニ給與セラレ貧富ノ程度等ニ依リ百圓位ヨリ一千圓程度迄ノ年金ヲ支給シラル由ニ聞キ

及ヘルカ眞ニ精神的國防充實ノ趣旨ニ鑑ミ金鵄勳章年金ノ根本的改正、戰役殊勳者待遇改善ハ最緊要ノ事項ナリト思惟ス政府ノ所見如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年一月二十一日中村又一君提出ス同年二月二十三日林内閣總理大臣、杉山陸軍大臣及米内海軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、金鵄勳章年金ハ榮譽ノ表彰タル金鵄勳章ニ加賜セラルル恩賞ニシテ生活費給與ノ性質ヲ有スルモノニ非ズ、且ツ昭和二年ニ改正モアリタルコトナレバ目下現行規程改正ノ要ヲ認メズ
- 二、議會ニ於ケル建議案ニ對シテハ慎重研究シタル所此際殊勳者ノミヲ優遇スルコトハ他ニモ波及スル所大ナルベク妥當ナラズト思惟ス
- 三、恩給受領人員ハ大正元年十二月末ニ於テハ人員二十三萬九千八百八十四人、金額二千二十九萬三千二百七圓、同十二年十二月末ニ於テハ人員三十萬六千六百四十五人、金額一億百九十四萬四千六百九十三圓、昭和五年十二月末ニ於テハ人員三十五萬五千六百八十六人、金額一億三千四百七萬三千七百三十五圓、同十一年十二月末ニ於テハ人員三十九萬三千九百五十二人、金額一億五千七百七十八萬九千九百八十七圓ニシテ金鵄勳章年金受領人員ハ大正元年十二月末ニ於テ六萬六千六百三十九人、金額八百五十五萬七圓、同十二年十二月末ニ於テハ人員六萬八千八百八十七人、金額九百九十萬三千三百圓、昭和五年十二月末ニ於テハ人員六萬一千八百五十六人、金額千七百七萬三千七百圓、同十一年十二月末ニ於テハ人員六萬九百二十六人、金額千三百一十一萬二千三百五十圓ナリ
- 四、金鵄勳章年金ハ第一項ニ述ベタル如キ性質ヲ有スルモノニシテ貨幣價值ノ推移ニ從ヒテ直チニ改正セラレベキモノニアラズ

五、六、既ニ述ベタル所ニ依リ答辯ノ要ナシト思料ス
右及答辯候也

四 衆議院解散ニ關スル質問

(一) 新聞紙ノ報ズル所ニ據レバ、政府ハ直ニ衆議院ノ解散ヲ奏請スル覺悟ナリト云ヘリ。又内閣大臣中ニモ、其意向ヲ漏ス者アリト聞ク。

首相ハ、果シテ此ノ如キ意見ヲ有スル乎、又閣僚中ニ此ノ如キ言説ヲ爲ス者アルモ之ヲ制止セズシテ可ナリト信ズル乎。

衆議院議員ノ職責ハ、毫モ拘束セラルル所ナク、君國ノ爲ニ其評決權ヲ使用スルニ在リ。故ニ如何ナル場合ニ於テモ、解散ヲ豫告シ以テ其自由意思ヲ拘束セントスルガ如キハ、非立憲的言行タルヲ免レナイ。特ニ議員多數ノ意向モ、未ダ發表セラレザル今日ニ於テ、之ヲ豫告スルガ如キハ、苟モ常識アル者ノ爲スベキ所業デハナイ。

(二) 解散スレバ、總選舉後ノ議會ニ於テ、必ズ政府案ヲ通過シ得ベキ見込確立セザル場合ト雖モ、首相ハ尙ホ解散ヲ奏請シテ可ナリト考フル乎。

解散後ノ議會ニ於テ、政府案ヲ通過シ得ベキ見込ガ確立スレバ、解散ハ憲政ノ本旨ニ協合スル行爲ニシテ、解散ヲ奏請セザル事ガ、却ツテ非立憲的行爲トナル。故ニ輔弼ノ大臣タルモノハ、此鑑定ヲ下スニ方ツテハ、最モ慎重ニ考慮シナケレバナラヌ。若シ其判斷ヲ誤レバ、陛下ヲシテ解散大權ノ運用ヲ誤ラシメ奉リタル結果ヲ招來スル。改選セラレタ議會ガ、依然トシテ前議ヲ執持スレバ、只徒ラニ總選舉トイフ煩累ヲ國民ニ與ヘタダケデ、毫モ國務ノ進行ニ裨益スル所ガナイカラデアアル。

右ノ鑑定ヲ下スニ方ツテ、其材料トナルベキモノガ、二ツアル。一ハ、總選舉後既ニ年所ヲ經過シ、世態民情ガ大ニ變化シタ事實デアリ、他ノ一ハ、前ノ總選舉後ニ行ハレタ幾回カノ補闕選舉ニ際シ、多數ノ投票ガ、前ト反對ノ方向ニ移動シタ事實デアアル。此外ニモ、心眼ヲ開イテ、輿論ノ趨向ヲ觀破シ得タ時、又ハ閣僚ノ信望ヲ以テ一世ヲ風靡シ得ベシト確信スル時ハ、解散ヲ奏請シテモ宜シイガ、是レハ稀世ノ傑物ニシテ、始メテ能クスル所ノ事柄デアルカラ、普通ノ政治家ハ、前記ノ二件ヲ以テ、解散奏請ニ關スル鑑定材料ト爲スヲ可トス。

而シテ今日ハ總選舉後未ダ一年モ經過セザルノミナラズ、補闕選舉モ、マダ一回モナイカラ、政治的風潮ノ大ニ變化シタ徵候ハ、何所ヲ探シテモ、見ルコトハ出來ナイ。サレバ、強テ非立憲的行動ヲ執テ、解散ヲ奏請シテモ、只徒ラニ累ヲ 陛下ト人民ニ及ボスダケデ、政府案通過

ノ目的ヲ達スル能ハザルコトハ明白デアル。
 (三) 懲罰的解散ハ「萬機公論ニ決ス」ノ御趣意ニ背キ、憲政ノ根柢ヲ破壊スベキ非行ナルガ、首相ハ尙ホ之ヲ敢行セントスル乎。

憲政布カレテ、將ニ五十年ニ垂ントスルモ、尙モ封建思想ヲ洗除スル能ハザル我が官民中ニハ、議會ガ政府ニ反對スレバ、其結果ノ如何ヲ顧ミズ、懲罰的ニ之ヲ解散シテモ善イト考ヘル者モ少ナクナイヤウダガ、ソレハ非常ナ心得違ヒデアル。

正當ニ選舉サレタ議員ガ、正當ニ其職責ヲ行フニ方ツテ、之ヲ懲罰スルノハ、取りモ直サズ國民ヲ懲罰スル所以デアツテ、而モ純然タル憲法破壊ノ行爲デアル。

加之ナラズ之ガタメ君意民心ノ融和一致ヲ妨碍シ、君民ヲ阻隔シ、以テ累ヲ帝室ニ及ボスコト淺少デハナイ。

明治政府ノ藩閥全盛時代ニハ、何等ノ成算モ目的モナク、議會ノ解散ヲ奏請シ、總選舉ノ結果ヲモ待タズシテ、辭職シタ内閣モアルガ、昭和時代ノ内閣ハ、マサカニ此ノ如キ失態ニハ出デマイト信ズル。

(四) 何レノ點ヨリ觀察シテモ今日ハ解散ヲ奏請シ得ベキ理由モ事實モナイガ、若シ理不盡ニ解散ヲ奏請スレバ、豫算案モ増稅案モ、多分不成立トナルデアラウ。其結果、首相等ガ國家ノ

安危盛衰ニモ關スルガ如ク明言シタ所ノ重要國策ハ、總テ實行不可能ニナルガ、首相ハソウナツテモ、輔弼ノ職責ニ背カナイト信ズル乎。

議會解散ノ場合ニ於テ、憲法第八條ヤ第七十條ヲ適用スルノハ、元來無理ナ所行デアルガ、從來ノ惡慣例モアルカラ、之ヲ踏襲シテ、一時ヲ糊塗スル事ハ出來ヤウ。然シ五ヶ月以内ニ開カレベキ新議會ニ於テハ、政府反對ノ議員ガ、多分大多數ヲ占ムルデアラウ、政府ガ提出スル所ノ事後承諾案ハ、多分否決セラレルデアラウ、從ツテ無理ニ著手シタ緊急施設ハ悉ク中止セザルヲ得ナイカラ、内閣ハ總辭職スルヨリ外ハナカラウ、果シテ然ラバ、解散ハ僅カ四五ヶ月間内閣ノ壽命ヲ延長シタダケデ、君國ノタメニハ百害アツテ、一利モナイ事ニナル。

(五) 總選舉ニ於テ、多數ヲ制シ得ベキ見込ナクシテ、一度解散ヲ奏請スルスラ、非立憲的行爲デアアル。況ンヤ同一問題ニ就テ、再度ノ解散ヲ奏請スルニ於テヤ。然シ獨裁政治ノ實行手段トシテハ、ソレガ最好方便デアルヤウニモ見エルカラ、世間ニハ之ヲ主張スル者ガアルカモ知レナイ。首相ハ此場合ニ於テ、再解散ヲ奏請スルモ不可ナシト信ズル乎。

新議會ガ前議ヲ執ツテ論ハラナイ場合ニ於テハ、内閣ノ執ルベキ正道ハ、總辭職ニ在ルコトハ論ズルマデモナイガ、辭職スレバ國家ノ安危ニモ關スル國策ノ遂行ニ支障ヲ生ズルト云フ名義ノ下ニ、再ビ議會ノ解散ヲ奏請シ、再ビ緊急處分ヲ施セバ、更ニ四五ヶ月間、其所謂國策ナルモ

ノヲ繼續スルヲ得ベシ。現在ノ如キ軍事外交ヲ是認スル者ハ、止ムヲ得ザル事態トシテ、之ヲ是認スルカモ知レナイ。故ニ獨伊流ノ獨裁政治ヲ移入セント欲スル者ニ於テハ、カクスル事ガ、最モ巧妙ナ手段デアラウ。然シムツソリニナシノ伊國流、ヒットラーナシノ獨逸流ノ政治様式ハ、一旦成立シテモ、收拾ス可ラザルモノニナツテ忽チ潰崩スルニ相違ナイ。

加之ナラズ、此ヤリ方ハ、君民ノ間ニ、獨裁者ガ介立シ、上下ヲ阻隔スル事ニナルカラ、君意民心ノ一致ヲ以テ、主要條件トナス所ノ我が國柄ニ於テハ、上ハ皇室ノ尊榮ヲ維持シ、下ハ萬民ノ幸福ヲ保障スル所以ノ道デハナイ。

故ニ萬一内閣ガ、再度ノ解散ヲ奏請スル如キ事アツテモ、陛下ハ當然御裁可ヲ與ヘ給ハラナイダラウカト恐察シ奉ル。民主國ト云ハレル所ノ英國ニ於テスラ、内閣ガ多數ヲ制シ得ベキ見込ガナイ場合ニハ解散ノ奏請ヲ拒否スルノガ、國王當然ノ任務トナツテキル。(トッド著議會政治第二卷第四章參看)

獨伊兩國ハ、世界大戰後非常ノ窮地ニ陥ツタカラ、之ヲ救フタメ、ヒットラーヤムツソリニガ、出テ獨裁者トナルコトヲ得タノデアルガ、日本ハ大戰後未曾有ノ幸福ニ恵マレ、今尙ホ各方面ニ於テ飛躍的發展ヲ爲シツツアル。若シ外交宜シキヲ得テ、敵ヲ四方ニ作ルガ如キ過失サヘナケレバ、國運ハ隆々トシテ進展スベキ順境ニ在ル。故ニヒットラー、ムツソリニアリト雖

モ、我が國ニ於テハ、斷ジテ獨裁權ヲ獲得スルコトハ出來ナイ。況ンヤ其人ナクシテ、其事ヲ行ハントシテモ、到底成功シヤウ筈ガナイ。

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二日尾崎行雄君提出ス同年三月二日林内閣總理大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

質問ノ要旨ハ新内閣ガ議會ニ臨ミテ直ニ解散ヲ奏請スル意思アルヤ否ヤニ關スルモノト認メラルルモ今日ニ於テハ特ニ答辯ノ要ナキモノト思料ス
右及答辯候也

五 尾去澤鑛山中ノ澤鑛洋沈澱池ダム決潰ニ關スル第二質問

本員等ハ先ニ尾去澤鑛山中ノ澤鑛洋沈澱池ダム決潰ニ關スル質問主意書ヲ提出未ダ答辯ヲ得ザルモ二月十二日仙臺鑛山監督局及商工省當局ハ決潰原因ニ關シ公表スル所ガアツタ右發表ハ本員等ヲシテ更ニ疑問ヲ起サシムルモノアルニ付前同ノ質問ニ追加シテ下記各項ニ付テ政府ノ答辯ヲ求メルモノデア
一 漏水ニ關シテ

前記仙臺鑛山監督局發表ニ重要ナル原因ノ一ツトシテ漏水問題ヲ舉ゲ「數回ノ漏水アリタルニ拘ラズ鑛山側ニ於テハ之ヲ重大視セズ其ノ原因究明モ不十分ニシテ彌縫的ノ應急處置ヲ講ジタルニ止リ」ト稱シテキル而シテ「數回ノ漏水」ハ昭和十一年五月以降既ニ世評ニ上リヨリタル所ニシテ又決潰「ダム」ノ傍ニハ花輪警察署ノ駐在所サヘ所在シ其ノ危險ハ當然警察署ヲ通シ或ハ其ノ他ノ方法ニテ政府當局ニ報告セラレヨリタルモノト思料スルガ

イ 花輪警察署、秋田縣警察部ヲ通シ漏水ノ都度政府當局ハ其ノ報告ヲ受ケタルカ受ケタリトセバ其ノ報告書提出年月日ヲ明示サレタシ

ロ 鑛山ノ警察事務ハ商工省當局之ヲ行フ所ナルガ仙臺鑛山監督局ハ昨年夏水門破損等ノコトアツタ際技手二名ヲ派遣シ詳細ニ視察セシメ右復命書ハ提出サレヨリモノト思料スルガ鑛山監督局長ハ鑛業警察規則第七十六條ニ定メラレタル處置ヲ講ジタルヤ否ヤ

二 施業案ニ關シテ

仙臺鑛山監督局發表ニ舉ゲラレタ鑛泥堆積方法ノ背反及漏水原因ハ鑛業法施行細則第四十四條並様式第十九號ニ照合シテ鑛業法第四十四條施業案ニ關スルモノナリト思料ス

イ 右記各原因ガ施業案ニ關スルモノデアル以上此等ノ工事或ハ送泥方法並其ノ變更ニ付テ三菱鑛業株式會社ハ其ノ都度施業案ヲ提出スベキモノト思料スルガ其ノ事實如何

ロ 堰堤建設並増設ノ年月日ト之ガ工事監督ニ付當局ノ執リタル處置例ヘバ工事監督官ヲ派遣スルガ如キ等々ノ處置ヲ執リタルヤ否ヤ

ハ 鑛泥堆積方法ノ背反ノ如キ行爲ニ對シ政府當局ハ決潰前如何ナル監督ヲ爲シタルコトアリヤ若シ爲サザリシトセバ其ノ理由如何

ニ 政府ハ施業案ニ悖ル數箇ノ決潰原因ヲ舉示シ鑛業法第四十四條違反トシテ同法第九十七條ヲ適用シ責任者ニ對シ告發ノ處置ニ出デタルモ更ニ第四十條ノ規定ニ依リ三菱鑛業株式會社ニ對シ尾去澤鑛山ノ鑛業權取消ノ處置ニ出ヅルヲ適當ト思料スルガ政府ハ果シテ其ノ處置ニ出ヅルヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月十五日小俣清音君外一名提出ス同年三月二日伍堂商工大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一 漏水ニ關シテ

イ 中澤鑛滓堆積場并止堤防ニ於テ決潰前數回ニ互リ漏水アリタル事實ハ災害後ノ調査ニ依リ初メテ知り得タル所ナリ

ロ 昭和十一年九月排水管ニ故障アリタル事實ニ付テハ別ニ報告ヲ受ケタルコトナク從テ之ガ調査ノ爲仙臺鑛山監督局ヨリ局員ヲ出張セシメタルコトナシ同年十月局員ヲ出張セシメ

- 二 施業案ニ關シテ
 - イ 三菱鑛業株式會社ハ當初中澤鑛洋堆積場ニ關シ所定ノ施業案ヲ差出シタルモ之ガ變更ニ際シテハ其ノ手續ヲ爲サザリシモノナリ
 - ロ 中澤堆積場扞止堤防ノ築堤工事ハ昭和六年四月著手シ爾後數回增高シ同十一年九月之ヲ完成セリ
 - ハ 鑛業警察ノ目的ヲ以テ昭和七年、同八年及同十年本鑛山ニ出張ノ際堤防ニ付テモ實地調査ヲ爲シタリ
 - ニ 右實地調査ノ際ニハ施業案記載ノ通操業シ居リタルモノナリ
 - シ 政府ハ三菱鑛業株式會社ニ對シ鑛業法第四十條ノ規定ニ依ル鑛業權ノ取消ヲ爲ス意思ナシ

右及答辯候也

六 犯罪捜査ニ關スル質問

- 一 犯罪捜査ノ規準ニ付テハ刑事訴訟法ノ明記スル所ナルニ近時其ノ取扱著シク常軌ヲ逸シ人權蹂躪ノ非難各處ニ起レリ之カ公正釐革ヲ期スルハ光輝アル我カ司法權ノ爲焦眉ノ急務ナリト認ム政府ノ所見如何
- 二 特ニ選舉違反捜査ニ付テハ其ノ弊害極ニ達シ無辜ヲ罰スルノ餘儀ナキニ至ル獨立セル裁判

所カ時ニ或ハ捜査記録ヲ偏重シ公判第一主義ヲ喪フノ虞アリト認ム政府ノ所見如何

- 三 裁判所構成法ニ「檢事ハ其ノ上官ノ命令ニ從フ」トアリ果シテ其ノ精神ハ統一セラレラルヤ曩ニ神奈川地方裁判所檢事ハ人權蹂躪問題ノ爲引責辭職スルニ當リ思想犯ニ付テハ拷問ヲ爲スコトヲ許サルルニ選舉違反ニハ用フルコト能ハストセハ捜査方法一定セストノ意味ヲ新聞記者ニ語リタリト云フ果シテ然ラハ特種ノ犯罪容疑者ニハ拷問ヲ用ヒテ可ナリトノ命令ヲ與ヘタル上官アリヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月十八日青木雷三郎君提出ス同年三月二日鹽野司法大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 犯罪捜査ニ當リテ捜査官憲カ人權尊重ヲ旨トスヘキコトハ言ヲ俟タサル所ニシテ從來此ノ趣旨ヲ貫徹スヘク注意シ來レルモノナル處最近往々人權蹂躪ノ非難起リタルヲ以テ全國的ニ銳意調査シタル處司法警察官カ數ヶ所ニ於テ職權濫用ヲ爲シタルノ事實アリ其ノ他ノ個所ニ於テモ被疑者取調ノ方法穩當ヲ缺キタル事例アリタルヲ認メ洵ニ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ仍テ不取敢夫夫適當ナル處置ヲ執リタル次第ナルカ將來斯ル非難ノ絶無ヲ期スヘク十分ナル注意ヲ致シ度シ
- 二 裁判所ハ自由ナル心證ヲ以テ證據ノ取捨判斷ヲ爲シ以テ實體的眞實ニ合スル裁判ヲ爲シ居レル次第ナリ
- 三 捜査官憲カ被疑者ノ取調ニ當リ懇切丁寧ヲ旨トスヘキコトハ機會アル毎ニ注意シ來レル所ナリ上官ニシテ犯罪ノ種類ニ依リ其ノ取扱ヲ二三ニセシムルカ如キ命令ヲ爲シタルモノ有ル

コト無シ
右及答辯候也

七 國體及士風ノ隆汚ニ關スル質問

一 林大將ガ内閣組織ノ大命ヲ奉行スルニ當リ陸軍當局ハ三當局ノ名ニ於テ林大將ニ先ンジテ現陸相ヲ候補者ニ推薦シ以テ林大將組閣ノ努力ヲ一時不安ノ間ニ彷徨セシメタルノミナラズ陸軍三當局ハ事實上大命拜受者以上ノ特別權能ヲ有スル者カノ如ク疑訝セシムルニ至ツタ海軍大臣ノ推薦ニ關シテモ略々同様ノ經過曲折ヲ見タ

二 以上ノ經過及ビ事實ハ此ヨリ先キ宇垣大將ガ組閣ノ努力ニ對シ經驗シタル事實ト相俟ツテ大權ノ御發動及ビ之ニ恭順シ奉ルベキ陸軍ノ態度ニ對シ不測ノ疑ヲ抱カシムルニ至ツテ居ル假ニ宇垣大將組閣ノ場合ニ於テ陸軍ノ現役將官中大臣タル資格アル者ガ一人タリトモ進ンデ大命拜受者ノ奉行ヲ助ケントスル者ナク執レモ紛々タル聚議ニ辟易シ各辭讓シテ之ヲ阻礙シ之ヲ傍觀シタトイフコトハ解スベカラザル始末デアル

斯ノ如キ場合資格アル者ハ萬難ヲ侵スモ身ヲ挺シテ大命奉行者ノ努力ヲ助クベキデナカツタ

カ、而シテ其ノ人ガ一人モ無カツタトイフコトハ臣節ノ弛廢士風ノ萎靡甚シイカナ地ニ墮チタリト慨スベキモノデナイカ

三 文部大臣ハ右ノ事實ヲ以テ (一)我が國體ニ關スル國民教育ニ何等ノ惡影響ヲ及ボサナカツタモノト爲シ今後ニモ及ボス虞レノナキモノト爲スカ、(二)若クハ幾分カノ惡影響ヲ及ボシタモノト爲シ今後ニモ及ボス虞レノアルモノト爲スカ

甲 若シ第一點ノ如シトセバ其ノ理由如何

乙 若シ第二點ノ如シトセバ之ヲ匡救スルノ方法如何

四 國體明徴ノ論頗ル盛ンナリト雖モ今回ノ如キ事實ヲ國民萬衆ノ前ニ公演シテ之ヲ等閑ニ付シ去ルニ於テハ國體ノ本義却ツテ蒙晦セラレ國體ノ尊嚴ニ對スル國民的遵奉ノ美風漸ク衰微ノ端ヲ啓カンコトヲ虞ル、總理大臣主トシテ文部大臣ノ之ニ對スル見解如何
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十五日田川大吉郎提出ス同年三月九日林内閣總理大臣兼文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

質問ノ趣旨ニ付テハ我が國體ニ關スル國民教育ニ惡影響ヲ及ボスガ如キ事實ハナカリシモノト思料ス

右及答辯候也

六六〇

八 世界資源再分割ト新國策樹立ニ關スル質問

一 南方國策ニ付テ

我が國現下ノ最大問題ハ日本民族生活權確保ノ爲新ナル國策ヲ樹立スルコトデアル而シテ從來ノ北方中心國策ニ再檢討ヲ加ヘテ世界資源就中南方資源利用ノ積極的國策ヲ立テ人類生存、更生日本建設ノ劃期的方途ノ實現ヲ圖ルコトコソ帝國ノ生クベキ最高ノ方針ナリト信ズル

惟フニ難局ヲ打開シ國力ノ充實、國民生活ノ安定ヲ期センニハ枝葉末節ノ革新ニ非ズシテ其ノ根本ニ觸ルルコトガ肝要デアル現内閣ハ庶政一新ヲ組閣ノ使命トサルルニ拘ラズ斯ル國家ノ根本指針ニ何等ノ對策ナキハ遺憾千萬ニ思フガ此ノ重大問題ニ對シ政府ハ如何ナル所見ト具體案トヲ有セラルルカ

二 國家ノ困窮ト生活ノ不安ニ付テ

我が國過剩人口ノ重壓ガ齎ス農村ト都會トノ現世地獄ノ修羅場ヲ政府ハ認識サレツアルヤ

一年間ノ人口増加ハ約百萬人此ノ人口ニ與フベキ土地資源ハ何レニアリヤ

假ニ農家ニ五人ノ子女ガ出生スルトシテ其ノ中長男一人ヲ殘シテ他ノ子女ハ悉ク他ニ送り出サザルヲ得ナイノガ一般的實情デアル而モ五反百姓生活ノ實際ハ一人ノ生存ヲ辛ウジテ可能ナラシムルモ他ノ四人ヲ留メルダケノ餘裕ナク僅ノ旅費ヲ與ヘテ異郷ノ空ニ捨テルノ悲惨ナル状態ニアルノデアル從テ都會ノ社會不安ハ日々ニ募リ惡事、醜行、思想ノ惡化隨處ニ起ル是等ハ皆社會ノ罪、國家ノ責任デアルト云ハネバナラヌガ政府ハ斯ル不安ナル現實ニ對シ如何ナル考ト對案ヲ有セラルルカ

三 帝國ノ實力ト國防力ニ付テ

政府ハ國民ノ實力ト國防力トハ常ニ一致スベキコトヲ強調サレタガ國民ノ收入ト國防トガ果シテ調和サレツアリア狭小ニシテ憫ムベキ我が國ノ資源ヲ以テシテハ政府ノ思フガ如キ國民ノ實力ハ到底アリ得ナイト信ズルガ如何

日本ノ現状ハ米國ノ一州「サウス・ダコタ」ト殆ド同一面積ノ耕地ヲ以テ内地人約七千萬人分ノ生活費ヲ稼ガネバナラヌ實情デアル日本國民ノ收入實力ハ他ノ列強ニ比肩シ得ナイ其レ故國防上他ノ列強ト並行スルコトノ不自然性ガ國民ノ一年間ノ收入程度ヲ比較スルコトニ依テ判斷シ得ラルル即チ各國中一人一年間ノ收入ハ濠洲七七〇圓、英七四〇圓、米七三〇圓、蘇聯

五一〇圓、獨逸四一八圓、佛四〇〇圓、伊二三五圓、日本二〇四圓デ七百圓臺ニ對シ二百圓臺ハ餘リニモ悲惨デアル近時憂慮サルル國民ノ體位低下ハ保健衛生施設ノ不備ニ因ルニ非ズシテ人間一人ノ生存ニ必要ナ「カロリ」補給ノ不足ニ原因スルコトヲ特筆大書シテ政府ノ猛省ヲ促シタイ政府ガ此ノ原則的窮乏打開ニ何等再檢討ヲ加フルコトナク國民生活ノ安定ヲ叫ブハ思ハザルノ甚シキモノト云ハネバナラヌ土地資源ノ乏シキ日本國民ノ生活不安ハ年月ト共ニ増加スルハ明白デアル政府ハ以上ノ實勢ヲ以テ如何ニシテ國防ノ安固、國民生活ノ安定ヲ期スルノ見込ナルヤ

四 庶政一新ヨリハ國策ノ根本的轉向ガ急務デアル

我が國從來ノ大陸政策ノ一本建ニハ大ナル誤謬アリト思フ此ノ際此ノ誤リヨリ轉向シテ新ナル國是國策ヲ樹テ國家國民ノ向フベキ指導原理ヲ與フルコソ國難打開ノ根本デアル現時ニ於テ已ニ此ノ困憊ヲ呈ス一朝十億ニ近キ蝸配の赤字公債廢止後ノ慘狀ハ戰慄スベキモノガアル政府ハ斯ル場合ヲモ考慮シ之ガ對策ヲ有スルヤ

人口對策トシテ農業ノ改良、産兒ノ制限、極度ノ工業化、消費ノ世界化ト云フガ如キハ萬全ノ策デハナイ其ノ行詰リハ日貨ノ世界的排斥、輸入超過ノ漸増ニ依テ明デアル要ハ好適ノ植民地コソ窮乏日本救済ノ根本ト信ズル

抑、我が國從來ノ國策ガ資本家擁護ニ墮シ增加大衆ノ生活權ヲ輕視シタルハ千載ノ恨事デア
ル政府ハ速ニ斯ル誤リヲ打破シテ過剩人口ニ正常ナル生存ノ途ヲ與ヘ國力ノ培養、生産ノ増
加ヲ促進スルハ刻下ノ急務ト思フガ政府ノ所見如何

重ネテ問フ政府ハ以上ノ如キ誤リタル國策下ニ内部的庶政一新ヲ斷行シテ果シテ何物ヲ獲得
シ得ラルルノ見込ナルヤ本員ハ從來ノ國策ノ根本的轉向ヲ革新ヲ斷行スルモ國力ノ
充實、國民生活ノ安定ハ絶對不可能ト思フガ政府ニハ安定ノ確信アリヤ

五 大陸政策ノ誤謬ト北守南進策ニ付テ

我が國人口ノ増加ハ主トシテ中産以下ノ無資本國民層ニ於テデアル從テ資本ヲ要スル所ハ過
剩人口ノ捌口トハナリ得ナイ殊ニ北方移民ノ有望ナラザルコトヲ速ニ自覺スベキデアル朝鮮
ガ日本ノ有ニ歸シテ移民ハ逆輸入トナリ内地勞働界ヲ壓迫シタル事實ハ明瞭デアル又滿洲ニ
ハ日本勞働者ヤ移民ハ殆ド入ルベキ餘地ガナイ生活「レベル」低キ苦力ニ日本ノ勞働者ハ對抗
不能デアリ且寒冷ハ日本人ニ適セズ又同國ノ工業農業ニモ日本人ヲ使用シテハ收支相償ハヌ
コトトナル斯ル寒冷ノ貧地ガ如何程擴大スルモ防備戰線ノ擴大ニ因リ國費濫費ニ流ルルノミ
ニテ過剩人口ノ捌口トハナリ得ヌ強テ移民ヲ決行セントセバ莫大ノ補助金ヲ要スル我が國ノ
財力ニハ斯ル餘力ガナイ現ニ廣田内閣ニ於テ樹テタル僅ノ滿洲移民計畫サヘ財力不足ノ爲半

減サレタルニ非ズヤ滿洲建國以來已ニ五年内地ヨリノ移住民ハ僅ニ十三萬人(拓務省取扱ハ四萬有餘人)一年間百萬人ノ増加ニ斯ル事實ハ無價値ニ等シイト云ハネバナラヌ政府ハ之ニ對シ如何ナル認識ト對策トヲ有セラルルカ

六 南方資源再分會議ト國策一新ニ付テ

以上ニ依テ我が國ノ窮乏及民族生存上ノ急迫ト不自然性トハ明ニナツタ
 茲ニ現時歐米ノ對日輿論ヲ綜合スルニ人口ト資源トノ關係ハ世界中日本ニ於テ最モ酷デア
 ル而モ日本ニハ國內發展ノ餘地ナキヲ以テ馬來血統ヲ熱帶ニ適スル日本人ハ南太平洋上ニ人口
 ノ捌口タル土地ヲ求ムベキコトヲ確認シ更ニ斯ル領土保有國ハ自國民ノ勞力ヲ以テ之ヲ開拓
 シ得ザル故ニ進ンデ之ヲ日本ニ讓渡スベシト高調シ又日本ニ人口吸收ノ門戸ヲ解放スルコト
 ヲ得ルヤ否ヤハ世界戰爭ヲ誘致スルヤ否ヤノ大問題デアルト論ジ日本ハ滿洲ヲ得タルモ滿洲
 ハ人口ノ捌口トハナラヌ何トナレバ寒冷ハ日本人ニ適セズ從テ日本ノ進ムベキ道ハ南方及東
 部デアルト結論スルモノノ如クデアアル世界ノ輿論ニシテ斯ノ如シ況ヤ國際正義人道ハ必ズヤ
 日本ノ立場ヲ理解シ資源再分割ノ當然性ヲ認識スルモノナルコト疑ヲ容レヌノデアアル而シテ
 是レニハ窮迫日本ノ實狀ヲ世界ニ披瀝シ日本ハ英國ノ既得植民地或ハ米國植民地ニハ一切手
 ヲ觸ルルコトナク南太平洋上ノ勞力不足ナル島嶼ニ我が過剩人口ノ平和的發展ヲ遂ゲルノ外

日本ノ生クベキ途ナキ苦境ヲ世界ニ訴ヘ最善ヲ盡シテ植民地再分會議ノ如キモノノ成立ヲ期
 スベキデアアル日本ノ要求ガ已ムナキ人口ノ捌口ヲ求ムルノ外何等野心ナキ誠意ヲ示シ且一定
 ノ形ニ於テ公約スルニ至ラバ延テハ以テ軍縮ノ世界的目的モ自ラ達成シ同時ニ世界平和確立
 ノ基本タルベキヲ疑ハヌ

要スルニ日本人口問題ハ實ニ一切ノ社會科學的ニモ政策的ニモ凡有ラユル問題ノ根本デア
 ル自今帝國ノ進ムベキ對外政策ノ中樞ハ此ノ根本ニ基クベキデアルト信ズル

以上ノ各項ニ對シ政府ノ所見ト決意ノ程ヲ承リタイ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十五日福田關次郎君提出ス同年三月九日結城大藏大臣及佐藤外
 務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、日本民族ノ生活權ヲ確保スルノ肝要ナルハ論ヲ俟タス之カ爲政府トシテハ何レノ方面ヲ問
 ハス世界各方面ニ對シ平和的且經濟的ニ發展センコトヲ期シ銳意努力中ニシテ南方ニ對シテ
 モ益々努力スヘキカカ實施ニ當リテハ相手國ノ立場ヲモ考慮シ慎重ヲ期セサルヘカラスト
 考ヘ居レリ

二、我が國過剩人口ノ重壓カ社會不安ヲ齎ラシツアルコトハ我が國內ノ土地資源ノ不足ニ依
 ル處大ナルモノアルヲ認ムルヲ以テ之カ對策トシテ邦人ノ世界各方面ニ於ケル平和的經濟的

發展ヲ促進シ貿易移民等ノ助長ヲ期スルト共ニ國內産業ノ振興ヲ計リ居レリ
 三、政府ニ於テハ我カ國資源ノ不足ニ鑑ミ産業ノ振興貿易ノ伸張ヲ計リ國力ノ根幹ヲ培フト共ニ邦人ノ海外移住並企業進出ニ對スル助長ノ方途ヲ講シ以テ國防ノ安固ト國民生活ノ安定トヲ期シ居レリ
 四、人口問題ノ對策ニ付テハ其ノ方策一ニシテ足ラサルモ海外移民ノ獎勵及企業進出ニ付テハ格段ノ努力ヲ要スルモノト認ム仍テ政府ハ其ノ所期セル庶政一新ト併セテ前記諸施設ニ特ニ力ヲ用ヒ居レリ
 五、對滿移民ハ既定ノ大方針ニシテ專門家ノ多年ニ亙ル研究並ニ既ニ實施セラレ居ル試驗移民ノ成果ニ鑑ミ必ス成功スルモノト確信シ多數移民送出ニ努メツツアリ
 六、人口ノ稠密並資源ノ缺乏ニ直面シ居ル帝國ノ實情ヲ世界ニ披瀝シ人口ノ捌ケ口及國內産業ニ必要ナル市場及資源ノ開放ヲ要望スルト共ニ併セテ帝國ニ於テ何等領土的又ハ侵略的意圖ヲ有セサル次第ヲ闡明スルノ要アルハ勿論ナリ之カ爲政府ニ於テハ常ニ機會アル毎ニ之カ闡明ニ力メ居レルカ植民地再分會議ヲ提唱スルカ如キハ現下世界ノ實情上適切ニ非スト認ム
 右及答辯候也

九 衆議院議員選舉法中改正法律案提出ニ關スル質問

庶政一新ノ根本、立憲政治ノ確立ハ選舉法ノ改正ニアリ然ルニ政府ハ口ニ庶政一新立憲政治格循ヲ唱ヘ乍ラ既ニ成案トナレル選舉法改正案ヲ未タ本期議會ニ提出セサルハ吾等ノ頗ル遺憾トスル所ナリ吾等ハ速ニ政府カ選舉法改正案ヲ本期議會ニ提出スルコトヲ要求ス政府ハ之ヲ提案

スル意思アリヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十五日青木亮貫君提出ス同年三月九日河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

現行衆議院議員選舉法ニ關シテハ之ガ改正ヲ要望スル向少カラザルモノアルニ鑑ミ前内閣ニ於テハ特ニ選舉制度調査會ヲ設置シテ其ノ改正要綱ニ付種々調査審議セシムル所アリ昨年末ニ至リ同調査會ノ答申ヲ得テ改正法律ノ立案ニ著手シタルモ之ヲ議會ニ提案スル爲ニ必要ナル諸般ノ手續ヲ了スルニ至ラザリシモノナリ、現内閣亦現行制度中改正ヲ要スルモノアルコトハ之ヲ認ムル所ナリト雖モ之ヲ議會ニ提案スルガ爲ニハ諸種ノ重要ナル手續ヲ經ザルベカラザル等ノ事情モアリ改正法律案ヲ會期切迫セル今期議會ニ提出スルコトハ困難ナリト思料ス
 右及答辯候也

一〇 廣田内閣ノ辭職ト林内閣ノ成立ニ關スル質問

第一問 今回ノ政變ニ關スル事態ホド不可思議ナモノハナイ。廣田内閣ハ何故ニ辭職シタノカハツキリワカラナイ。世間ニ傳フル所ニ依レバ、一月二十一日ノ衆議院ニ於テ一議員ノ質問ガアツタ後、寺内陸相ガ突然解散論ヲ主張シ其結果廣田首相ハ突然總辭職ノ決心ヲシタヤウデ

アル。元來衆議院議員ハ民意ヲ代表スル爲ニ選舉セラレタモノデアルカラ前ノ總選舉以後ニ於テ國民ノ意思ガ大ニ變化シ、現在ノ議員ガ民意ヲ代表シテキナイト云フ證據ガナケレバ議會ハ解散スベキモノデナイ。ヨシ理不盡ニ解散ヲ主張スルニシテモ、ソレハ議會再開前ニ爲スベキコトデアツテ平生ノ如ク議會ヲ開キ僅カニ質問演説ノ始マツタバカリノ所デ解散論ヲ提出スルガ如キハ常識外レノ言動デアアル。若シ閣僚中ニ此ノ如キ非常識ナ主張ヲ爲スモノガアツタナラ總理大臣タルモノハ親切丁寧ニ其心得違ヒヲ説キ諭シテ過ヲ改メサスベキデアル。若シドウシテモ過ヲ改メナケレバ、其閣僚ダケヲ辭職セシメテ平生ノ如ク國務ヲ進行スベキデアアル。陸相ガ辭職スレバ其後任者ガ得ラレナイト云フガ如キハ、天皇陛下ノ任免大權ヲ蔑如スル所ノ思想デアツテ、苟モ帝國臣民タルモノハ、聖意ニ背イテ就任ヲ拒ムガ如キ不臣ノ振舞ヲスル筈ガナイ。病氣其他萬止ムヲ得ザル場合ノ外ハ何人ト雖モ、陛下ノ任命ヲ拒否スルコトハ出來ナイ。殊ニ軍人タルモノハ、此觀念ガ一層強クナケレバナラヌ。故ニ陸相ノ後任ヲ撰定スルガ如キハ決シテ難事デハナイ。然ルニ廣田首相ガ内閣ヲ投ゲ出スニ至ツタノニハ何カ隠レタ事實ト理由ガナケレバナラヌ。只表面ニ現ハレタ事態ダケデハ廣田内閣總辭職ノ理由モ原因モ一切ワカラナイ。新内閣ハ將來再ビ此ノ如キ不可解ナル政變ヲ惹起シ以テ上ハ宸襟ヲ惱マシ奉リ、下ハ國民ヲ困迷セシムルガ如キコトナカラシムル爲詳細ノ顛

末ヲ公表スベキデナイ乎。

第二問 民政、政友ノ兩大政黨ハ四名ノ大臣ヲ内閣ニ送ツテ居リ四大臣ハ政府案ニ總テ賛成シテ居ルカラ、タトヘ多少ノ波瀾ハアツテモ結局陸海軍ガ要求シテキル所ノ軍備充實ニ關スル議案ハ大體ニ於テ今回ノ衆議院ヲ通過スルニ相違ナイ。然ルニ解散スレバ總テノ議案ノ實行ハ少クトモ三四ヶ月後レルノミナラズ兩大政黨ヲ正面ノ敵トシテ總選舉ニ臨メバ、如何ナル手段方法ヲ施シテモ、兩黨以上ノ政府黨議員ヲ得ルコトハ出來マイ。六十年間培養シ來ツタ政黨ノ地盤ハ二回ヤ三回ノ解散ニ依ツテ崩壊スルモノデナイ。其上ニ政府ガ之レヲ正面ノ敵トシテ挑戰スレバ元來政府案ニ賛成スル心算デアツタ所ノ兩大政黨モ多分之レニ反對スベク餘儀ナクサレルデアラウ。サスレバ軍備充實案ト其關聯法律案ハ、大ニ延期セラルルバカリデナク或ハ實行スルコトガ出來ナクナルカモ知レナイ。海軍大臣ガ軍備充實案ヲ通過セル爲ニ解散ニ反對シタノハ當然ノコトデアアル。故ニ陸相ガ強ヒテ解散ヲ主張シタトスレバ、軍備充實案以上ニ重大ナ國家的問題ガナケレバナラヌ。ソレハ果シテ何デアツタ乎。解散ニ依ツテ其目的ヲ達シ得ベキ軍備充實以上ノ大問題モナイノニ濱田代議士相手ノ問答ニ於ケル言語ノ枝葉末節ニ囚ハレテ卒然解散ノ決心ヲ起シタトセバ、ソレハ事ノ大小輕重ヲモ辨ヘザル人物ノ所行デアツテ苟モ國務大臣タル者ノ爲スベキ所デハナイ、寺内伯ガ此ノ如

キ小人物デナイコトハ疑ヲ容レナイカラ、此ノ點ニ於テモ隠レタ重大ナ事實ガアツタノデア
ラウ。政府ハ國家ノ爲又寺内伯ノ名譽ノ爲ニ之ヲ公表スベキデハナイ乎。

第三問 内閣總辭職ノ後 陛下ハ常例ニ依ツテ後任首相ノ推薦ヲ西園寺公ニ御諮詢ニナリ、公
ハ宇垣大將ヲ奏薦シタ。元來宇垣大將ニ對シテ、陸軍部内ニ反對ガアルコトハ世間周知ノ
事實デアアル。故ニ西園寺公ガ大將ヲ奏薦スルニ當ツテハ其反對ヲ押切ルダケノ手段方法ヲ考
ヘタ後デナケレバナナイ筈ダ。又宇垣大將モ十分ノ考慮ヲ費シテ大命ヲ拜受スベキデアツ
タ。一旦大命ヲ拜シタル後、陸軍部内ノ反對ニ會ツテ、大命奉行ニ支障ヲ生ズルガ如キ事ア
ツテハ、畏レ多クモ 陛下ノ御威光ニ關係スルカラデアアル。然ルニ西園寺公モ宇垣大將モ此
ノ注意ヲ怠リ、陛下ニ對シテ他ノ職司ニ比スレバ一層深ク服從ノ義務ヲ負フ所ノ陸軍軍人
ノ反對ヲ受ケテ、内閣組織ノ大命ヲ奉行スル能ハズ、爲ニ陛下ノ御威光ニモ關ハルベキ事
態ヲ招來スルニ至ツタコトハ、残念至極ナ次第デアアル。此ノ顛末ニ付テモ世間ニ知ラレザ
ル事實ガアル筈デアアル。政府ハ一切ノ事實ヲ發表シテ國民ノ疑惑ヲ解クト同時ニ、陛下ノ
御威光ヲ發揚シ奉ルベキデハナイ乎。

第四問 宇垣大將ノ組閣進行中陸軍ハ三長官會議ニ於テ宇垣内閣ニ陸相ヲ送ラナイコトニ決
定シタルガ如キ報道ガ屢々新聞紙上ニ現ハレタガ、陸相ノ任命ハ申スマデモナク 陛下ノ大
權テアツテ、何人モ此ノ大權ノ運用ヲ阻止シテハナラナイ。陛下ガ宇垣大將ヲシテ内閣ヲ
組織セシメントシ給フニ當ツテ陸軍ノ三長官ガ之レニ反對スルガ如キハ、軍職ニ居ル者ノ絶
對ニ爲スベカラザル所ト思ハレル。又三長官トハ陸相、參謀總長、教育總監ノ事デアラウガ、
此ノ場合ニ於テ主要ノ位置ヲ占ムル陸相寺内大將ハ、陛下寄託ノ職務ヲ奉行スル能ハズシ
テ辭表ヲ奉リ、待命中ノ身分デアアル。只管恐懼謹慎シテ罪ヲ闕下ニ待チ國家必要ノ常務以
外ニハ何事ニ付テモ意見ナド述ブベキデナイ、一步退イテ此ノ場合陸相ハ恐懼謹慎スルコ
トヲ要セズ、平生ノ如ク職責ヲ執行シ得ベシトスルモ、三長官會議ニ於テ、内閣組織ノ大
命奉行ヲ阻止スル結果トナル如キ決議ヲ爲スコトハ、陛下ニ對シテ畏レ多キ次第ト思ハ
レル。

若シ 陛下ガ隈板内閣組織ノ時ノ如ク、陸海軍大臣ニ對シテハ、内閣組織ノ大命拜受者ノ奏薦
ヲ待タズ、直接ニ任命大權ヲ御使用遊バサレタナラバ三長官ハ如何ニシテ其過ヲ謝スルデア
ラウ乎。只辭職スルダケデハ濟マナイデアラウ。又宇垣内閣組織中ニ陸軍ノ總意トカ、軍ノ
意向トカ稱スルモノガ、屢々新聞紙上ニ發表セラレタガ、苟モ軍人タルモノハ内閣組織ハ無論
ノ事、其他ノ政治問題ニ付イテモ、其意見ヲ公表スルコトハ陸軍刑法ヲ以テ禁セラレテ居
ル。故ニ内閣組織ト云フガ如キ政治問題ニ關スル、陸軍ノ總意ト稱スベキ意見ハ絕對ニアリヤ

ウ筈ガナイ。所謂陸軍ノ總意ナルモノハ僅カニ數名若クハ數十名ノ意見ニ過ギナイモノト思ハレルガ、ソレニシテモ演說若クハ文書ヲ以テ之レヲ世間ニ公表スルコトハ、陸軍刑法第百三條ノ禁ズル所デアアル。政府ハ何故ニ之等ノ刑法違反者ヲ不問ニ付スル乎。

(參照)

陸軍刑法第百三條

政治ニ關シ上書、建白其ノ他請願ヲ爲シ又ハ演說若クハ文書ヲ以テ意見ヲ公ニシタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

第五問 單ニ外間ニ漏レタダケノ事跡ニ據レバ、天皇陛下ハ宇垣大將ヲシテ内閣ヲ組織セシメントシ給ヒ、陸軍ハ之レニ反對シ遂ニ陛下ノ御希望ハ行ハレズシテ、陸軍ノ意見ガ行ハレタヤウニ見エル。即チ陛下ノ大命ヲ奉行セントスル者ト陸軍三當局者トノ間ニ確執ノ存シタル影響トシテ陛下ガ却ツテ御讓歩遊バサレタヤウニモ見エル。帝國臣民タルモノ誰カ此ノ畏レ多キ事態ノ出現ニ對シテ長嘆大息セザルモノガアラウ、是レニハ必ズ世上ノ憂懼ヲ一掃スルニ足ルベキ事實ト理路ガアルデアラウ。政府ハ速ニ之レヲ發表シテ世ノ忠臣義士ヲ安堵セシムベキデハナイ乎。

第六問 一月三十日及二月一日ニ於テハ聲明書若クハ當局談ノ形式ヲ以テ、陸海軍兩省ノ意見ト稱スルモノガ發表セラレタガ、此ノ意見ハ果シテ何人ノ意見ナル乎。

其大臣ハ何レモ待命中デアツテ、大臣以外ニハ省ヲ代表シテ、政治的意見ヲ發表シ得ベキ人ナク、發表スルル者ハ各刑法違反ノ行爲者トナル。而シテ未ダ何人モ之レガ爲ニ處罰セラレタルコトヲ聞カナイ。苟モ肅軍ト云フ以上ハ之等ノ刑法違反者ヲ處分シ、以テ將來ノ禍根ヲ芟除スルヤウニシナケレバナラス。

陸海軍以外ノ各省官吏ト雖モ、其戴クベキ大臣ニ付テ多少ノ意見ヲ持タナイモノハナカラウガ、何レノ省ノ官吏モ、同志ヲ糾合シテ之レヲ公表シタ事ハナイ。然ルニ陸海軍兩省ノ將校ダケガ、ソレヲ爲スガ如ク頻々新聞紙上ニ公表サレテキル。他省ノ官吏ハ選舉權ノ行使ヲ許サレテ居リ、其仕事モ直接間接ニ政治ニ關係スルモノガ多イ。ソレデモ尙ホ新大臣ノ御任命ニ對シテハ意見ヲ公表シナイ。然ルニ政治ニハ最モ縁ノ遠カルベキ將校即チ選舉權ノ行使スラ許サレナイ所ノ軍人ガ大命拜受者ニ向ヒ軍部ノ名ヲ藉リ、各種ノ要望ヲ爲シタルガ如ク公表サレデキルガ、世評ニ敏感ナル當局者ハ未ダ其取消ヲ命ジナイ。若シ此ノ如キ事實アリトセバ、是レハ由々シキ大事デアツテ、殷鑑遠カラズ五・一五事件ニ在リ、二・二六事件ニ在リ、斯ノ如キハ畢竟スルニ、政治ニ關與スベカラザル軍人ガ政治ニ關與シ、又ハ之レニ興味ヲ持ツタ爲ニ起ツタ不祥事ニ外ナラナイ。今ニシテ軍紀ヲ肅正セザレバ、將來モ亦類似ノ不祥事件ガ起ラヌトハ何人モ保證スルコトハ出來難イ。故ニ全國人民中ノ心アルモノハ何レモ

右等ノ報道ヲ讀ンデ深ク憂慮シテキル。政府ハ世ノ浮説流言ヲ一掃スルニ足ルベキ事實ヲ發表スルト同時ニ、軍紀ヲ肅正シ、セメテハ普通文官ガ遵守シテキルダケノ規律ヲ軍人ニモ、遵守セシムル意圖ナキ乎。

第七問 内閣組織ノ大命ヲ拜シタ者ハ其推薦スベキ大臣ト其擔當スベキ官省トノ關係ヲ考慮スルハ宜シイガ、公然其推薦方ヲ當該官省ニ依頼シテハ、組閣大命ノ一部ヲ他人ニ讓渡シタ事ニナル。是レ亦 陛下ニ對シテ畏レ多イ事デアツテ、任免大權ノ輕視ト評セラレテモ、辯解ノ言葉ハナカラウ。然ルニ林大將ハ、陸海軍大臣ノ推薦ヲ辭表提出中ノ現任大臣ニ依頼シタト世間ニハ傳ヘラレテキル。マタ其上ニ待命中ノ兩大臣ガ提出シタ候補者ハ自己意中ノ候補者ト異ツテキタ爲一時組閣ノ困難ヲ生ジ、其事ノ 聖聽ニ達スルヤ、 陛下ニハ宸襟ヲ惱マセラレ深夜宮中ノ重臣ヲ御召シニナツタトモ傳ヘラレテキル。カクテ一時ハ行キ惱ンダガ、林大將ハ自己ノ意見ヲ屈シ、辭職待命中ノ兩相ニ讓歩シテ漸ク組閣ノ大命ヲ奉行スルヲ得タト云ハレテキルガ、是レ亦主客顛倒ノ甚シキモノデアツテ、任免大權ノ威嚴ニモ關係スベキ事柄デアアル。口ニ國體明徴ヲ稱ヘル人々ガ斯ノ如キ過失ヲ犯スニ至ツタノハ、實ニ遺憾千萬デアアル。

此事ニ就テモ、世上ノ誤解ヲ解クニ足ルベキ隱レタル事實ガアラウト思ハレルカラ、首相ハ

自己及陸海兩省ノ名譽ノ爲ニ之レヲ發表スベキデナイ乎。

第八問 任免大權ハ、天皇ノ大權中最モ大切ナモノデアアル。他ノ大權ハ何レモ責任者ノ進言ヲ待ツテ御行使遊バサレル事ニナツテキルカラ、ソノ責任ハ輔弼ノ大臣ニ歸スルガ、内閣組織ノ場合ニ於テハ、諸大臣ガ總辭職ヲシタ際デアアルカラ輔弼ノ責任者ガナク、陛下自ら直接ニ之ヲ御行使遊バサレル手續キトナル。我が國デハ元老ニ御諮詢ニナツテキルガ、之ハ藩閥政治時代ニ於ケル特殊ノ事情ニ由テ起ツタ慣例デアツテ、現在ノ如ク藩閥ガ既ニ消滅シテ、上御一人ト下萬民ノ間ニハ何人モ介在スル事ナク「義ハ君臣、情ハ父子」ト 大正天皇ガ仰セラレタ通り君民一致ノ關係ヲ實現シテ居ル時代ニ於テハ、何人ニモ御諮詢ナク、天皇自ら其事ニ當ラセ給フ方ガ朝廷ノ爲ニモ、人民ノ爲ニモ好イヤウニ思ハレル。林首相ハ君國ノ爲メ從來ノ慣例ノ改善ヲ奏請スル意圖ナキ乎。

第九問 元來元老ナルモノハ、憲法ニモ法律ニモ何等ノ規定モナイ一種特別ノ重臣デアアルカラ、ソノ進言ガ誤ツテモ制度上責任ヲ負ハセルコトハ出來ナイ。ソノ元老モ現在ハ西園寺公一人デアツテ、近年ノ公ノ奏薦ハ世人ニ満足ヲ與ヘテキナイ。殊ニ今回宇垣大將奏薦ノ結果ニ至ツテハ、實ニ慨嘆ニ堪ヘザルモノガアル。宇垣大將ニ對スル陸軍ノ反對モ、若シソレガ極秘裏ニ行ハレタナラ、世間一般ハ知ラズニ過ギタデアラウガ、不幸ニシテ白晝公然萬

衆環視ノ間ニ行ハレタ。而シテ雷ニ宸襟ヲ惱マシ奉レルノミナラズ、斯ノ如キ惡結果ヲ生ジタ以上ハ、西園寺公タルモノハ、タトヘ制度上責任ナキモ道義上其責ニ任ゼザルヲ得マイ。

遡ツテ考フルニ明治天皇ノ聰明絶倫ナル新内閣組織ノ適任者ニ就テ、他人ニ御諮詢遊バサルベキ必要ハナカッタノデアアル、唯、明治中興ノ大業ハ主トシテ陛下ノ御稜威ト薩長ノ武力トニ依テ成就シタモノデアツテ、一步ヲ誤レハ建武中興ノ挫折ヲ再演スルノ憂モ絶對ニナイトハ保證出來ナカッタノデアアル。武力ヲ以テ北條ヲ斃シタ後ハ、後醍醐天皇ノ英武ヲ以テスルモ、尙ホ尊氏ガ北條ニ代ルコトヲ防止シ得ラレナカッタ。明治天皇ノ英明ナルコト、後醍醐天皇ノ比デナク、又薩長人士ノ勤王心ニ富ムコト、尊氏等ノ比類デナカッタコトハ論ズルマデモナイガ、武力ヲ以テ武門政府ヲ斃シタ者ハ、動モスレバ斃サレタル者ニ代ル傾向ヲ持ツテキル。加之當時ノ長閑ハ陸軍ヲ、薩長ハ海軍ト警視廳ヲ掌握シテ、他縣人ノ進入ヲ許サナカッタカラ、明治天皇ガ此ノ兩藩閥ヲ駕御操縦シ給フ爲ニハ一方ナラズ御苦心遊バサレタコトハ申ス迄モナカラウ。此關係カラ、陸海軍ノ對立モ起リ、兩藩閥ノ首領等ニ元老ノ優遇ヲモ御與ヘニナッタノデアアル。内閣組織ノ場合ニ方ツテハ、兩藩ノ權衡ヲ維持シ且ツ其歡心ヲ繋グタメ、元老ニ御諮詢ニナルコトガ、最モ賢明ナ御處置トシテ、人物選擇ノ必要ヨリモ

寧ろ兩藩ノ權衡維持歡心收攬ノ爲ニ、此慣例ハ起ツタノデアアル。然ルニ明治ノ末年ニ至ツテハ、薩長兩藩閥ノ根柢ハ全ク崩壞シ、陛下ト國民トノ關係ガ直接ニナリ、其結果トシテ、全國ノ同志ヲ集メテ組織シタ政黨ノ首領タル伊藤公ヤ西園寺公ガ、三回マデモ内閣ヲ組織スルコトニナッタ。薩長人ニ限定サレテキタ總理大臣ハ、薩長以外ノ人物デモ之レニ就キ得ルヤウニナッタ。大正ノ中頃此ノ形勢ハ益々成熟シ、兩大政黨ノ首領ガ代ル代ル内閣組織ノ大命ヲ拜スル事ニナツテ、勢ノ趣ク所遂ニ桂、田中兩大將ノ如キモ、藩閥ノ殘壘ヲ捨テ政黨ノ人トナルニ至ツタ。言換レバ薩長ヲ土臺トセズ、國民ヲ土臺トスルヤウニナリ、又全國人民ハ薩長ト云フ中介物ヲ經ズシテ、直接ニ天皇ヲ奉戴スルコトニナッタノデアアル。我が政界ハ明治年間ト大正以後ハ全クソノ趣キヲ異ニシテキル。斯ノ如ク内閣ガ國民ヲ基礎トシテ成立スルコトニナツタ以上ハ、藩閥時代ニ賢明ノ御處置デアツタ所ノ内閣組織者ヲ元老ニ御諮詢ニナル慣行ハ既ニ前世ノ遺物トナリ、現在ノ時勢ニハ適應シナイモノトナツタ。故ニ今日以後ハ元老ノ推薦ヲ待タズシテ、直接ニ任命大權ヲ御使用遊バサルベキデアラウ。若シ元老ニ御諮詢ニナラズ、陛下自ラ任免大權ヲ直接ニ御行使遊バサレタナラ、近來ノ如キ結果ハ起ラナカッタデアラウト思ハレル。政府ハ内閣總辭職ノ際ニ於ケル任免大權ノ御發動ニ關シ斯ノ如ク奏請スルコトヲ時勢ニ適應スル臣節トハ思考セザル乎。

第十問 西園寺公ガ、元老ノ御優遇ヲ辭退サレタ後、新内閣組織ニ當リ、若シ世間ノ事情ヲ御聽取リニナル必要ガアル場合ニハ、將來ハ全國民ヲ代表スル所ノ、衆議院議長及貴族院議長ニ御諮詢ニナルコトガ、最モ適當ナ御處置カト思ハレル。但シ貴衆兩院議長ガ、從來ノ如ク政治的野心ヲ抱キ、若クハ一黨一派ノ人デアツテハ此ノ大任ニ當ラセルコトハ出來ナイカラ、將來ハ兩院議長ニハ最モ公明正大ニシテ、政治的野心ノナイ人格者ヲ選任スルコトニ改メナケレバナラス。

衆議院ガ議長候補者ヲ選舉スルニ方ツテハ全ク黨派的觀念ヲ捨テ、院中第一ノ人格者ヲ舉ゲ、全院一致シテ之ヲ選舉スベキデアアル。英國ニ於テハ、多數黨ガ少數黨中ノ人格者ヲ物色シテ、之レヲ議長ニ推薦シタキ旨ヲ少數黨ニ交渉シ、滿場一致ヲ以テ選舉シタ實例スラアル。其議長ハ一切黨派的感情ヲ拭ヒ去ツテ、最モ公平嚴肅ニ職務ニ當リ議會ハ幾度代ツテモ議長ハ再選セラレルコトニナツテキル。我が國デモ、ソノ位ノ事ハ出來ソウナモノダ。將來ハ議長候補者選舉ノ際ニ於ケル從來ノ惡慣例ヲ變改シテ、現在ノ元老ニ代ツテ陛下ノ御諮詢ニ奉答シ得ル人物ヲ舉ゲルヤウニシタイモノデアアル。但シソノ場合ニ於テモ、陛下ニ於カセラレテハ、止ムヲ得ザル必要アル時ノ外ハ、兩院議長ニモ御諮詢アラセラレナイ方分宜シカラウト恐察シ奉ル。陛下ノ英明ナル如何ナル人物ガ、新内閣組織者トシテ、最モ適當デアアル

カハ、必ず御承知ノコトト思フ。然ルニ直接 聖斷ヲ下サズ、公然重臣ニ御諮詢ニナレバ、其奉答ガ多少 聖慮ニ協ハザル場合ニモ、之ヲ御採用ニナラナケレバナラナイ事情モ起リ得ルデアラウカト思ハレル。且ツ重臣等ノ奉答ト思ヘバコソ、之ニ反對スルモノモアラウガ、陛下直接ノ大命ニハ何人ト雖モ反對スルガ如キコトハナイ筈デアアル。

林首相ハ從來ノ慣例ノ御改易ヲ奏請シ奉ルベキ他ノ何等ノ方法モナシトスル乎。

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十七日尾崎行雄君提出ス同年三月九日林内閣總理大臣、米内海軍大臣及杉山陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

第一問、第二問、第三問及第五問ニ付テ

質問ノ趣旨ハ何レモ現内閣ノ關知セザル事實ニ關スルモノニシテ、答辯ノ限ニ非ザルモノト思料ス

第四問ニ付テ

陸軍刑法第三百三條ノ罪ヲ犯シタル者アラバ之ヲ不問ニ付スルノ意思ナシ

第六問ニ付テ
一月三十日及二月一日發表セラレタリト稱セラルル陸海軍兩省ノ意見ハ如何ナルモノヲ指稱セラルルヤ判明セザルモ世ノ浮説流言ニ對シテハ之ガ一掃ニ付適切ナル方策ヲ講ズルト共ニ軍ノ紀律肅正ニ付テモ亦萬遺憾無キヲ期シ居レリ

第七問ニ付テ

陸海軍大臣任命ノ奏薦ニ關シ任免大權ヲ冒瀆シ國體明徴ノ精神ニ反スルガ如キ事無ク、又世上ノ誤解ヲ招クガ如キ隠レタル事實モ無シ
第八問、第九問及第十問ニ付テ
内閣組織ノ大命降下ニ關スル點ハ論議ヲ避クルヲ適當ト認ム
右及答辯候也

一一 精神的國防充實ニ關スル質問

一 我カ國ノ經濟的國力ハ英米等ニ比シ豐富ナラスト思料スルト同時ニ國防費ノ負擔ハ亦頗ル輕カラスシテ際限ナキ物質的軍備ノ擴張ハ國力ノ耐フル所ニ非スト信ス然レトモ國防ハ世界ノ形勢、隣國ノ狀況ヲ顧ミスシテ我カ國獨リ軍備ヲ制限遠慮シ得ヘキニ非サレハ帝國現在ノ國防計畫ハ其ノ必要ナル程度ヲ超エ居ルモノトハ信セサルカ今後國防ノ有形的設備ニ於テ出來ルタケ整理節約ヲ爲シ而モ國防ノ完璧ヲ期スル上ニ於テ精神的國防充實策ヲ實施スルノ意思アリヤ如何

二 既往日露戰役ノ實際ニ徴スルニ同戰役直前一九〇三年三月ノ露紙ハ日露戰爭ハ日本ノ自殺ヲ意味スト迄報道シ當時露國軍備ノ有形的設備ハ我カ國ノ其レニ比シ十倍二十倍ノ強大ヲ思ハセタル程ナリシニ寧ロ天祐トモ觀ルヘキ戰勝ヲ續ケタリ是レ陣中將卒ノ士氣全ク昂リテ所

謂金鷄勳章精神ノ活動旺盛ナリシニ因ルモノト思惟スルカ政府ニ於テハ此ノ際精神的國防充實ノ根本策トシテ軍人精神ノ鼓舞作興、思想善導ノ爲長クモ明治二十三年二月十一日金鷄勳章御創設ノ詔ニ「金鷄勳章ヲ創設シ將來武功拔群ノ者ニ授與シ永ク天皇ノ威烈ヲ光ニシテ其忠勇ヲ獎勵セントス」ト宣ハセラレタル御趣旨ニ基キ戰役殊勳者待遇改善ニ付相當ノ處置ヲ速ニ爲ス意思アリヤ如何

三 戰役殊勳者ニ對スル金鷄勳章年金ハ明治二十七年功七級ハ六十五圓ニ制定セラレ翌二十八年貨幣價值ノ變動等ニ依リ金百圓ニ改正シテ日清戰役論功行賞ノ際實施シタルモノナルカ日露戰役當時ヲ回顧スルニ出征軍人中例ヘハ恩給年限ニ達シ恩給ヲ受領シタル一等卒上等兵ハ四五十圓程度ノ恩給ヲ給與セラレタルニ功七級年金ヲ受領シタル殊勳者ノ一等卒ハ金百圓ノ年金ヲ受領シ乃チ「恩給、年金ヲ美ム」程社會美望ノ的トナリ忠勇ノ鼓舞獎勵ニ資シタルモノナルカ今日ニ於テハ恩給法數度ノ改正ニ依リ前記一等兵ノ恩給カ金二百圓前後ニ増額セラレ現在ニ於テ功七級年金ハ百五十圓ニシテ「金鷄勳章年金、恩給ヲ美ム」カ如キ狀態ニテ其ノ他殊勳者ノ待遇ハ總テノ點ニ於テ多年忘却セラレ居ルコトハ誠ニ遺憾ノ次第ナルカ政府ニ於テハ金鷄勳章御創設ノ詔ニ對シ奉リ又金鷄勳章年金令ノ趣旨ニ副ヒ居ルモノト信スルヤ如何

四 政府ハ戰役殊勳者ノ精神的待遇方法ヲ考慮シツアリト言フカ其ノ方法範圍ハ如何ナルモ

ノナリヤ具體的實施ノ方策如何

五 金鷄勳章年金ノ増額改正ハ他ニ波及スル點アリトノ言明ナルカ假令恩給亡國論ヲ爲ス者ハ多少アリトシテモ國民中金鷄勳章年金亡國論ノ意見ヲ持ツ者ハ一人モナシト確信スルカ政府ノ所見如何

六 林内閣總理大臣ハ陸軍大臣當時院外ニ於テ殊勳者優遇ノ必要ヲ認メラレ當時大角海軍大臣ト共ニ精神の待遇方法ノ一端トシテ國有鐵道乘車特典ノ實施ヲ希望サレタルコトアリシカ今日殊勳者ノ精神の待遇トシテ將ニ實行セムトスル有效適切ナル具體案ヲ有スルヤ然リトセハ其ノ内容ノ要領如何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十七日中村又一君提出ス同年三月九日林内閣總理大臣、米内海軍大臣及杉山陸軍大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、精神の國防充實ハ之ニ努力中ナリ
 - 二、昭和十二年一月二十一日提出質問第三號戰役殊勳者待遇ニ關スル質問主意書ニ對シ昭和十二年二月二十三日附ヲ以テセル答辯書五、六ニ於テ答辯セル通りナリ
 - 三、五、前項答辯書一ニ答辯セル通りナリ
 - 四、六、種々優遇ノ方法ヲ講ジツツアリ、尙ホ引續キ研究中ニ屬ス
- 右及答辯候也

一一 精神病患者ノ保護救療ニ關スル質問

一 精神病患者ハ社會ノ複雜化ト文明ノ進歩トニ伴フ時代病ニシテ逐年増加スルニ拘ラス之カ保護救療ノ施設ニ至リテハ歐米先進國ニ比シテ九牛ノ一毛ニ過キス其ノ家族カ精神上經濟上ニ被ル損害ハ想像ニ餘アリ或ハ人ヲ殺シ火ヲ放チ時トシテハ不敬罪ヲ犯シ首相ヲ狙ヒ大臣官邸ニ闖入スル等國家ノ安寧ヲ害シ秩序ヲ紊シ戰慄ニ堪ヘサルモノアリ政府ハ如何ナル方法ヲ以テ其ノ發生ヲ防止シ且是等未監置患者ヲ保護シ取締ラムトスルヤ

一 過激ナル思想ヲ抱キテ社會ノ秩序ヲ破壊シ或ハ住所不定ノ患者ニシテ浮浪徘徊シ公安ヲ害スルノ虞アルモノ少カラス政府ハ國立精神病院ヲ設立シテ是等ノ患者ヲ收容保護スルノ意思ナキヤ

一 精神病院法ハ道府縣ニ公立病院ヲ設置セシムルノ趣意ナルニ拘ラス其ノ設立ヲ見タルハ僅ニ指ヲ屈スルニ過キス是レ毎年豫算ニ補助金ノ計上過少ノ結果ナリト信ス政府ハ何故ニ適當ノ金額ヲ計上シテ之カ設置ヲ獎勵促進シ重病且危險ノ虞アル患者ヲ收容保護セシムルノ意思ナキヤ

一 道府縣ノ設立スル精神病院ニ對シテハ建築及増改築ニ向テ其ノ經費ノ二分ノ一ノ補助ヲ與フルニ拘ラス之ヲ代用トシテ指定シタル病院ノ増改築ニ對シテハ全ク此ノ事ナシ政府ハ何故ニ補助ノ途ヲ講シ之カ均衡ヲ計ラサルヤ

一 精神病者ノ過半数ハ遺傳性ノモノナリト聞ク政府ハ斷種法ヲ制定シテ遺傳性精神病ヲ豫防スルノ意思ナキヤ

一 中年以後ノ精神病ハ青年時ニ於ケル梅毒ニ基因スルモノ多數ナリト聞ク政府ハ花柳病ノ豫防撲滅ニ對シテ徹底の方策ヲ講スルノ意思ナキヤ

一 精神病ニ關シテハ徒ニ監置ヲ主トスル精神病者監護法及醫療ヲ目的トスル精神病院法カ適用サルルモ時代ヲ異ニシタル制定ニシテ複雑煩瑣其ノ取扱區々ニシテ當事者ノ迷惑少カラスト聞ク政府ハ速ニ之ヲ統一改正スルノ意思ナキヤ

右及質問候也

本質問ニ對シテハ書面ヲ以テ答辯アラムコトヲ望ム

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十七日大野伴陸君提出ス同年三月十六日河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、精神病ノ發生ヲ防止スル方法トシテハ精神衛生思想ノ普及ヲ圖リ一面梅毒、中毒等精神病

ノ原因トシテ明白ナルモノノ芟除ニ努メ居ルモ遺傳性精神病ノ發生防止ニ付テハ更ニ一層慎重ノ研究ヲ進ムル考ナリ、又社會保安上危險ナル精神病者ニ付テハ精神病者監護法、精神病院法ノ規定ニ依リ之ヲ放置スルコトナキ様努メ居ルモ尙未監置ノモノニ付テハ精神病院施設ヲ擴充シテ其ノ保護取締ニ遺憾ナキ様努メタキ考ナリ

一、精神病者ハ全國ニ散在シ且其ノ疾病ノ性質上之ヲ遠隔ノ地ニ送致スルコト困難ナルヲ以テ各道府縣ニ公立精神病院ヲ普及シ其ノ道府縣ノ病者ヲ收容スルコトニ努メツツアリ、尙特殊ノ病者ヲ收容スル爲國立精神病院ノ設置ニ關シテハ更ニ考究セントス

一、公立精神病院建設ニ對スル補助豫算ハ現在ノ財政ノ都合上極メテ少額ヲ計上シアリ、其ノ結果公立精神病院ノ普及未ダ十分ナラザルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ、將來財政ノ許ス限リ補助豫算ヲ増額シテ公立精神病院ノ擴充ヲ圖ラントス

一、代用精神病院ハ公立精神病院ノ不足ヲ補フ爲ニ既設ノ病院ヲ利用スルノ本旨ナルヲ以テ其ノ新築ニ對スル場合ト同様増改築ニ對シテモ公立病院同様國庫補助ノ途ヲ開クノ考ナシ

一、遺傳性精神病者ノ發生防止ノ目的ヲ以テ斷種法ヲ制定スルノ可否ハ極メテ重大ナル問題ナルヲ以テ目下慎重ニ調査研究中ナリ

一、花柳病ノ豫防ニ關シテハ娼妓取締規則、花柳病豫防法等ニ依リ種々施設ヲ講ジ居ルモ今後一層之ヲ充實シ取締ヲ嚴ニスルト共ニ一般民衆ニ對シテモ豫防知識ノ普及ニ努メ花柳病豫防ノ徹底ヲ期セントス

一、精神病者監護法並精神病院法ノ改正ニ付テハ政府モ既ニ其ノ必要ヲ認メ曩ニ地方長官ニ照會シ更ニ民間専門家ノ意見ヲ徵シ目下調査研究中ナリ

右及答辯候也

退職積立金及退職手當法ノ運用ニ關シ次ノ二點ヲ御尋ネ致シマス

第一ハ退職積立金及退職手當法ニ關スル官廳ノ事務取扱ノ方針ニ付テデアリマス本年一月一日ヨリ施行セラレ居ル本法ニ依リ各事業主ニ於テハ第十七條ノ規定ニ依ル者モ第三十條ノ規定ニ依ル者モ共ニ各、其ノ事業沿革、現在ノ従業員ニ對スル規定等ヲ參酌シテ自工場ニ適應シタル退職積立金並退職手當ニ關スル規程案ヲ作製シ當該地方長官ニ對シテ其ノ許可又ハ認可ヲ申請シテ居ルノデアリマス

此ノ場合成ルベク許可又ハ認可ヲ速ニシテ民間業者ニ迷惑ヲ掛ケナイヤウ注意スルコトハ本法審議ノ委員會ニ於テ當局ノ言明セラレタ所デアリマスガ現前ノ實情ハ其ノ認可ガ中々手間取ツテ當該官廳モ民間業者モ共ニ困ツテ居ルノデアリマス

何故ソウナツテ居ルカト云ヘバ同一ノ事業主ノ工場又ハ鑛山ガ他府縣ニモアル場合ニ於テ事業主ノ立場トシテハ各工場(鑛山)ヲ同一ノ規定ニ依テ律シタイト云フ經營上當然ノ理由カラ同一ノ規程案文ヲ各工場(鑛山)カラ當該地ノ行政官廳ニ提出スル之ヲ受取ツタ道府縣當局者ハ内務省カラノ通牒「退職積立金及退職手當法ニ關スル事務取扱方針」ノ第三十條ノ四——同一ノ事業

主ノ工場又ハ鑛山ガ他府縣ニモ在ル場合ニ於テ同一ノ退職手當規定ヲ定メントスル希望アル場合ハ勞働部ニ協議ノ上許可スルコト——ト云フ指令ニ基キ其ノ認可又ハ許可ニ付社會局ニ相談スルノデアリマス

即チ各府縣ノ官廳デハ退職規定ノ許可又ハ認可申請ハ受付ケルガ單獨デ許可又ハ認可スルコトハ出來ナイ形式上デハ地方長官ガ許可又ハ認可スルコトニナツテ居ルガ實際ハ社會局勞働部ト協議シナケレバナラナイ所ガ各府縣ノ當局者ハ必ズシモ意見ガ一致シテ居ルト云フ譯デハナイカラ思ヒ思ヒノ見解ニ基キ認可又ハ許可ノ申請ニ對シテ事業主ト折衝スル勿論事業主トスレバ各府縣限リデ定マルモノ又ハ各地方事情各工場ノ特殊事情ニ依テ定マルモノ等モアリ必ズシモ同一ノ規定ヲ必要トシナイ就業規則ノヤウナモノデアレバ各府縣ノ單獨意思ニ依リ或ハ單獨ノ折衝ニ依テ許可又ハ認可シテ貰ツテ良イノデアアルガ退職手當積立金ノ規定ノ如キハ其ノ工場又ハ鑛山ノ所在地如何ニ拘ラズ同一規定ヲ必要トスル場合ハ其レデハ困ル

又各府縣ノ官廳デ色々審査ヲシテミタ所デ結局實質的ニハ社會局ノ勞働部ガ其ノ規定ヲ決裁スルコトニナル斯ナコトナラ最初カラ社會局ノ勞働部ニ其ノ規程案ヲ提出シテ其ノ許可又ハ認可ヲ得ルコトニスレバ手數ガ省ケテ府縣モ事業主モ共ニ便利デアリマスガ法文ノ組立ガ行政官廳ノ許可又ハ認可ト云フコトニナツテ居ル爲實際上ノ許可又ハ認可權ヲ有スルモノガ陰ニ隠レ

テ何處マデモ府縣ヲ表面ニ立テテ居ルカラ仕事ガ遅レルノミナラズ各府縣ノ工場課ニ於テモ結局自分達デ審査シテモ社會局デドウ取扱フカ判ラナイカラ無駄ナ手數ガ掛カル許リデアルト云フ氣ニナツテ益事ガ涉ラナイノデアリマス

其處デ斯ル事務取扱方針ヲモット簡易化スル爲政府ニ御尋ネ致シタイ所ハ

同一ノ事業主ノ工場又ハ鑛山ガ他府縣ニモ在ル場合ニ各工場(鑛山)ニ共通ノ退職規定ヲ希望スル向キニ對シテハ其ノ事業ノ本社又ハ主タル工場(鑛山)所在地ノ行政官廳ニ對シ先ヅ其ノ規定ノ許可又ハ認可ノ申請ヲ爲シ其ノ許可又ハ認可ヲ得タル上ハ其ノ旨ヲ附記シテ從タル工場(鑛山)所在地ノ行政官廳ニ許可又ハ認可ノ申請ヲ爲スコト

此ノ場合本社又ハ主タル工場(鑛山)所在地ノ地方長官ハ其ノ規定ノ許可又ハ認可ヲ爲スニ當リ社會局ト十分協議シテ慎重ニ之ヲ決定セラレルコトハ勿論デアリマスガ從タル工場(鑛山)所在地ノ府縣當局ハ其ノ許可又ハ認可ノ申請ニ對シテハ同一規定ナルガ故ニ其ノ儘直ニ之ヲ許可又ハ認可スルコト

右ノ通り其ノ取扱方針ヲ簡易化スレバ官廳モ民間モ共ニ非常ナル便宜ヲ得ルコトニナリマスノデ現ニ各府縣當局ニ於テモ斯ウナルコトヲ希望スル空氣ガアルヤニ聞キ及ビマス政府ガ速ニ本法ノ事務取扱方針ヲ右ノ様ニ定メ各府縣ニ指令ヲ出シテ頂キタイト思ヒマスガ政府ノ御所見ハ

如何デアリマスカ

第二ハ本法適用ノ範圍ヲ更ニ擴張セラレル御考ハナイカドウカト云フ點デアリマス申ス迄モナク本法適用ノ範圍ハ常時五十人以上ノ労働者ヲ使用スル工場法ノ適用ヲ受クル工場ト鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ二ツニ(第一條)限ラレテ居リマスガ退職者保護ノ意味カラ云ヘバ右ノ範圍ヲ擴張スルコトハ望マシイコトデアアル殊ニ事業主ニ於テ之ヲ擴張スル氣持ガアレバ政府ハ進ンデ之ヲ獎勵スベキデアルト思ヒマス

現在各種ノ工場ニ於テハ主タル工場内ノ職場デ生産ニ從事シテ居ル職工以外ニ門衛、小使、食堂ノ炊事夫、倉庫人夫等附屬ノ仕事ニ携ツテ居ル者モ小クナイ此等ノ從タル仕事ニ從事シテ居ル労働者ニ對シテモ其ノ退職ノ場合工場法ノ適用ヲ受クル職工ト同額ノ手當ヲ支給スルコトハ工場經營上カラモ又社會政策的見地カラモ望マシイコトデアアル事業主ガ此等ノ規定ヲ退職手當ニ關スル規定ノ中ニ包括スルコトハ現在ニ於テモ退職手當法ノ認ムル所デアアル然シナガラ本法ノ適用ヲ當然受クベキ職工ト之ニ準ズル從タル労働者トノ間ニハ次ノ如キ取扱上ノ差違ガアリ又法ノ保護ヲ受ケテ居ラヌ事實ガアル

一 本法ニ於テハ支拂賃金ノ百分ノ二ノ額ヲ強制的ニ積立テルコトニナツテ居ルガ從タル労働者ハ事業主ニ於テ其ノ取扱ヲスルコトガ出來ナイ從テ労働者ノ方カラ言ヘバ退職ノ際主

タル職工ハ退職手當ノ外ニ自己積立金モ手取ニナルガ積立ヲ強制サレテ居ラヌカラ其レダケ退職ノ際ノ手取り金額ガ少クナル

二 主タル職工ハ普通ノ郵便通帳ノ外ニ積立金ハ別ノ通帳デ預リ得ルノデアアルガ從タル勞働者ニハ其ノ特典ガナイ(郵便貯金ノ通帳ハ一人一冊ニ定メラレテ居ル)

三 事業主ノ退職手當支給ノ爲ノ準備金ノ積立ニハ免稅ノ特典ガアルガ從タル勞働者ハ法ノ保護ガ及バナイカラ是等ノ勞働者ノ爲ノ事業主ノ積立金モ免稅ノ特典ナク別途ニ之ヲ積立テネバナラヌ

四 法ノ適用ヲ受ケル主タル職工ノ退職手當ハ差押ヘラレヌト云フ法ノ保護ガアルガ從タル勞働者ハ本法ノ保護ヲ受ケナイカラ差押ノ危險ニ曝サレル

大體以上四ツノ差別待遇ヲ受ケルコトニナツテ居リマスガ元來本法ノ精神ハ出來ルダケ廣範圍ノ勞働者ヲ保護スルニアルベキ筈ナルガ故ニ工場法ノ適用ヲ受ケル職工ト其ノ他ノ勞働者ヲ併セ使用シテ居ル事業主ガ後者ニ對シ前者ト同様ナル取扱ヲ爲サント希望スル場合ハ上述ノ如キ差別扱ヲ廢シ本人ノ積立金、事業主ノ準備積立金其ノ他凡テノ取扱ヲ同一ニスル方針ニ改メラレタイト思ヒマスガ當局ノ御所見ハ如何デアリマスカ若シ之ヲ否ナリトセラレルナラバ其ノ理由ヲ明示セラレタイ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十七日鈴木正吾君提出ス三月十六日河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

第一 退職積立金及退職手當法第三十條ノ規定ニ依ル許可ノ取扱ニ付テハ地方長官及鑛山監督局長ヲシテ出來得ル限り速カニ其ノ手續ヲ取運バシメツツアリ

同一事業主ノ經營スル工場又ハ鑛山ガ數府縣ニ存在スル場合ニ於テ當該事業主ヨリ各事業ニ付同一ノ退職手當規定ヲ制定シ度キ希望ヲ附シ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ許可ヲ申請シタル場合ニハ許可ノ際社會局勞働部ニ協議スル取扱ト爲シ居ルモ、其ノ事業主ノ主タル工場鑛山ノ所在地ノ行政官廳ヨリ勞働部ニ協議アリタル場合ニハ便宜勞働部ヨリ其ノ他ノ工場鑛山ノ所在地ノ行政官廳ニ對シテ適宜連絡ヲ取り許可ノ手續ヲ簡易ナラシムルコトトシ法律施行ノ圓滑ヲ期シ居ル次第ナリ

第二 退職積立金及退職手當法ノ適用範圍ノ問題ニ付テハ、本法ガ工場法ノ適用ヲ受ケル工場又ハ鑛業法ノ適用ヲ受ケル事業ニ適用セラルル關係上本法ノ適用ヲ受ケル勞働者モ工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受ケル勞働者ヲ謂フモノナリ、門衛、小使、賄夫、人夫等工場法又ハ鑛業法ノ適用ナキ者ニ付テハ本法外ニ於テ福利施設トシテ適宜ノ制度ヲ設クルコトヲ獎勵シ其ノ保護ヲ圖ル方針ナリ

右及答辯候也

一四 政府事業ニ於ケル土地買收ニ際シ小作人ノ被リタル損失補償等ニ關スル質問

一 鐵道敷設其ノ他ノ政府事業ニ於テ土地ヲ買收スルニ際シ耕作權ニ對スル補償若ハ作離料ハ由來小作人ニ直接支拂ハス其レ等ヲ含メテ地主ニ土地代金トシテ手交スルヲ以テ住々ニシテ地主ハ其ノ金額ヲ私シ小作人ハ一文ノ迷惑料ヲモ受クルヲ得ス徒ニ耕作地ヲ失フニ止マルノ事例頗ル多シ政府ハ斯ル不合理ニ對シ適正ナル方法ヲ講スルノ意思ナキヤ

二 鐵道工事其ノ他ノ政府事業カ請負ニ付セラルル際ニ於テ元請負人ハ其ノ工事ノ一部ヲ下請負人ニ、下請負人ハ更ニ下下請負人ニ請負ハシムルハ斯界ノ常態ナリ然ルニ下請負人ハ住々勞働賃銀不拂ノ儘逃亡シ或ハ小賣商人ノ賣掛代金ヲモ支拂ハサルコトアリ之ヲ元請負人ニ請求スルモ責任ヲ回避スルノ事例多シ政府ハ政府事業ニ付テ斯ル不合理ヲ絶滅シ元請負人ニ其ノ責任ヲ負ハシメ是等一切ノ不都合ヲ生セサルヤウ適當ノ規定ヲ設クルノ意思ナキヤ
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年二月二十七日三宅正一君提出ス同年三月十六日山崎農林大臣、伍堂商工大臣、結城大藏大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

一、永小作權若ハ賃借權ノ登記アル場合又ハ土地賣買ノ慣習アル場合ハ其ノ慣習ニ準據シ小作人ヲモ關係人トシテ直接協議ヲ爲シ地上物件又ハ作離料等ノ補償ヲ爲スモ其ノ他ノ場合ニ於テハ土地所有者ヲ通シ補償ノ解決ヲ爲サシムルノ方法ヲ採リ來レリ
尙土地所有者ニシテ前述ノ補償ヲ理由ナク私スル者アラハ之等ニ對シテハ遺憾ナキ方策ヲ講

スヘシ

二、鐵道其ノ他政府事業ノ工事ノ請負人ハ資力信用共ニ確實ナルモノヲ選ヒ其ノ現場代人及下請負人ニ對シテモ充分注意ヲ爲シ以テ勞働賃銀又ハ小賣商人ヨリノ賣掛代金ヲ不拂ノ儘逃亡スルカ如キコトナカラシムル様努メツアルモ猶萬一斯ノ如キ事態ノ生スル場合ニ於テハ請負人ニ對シテ嚴重警告ヲ爲シ地方ニ迷惑ヲ掛ケサル様取扱ヒツツアリ尤モ政府ノ直接施行スル河川道路港灣等ノ事業ニ在リテハ請負ニ附スルコトナシ
右及答辯候也

一五 議會報告並時局批判演說會ニ際シ官公營造物使用ニ關スル質問

衆議院議員選舉ニ當リテハ小學校舎ヲ始メ官公營造物ヲ演說會場トシテ借り得ルガ議會報告或ハ時局批判演說會ニハ右營造物ノ管理人ノ意思如何ニ依ルハ甚ダ不都合ナルモノト思フ議會報告ハ代議士ノ義務ナリ然ルニ右ノ管理人ハ取締ノ煩シサヲ理由ニ往々市町村當局者ノ所謂反對黨所屬ノ代議士ニハ借用セシメズ從テ村落ニ在リテハ農民ノ議會報告演說ヲ要望スルモノ多々アルニモ拘ラズ之ヲ爲シ得ザル現況ナリ

政府ハ國民ノ政治教育ノ觀點ヨリシテ議會報告並時局批判演說會ニ對シテハ選舉ノ際ニ於ケルト同様官公營造物ヲ損料ヲ徵收シテ差支ナキ限り申込次第使用セシムルノ意思アリヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月二日高岡大輔君提出ス同月十六日河原田内務大臣及林文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

代議士ガ議會報告演說會或ハ其ノ他ノ政談演說會ノ會場トシテ小學校ノ校舍ヲ使用セントスルトキハ授業ニ差支ナキ限り之ヲ使用セシムル様文部省ヨリ地方廳ニ通牒シアル所ナルモ之ヲ選舉ニ於ケルト同様ノ扱ニ改ムルコトニ付テハ尙篤ト考究ノ要アルモノト認ム

右及答辯候也

一六 第十二回國際オリムピック大會準備速進ニ關スル質問

第十二回國際「オリムピック」大會ハ昭和十五年東京ニ開催スルコトニ決定セリ時恰モ建國二千六百年ニ方リ之カ成否ハ國運ノ消長ニ多大ノ影響ヲ有スルヲ以テ政府ハ速ニ之ニ關スル指導精神ヲ明示シ國民精神ノ作興ト保健衛生ノ向上トニ資シ且我カ國文化ヲ海外ニ宣揚スルコトニ努力セサルヘカラス何故ニ政府ハ速ニ之カ準備ニ著手スルト共ニ「オリムピック」組織委員會ヲ鞭撻セサル乎

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月六日笠井重治君提出ス同月十六日林文部大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

第十二回國際オリムピック大會ハ恰モ皇紀二千六百年ニ東京ニ開催セララルニ付キ、之ヲ單ニ國際的運動競技會ニ了ラシムルコトナク此ノ機會ニ於テ日本文化ノ宣揚國民精神ノ作興國民體育ノ振興等ヲ圖ルベキ必要アリ依ツテ是ガ準備竝ニ實行ニ關シテハ舉國一致之ニ當ル趣旨ノモトニ、政府ハ曩ニ大會直接ノ施行團體タル組織委員會ノ成立ヲ助ケ其ノ進行ニ關シテモ適當ナル指導ト協力トヲ與ヘ來レリ、而シテ昭和十二年度豫算ニオリムピック大會指導監督費ヲ計上シタルノミナラズ最近組織委員會ヨリ申請ノ大會經費ニ關シ國庫補助金ヲ交付スベキ意圖ヲ以テ目下種々研究中ナルニ付不日十二年度追加豫算トシテ計上ノ豫定ナリ

右及答辯候也

一七 文政教育ニ關スル質問

一 政府ハ文政教育ヲ重ンズルカ

勿論之ヲ重ンズト云ハザルベカラザルベク又林首相ノ庶政一新、國體明徴精神發揚ニ銳意ナルガ如キモ (1) 文部大臣ノ專任ヲ缺キ (2) 政綱中ニ教育充實ニ言及スルコトスラナク (3) 教育上ノ提案ナキコトヲ以テモ平生文相ニ努力セシメタル廣田内閣ニスラ比較ニナラヌハ文政教育ヲ尊重シテ重大時局ニ善處スル所以デナイト思フ有力ナル文部大臣ヲ得ンガ爲ニ延引セリ

トノ豫算委員會ノ説明ノ如キハ詭辯ニ類シ (1) 議會ヲ輕視セルモノ (2) 閣僚詮奏ニ對スル首相ノ職分ヲ曠シウセルモノ (3) 全教育界、全國民ヲ失望セシメ疑惑セシムルコトトナル政府ハ文政教育尊重ノ誠意ヲ有スルカ之ヲ有ストセバ前述ノ諸點ヲ如何ニセラレルカ

二 精神作興ノ時運ヲ如何ニ充足セントスルカ

(1) 拜金唯物ヨリ剛健精神へ (2) 兵數ノ増加兵器ノ整備心要ナルモ皇軍ノ振肅ハ更ニ重大タルベキハ眞ニ信念實力アル人間教育ニ俟ツベシ然ルニ政綱第一ニ掲グル「國體觀念ヲ愈々、明徴ニシ敬神尊皇ノ大義ヲ益々、闡明シ祭政一致ノ精神ヲ發揚シテ」ト云フモ數次ノ答辯ニ聽クニ其ノ氣魄ナク其ノ主張ナク漠然皇謨ヲ翼贊シ親政ヲ輔弼シ奉ルト云フノミニテ言當然ナルモ眞ニ精神作興ノ時運ヲ明ニセザルハ勿論現内閣ノ政策中ニ何等見ルベキモノナク前内閣ノ施設セントシタル所スラ減額スルニ至リテハ其ノ政綱モ無意義ト言フベシ何ヲ以テ政綱ヲ充タシ時運ニ應ゼントスルカ

三 義務教育ヲ如何ニスルカ

(1) 前内閣スラ義務教育延長ニ努力セルニ現内閣ハ「國體ノ本義ニ基キ肇國ノ理想ヲ顯現」セント云フノミニシテ實際ハ冷淡甚シキニ非ズヤ (2) 庶政一新ハ數育ノ革新ヲ第一トシ之ニハ文

政、教育、研究、教化ノ全面的再檢討ヲ要ス政府ハ最近ノ教育審議機關ノ刷新意見ヲ以テ足レリトスルカ再審議ヲ加フルカ (3) 學齡、義務教育、國民教育、社會教育ヲ檢討シテ適正ナル國民教育ヲ樹立スベキモノト思フ政府ハ何等之ニ處スル所ナシ如何ナル所見アリヤ (4) 父兄ノ負フ教育義務アルモ別ニ國務トシテ國民教育ノ重大任務アリ同胞一家協戮親和ヲ教養スルヲ要ス是レ庶政一新ノ爲ニモ國體發揚ノ上ニモ根本ナリト考フルガ政府ノ所見云何 (5) 義務教育ハ個人主義ノ國民ニ子弟教養ヲ義務付ケルニ依ルモ之ト區別シ若シ之ニ代フル國民教育ヲ行フニハ其ノ年齡、年限、方法、國家負擔ヲ云何ニスルカ (6) 國民教育タルベキ普通教育ニ在テハ外國人ノ經營管理ヲ許スベカラザルモノト思フ然ルニ都市ニ此ノ種學校アルハ國民精神涵養ノ途ニ非ズ明治初期ノ義務、自由、拜外教育ノ流弊タリ政府ハ之ヲ如何ニセントスルカ

四 大學教育ノ改善云何

(1) 現在ノ大學ハ眞ニ學理蘊奧ノ研究トナラズ科學戰ノ時代ニ於テ大學院研究室充實ノ意圖アリヤ (2) 國防、産業、教化孰レモ更深ノ研究ヲ要スルモ現ニ大學ニハ研究ノ用意設備ヲ缺クニ非ズヤ (3) 國體發揚ニ關スル諸學部ノ科學的充實云何 (4) 法、文、經、商等ノ學部モ尙國立ヲ要ストスルカ私學ニ行ハレザル特色何レニ在リヤ (5) 吏道、人格、國士要求ノ聲大ナ

ルモ赤化學徒輩出セルモ研究充タサレザルモ責任ヲ負ハズ實際ニハ人格養成ノ覺悟ト方法トヲ缺クニ非ズヤ

五 祭政一致ノ精神發揚云何

- (1) 首相ノ敬虔奉承維レ昂ムルヲ認ムルモ祭政一致ハ深意ナキモノニシテ達成セラルベキカ
- (2) 神社ハ宗教ニ非ズトシ神社局行政ノ現機構ヲ以テ足レリトスルカ
- (3) 惟神ノ大道ハ源遠キモ世ニ濟美、歴史ヲ通ジテ精華ヲ濟セリト思フ殊ニ神武、崇神、應仁、推古以降淡海、飛鳥、奈良、平安諸時代ノ主流ヲ標準トスベシト信ズ尙古遡源シテ狹化スルハ國體精華ヲ發揮スル所以ニ非ズト思フ政府ノ所見ヲ明ニシテ疑惑ヲ斷ツノ要アリ其ノ所見云何
- (4) 一國一教問題ノ所見云何滿洲協和會等ニハ宗教信仰ヲ命令ニ依リ歸一セントスル主張アリ今祭政一致ヲ高調ス此ノ主張ヲ含ムヤ否ヤ
- (5) 憲法第二十八條ハ他ノ規定ト異リ強ク堅ク廣クシテ信仰、布教、集會、結社自由、安寧秩序ヲ妨ゲ臣民タル義務ニ背クニ於テハ法ノ制裁發動アルベキモノト思フ政府ハ宗教法規ヲ如何ニ處理セントスルカ
- (6) 前内閣ヨリ行ヘル宗教警察行政ハ信教自由ノ憲法違反ニ非ズヤ

六 思想教導ヲ云何ニスルカ

- (1) 國家ハ物資財兵ヲ要スル以上ニ剛健ナル精神ヲ要ス其ノ研究向上ノ組織體制ヲ如何ニスル

カ現ニ施設セル文化研究竝本年度豫算ニテハ不十分ト思フ政府ノ所見云何 (2) 今ノ教育、宗教、文藝ノミニ期待スルヲ得ズ若期待スベキモノトスルニハ如何ナル施設ヲナサントスルカ

(3) 政治機構ニ依リ人心ヲ倦マシメザル經論ヲ施スノ要アリ最近組閣ノ經緯ハ人心ニ陰鬱ヲ感ゼシム軍部大臣ガ現役大中將ニ限ルトセバ組閣拜命者ガ求ムル所ニ無條件入閣スベク若順次固辭スルトモ全現役大中將ニ於テ誰カ應諾ノ責任アルモノト思フ首相ノ所見云何 (4) 剛健精神ハ尙農ニ發揚セラル然ルニ現政府ハ重商輕農ニ逆轉セリト見ラル農村興隆ニ對スル政策云何 (5) 欽定憲法治下日本獨得ノ立憲政治アルベシ政府ハ政綱ニ之ヲ掲ゲナガラ首鼠兩端嚮フ所ヲ審ニセザルハ政黨ヲ傷ケ民衆ヲ過ツモノナリ其ノ所見ヲ明ニセラルベシ現内閣ノ主張ノ要旨云何

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月六日椎尾辨匡君提出ス同月二十三日林内閣總理大臣兼文部大臣、山崎農林大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一 未ダ專任文部大臣ノ任命ヲ奏請スルニ至ラザルハ諸般ノ事情ニ依ルモノナルモ議會ヲ輕視シ或ハ又首相トシテノ閣僚詮奏ニ對スル職分ヲ曠シウシ居ルモノトハ思料セズ、教育ノ重ンズベク、文部行政ノ重要ナルコトニ付テハ今更言ヲ要セズ、時艱克服ハ特ニ亦之ニ俟タザルベカラザルモノアリト思料シ、組閣以來之ガ施設經營ノ徹底ヲ期シ居レリ

二 政府ハ時勢ニ鑑ミ我が國體ノ本義ニ則リ教育、學問ノ刷新、興隆、國民精神ノ振作、更張ヲ圖ルコトハ最モ肝要ナリト思料シ之レガ實現ニ付キ各種ノ施設ヲ講ジツツアルモ尙將來一層努力セントス

三 (1) 義務教育ノ年限ヲ延長スルコトハ時勢ニ鑑ミ緊要ナリト思料セラルルヲ以テ今後尙十分檢討ノ上ノ議會ニ提案ノ見込ナリ

(2) (3) (5) 政府ハ教育ノ刷新ハ最モ重要ナリト思料シ今後更ニ教育各般ニ互リ再檢討ヲ行ヒ教育刷新ノ實ヲ舉ゲントス

(4) 同胞一家協戮親和ヲ教養スルハ國民精神作興上必要ナリト思料ス

(6) 普通教育ヲ施ス外國人經營ノ學校ニ對シテハ尙一層監督ヲ嚴ニシ國民精神涵養上遺憾ナキヲ期セントス

四 (1) 政府ハ大學ノ使用ニ鑑ミ各大學ノ研究室ヲ整備充實スルニ努メツツアルハ勿論更ニ大學附屬ノ各種研究所ヲ擴充新設シ學術ノ蘊奧ヲ究ムルニ遺憾ナキヲ期シツツアリ

(2) 國防、産業、教化ニ關スル研究ノ更新ヲ達成センガ爲メ政府ハ航空學科ノ充實創設ヲ企テ各種研究所ノ整備ト新設トヲ爲シ又從來不十分ノ憾アリタル法、經學部ノ演習制度ヲ確立スル等銳意努力シツツアリ

(3) 我が國體ノ本義ニ基キ教學ノ發展ヲ圖ラムガ爲メ政府ハ大學ニ於テ特ニ日本文化講義ヲ開設スル外昭和十二年度ヨリ日本國體學講座充實等ヲ圖ラントス

(4) 文科系統ノ學部ハ一國文化ノ進展ニ至大ノ關係アルヲ以テ國家ニ於テ之ガ經營發展ヲ圖ルコトハ私學ノ重視及之ガ助成ト相俟ツテ極メテ重要ナルコトト思料ス

(5) 政府ハ大學ノ使命ノ重大ナルニ鑑ミ銳意人格ノ陶冶ニ意ヲ致シツツアリ

五 (1) 祭政一致ノ精神ハ我が國古來ヨリ存スル大道ナリ

(2) 神社ニ關スル行政機構ハ事極メテ重大問題ナルヲ以テ慎重ニ調査研究中ナリ

(3) 惟神ノ大道ハ我が國固有ノ大道ニシテ古來我が祖先ノ歴史的活動ニヨリテ發展シ來リタル國民的信念ナリ

(4) 祭政一致ノ精神ニハ一國一教ノ主張ヲ含ムコトナシ

(5) 憲法第二十八條ハ廣ク信教ノ自由ヲ保障スト雖モ教宗派寺院教會等ノ結社ニ關シテハ之ヲ憲法第二十九條ノ規定ニ含ムモノト解シ此ノ方針ヲ以テ宗教法規ヲ整備セントシ目下調査中ナリ

(6) 最近所謂淫祠邪教ト認メラルモノノ弊特ニ著シキモノアルガ爲メ是等ニ對シ相當ノ取締ヲ加ヘツツアルハ事實ナリ、然リト雖モ之ガ爲苟クモ正信正法ノ宗教ヲ壓迫シ若ハ憲法ニ保障セラレタル國民ノ信教ノ自由ヲ妨害スルガ如キコトアルベカラザルハ固ヨリ言フ俟タザル處ニシテ此ノ點特ニ戒心留意ヲ爲シツツアルモノニシテ既往當局ノ措置ニ關シ何等事案ナシト確信ス

六 (1) (2) 政府ハ剛健ナル精神ヲ涵養スルコトハ極メテ重要ナリト思料ス、仍テ政府ハ國體ノ本義ニ基キ教育ノ刷新ヲ圖リ以テ益々國民精神ノ振作ヲ圖ラシコトヲ期シ例ヘバ現ニ國民精神文化研究所ニ於テ國民精神文化ノ研究、指導及普及ヲ圖リツツアルモ、昭和十二年度ニ於テハ特ニ教學局ノ設置ニ關スル費目ヲ計上シ益々國民精神ノ涵養、振興ノ實ヲ舉ゲントスルモノナリ

(3) 本質問ハ組閣拜命者ヨリ入閣ノ交渉ヲ受ケタル現役陸海軍大中將ニ關スルモノナルヲ以テ答辯ノ限リニ非ザルモノト認ム

(4) 政府ハ農村固有ノ互讓相助ノ精神ニ則リ農ニ對スル諸制度ノ整備改善ヲ爲スト共ニ其ノ剛健ナル國民精神ヲ基調トシ農村經濟ノ根本的刷新ヲ圖リツツアリ、其ノ政策ハ經費ノ關係モアリ尙ホ不十分ナルハ免レザルモ必シモ重商輕農ニ逆轉セリトハ思料セズ

第三章 質問及答辯

(5) 我が國獨特ノ立憲政治ガ萬古不磨ノ欽定憲法ノ條章ニ恪循シテ行ハルベキ政治ナルコトハ炳トシテ明白ナル所ニシテ政府ハ其ノ健實ナル發達ヲ期シ居レルモノナルコトハ既ニ屢述ベタル所タリ
右及答辯候也

一八 林野整備案ニ關スル質問

我カ國現行ノ保安林制度ハ産業經濟ノ幼弱ナリシ數十年前以前ノ制度ニ係リ今ヤ世相一變二變三變ノ國民經濟ノ變遷セル世運ニ鑑ミ適當ナラサルモノ鮮カラス現行森林法ニ依レハ保安林所有者中ニハ不當ニ利益ヲ害サレテキルモノアリ今日保安林トシテ所有權ヲ制限シ置クヲ要セサルニ拘ラス尙且其ノ儘ニ存置セラルルモノ少カラス此等ヲ整理シ眞ニ其ノ歸スヘキ所ニ從テ全力ヲ發揮セシメ從來ノ如キ無用ナル犧牲ヲ撤去シテ民林ノ利益ヲ増進セシメ以テ經營ノ合理化ヲ期セシメサルヘカラス

政府ハ昭和四年調査委員會ヲ農林省内ニ設ケ農林大臣及次官竝關係各廳官吏、貴衆兩院議員、林政農政ノ各學者等二十二名ヲ委員トシ調査研究ノ結果林野整備ニ關スル成案ヲ得タリ

右林野整備案ハ民有水源涵養保安林ノ國有漸ク實行サレムトスルニ當リ窮乏山村ニ取ツテ旱天

ニ慈雨ノ意義アルモノナルニ政府ハ之ヲ六年度議會ニ提出セス七年度又繰下ケラレ八年度九年度十年度十一年度十二年度又同様ノ運命ニ葬ラレタルハ我カ國林政上實ニ慨歎ニ堪ヘス

今ヤ世界各國中水道水源林ノ概ネ九割ハ國有公有ニ歸シ民有水源林ニ委ヌルモノハ小弱國ニ過キス速ニ民有水源涵養林ヲ國有ニ移シ國營民營ノ分野ヲ確立スルノ外民有保安林ノ整齊竝國有林砂防施設ノ充實ヲ圖リ治水國策ノ下森林經營ノ根本的合理化ヲ期スルハ農山村ノ實力培養産業振興ヲ促進スル所以ニシテ「命ヲ支フルノ道ハ山ヲ齊フルニアリ」實ニ我カ國林政上ノ急務ニシテ國民生活安定ニ必須ナルモノナリ

政府ハ右林野整備案ヲ速ニ帝國議會ニ提出スルノ意思ナキヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月八日小坂梅吉君提出ス同月二十三日山崎農林大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

政府ハ昭和六年十月ヨリ同七年十月ニ互リ林野整備調査委員會ヲ設ケ慎重審議ノ結果其ノ根本方策ニ付成案ヲ得タルヲ以テ適當ナル時機ニ於テ之ガ實現ヲ期セントス
右及答辯候也

一九 財政經濟軍備及外交ニ關スル質問

本員ハ二月十七日國務大臣ニ對シ、口頭ヲ以テ、七八箇條ノ質問ヲ爲シ、首相ト陸相ヨリ簡單ナ答辯ヲ得タガ、質問事項ノ大部分ニ對シテハ、未ダ答辯ガナイ。多分本員ノ不辯ノ致ス所、質問ノ意味ガ御分リニナラナカッタ爲メデアラウト思ハレル。依テ質問ノ箇條ヲ列記説明シテ、重ネテ答辯ヲ求ムルコトニスルデアラウ。

(一) 政府ハ今回提出シタル増稅案通過後モ、尙ホ近キ將來ニ於テ、再ビ増稅案ヲ提出スル見込ナル乎。

又將來モ多額ノ公債ヲ募集スル見込ナル乎。

昭和七年度マデノ一般會計ハ、二十億圓以下デアッタガ、十二年度ハ一躍シテ二十八億圓ヲ超過シ、各種多樣多額ノ増稅ヲ爲スモ、尙ホ八億圓以上ノ公債ヲ以テ、其不足ヲ、補填スルノ止ムベカラザルニ至ツタ。此ノ如クシテ底止スル所ナクンバ、サナキダニ生活難ニ苦メル全國大多數ノ人民ハ、遂ニ其負擔ニ堪ヘザルニ至ルベク、又公債ノ應募力モ遠カラズシテ枯渴スルニ至ルベシ。

此ノ場合ニ於テ、不幸ニシテ干戈ヲ外國ト交ユルノ必要ニ際會セバ、如何ニシテ戰費ヲ支辨ス

ルヲ得ベキ乎。一念此ニ及ベバ、何人ト雖モ、君國ノ爲メニ戰慄セザルヲ得ザルベシ。日清、日露ノ兩役ニ方テハ、内ニ歳入ノ餘剩アリ、外ニ友邦ノ我が募債ニ應ズルモノ有テ、漸ク之ヲ支辨シ得タガ、今ヤ四顧何レノ方面ニモ我ニ向テ好意ヲ寄スル友邦ハナイ偶々獨、伊兩國ノ、稍ヤ我ニ接近スルガ如キモノアリト雖モ、軍國主義ノ結果トシテ、其經濟狀態ハ、非常ノ窮地ニ陥リ、人民ノ衣食スラ缺乏シテキルホドデアル、我が戰費ヲ援助スル餘力ノナイコトハ辯ヲ待タナイ。

カクテ内外何レノ所ニモ、戰費ノ出所ガナケレバ軍備ハ充實シテモ、之ヲ萬一ノ用ニ供スルコトハ出來ナイ。是レ本員ガ軍備ノ充實ニ贊成スルト同時ニ、萬一ノ戰費支辨ノ爲メニ募債ト増稅ノ餘地ヲ遺サンコトヲ切望スル所以デアル。然ルニ政府ハ僅カ數年ノ前途ヲモ洞達セズ、平居無事ノ今日ニ方リ、増稅ト募債ニ因テ、一時ヲ糊塗シ、更ニ幾タビモ之ヲ今後ニ繰返シテ、民力ノ枯渴ヲ顧慮セザラントスル者ニ似タリ。是レ本員ガ前記二個ノ質問ヲナス所以デアル。

(二) 政府ハ現在及近キ將來ニ於ケル國際關係ヲ考察シテ、我ト干戈ヲ交ユヘキ惧アル對手國ハ、海陸何レニ在リト想定スル乎。

萬一海陸兩面ニアリト想定セバ、是レ一箇國ノカラ以テ、二箇國ニ當ラントスル方針トナル

ガ、政府ハ帝國現在ノ國力ヲ以テ、海陸二大國ニ對敵シ得ベシト信ズル乎。

遠キ將來ハ、イザ知ラズ近キ二三十年ノ間ニ我ガ戰敵トナリ得ベキ邦國ヲ、陸ニ在テハ露支、海ニ在テハ英米ト假想スルモ、露支ニハ我ニ對抗シ得ベキ海軍ナク、英米ニハ陸軍ガナイ。故ニ我ハ同時ニ海陸兩軍ヲ對立的ニ整備擴張スル必要ハナイ筈ダ。前後緩急ヲ深思熟慮シテ、時アツテハ海軍ヲ主トシ、時アツテハ陸軍ヲ主トシ、以テ國家ノ必要ニ應ズルコソ是レ經國ノ要諦ニシテ眞ニ國家ヲ思フ者ノ瞬時モ遺忘スベカラザル所デアアル。

遠キ將來ニ於テ、露支兩國ガ、強大ナ海軍ヲ整備スルニ至ラバ、我ハ英米ト衝突スルノ惧ナキ場合ト雖モ、尙ホ相當ノ海陸兩軍ヲ整備セザルヲ得ナイガ、現在ハマダ其必要ハナイ故ニ現在ニ於テ、大ニ海軍ヲ整備スルノ必要ハ、只英米トノ衝突ヲ豫想スル場合ニ於テノミ起ルノデアアル。陸軍ハ露支トノ惡關係ヲ豫想シ、海軍ハ英米トノ惡關係ヲ豫想スルコトハ一箇國ノ力ヲ以テ少ナクトモ、海陸二箇國以上トノ衝突ヲ豫想スルコトニナル。此ノ豫想ニ關シテ、第一ニ考慮スベキハ、我ガ國力デアアル。

今日ノ我ガ國ハ時ヲ同クシテ二箇國以上ノ強敵ニ當ル實力ハナイ。タトヘ有ルニシテモ大禁物デアアル。二箇國以上ノ敵ニ當ル爲メニハ、我モ亦二箇國以上ノ味方ヲ作ラナケレバナラヌ。然ルニ常ニ海陸二箇國以上ノ強國トノ惡關係ヲ豫想シ、而シテ一箇國ノ味方ヲモ作ラズ、敵ヲ海

陸兩面ニ受クルニ至ラバ、斯クテハ戰場ダケデハ勝チ得テモ、銃後ノ力ガ盡キテ、悲慘ノ狀況ニ陥ッタ所ノ獨逸ノ覆轍ヲ踏ムコトニナリハシナイ乎。「ビスマルク」ハ塊太利ヲ攻ムルニ方テハ、百方佛國ノ歡心ヲ買ヒ、塊ニ勝ツテモ尙ホ縱横計ヲ運ラシテ、巧ミニ其敵愾心ヲ豫防シ、以テ之ト同盟ノ素地ヲ作成シタ。然ル後チ、始メテ佛國ヲ攻メ戰勝後ハ獨逸聯邦ヲ統一シ、塊太利ト結び、更ニ露ト密約シ、以テ佛國ノ復讐ニ備ヘタ。此ノ事例ハ、我ガ國人ノ宜シク參酌スベキ所デアラウ。

現在及近キ將來ノ情勢ヲ考察シテ、危險關係ガ英米ヨリハ、寧ロ露支ニ多シトスレバ、主力ヲ陸軍ノ整備ニ盡シ、海軍ハ暫ク之ヲ他日ニ讓ルベキデアアル且此ノ場合ニ於テモ、時ヲ同クシテ、露支兩國衝突スベキデナイ。露國ト衝突スル惧アルニ方テハ、多少讓歩シテモ、支那ノ歡心ヲ買ハナケレバナラナイ。支那ト衝突ノ惧アル場合ニハ、露國ヲバ中立(出來ルナラ友好關係)ノ位地ニ立タシメナケレバナラヌ。同時ニ雙方ノ惡感ヲ買フガ如キハ、拙中ノ拙、毫モ外交ヲ解セザル者ノ所行デアアル。

「ビスマルク」ハ塊ニ勝チ佛ニ勝チ、獨逸聯邦ヲ統一シテ歐洲第一ノ強國トナツタ後モ、陸軍ダケヲ以テ、軍備ノ主體ト爲シ、英國トハ友好關係ヲ維持シテキタ。然ルニ新帝ガ「ビスマルク」ノ謀慮ニ戻リ「獨逸ノ將來ハ海上ニ在リ」ト呼號シ、大ニ海軍ノ擴張ニ努力スルニ至テ、英國ト

衝突ノ端ヲ發キ、遂ニ世界戰爭ヲ惹起シテ、帝國ノ滅亡ヲ招イタ。是レハ軍備ヲ擴張シテ、却テ國家ヲ危殆ナラシメタ最近ノ實例デアアル。

我が國モ武力ヲ以テ、英米何レカニ對抗セント欲セバ、主力ヲ海軍ニ注ギ、陸軍ハ暫ク其從トシテ、露支ニ安心ヲ與ヘザルベカラズ。之ニ反シテ、露支何レカニ對抗セント欲セバ、主力ヲ陸軍ニ注ギ、海軍ハ暫ク之ヲ從トシテ、英米ヲ安心セシメザルベカラズ。

之ヲ顧慮セズ、國力ヲ傾倒シテ、海陸兩軍ヲ擴張スレバ、如何ニ不脅威不侵略ヲ聲言スルモ、露支ハ我が陸軍ニ對シテ、威脅ヲ感ジ、英米ハ我が海軍ニ對シテ、脅威ヲ感ジ、其結果ハ四大國ヲ刺激シ世界ニ孤立スルニ至ルハ、必然ノ勢デアアル。獨逸ハ孤立ト云ツテモ尙ホ埃・匈・勃・土ノ同盟國ヲ有ツテキタガ、日本ハ純粹ノ孤立デアアル。英國ガ全世界ノ四分ノ一ニ互ル所ノ領土ヲ有ツテキテノ孤立トハ、全ク異ツタ意味ノ孤立デアアル、此ノ點ニ就テモ、深思熟考シナケレバナラス。

(三) 政府ハ競争的方法ニ由テ、陸軍ハ露支ニ對シ、海軍ハ英米ニ對シテ、均勢又ハ優勢ヲ保持シ得ベシト考フル乎。

兵ノ強弱ハ、精神的及ビ物質的要素ノ多寡ニ由テ分ルベキモノデアアルガ、精神的要素ガ如何ニ充足シテモ、物質的要素ガ缺乏スレバ結局戰勝ノ利ヲ收ムルコトハ出來ナイ、而シテ陸軍ノ物

質的要素中最モ大切ナモノハ人口デアリ、海軍ノ物質的要素トシテハ金力ガ大切デアアル。充ツ陸軍ノ組織分子タル人口ヲ見ルニ、我が國ハ七千萬人デ(朝鮮臺灣ニハ、マダ徵兵制度スラ施行シテキナイ)露國ハ約一億六千五百萬人、支那ハ四億人デアアル。故ニ我が國同様ノ努力ヲスレバ、露ハ我ニ二倍、支那ハ我ニ四五倍ノ兵員ヲ訓練シ得ベシ。明治三十七八年ノ日露戰役ニ際シ、我が國ガ兵員ノ不足ニ苦メル事實ハ、將來モ亦アリ得ベキコトトシテ考ヘテ置カナケレバナラス、現ニ今年ノ徵兵検査ニハ、五尺以下ノ壯丁ヤ、近視者ヲモ、甲種合格者トシテ、採用シナケレバナライホド壯丁ノ不足ヲ感ジテキルヤウダ。

現在ノ支那ハ、尙ホ問題外デアルニシテモ、古來幾タビカ隆興シタ史例ノアル國民ダカラ、將來モ再ビ隆興シナイトハ限ラナイ。苟モ國策ヲ論ズルモノハ、現支那ノ病的狀態ノミヲ見ズ、病勢回復後ノ支那ヲモ、打算中ニ加ヘナケレバナラス。病衰中ノ支那ダケヲ見テ、打算シテハ其全快後悔ユルトモ、及ビ難キ違算ヲ生ズルデアラウ。

サレバ露支ト對抗スルニ方テハ、常ニ雨降ツテ地固マルノ結果ヲ齎ラスベク百方苦心シナケレバナラス。誤ツテ永ク怨恨ヲ抱カセルガ如キコトガアツテハ、露支其一ニ對スルダケデモ、日本ハ國力ヲ傾倒セザルヲ得ザルニ至ルコト、恰モ佛獨恨ミヲ結ンデ、人口ノ寡少ナ佛國ガ百年枕ヲ高ウスル能ハザルト同様ノ運命ニ陥ルカモ知レナイ。況ンヤ露支二國ヲ敵トスルニ於テヲ

ヤ。
海軍々備ノ爲メニハ、人員ハサマデ多キヲ要シナイガ、軍艦其他ノ器械的設備ヲ要スルコト、陸軍ノ比類デハナイ。故ニ陸軍ガ人力ヲ必要トスル如ク、海軍ハ金力ヲ必要トスル。巨大ノ經費ヲ以テ、多數ノ艦船ヲ造ラナケレバ如何ニ人材ガアツテモ海軍力ノ強大ヲ來スコトハ出來ナイ。

然ルニ其金力ニ於テハ、我が國ト英米ノ間ニハ、左ノ如キ相違ガアル（内閣統計局發行ノ國勢要覽ニ據ル）

第一表 國富

帝 國	百萬圓	人口一人當リ
北米合衆國	一一〇、一八八	一、七一〇
英 吉 利	八八〇、三八八	七、〇五二
英 吉 利	二八九、〇八一	六、三八五

我が國ノ農地ハ、世界無類ノ高價ニ評價サレテキルカラ、其實力ハ兩國ニクラベテ右表ヨリモモット少ナイノカモ知レナイ。左ニ全國民ノ一年中ノ所得高ヲ對照スル。

第二表 國民所得

帝 國	百萬圓	人口一人當リ
北米合衆國	一〇、六三六	一六五
英 吉 利	一六七、五九三	一、三三三
英 吉 利	六五、七〇〇	一、四一三

國民納稅力ノ多寡大小ハ、右ノ所得ニ準ジテ定マルノデアルガ、人口一人當リノ所得高ニ於テハ、我が國人ハ、残念ナガラ英米人ノ八分ノ一ニ過ギナイ。（「ポンド」ヤ「ドル」ノ國內的融通ノカト、圓ノソレトハ、必ズシモ其ノ名稱通りデナイト思フケレドモ、今ハ世上ノ慣例ニ依ツテ此ノ比較ヲ用ヒル。）從テ其納稅力モ八分ノ一程度ト見ナケレバナルマイ。然ルニ昭和十一年度ニ於ケル政府ノ總歲入ヲ比較スレバ、凡ソ左ノ如シ。

第三表 政府ノ總歲入

帝 國	百萬圓
北米合衆國	二、三〇五
英 吉 利	一九、四九七
英 吉 利	一三、六八六

右ノ日本政府ノ歲入中ニハ、八億餘萬圓ノ公債ヲモ加算シテアルニ反シ、英米ノ方ハ普通ノ歲入ダケデアルノニ、尙ホ米ハ我が八倍、英ハ我が五倍ニ達シテキル。更ニ各種租稅中ニ在テ主

要ノ位地ヲ占ムベキ所得稅ヲ對照スレバ、凡ソ左表ノ通りデアツテ、我が所得稅額ハ、米ノ十五分ノ一、英ノ十九分ノ一ニ過ギナイ。故ニ將來ハ尙ホ大ニ増加スベキ餘地ハアルガ、假リニ廣田内閣ノ立案通り、五億二千六百萬圓ニ増加シテモ、尙ホ英米ノ八分ノ一ニ過ギナイ。

第四表 所得稅(昭和十一年度)

帝國	百萬圓
北米合衆國	三、七九〇
英吉利	四、四四〇

(我が十五倍)

(我が十九倍)

右ノ如ク彼我ノ經濟力ニ、懸隔ガアルノダカラ、英米國民ト同様ノ奮發ヲシタノデハ、我が國ノ海軍力ハ、彼等ノ六割ハ愚カ、三割ニモ達スル事ハ出來ナイ、衣食住ノ費用マデ節約シテ、製艦費ニ充當シテモ、彼等ヲ相手ニ競争スレバ、我が國防ハ次第ニ危殆ニ赴カザルヲ得ナイ。然ルニ「ワシントン」條約終了ノ結果トシテ、英米ハ從來差控ヘテキタ條約範圍内ノ製艦ニ著手シ、又廢棄ヲ約束シタ所ノ艦艇ヲ保存シ、又備砲ノ口径ヲ増大スルコトニ決定シタ、日本モ勢ヒ之ニ對應シテ、勢力増加ノ計ヲ講ゼザルヲ得ナイ。是レ擴張競争ノ前提デアアル。(此所マデ書イタ時ニ、英國政府ハ、五ヶ年間ニ十五億磅、即チ我が二百五十七億圓ヲ以テ、海、陸、空ノ三軍ヲ擴張スルコトニ決定シタ由ノ電報ガ到着シタ。海軍ニモ多大ノ金額ヲ充當スルコトト

思ハレルガ、單ニ此ノ金額ダケヲ見テモ、我が國現在ノ富力デハ、競争ニ因テ、國防ヲ安全ニスルコトノ、非常ニ困難デアアル事情ガ分ララウ、但シ英國ノ軍備大擴張ハ歐洲ノ危機ニ處スルガ爲メデアツテ、歐洲ノ情勢ガ險惡ナレバ、險惡ナルホド、東洋ニハ手出シガ出來ナイコトトナル譯デアアル。

我が國人ハ頻リニ海軍ノ英米ニ及バナイコトダケヲ苦ニスルガ、商船ノ隻數及噸數ヲモ對照スベキデアアル。

第五表 商船ノ隻數及噸數

帝國	隻數	噸數
北米合衆國	二、三六七	四、二二五、六九〇
英吉利	三、〇二一	一一、九〇五、二八一
英吉利	六、八九一	一七、一八二、八五七

我が商船ノ噸數ハ、米ノ三分ノ一、英ノ四分ノ一ニ過ギナイ。戦闘艦ガ英米ノ六割シカナイコトヲ、國辱トスルナラ、商船ガ米ノ三割五分、英ノ二割四分シカナイコトモ亦國辱デナケレバナラヌ。現ニ軍艦ダケハ、我が國ニモ英米ノ最大戰艦ニ匹敵スベキ三萬五千噸級ノ戦闘艦ガアルガ、商船ニ至テハ、我が最大ノ秩父丸一萬七千噸ニ對シテ、英ニハ七萬九千噸ノ「クキーン・マリー」號ガアリ、佛ニハ七萬三千噸ノ「ノルマンデー」號ガアル。眞ニ國家ノ體面ヲ重ン

ズルモノハ、單ニ軍艦ノミヲ見ズシテ、他ノ方面ヲモ觀察シナケレバナラス。國力が豊富デナケレバ、到底十分ニ軍事費ヲ支辨スルコトハ出來ナイカラデア。其本ヲ量ラズシテ、只其末ヲ均シクセントスルハ、國家經營ノ本道デハナイ。

本員ノ知ル所ダケヲ以テスレバ、我が海軍將校中最モ政治的ニ優レテキタ人物ハ、山本權兵衛伯、加藤友三郎男、齋藤實子デアツテ、三人トモ首相トナツタ人デア。此ノ三人ハ、何レモ華府條約及「ロンドン」條約ヲ賛成シ、之ヲ以テ國防上ノ良計ト考ヘテキタノニ、現在ノ海軍首腦部ハ、却テ之ニ反對シ、條約廢止ヲ以テ、國防上ノ長策ト思ツテキルラシイ。本員ハ其理由ヲ知ラント欲シテ、二三ノ當局者ト會談シタガ、不幸ニシテ本員ノ首肯シ得ベキ説明ヲ聞クコトヲ得ナカッタ。故ニ本員ハ現在モ尚ホ左ノ如ク確信シテキル。

- (1) 無條約トナツタ將來ハ、其程度ニ濃淡強弱ノ差ハアツテモ、製艦競争ハ必ず起ル。
- (2) 經濟力ガ我ニ七八倍スル所ノ英米ト金力競争ニモ均シキ製艦競争ヲスレバ、如何ニ努力シ、如何ナル犠牲ヲ拂ツテモ、我が國防力ハ現在ヨリモ一層危殆ニ陥ラザルヲ得ナイ。
- (3) 之ニ反シテ、英米ト妥協シテ、制限條約ヲ締結スレバ、大ニ經費ヲ減少シテ、而モ現在以上ニ國防力ヲ増加スルコトガ出來ル。

然ルニ政府ハ無條約ヲ以テ、海軍國防ノ方針ト爲シ、製艦競争僅カニ其徵候ヲ示セルバカリノ

今日ニ於テスラ既ニ六億八千萬圓ノ經費ヲ要求シテキル。將來本格的ノ競争トナラバ、海軍費ノ激増恐ラクハ底止スル所ナカルベク、而シテ國防ハ益々危殆ニ赴クベシ。

明年度ノ増税及募債計畫ニ付テスラ、既ニ多大ノ不安ト恐怖ヲ感ズル所ノ國民ガ、今後無際限ノ誅求ニ戰慄スルハ、無理カラヌ次第デア。況ンヤ如何ナル大犠牲ヲ拂フモ、我が國防力ハ、英米ニ對シテ、益々弱小ナラントスルニ於テヤデア。政府ハ親切丁寧ニ右等ノ諸點ヲ説明シ、舉國人民ヲシテ犠牲ノ拂ヒ甲斐ガアルコトヲ知ラセネバナラス。

(四) 政府ハ軍備サヘ充實スレバ、國防ハ必ず安全ニナルト考ヘル乎。換言スルバ、軍備ノ充實ト、國防ノ安全トハ、常ニ並行兩立スルモノト考ヘテキル乎。

國際關係ガ同一ナレバ、軍備ノ充實ハ國防ノ安全トナルケレド、此ノ場合ニ於テスラ、對手國ノ充實力ガ、遠ク我ニ超過スレバ、軍備ノ充實ハ、必ずシモ國防ノ安全トハナラナイ。對手國ハ豊富ナル經濟力ヲ以テ、必ず我が國以上ノ軍艦ヲ造ルカラデア。

加之、世界列國ハ悉ク總歲出ノ二割内外ヲ軍事費ニ充當スルニ方リ、我が國ダケガ、五割近クノ軍事費ヲ使用スルトキハ、關係列國ハ我ニ侵略的野心アルカト推測シ、縱シソレガ無根ノ邪推デアツテモ、之ヲ解消セシメル事ハ容易デナイ。從テ他國ノ敵意ヲ惹起シ、國際關係ヲ惡化シ、其結果却テ國防ノ安全ヲ減少スルコトニナルノハ、獨逸ガ海軍ヲ擴張シタ爲メ、英國トノ

關係ヲ惡化シ、遂ニ敗北ノ最大原因ヲ作成シタ前掲ノ例ガアル、深ク鑑戒スベキデアラウ。カクテ軍備ノ充實ハ、其海軍タリ陸軍タルヲ問ハズ、對外關係上却テ國防力ヲ減少スルコトモアル。況ヤ軍備ハ國防ノ要部デアルガ、其全部デハナク、之ヲ運用スルニ方テハ、全國民ノ協力、科學的知識、經濟力等ヲ要スルガ、餘リ軍備ダケニ熱中シテ他ノ方面ノ事業ヲ怠ルトキハ、一朝事アルニ方テ、戰費ニスラ差支ヘルコトガアル。獨逸ガ戰場デハ敗ケナカッタガ降旗ヲ翻ヘスノ已ムヲ得ザルニ至ッタノハ、軍備以外ノ國防力ガ缺乏シタ爲メデアッタ。

適宜ノ軍備充實ハ普通ノ場合ニハ、國防力ヲ増加スルガ、過度ニ之ヲ充實スレバ、外ニ於テハ列國ノ猜疑ヲ招キ、内ニ於テハ財政ノ均衡ヲ失シ且ツ民力ヲ枯渴セシメ内外兩面ヨリ國防力ヲ減少スルコトニナル。然ルニ我が國人中ニハ、軍備サヘ充實スレバ、國防ハ安全ニナルト速斷スルモノガ多イ。故ニ國民ノ健康状態ノ惡イコトハ世界無比ト云ツテモ差支ナイホドデ、而モ年々惡クナリツツアルニモ拘ハラズ、未ダ衛生省スラ設置スルコトガ出來ナイ。軍備偏重ノ豫算ヲ作ルカラデアアル。是レデハ軍備ハ如何ニ充實シテモ、國防力ハ内外兩様ノ原因ヨリシテ減少セザルヲ得ナイ。

(五) 剛健ナル國家ニハ其時代ニ適應スベキ確乎不動ノ方針、即チ國是ガナケレバナラヌガ、現在ノ我が國ニハ一定ノ方針ガナイ。政府ハ茫漠トシテ捕捉スベカラザル形容語ヲ羅列スルコ

トノ代リニ、具體的方針ヲ確立スル意思ハナイ乎。

明治年間ニ於ケル帝國ノ大方針、即チ國是ハ、外人ニ對シテハ法權モ稅權モ有セザル哀レハカナキ状態ヲ脱出シテ獨立國當然ノ權利ヲ回復スルニ在ッタ。其手段方法ニ付テハ各人ミナ多少意見ヲ異ニシタニモ拘ハラズ、其大目的ニ至テハ舉國同見、一人ノ異議者モナカッタ。而シテ三十餘年間ノ努力ニ因テ、遂ニ其目的ヲ達成シタノミナラズ、嚴然トシテ世界八大強國中ニ列スルニ至ッタ。此ニ至ルマデノ方法トシテハ、緩急疾徐ノ差別ハアツテモ、歐米ノ武備ト文物ヲ採用スルヨリ外ハナカッタ。明治時代ニハ之ヲ稱シテ、「開國進取ノ國是」ト云ツタ。此國是ニ因テ、既ニ國權ヲ回復シ、八大強國ニ列シ、歐洲大戰後ハ五大強國ト呼バレルヤウニナツタ爲メ從來ノ國是ハ此ニ至ツテ一大轉換ヲ見ナケレバナライコトニナツタノデアアル。然ルニ舊方針ハ既ニ其目的ヲ達シテ、廢物ト爲ツタケレド、新方針ハ未ダ確立セラレズシテ、右往左往、前進後退、人々各々獨自ノ意見ニ從ツテ、彷徨スルコト恰モ夢遊患者ノ如キ状態ニナリ、或ハ大陸ニ伸ビントスルモノヲ生ジ、或ハ海洋ニ伸ビントスルモノヲ生ジ、一面ニ經濟的發展ヲ企圖スルモノアレバ、一面ニ武力的發展ヲ企圖スルモノモ現レテ居ルノデアアル。陸海兩省ニ總歲出ノ四割五割ヲ充當シ、更ニ之ヲ増加セントスルヲ見レバ、現在ノ國是ハ武力發展ニ在ルヤウニモ想ハレルケレド、大增稅ニ反對スル氣勢ノ激烈ナルヲ見レバ、其ノ眞意ハ

未確定ノヤウニモ思ハレル。之ヲ決定スルコトガ今日ノ急務デアアルニ相違ナイ。之ニ反シテ、文化的及經濟的發展ヲ以テ帝國將來ノ方針ト爲サント欲スルモノハ、既存ノ材料ヲ以テ、一ト通り其方案ヲ立ツルコトガ出來ル。此處デ問題トナルノハ、「現在ノ國際情勢ニ於テハ軍備擴張ハ已ムヲ得ナイ」ト云フ一事デアアル。

歐洲ノ危機ハ東洋ノ安機カ

歐洲列國ノ如ク、何ン時大戰爭ガ勃發スルカモ知レナイ所(否ナ西班牙ニ於テハ獨伊露ノ間ニ小規模ノ國際戰爭ガ既ニ開始サレテキル)デハ、軍備ノ擴張ハ已ムヲ得ナイガ、帝國ノ關スル限リ、東洋ニ於テハ支那以外ニハ戰爭ノ起ルベキ危險ハ少ナイ。且ツ歐洲ノ危機ハ東洋ノ安機デアラウ。歐洲ガ無事ナラバ、英米露等モ或ハ武ヲ東洋ニ用フルカモ知レナイガ、現在ノ如キ事態ノ下ニ於テハ、タトヘ其必要ガアツテモ、百方之ヲ回避スルニ相違ナイ。況ヤ彼等ハ、東洋ニ於テハ、武力ヲ以テ解決シ得ベキ問題ヲ有セザルニ於テヤ。外來の危險ガナイコトガ明白デアレバ、帝國ハ毫モ他ニ顧慮スル所ナク、自由自在ニ自國ノ大方針ヲ確立スルコトガ出來ル。ソレハ將來我が經濟力ガ豐富ニナリ、且ツ屬領統治ノ祕訣ヲ自得スルマデハ、武力發展ヲ斷念スルニ如クハナイト云フコトデアアル。既ニ平和的發展ト決心スル以上ハ、其方法ハ何人デモ容易ニ立テルコトガ出來ル。英米トハ戰爭ニ由テ解決シ得ベキ衝突點ガナイ。現ニ滿洲事

件ノ當時デスラ英米兩國ハ經濟的斷交ヲスラ回避シタ。將來帝國ガ該事件以上ノ大事件ヲ捲起セバ格別、苟モ然ラザル限リハ、彼等ヨリ挑戰的態度ニ出ル氣遣ハナイ、之ト友好關係ヲ維持スルハ極メテ容易ナ業デアアル。

只米國ハ折角獨立サセタ「フキリツピン」列島ヲ日本ニ取ラレルコトヲ心配スルダラウカラ日本ハ進ンデ其獨立ヲ保證スベキデアアル。ソレサヘスレバ米國ノ渡洋作戰ノ計畫ナドハ自然ニ斟酌サレ、日米間ノ製艦競争ハ大ニ之ヲ緩和スルコトガ出來ルヤウニナルデアラウ。

世間ニハ、露國トノ關係ヲ憂慮スルモノガ多イヤウダガ、露國ハ列國ニ對シテ不可侵條約ヲ提議シテ居ルカラ、我モ之ニ應ジテ締約スレバ良イデハナイ乎。漁業ヤ國境問題ノ如キハ普通ノ外交手段ヲ以テ之ヲ解決スベキデアアル。殘ル所ハ、共產主義ノ宣傳デアルガ、思想ハ思想ヲ以テ對抗スルヨリ外ニ、有效ナ防禦法ハナイ。武力ヤ刑罰ヲ以テ之ヲ防止スルコトハ、絶對ニ不可能デアアル。彼ガ共產主義ヲ宣傳スレバ、我ハ皇道主義ヲ以テ之ニ對抗スレバ良イデハナイ乎。ソレデハ對抗ガ出來ナイト云フノハ、自ラ世界無比ノ國體ヲ侮蔑スルモノデアアル。

大小強弱、智愚ノ天然的差別ヲ無視シテ、平等ノ生活ヲ爲サシメントスルガ如キ無法背理ナ共產主義ガ、知識階級ニ容レラレルノハ、ソレヨリ以上ノ無法背理ガ社會ニ行ハレテキルカラデアアル。閥閥財產等ノ他力ニ因テ、自力以上ノ位置ヲ得、生活ヲ爲スモノガ、多イカラデアアル。此

ノ弊風ヲ打破スル爲メニハ共產主義ガ、俗耳ニ入り易イカラ、自力相當ノ位置ヲ得ル能ハザル知識階級中之ヲ唱道スルモノガ起ルノデアル。彼等ハ實ハ共產ヲ求ムルノデハナク、公正ナル社會ヲ求メ、機會均等ヲ求ムルノデアル。故ニ資本主義ハ未ダ旺盛ナラザルモ、閱閱ノ情弊最モ太ダシカリシ露國ガ、先ヅ之ニ感染シ、獨國ガ次ニ之ニ感染シタ。獨逸ノ共產黨ガ最近ノ大統領選舉ノ際ニ、無慮六百萬ノ投票ヲ得議會ヘ約一百名ノ議員ヲ選出シタ事實ヲ忘レテハナラヌ。「ナチス」ノ勃興以來共產黨ハ一時武力ニ由テ壓抑サレテ居ルガ、其六百萬ノ選舉人ハ恨ヲ吞ンデ、鎮黙シテ居ルニ過ギナイ。他日機會ヲ得レバ、猛然トシテ蹶起スルデアラウ。將來「ナチス」ニ代ツテ獨逸ヲ支配スルモノハ、或ハ共產黨デアルカモ知レナイ。之ニ反シテ、英米ノ如キ資本主義的國柄ニ於テハ、却テ其社會狀態ガ、獨逸ヨリモ公正ニシテ有能者進出ノ道ガ開通シテキルカラデアル。我が國ニ於テモ、共產思想ノ蔓延ヲ豫防セント欲セバ、爵閥、財閥、軍閥等ヲ始メトシ、凡ソ閥ト名ノ附クモノハ、成ルベク速ニ之ヲ是正シ、能者進出ノ道ヲ開カネバナラヌ。露國ノ「コミンテル」大會ニ於テ、我が國ヲ以テ、共產思想ノ有望地ト決定シタノハ、閱閱財産ニ起因スル不平等不公平ノ情弊ガ、特ニ多イト認識シタカラデアル。而シテ此ノ情弊ハ、世ニ所謂皇道主義ニモ背戾スルモノト思ハレル。

支那トノ關係ニ至ツテハ、多端複雜ニシテ急速ニ之ヲ調整スルコトハ洵ニ容易ノ業デナイガ、

然シ既ニ國家ノ大方針ヲ平和的發展ト決定スレバ、調整ノ途ハ徐ロニ備ハルト思フ。而シテソレニハ大英斷ヲ要スル。玆ニ本員ノ卑見ヲ略陳シテ當局者ノ回答ノ便ニ供スル。

- (1) 滿洲國ヲバ極力庇護シ如何ナル場合ニ於テモ支那ニ復歸セシメザルコト
- (2) 滿洲以外ノ支那内地ニ於ケル政治及軍事ニハ直接ニハ勿論ノコト間接ニモ一切關係セザルコト

- (3) 支那ノ統一事業ト國權回復ニハ、其希望ニ應ジ政治的ト經濟的トヲ問ハズ、出來ルダケ援助ヲ與フルコト

- (4) 滿洲國及關東軍ヲシテ、支那關係ノ事項ニ就テハ總テ東京政府ノ方針ニ遵據セシムルコト

右ノ方針ヲ以テ誠心誠意ニ支那ノ統一及發展ヲ援助スル以上ハ、支那人モヤガテ滿洲ノ回復ヲバ斷念シテ、關内ヲ保全スルヲ得策ト考ヘルヤウニナリ、排貨抗日等ノ運動ヲモ廢棄スルニ至ルデアラウ。多年軋轢ノ結果デアルカラ、一朝一夕ニ拂拭スルコトハ出來マイガ、遠カラズシテ、ソウナルデアラウ。其方ガ支那全國民ノ利益デアルカラデアル

以上述べ來ツタ所ヲ實行スレバ、陸ニ於テハ露支ト衝突スルノ憂ナク、海ニ於テハ英米ト角逐競爭スルノ必要モナク、我が海陸ノ軍備ハ、大ニ之ヲ減少シテモ、國防ハ却テ現在以上ニ安全

ニナルノデアル。軍事費ニ於テ、節約シタ經費ヲ以テ、教育、衛生、農漁村ノ救濟、製造工業貿易等ノ獎勵ニ充當スレバ、サナキダニ躍進シツアル我ガ産業ハ、更ニ大ニ發達センコト疑ヲ容レナイ。サレバ多クノ年月ヲ經過セズシテ、我ガ經濟力、納稅力ハ英米トモ對抗シ得ルニ至ルデアラウ。

望ムベキコトデハナイガ、其中ニ、若シ歐洲ニ大戦争ガ起リ、米國モ之ニ參加スレバ、我ガ經濟力ハ一躍シテ、英米兩國ヲモ凌駕スルニ至ルハ、必然ノ勢デアル。斯クテ帝國ハ經濟的ニモ、武力的ニモ世界第一ノ富強國トナレバ、茲ニ始メテ意ノ如ク大和民族ノ使命ヲ全ウスルコトヲ得ベシ。

之ニ反シテ、現在ノ無方針狀態ヲ繼續スレバ、雷ニ軍備ヲ減縮スル能ハザルノミナラズ豫算ハ實際ナク膨脹シ、募債増稅底止スル所ヲ知ラズシテ、民衆ハ塗炭ノ苦ニ陥ルデアラウ。二者何レガ國家ノ長計大策デアルカ、眞ニ深思熟考ヲ要スルノ秋デアラウ。

(六) 政府ハ日獨協定ヲ以テ、我ガ國體擁護ノ爲ニ有利ト信ズル乎。
又將來益々此ノ協定ヲ強化セントスル乎。

有田前外相ハ、日獨協定ハ兩國協力シテ、共產主義ヲ驅逐シ、我ガ國體ヲ擁護センガ爲メニ締結シタルモノノ如ク説明シタガ、本員ハ獨逸ト協力スルコトガ、何故ニ此ノ二ツノ目的ヲ達ス

ル爲ニ必要デアルカヲ解スルコトガ出來ナイ。

(1) 前ニモ述べタ通り、獨逸ハ露西亞ニ次グ所ノ共產主義旺盛ナ國柄デアル。故ニ之ヲ驅逐スル爲メニハ、他國ノ助力ヲ求ムル必要モアラウガ、我ガ國ニハ毫モ其必要ハナイ。假リニ其必要アルトシテモ共產主義ノ旺盛ナ獨逸ノ力ヲ借ルコトハ火ヲ消サント欲シテ石油ヲ注グニ均シキ振舞デアル。

(2) 世界大戦争マデハ、神意ニ因テ帝位ニ居ルモノト傲語シテキタ廢帝ハ、國境ヲ接スル所ノ和蘭ニ流寓シテキルガ、獨逸國民ハ之ヲ迎立シヨウトハシナイ。又皇子皇族ヲモ路傍ノ人ノ如ク取扱ツテ居ル。我ガ國體ヲ擁護スルガ爲メニ如何シテ此ノ如キ國民ノ助力ヲ借りル必要ガアルノ乎。又彼等ハ如何ナル言行ヲ以テ我ニ助力シ得ルダラウ乎「自分等ノ爲ス所ニ傲フ勿レ」ト云フコトノ外ニハ助力ノ道ハナカラウデハナイ乎。

(3) 獨逸大總統「ヒットラー」ハ露國ニ對シテ宣戰ニモ均シキ暴言ヲ逞シウシテ居ル。之ト協約ヲ結ベバ、日露ノ關係ハ勢ヒ惡化セザルヲ得ナイ。支那トノ關係ガ頗ル險惡ナル今日ニ於テ、單ニ獨逸ヲ助クルガ爲ニ、對露關係ヲ惡化スルノ非ナルハ、何人ニモ理解ガ出來ソウナモノダ。

(4) 更ニ日獨協定ヲ強化シテ、軍事協定ト爲シ、東西呼應シテ露國ヲ攻メ、大勝ヲ得タト假

想セヨ。獨逸ハ歐露ニ於ケル肥沃繁榮ノ地ヲ割取スルヲ得ベキモ、我が國ハ「シベリア」ノ荒原ヲ得ルニ過ギナイデアラウ。純然タル「ヒットラー」ノ獵犬餘リト云ヘバ馬鹿々々シイデハナイ乎。故ニ既ニ締結シタモノハ仕方ガナイガ、此ノ上之ヲ強化スルガ如キコトナカラシテ望ム。

(5) 獨伊ノ專制主義ト、英米ノ自由主義トハ氷炭相容レザル性質ノモノデアツテ、獨伊ト英米トハ雷ニ經濟的ヤ政治的ノミナラズ、思想的ニモ調和シ難イ關係ニナツテキル。故ニ我が國ガ特別ニ獨伊ニ接近スレバ、自然英米ト隔離スルコトニナル。之ガ爲メニ生ズル思想上經濟上及軍事上ノ利害得失モ亦考慮スベキデアル。

(七) 現内閣ハ植民地返還ニ關スル獨逸ノ要求ニ應ズル意思アル乎。

前條ノ如キ無益有害ナリ獨協定スラ謳歌スル我が外交界デアルカラ、植民地返還ノ如キモ獨逸ガ之ヲ要求スレバ、我が政府ハ二ツ返辭デ之ヲ應諾スルカモ知レナイ。叢爾タル南洋ノ孤島、之ヲ返シテモ還サナクツテモ其事自身ハ餘リ大事件デアルマイガ、之ニ關連スル主義方針ニ至ツテハ將來ノ大問題トナルベキ性質ヲ有ツテキル。

現在ハ世界戰爭ノ結果獨逸カラ取上ゲタ植民地ダケガ、問題ニ上ツテキルガ、此ノ事件ハ元來ソシナ一局部ダケノ解決デ終了スベキ性質ノモノデハナイ。「ハウス」大佐ナドハ植民地再分配

ヲ唱ヘテキルガ、其具體的方法ハナイ。縱シ其方法ヲ立テテモ之ヲ實行スルコトハ出來ナイ。百歩ヲ讓ツテ實行シ得タトスルモ、人口ノ増減ヤ國運ノ盛衰ニ因テ再ビ不權衡ヲ生ズル。人口、富力、産業力等ヲ標準トシテ少クモ五十年ニ一回位ツツ再分配ヲシナケレバ、不平不満ト之ニ基イテ起ル所ノ紛争ハ、絶エナイダラウ。我が政府ハ此ノ如キ意見ニ惑ハサレテ、植民地問題ヲ取扱ハレザランコトヲ切望スル。

然ラバ現在我が國モ惱ミ又英米佛露支等ノ外全世界ノ邦國ガ悉ク惱ムデ居ル所ノ原料問題ハ如何ニシテ之ヲ解決スベキ乎。「宇宙ハ全人類ノ共有物デアル」ト云フ原則ヲ漸次實行スレバ好イノデアル。土地ハ日光ヤ空氣ト同ジク人類ニ取ツテ絶對的必要物デアルコトヲ承認シ、漸次之ヲ實行スレバ好イノデアル。世人ガ空氣ヤ日光ニ付テハ、此ノ原則ヲ承認シナガラ、獨リ土地ニ付テ、之ヲ承認シナイノハ、其知識道德ガ尙ホ卑低下爲デアル。其證據ニハ世ノ文明國ト稱スルモノハ、國內的ニハ何レモ此ノ原則ヲ承認シ、漸次之ヲ實行ニ移シテキル。封建時代ニハ武力ヲ以テ斬リ從ヘタ五十萬石百萬石ノ領分ヲ其私有物ト爲シテキタガ、今日ハ之ヲ國家ニ奉還シ、何人デモ法定ノ手續サヘ履行スレバ、之ヲ使用シ得ルコトニナツテキル。國際的ニ切り從ヘタ土地、即チ植民地ダケガ、尙ホ蠻習ヲ脱セズ、封建時代ノ諸侯ノ領地ト同様ニ取扱ハレテキルニ過ギナイ。文化ハ小ナルモノヨリ進ンデ、漸次ニ大ナルモノニ及ブノガ其順序デアルカ

ラ既ニ國內的ニ行ハレテキル事柄ハヤガテ國際的ニモ行ハレルニ相違ナイ。否ナ、ソウナルヤウニ盡カスルノガ、文化人ノ職責デアル。植民地再分配ノ如キ空論スラ世上ノ一問題トナツタノハ、文化進歩ノ過程ニ於ケル一現象ト見テ宜シイ。

米國ガ多年極東ニ向ツテ提唱シ、且ツ或程度マデ既ニ實行サレテキル所ノ「門戶開放」「機會均等」ノ主張ハ本人ハ未ダソウトハ氣ガ付カズニキルニシテモ「土地ハ空氣ヤ日光ト同ジク人類ノ共有物デアアル」ト云フ思想ノ顯現トシテ視ルベキデアル。純然タル國家ノ私有物ト見ルナラバ、他ヨリ右ノ如キ提議ヲ爲スコトハ、國際的儀禮ヲ解セザル無禮ノ言行デアアル。ソレハ兎モアレ門戶開放機會均等ノ提議ハ、極東ノ關スル限り、日米英佛支獨伊等ニ承認サレ、且ツ不十分ナガラモ、實行サレテキル。將來益々此ノ主義ヲ擴張シ且ツ獨リ極東ノミナラズ、廣ク世界ノ植民地ニモ實行スレバ、原料問題ヤ人口問題ハ、自然ニ解決セラレルデハナイ乎。其事ハ植民地ノ返還若クハ再分配ヨリモ、合理的ニシテ實行シ易ク、且ツ其結果ハ、一層良好デアラウ。返還ヤ再分配ハ、タトヘ出來テモ、強大國ダケノ利益トナツテ弱小國ハ之ニ均霑スルコトハ出來ナイガ、門戶開放機會均等ヲ實行スレバ、大小強弱ノ別ナク列國悉ク其利益ニ均霑スルコトガ出來ル。

帝國ガ經濟的發展ヲ以テ今後ノ國是ト爲ス以上ハ、門戶開放機會均等ノ主張ト、其實行ヲ以

テ、大方針ト爲スベキデアル。有ラユル機會ニ於テ有ラユル努力ヲ以テ差當リ此ノ主義ヲ、世界列國ノ植民地ニ實行セシメ、遂ニハ其本國ニモ實行セシムベキデアル。武力發展ニ要スルダケノ努力ト犠牲ヲ、此ノ大方針ノ爲ニ拂ヘバ早晚必ズ成功シテ世界ノ面目ヲ一新シ大ニ全人類ノ幸福ヲ増加シ得ベシト信ズル。知ラズ現内閣ハ此ノ國是方針ニ向テ邁進スルノ雄圖ナキ乎。

(八) 林首相ハ對外軍備ノ必要ヲ説クニ方リ、數々一觸即發ナドト云フ詩語ヲ用フルガ、ソレハ何レノ國ヲ對手トシテ云フノデアル乎。

英米露ハ歐洲ノ形勢極メテ險惡ナ今日ニ於テ、彼ヨリ手出シヲスル氣遣ハナイ。支那モ自ら進ンデ失地回復ニ著手スル準備ハナイノミナラズ、首相ハ前内閣ノ對支方針ヲ轉改シテ親善ヲ圖ル見込ノヤウデアアル。果シテ然ラバ一觸即發ノ對手ガナイデハナイ乎。又ナカラシムルヤウニカメナケレバナラス。對手ノナイノニ此ノ如キ險語ヲ使用スレバ、却テ接壤國ヲ刺激シ其誤解ヲ招ク結果ヲ生ズル。

現在ノ如キ歐洲ノ危局ニ處シナガラ露國ガ大軍ヲ「シベリア」方面ニ駐屯セシムルコトヲ欲セザルハ勿論デアラウ。ソレニモ拘ラズ、之ヲ爲スノハ疑心暗鬼ノ結果ニ過ギナイデアラウ此ノ疑心ト誤解ヲ一掃スル位ノコトハ平凡ナ外交官ニモ出來ル筈。不可侵條約ノ提議ニ應ジテモ又日獨協定ヲ緩和シテモ、其目的ハ達シ得ラレルデハナイ乎。又眞ニ一觸即發ノ危機ニ際會シテ居

ルナラ今後五年ニ互ル所ノ軍備充實デハ、手後レニナリハシナイ乎。又此方ガ五年掛ツテ軍備ヲ擴張スレバ二倍以上ノ人口ヲ有スル先方ハ我ヨリモ多ク擴張シテ、我が國防ハ現在ヨリモ危殆ニ赴キハシナイ乎。

(九) 杉山陸相ハ獨リ本員ノ質問ニ對シテノミナラズ他人ニ對シテモ、數々一二二六事件ハ政治的ノ腐敗ノ爲メニ起ツタヤウニ演ベテ居ルガ、ソレハ如何ナル事實ヲ指シテ云フノデアアル乎。墮落腐敗ト云ヘバ先ヅ殺人、強竊盜、贈收賄、詐僞取財、情實推舉等ガ、其重大ナル現象デアラウガ、ソレハ獨リ我が政治社會バカリニ限ツタ現象デハナイ。政黨者流ノ間ニ見ルダケノ墮落腐敗ハ、何レノ方面ニモ現レテキルノミナラズ、同ジ收賄デモ、政黨者流ハ何レモ皆ナ黨ノ爲ニ收賄シタノデアツテ、自己一身ノ爲ニシタノデハナイ。然ルニ他ノ方面ノ收賄者ハ、多クハ自己一身ノ爲メニシテ居ル。

又五・一五事件一二二六事件ガ、軍備以外ノ墮落腐敗ノ爲メニ起ツタノナラ、彼等ハ其張本人ヲ襲撃スベキ筈デアアルノニ、彼等ガ襲撃シタ人物ハ、犬養毅、齋藤實、高橋是清、渡邊錠太郎、岡田啓介、牧野伸顯、鈴木貫太郎、西園寺公望等何レモ三朝歴任ノ功臣デアツテ、而モ所謂腐敗墮落ニハ最モ縁ノ遠イ人々デアアル。加之、彼等ガ擁立セントシタ人物ハ、右等ノ諸君トハ比べモノニナラナイ人物デアツタ。優レタ人物ヲ殺シテ劣ツタ人物ヲ擁立スレバ、何故政海ノ墮

落腐敗ヲ匡正スルコトガ出來ル乎。彼等ト雖モ、其位ノコトハ分ラナイ筈ハナイ。從ツテ彼等犯罪ノ動機ハ、陸相ガ數々明言スルガ如キモノデナイコトハ、明白ナヤウダ。

縱シ、一步ヲ讓ツテ、陸相ノ説明ノ通りダト假定シテモ苟モ身ヲ陸軍ノ上層部ニ置ク者ハ、之ヲ口外シテハナラナイ。之ヲ口外スルコトハ、叛逆者ヲ庇護シテ、其後繼者ヲ誘起セシムル結果ヲ生ズル惧レガアル。政治社會ガ如何ニ腐敗墮落シテモ、軍隊中ヨリ多數ノ犯罪者ヲ出シテハナラス。明治初年以來、政界ノ腐敗墮落ガ昭和年代ヨリモ太ダシカッタコトハアツタガ、一二二六事件ノ如キ不祥事件ハ起ラナカッタ。畢竟軍紀ノ弛廢未ダ今日ノ如ク太ダシキニ至ラナカッタ爲メデアラウ。明治天皇ニハ臣民ノ犯罪ニ對シテスラ

罪あらばわれをとがめよ天つ神

民はわが身の生みし子なれば

ト仰セラレタ。然ルニ陛下ノ薫育ニ浴シタル軍人、特ニ軍紀維持ノ責ニ任ズル者ガ、自己ノ怠慢ヲ咎メズシテ、却テ罪ヲ政界ノ腐敗墮落ニ歸スルニ至ツテハ、本員未ダ其ノ可ナル所以ヲ解スル能ハザルヲ悲シム。

(十) 政府ハ所謂ル庶政一新ノ手段トシテ、官廳ノ新設及廢合ヲ企テテキルヤウダガ、海陸兩省ヲ合併シテ國防ヲ統一スル考ハナイ乎。

明治年間ニハ、内外ノ情勢上、海陸兩省ヲ對立サセル必要ガ有ツタガ、大正以後ハ、内ニ於テハ薩長兩藩閥ノ對立ガ解消シ、外ニ於テハ、露支ノ海軍力ガ消滅シタ。故ニ兩國ニ對シテ、防備ヲ施スノ必要ヲ認メテモ、ソレハ陸軍ダケデ好イ筈ダ。又經費其他ノ關係ヨリ武力ヲ背景トシテ、英米ト折衝スルヲ必要トセバ、其武力ハ海軍デナケレバナラス。英米佛ノ如キ富裕國デスラ、海陸兩軍ヲ對立的ニ充實スルガ如キコトハシナイ。カヲ海陸ニ分テバ、雙方共ニ弱クナルカラダ。古人モ「二兎ヲ逐フモノハ一兎ヲ得ズ」ト云ツテキル。

今ヤ帝國ハ國防ノ重點ヲ海陸何レニ置クベキ乎ノ大問題ヲ解決スベキ時機ニ際會シテキル。今日ノ機會ニ乗ジ、陸海兩省ヲ併合シテ、國防省ヲ設クルコトハ、庶政一新中ノ最大急務デアラネバナラス。之ヲ合併シテ一大臣ニ管理セシムレバ、大局ノ利害ヨリ打算シテ、「國防上ノ重點ヲ海陸何レニ置クベキ乎」ノ問題ハ困難ハアツテモ自然ニ解決セラルルデアラウ。又空軍ノ重要性ハ、將來益々増加スベク、英佛伊ノ如キハ既ニ空軍省ヲ設ケテ居ル。我が國デハ海陸兩省各々空軍ヲ設備シテキルガ、ソレハ雷ニ不經濟デアルノミナラズ、效果的デナイ。故ニ海陸各々一省ヲ置ク以上ハ、空軍省ヲモ設ケテ之ヲ統一スベキデアラウ。然シソレヨリモ寧ろ國防省ヲ新設シテ、三軍ヲ統轄セシムルガ好イ。ソウスレバ經費ヲ減ズルト同時ニ、國防力ヲ増加スルコトガ出來ル。

現在ノ如ク陸軍ハ大陸ニ伸ント欲シ、海軍ハ海洋ニ伸ント欲シ、國家ニ一定ノ方針ガナク、恰モ夢遊病者ノ如ク彷徨スルトキハ、折角天祐ニ浴セル帝國モ、或ハ左躓右顛、遂ニ意外ノ窮地ニ陥ルカモ知レナイ。

(十一) 帝室ノ尊榮ト人民ノ幸福ヲ維持スル將來百年ノ計ノ爲メニハ、今日ニ方リ、百方思ヲ凝ラシテ、武門政治ノ出現ヲ豫防スル必要ガアルト信ズ。現内閣ノ所見如何。

鎌倉以後徳川幕府ノ末ニ至ル最近七百年間ハ、武門政治ノ時代デアツテ、其間ニ養成發達シタ思想感情ハ、今尙ホ國民ノ大多數ノ頭腦ヲ支配シテキル。議會政治ガ満足ニ行ハレ難イガ如キ、軍部ノ權勢動モスレバ内閣ヲ壓スルガ如キ、近來ノ總理大臣ガ多ク軍人ヨリ出ルガ如キハ、皆ナ其結果デアル。此ノ如キ情勢ノ下ニ於テハ、油斷ヲスレバ全體主義統制主義其他ノ名義ヲ以テ、武力ヲ背景トスル所ノ獨裁政治即チ武門政治ガ、出現シ易イ。而シテ其結果ガ、朝廷ト人民ニ不利ナルコトハ、最近七百年ノ歴史ガ之ヲ證明シテキル。

然シ、軍人ヲシテ政治ニ關與セシムレバ、純忠至誠ノ士ト雖モ、知ラズ識ラズ、背後ノ武力ヲ政治ニ應用スルニ至ルハ、必然ノ勢デアル。而シテソレガ武門政治ノ端緒トナルノデアアルカラ、眞ニ君國ヲ愛スルモノハ、防微杜漸ノ計ヲ施サネバナラス。

彼ノ五・一五事件乃至二・二六事件ノ如キハ、青年將校ガ、政治ニ興味ヲ持ツタ爲メニ、人臣ノ

大節ヲ誤ルニ至ツタ事例デアアル。故ニ軍人ヲシテ政治ニ關與セシムルコトハ、嘗ニ國家ニ大害アルノミナラズ、兼ネテ亦軍人ヲシテ其身ヲ誤ラシムル原因トナル。之ガ統率ノ責ニ任ズルモノハ、深ク思フ玆ニ致シテ、紀律ヲ肅正シナケレバナラス。

現役ニ在ラザル軍人ハ、選舉權被選舉權ノ行使ヲ許サレテキルカラ、政治ニ關シテモ差支ナイコトハ、勿論ダガ、サリトテ、在郷軍人會ノ如キ軍人團體ノ名義ヲ以テ、政治ニ關與スルハ、武門政治ニ到達スルノ徑路トナル故之ヲ嚴禁スベキデアラウ。軍人團體ノ名義ヲ以テ、政治ニ關與セズトモ、普通人民トシテ、之ニ關與スレバ、好イデハナイ乎。軍人團體ノ名ニ於テ、政治ニ關與スレバ、自然ニ其武力ヲ用イタクナル。タトヘ使用セズトモ、他人ヲシテ其脅威ヲ感ゼシムル。ソレハ立憲政治下ノ大禁物デアアル。申スマデモナク、立憲政治ハ言論ト投票ニ依テ萬事ヲ解決スベキ政體デアツテ、武門政治ハ武力ニ依テ問題ヲ解決スベキ政體デアアル。此ノ兩者ハ其主義ト、最後ノ手段ニ於テ、絶對ニ相容レザル政治機構デアルカラ、苟モ憲政ヲ扶持シテ、帝室ノ尊榮ト人民ノ幸福ヲ保全セント欲スル者ハ、武力ヲ背景トスル者ノ政治的進出ハ、其現役將校タルト、在郷軍人タルヲ問ハズ、總テ之ヲ禁止シナケレバナラス。三百萬ノ會員アリト稱スル在郷軍人會ノ活動ハ、之ヲ單純ナル軍事關係ニ止メ、事ノ大小ニ拘ラズ、政治ニ關與セシメテハナラナイト思フ。陸軍大臣ハ此ノ點ニ關シテ、如何ナル見解ヲ有スル乎。本員ノ聽カ

ント欲スル所デアアル。

(十二) 現内閣ハ海陸軍備ノ國際協定ヲ提唱シ、以テ世界列國ヲ救フト同時ニ、自ラ救フ意圖ナキ乎。

英米露支ヲ對手トシテ、競争的ニ軍備ヲ擴張シテハ、帝國ハ如何ナル大犠牲ヲ拂ツテモ國防ヲ安全ナラシムルコトノ困難ナ次第ハ、既ニ記述シタ通りデアアル。陸相ハ我が五箇年計畫ガ成就スレバ、蘇聯ニ對抗シ得ベキ旨ヲ説イタソウダガ、我が陸軍擴張中ニ、先方ガ手ヲ束ネテ擴張セズニ居レバ、陸相ノ言フ通りニナルダラウ。若シ先方ガ帝國以上ニ擴張スレバ、他ニ豫想外ノ異變ガ起ラザル限り、我が對蘇國防力ハ、現在ヨリ弱クナラウデハナイ乎。其時ハ日獨協定ガ役ニ立ツト思ツテルカモ知レナイガ、「ヒットラー」ガ口ヲ極メテ蘇聯ヲ攻撃シナガラ、盛ンニ軍需品ヲ蘇聯ニ賣込デキルコトハ、我が當局者モ承知ノ筈デアアル。

英米露ハ、何レモ軍備ノ協定制限ヲ希望シテキルト認メラルルカラ近來ハ無條約論ノ急先鋒デアツタ所ノ帝國ガ、協定制限ヲ提唱スレバ、列國ハ必ず賛成スルデアラウ。縱シソレガ不成功ニ終ツテモ、別段ノ損害ハナク、若シ成功スレバ、世界列國ヲ救フト同時ニ、自ラ救フコトモ出來ル。是レ本員ガ此ノ問題ヲ提起シテ、現内閣諸公ノ意圖ヲ聽カントスル所以デアアル。

帝國前途ノ豫想

之ヲ要スルニ、現在ノ儘デ推移スレバ、豫想外ノ僥倖ニ遭遇セザル限り、帝國ハ數年ナラズシテ、凡ソ左記ノ状態ニ陥ルベキ憂ガアル。

- (1) 政府ノ經費ハ、際限ナク増加スルモ、募債増税共ニ困難ニ赴キ、財政的破綻ヲ免レザルベキコト。
- (2) 軍人ノ得意ト民衆ノ失意トハ、反比例ニ増加シ、軍民ノ關係ハ漸次離反スル虞アルコト。
- (3) 國家必要ノ事業ニ對スル經費ノ分配、其均衡ヲ失スルガ爲メ、不具的國家ヲ現出スベキコト。
- (4) 如何ニ軍備ヲ擴張シテモ、國防力ハ次第ニ減少シ、國勢ハ危殆ニ陥ルベキコト。
- (5) 四圍ノ列國ニ嫉視セラレ、帝國ハ益々孤立無援ノ位地ニ陥ルベキコト。
- (6) 孤立状態ヲ免レント欲シテ、獨伊ニ接近スレバ、政治的及經濟的ニ交渉ノ多キ英、米、露、支トハ益々隔離シテ、帝國ノ不利ヲ招クベキコト。
- (7) 躍進途上ニ在ル所ノ帝國ノ産業貿易ハ、當然ノ發展ヲ遂グル能ハズシテ、中道ニ挫折スルコト。
- (8) 軍需品關係者ダケ不當ノ暴利ヲ得テ、一般人民ハ生活難ニ苦シミ、社會的不平不滿ガ、愈々増加スルコト。

(9) 不正不當ノ方法ニ由テ起レル不平等ヲ打破スル方便トシテ、共產的思想ガ蔓延スル惧アルコト。

(10) 一步ヲ誤レバ、暴動内亂モ起リ兼ネマジキ患アルコト。

(11) 二二六事件ノ如キ惡質ノ不祥事件ガ將來再發スルカモ知レナイトノ憂ヒ尙ホ存スルコト。

(12) 明治大帝ノ最大偉業タル憲政ノ發達ハ、中道ニシテ挫折シ、武門政治トナラントスル惧アルコト。

右ハ前途ノ見透シデアルガ、帝國ニハ意外ノ天祐ガアルカラ、或ハ歐洲ノ大亂其他不期ノ事變ガ起ツテ、狂瀾ヲ既倒ニ廻スカモ知レナイ。只本員ハ天祐ヲ頼マンヨリハ、寧ロ人事ヲ盡シタク思フガ故ニ、忌憚ナク質問スルノデアアル。

今ヤ帝國ガ前記ノ如キ悲運ニ陥ラントスル根本原因ヲ尋ヌレバ、國民的智德ノ缺乏ニ在ル、而シテ言路ヲ壅塞シテ居ルコトガ其智德ノ發揚ヲ妨害スル大原因ナルニ相違ナイ。例ヘバ戰亂ノ勃發既ニ目睫ノ間ニ迫レルガ如キ歐洲列國カラ、悉ク總歲出ノ二割強ノ軍事費ヲ支出スルニ過ギナイノニ、我が國ダケガ、四割乃至五割ノ軍事費ヲ支出スルコトノ過度ナル次第ハ、説明サヘスレバ、何人デモ理解シ得ベキ問題デアアルニモ拘ラズ、言論壓抑ノ結果、之ヲ説明スルコト

ガ出來ナイ。説明スレバ生命財産ニ對スル脅威ガ來ル。其反對ニ勅諭ト刑法ヲ以テ政治關與ヲ禁ゼラレテ居ル所ノ軍人ノミハ、演說ニ文書ハ盛ンニ其意見ヲ發表スル。故ニ全國人民ハ單ニ一方ノ意見ノミヲ見聞シテ、之ニ盲從スル。是レガ近來ニ於ケル國歩艱難ノ最大近因デアルカラ、其匡救法ハ極メテ簡單明瞭デアアル。

甲 勅諭ト法律ノ明文ヲ厲行シテ、軍人ノ政治關係ヲ禁ズルコト。

(イ) 軍部ヨリ發行スル所ノ思想、經濟、政治等ニ關係スル文書ニハ總テ責任者ノ氏名ヲ署セ

シメ、且ツ主管大臣ヲシテ其責任ヲ負ハシムルコト。

(ロ) 軍部ノ意向、決心、決議ナドト題シテ、數々新聞紙上ニ掲載セラレル事項中、主管大臣

ノ命ニ由テ發表シタルモノノ外ハ、其當事者ヲ處罰スルコト。

乙 言論ノ自由ヲ確保シテ、其暴壓者ヲ嚴罰スルコト。

丙 政治ニ關與スベカラザル軍人ヲ教唆シテ、政治的行動ヲ爲サシメント企ツル者ハ、叛亂豫備罪トシテ嚴重ニ之ヲ處罰スベキコト。

右ノ三件サヘ實行セラルレバ、時勢相當ノ意見ガ勝ヲ制スルカラ、現在ノ如キ軍部偏重ノ論ヲ生ズル惧レハナクナルノデアアルガ、現在ノ輿論及議會ノ形勢ハ、自由ノ言論ニ因テ造ラレズ、其背後ノ武力ニ因テ作成セラレタ趣ガアル。其證據ニハ本員ガ二月十七日ニ衆議院デ演ベタ意見中

ニハ、大多數ノ贊成ヲ得タ所モアツタノデアアルガ、豫算案議決ノ際ニハソレト反對ノ結果ヲ現ハシタ。本員ハ重ネテ言フ「憲政ヲ維持シ、且ツ國家ヲ救ハント欲セバ、請フ先ヅ言論ノ自由ヲ確保セヨ。又武門政治ヲ豫防シテ、帝室ノ尊貴ヲ保タント欲セバ、請フ先ヅ軍人ノ政治ニ關與スルコトヲ禁遏セヨ」ト。知ラズ現内閣ハ、此二事ヲ遂行シテ、目下ノ國難ヲ救治スルニ努ムルヤ否ヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月八日尾崎行雄君提出ス同月二十三日林内閣總理大臣、結城大藏大臣、米内海軍大臣、杉山陸軍大臣及佐藤外務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

(一) 大藏大臣答辯

刻下内外ノ諸情勢ヨリ觀ルトキハ、國防ノ充實其ノ他ノ施設ノ爲ニ、當分ノ内、相當多額ノ歳出ヲ必要トスルコトニ付テハ覺悟スル所ナカルベカラズ、之ガ爲ニハ租稅收入ノ増加ヲ圖ル外、當分ノ内、相當額ノ公債ヲ發行スルハ又已ムヲ得ザル所ナルベシ

政府ハ今回前内閣ノ立案ニ係ル稅制改革案ハ姑ク之ヲ取止ムルコトトシ不取敢、租稅ノ臨時増徴ヲ行フコトトナシタルガ、尙政府ハ大體ニ於テ制度ノ整備ヲ主眼トシ中央地方ノ稅制ヲ改正セントスルノ意圖ナリ

(二) 陸海軍大臣答辯

帝國ノ陸海軍軍備ハ、我が國體ヲ擁護シ、國權ヲ維持シ、帝國ノ平和的存立發展ヲ保障スルニ要スル最少限度ノ整備ヲ目途トスルモノニシテ、或特定ノ國ヲ目標トスルモノニアラズ、又我

ガ國情、地理的環境及現下ノ國際情勢ニ鑑ミルトキハ、軍備ノ目標ヲ一方ニ極限スルコト能ハザルノミナラズ、假定ノ上ニ立脚シテ陸海軍備ノ一方ニ缺陷ヲ存スルトキハ、却テ他國ノ乘ズル所トナリ、戰爭誘發ノ危險大トナルベシ、即チ、現狀ニ於テハ、陸海軍備ハ兩々相俟ッテ始メテ國防ノ實ヲ完ウシ得ルヲ以テ、何レニ偏傾スルモ適當ニアラズ

(三) 陸海軍大臣答辯

第二項ノ答辯ニ述ベタルガ如ク、自主的ニ國防上必要ト認ムル最小限度ノ軍備ノ整備ヲ爲サント欲スルモノニシテ、毫モ列強ト軍備擴充ヲ爭ハントスルモノニアラズ、從ッテ、他國ニ追隨シテ之ト均勢又ハ優勢ノ兵力ヲ保有セントスルモノニ非ルコトハ、已ニ屢、政府ヨリ言明セル通ナリ

(四) 陸海軍大臣答辯

國防ノ安全ヲ期スルニハ、獨リ軍備ノ充實ノミナラズ、國家ノ綜合的國力ヲ向上發展セシメザルベカラズ

(五) 內閣總理大臣答辯

政府ハ曩ニ政綱ヲ公ニシテ、其ノ嚮フ所ノ大方針ヲ明カニシタルガ、今後ハ更ニ其ノ具體化ヲ圖リ、國運ノ進暢ニ大ニ力ヲ效スベシ

(六) 外務大臣答辯

我國體ト相容レザル「コミンテルン」ノ破壞工作ハ、國際的ナルヲ以テ、之ガ防遏ノ爲ニ國際的協力ヲ爲スコトハ、必要且有效ト認メラルルガ故ニ、政府ハ先ヅ「コミンテルン」策動ノ主要目標タル獨逸國トノ間ニ協定ヲ締結シタリ

(七) 外務大臣答辯

將來ハ其ノ運用ニ錯誤無キヲ期シ、協定ノ本旨ニ從ヒ、充分ノ成果ヲ舉グルニ努力スベシ

政府ハ舊獨逸殖民地タル南洋委任統治地域ノ返還ヲ考慮スルノ意思毛頭無シ、門戶開放機會均

等ノ主張ハ、從來有ユル機會ニ於テ、帝國ノ主張シ來リタル處ニシテ、今後ト雖モ之ガ實現ニ一層努力スベシ

(八) 內閣總理大臣答辯

我が帝國ハ東亞安定勢力タル特殊使命ヲ有スルニ鑑ミテ、東亞永遠ノ平和ニ力ヲ效シ、諸列強トノ交ヲ敦ウシ、特ニ外交ノ明朗化ヲ期シ居レルモ、滿洲事變後滿洲國ヲ中心トシテ醸成セラレタル其ノ周圍ノ形成ハ、國境紛爭等未ダ其ノ跡ヲ絶タズ、時ニ衝突ノ危險ナキヲ保セザルノ狀況ヲ見、遺憾ニ堪ヘザルモノアリ、一觸即發ノ語ハ、カカル狀態ヲ形容シタルモノナリ

(九) 陸軍大臣答辯

政界ノ腐敗ノミヲ責ムルニ急ニシテ、自己ノ責ヲ回避セントスル意志ハ之ヲ有セズ、政治的腐敗ノ事實ハ茲ニ之ヲ指摘セズ

(十) 陸海軍大臣答辯

陸海軍省ヲ合併シ國防省トナスコトハ、之ヲ考慮シ居ラズ

(十一) 陸軍大臣答辯

我國獨特ノ立憲政治ノ健全ナル發達ハ、之ヲ衷心ヨリ熱望スル旨屢々説明セル所ニシテ、我國ニ武門政治ガ出現スベシトハ、夢想ダニセザル所ナリ

(十二) 外務陸海軍大臣答辯

公正妥當ナル基礎ニ於ケル軍備ノ國際協定ニハ、政府ハ從來同様熱意ヲ以テ之ニ協力スルノ用意アリ
但シ、現下世界ノ情勢ニ照ストキハ、今日帝國ヨリ之ヲ提唱スルモ、其ノ目的ヲ達成シ得ル好機ナリト認ムルコト能ハズ
右及答辯候也

二〇 宮崎縣下各河川發電水利使用及官有林野解放等特種財源保有ニ關スル質問

宮崎縣ハ東西十七里南北四十里餘ニ互リ其ノ廣袤五百一万里ニシテ面積頗ル廣大ナリト雖其ノ四割五分ハ官有地ニシテ大部分ハ森林原野ニ屬シ民有地ハ五割五分ニ過キス而モ民有地租ノ内田地ハ二割、畑地ハ二割八分、宅地ハ三分ニシテ山林原野雜地租ハ實ニ四割九分ニ達ス而シテ人口八十五萬、其ノ一方里人口密度ハ僅ニ二二、六九一人ニシテ全國中北海道ニ次ク人口稀薄ノ地タリ從テ富力ニ於テモ甚タ低ク民間ノ產業亦農產物、林產物及水產物ヲ主トシ其ノ業態ハ舊態依然トシテ素朴幼稚ノ域ヲ脫セス即チ地理的人文の特殊事情ニ因リ財源貧弱ナルハ寧ロ宿命的的制約ニ屬シ將來ト雖財源ノ自然的増加ヲ期待シ能ハサルハ之亦明白ニシテ縣財政ノ前途ヲ顧念スル者夙ニ深憂措ク能サル所ナリトス加之歲出額ハ益々増加スルノミナラス土地廣濶ナル關係上諸般ノ施設ハ寧ロ分散的普遍的ニ之カ施行ノ必要ニ迫ラルル事情アリテ縣民ノ負擔ハ愈々累加スルノ趨勢ニアリ更ニ縣財政上到底默過シ能ハサルモノハ即チ地理的不可避ノ關係ト官有林ノ伐採亂行トニ原因スル大風水害及其ノ他ノ災害ニ對スル復舊費莫大ニシテ之カ負擔ニ堪ヘサルコトニシテ財政策トシテハ縣債ニ依ラサレハ支辨ノ途ナク今日極メテ厯大ナル縣債ノ數字ヲ示スニ至レルハ注目スヘキ特異ノ事相ト謂フヘシ

斯ノ如ク年々歲出ノ増加ヲ見ツツアルニ反シ歲入ニ於テハ財源益々涸渴シテ增收ノ途ナシ試ミニ國稅及地方稅ノ比較ニ付テ見ルニ國稅ノ全國一人宛平均額ハ六圓十七錢(昭和十年)ニ對シ宮崎縣ハ同上一圓八十八錢(昭和十一年)ニ當リ右全國平均額ヲ指數一〇〇トスレハ宮崎縣ハ僅ニ三〇ニ過キス之ヲ以テ見ルモ國稅負擔力ノ如何ニ貧弱ナルモノアルカヲ察知スルヲ得ヘシ然ルニ地方稅ニ至リテハ國稅百圓宛平均額ハ百五十二圓七錢ナルニ對シ宮崎縣ハ同上四百四十四圓六十二錢ニ當リ全國平均ヲ指數一〇〇トスレハ其ノ三倍ニ當ル二九二ノ過大ナル數字ヲ示ス以テ如何ニ地方稅ノ負擔カ縣民ノ經濟ニ重壓ヲ加ヘツツアルカヲ推知スルニ足ルヘシ此ノ機會ニ地方財政交付金制度ヲ創設實施セラルルハ洵ニ時宜ニ適シタルコトニシテ就中右交付金制度ノ實施ニ當リ稅源貧弱ニシテ負擔過重ナル地方ニ對シテハ特ニ其ノ地方ノ實情ニ應シテ租稅ノ再分配ニ依ル交付金ヲ以テ地方ノ財政安定ヲ期セムトスルハ蓋シ地方財政ノ前途ニ一大光明ヲ投スルモノト謂フヘシ更ニ地方財政交付金ノ配分方法ヲ公平ニシテ其ノ均衡ヲ計リ戶數割ノ全廢又ハ輕減及雜種稅ノ改廢ヲ期スルト共ニ併セ考察檢討スヘキハ負擔力涵養ノ爲產業資源ヲ國カ分與スルノ策ヲ樹テ其ノ地方ノ特別ノ事情ニ鑑ミ恆久的而モ彈力性發展性アル財源ヲ分與スルノ問題ナリ而シテ之カ實行ハ最緊切ナル要務ニシテ十分講究ヲ盡シ且地方ノ要望ヲ容認シテ以テ其ノ救濟ヲ爲シ大イニ將來ノ發展ニ資スヘキナリ

本員ハ此ノ見地ヨリ前述ノ如キ宮崎縣ノ現狀ニ顧ミテ少クトモ既得權益タル各河川ノ發電水利使用竝特別ノ事情ニアル國有林野ノ拂下解放及利用ニ關スル左記ノ各項ニ付政府ノ所見ヲ質サムトスルモノナリ

(イ) 發電水利使用ニ關スル特種財源保有ノ件

第一點

宮崎縣各河川ハ霧島山及祖母ノ山脈ニ水源ヲ發シ千古斧鉞ヲ加ヘサル蒼鬱タル森林溪谷ノ間ヲ蜿蜒流下シテ東太平洋ヘ注ク而シテ縣下各河川ハ到ル處豐富ナル水利發電力ヲ有シ現在發電中ノモノ既ニ一八四、九六九馬力ニ及ヒ將來開發スヘキモノ即チ

昭和十四年完成ノモノ

七八、四八〇馬力

既許可未著手ノモノ

一七、五四九馬力

工事實施未済ノモノ

三六、八八二馬力

水利使用出願中ノモノ

一二三、三八九馬力

ニシテ合計四四二、二六五馬力ニ達スヘク蓋シ宮崎縣ニ於テハ各河川ニ依ル發電水利ハ天與ノ一大資源タルト共ニ稅源涸渇セル縣財政上直接間接極メテ有力ナル財源ニシテ大正十三年縣外ニ送電スルモノニ對シテハ一馬力一圓宛ヲ水利使用料ニ代ル寄附金トシテ夫々水力電氣事業

會社トノ間ニ締結セル契約ニ基キ徵收シ更ニ昭和三年ニ至リ縣外送電一圓五十錢、縣内供給ノ水利發電ニ對シテモ亦一馬力一圓ノ使用料ニ代ルヘキ寄附金ヲ收納スルコトトシ第一期ニ於テ縣外送電ノモノ及縣内供給ノモノ併テ總額二十九萬圓ニ上ル寄附金收入ヲ以テ縣債償還ノ財源タラシメ種々重要事業ヲ計畫實施セリ

然ルニ昭和七年ニ至リ内務遞信兩省カ強制的ニ料金徵收率ノ低下ヲ要求シタルハ實ニ宮崎縣ノ實情ヲ無視シタルモノニシテ一時ハ縣民ノ輿論激化ノ徵アリシモ本省示達已ムナク將來ニ於ケル新規發電ノモノニ對シテハ常時理論馬力一馬力ニ付一圓而シテ常時理論馬力、最大理論馬力トノ差ニ依ル一馬力ニ對スル五十錢ノ使用料ヲ徵收スルニ止メ從來ノ分ニ對シテハ昭和十二年度迄縣内外ノ供給ヲ問ハス總テ最大理論馬力一馬力ニ付一圓ヲ水利使用料トシテ徵收シ現在十八萬圓餘ノ寄附金ヲ收納シツツアリ殊ニ昭和十三年度ヨリハ之ヲ一般水利使用料トシテ收入スルヲ要スル結果其ノ收入額亦十三萬餘圓ニ減スルコトトナリ縣財政ノ一大脅威ニシテ只サヘ財源窮乏ノ縣ナレハ之カ補填ノ途ナク財政經理ノ上一大支障ヲ訴フルニ至ルヘキハ火ヲ賭ルヨリ瞭カナリ故ニ政府ハ此ノ實情ニ照シ再檢討シテ縣財源ノ増加ヲ期セシムル爲昭和三年當時ノ計算ニ基キ徵收シ得ルヤウ考慮サレタシ政府ノ所見如何

第二點

第三章 質問及答辯

若試ミニ現在水利使用料算定ノ基準ニ依リ其ノ收納額ヲ算出スルトキハ昭和十四年ニ至リ二十六萬四千圓餘ニ達シ全部發電開始後ハ四十四萬二千圓、更ニ遡テ昭和三年當時ノ計算ニ依ルトキハ昭和十四年三十五萬圓、將來ハ約六十萬圓ノ收入ヲ當然得ヘキモノニシテ縣トシテ斯ノ如キ財政上極メテ重大ナル既得權益ヲ喪フコトハ全然縣民ノ默視シ得サル所ナリ

前述ノ通り昭和三年ヨリ水利使用料二十九萬圓ノ收入ヲ目的トシテ縣政上ノ重要事業ノ起債財源トセルニ拘ラス本省ノ示達ニ依リ遂ニ收入率低減ノ爲現在ハ收入額十八萬圓トナリ更ニ昭和十三年度ヨリ十三萬圓ニ減少スルニ及ヒテハ既往及將來ニ於ケル縣債償還財源ニ愈々大ナル缺陷ヲ生セシメ從テ之カ補填ノ爲一般歳入ニ依ル縣民負擔ノ増加亦已ムヲ得サルトスルモ到底負擔能力ナク縣財政ノ破綻ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ政府ハ宮崎縣ノ實情ニ顧ミ天與ノ既得權ノ確保ハ勿論財源保有ノ爲他ニ特殊ノ方法ヲ考慮セラレタシ所見如何

第三點

近ク政府カ企圖スル國營電氣事業實施ノ曉ニ於テハ此ノ既得權益ニ對シテ使用料ニ代ルヘキ交付金ノ交付率ニ對シテ相當増額セラレムコトヲ切望シ尙未許可ノ水利權ニ付テハ悉ク國營管理ノ下ニ移サレ此ノ結果縣財政ノ將來ニ於テ最有力ナル財源トシテ多年渴望シ來レル之等水利使用ニ依ル收入カ全ク水泡ニ歸シ從テ縣政伸展ノ將來ニ應スヘキ諸多ノ新計畫亦畫餅ト

ナリ縣民ノ失意落膽ハ到底筆舌ニ盡シ得サルモノアリ國營電氣事業實施ノ曉ニ於ケル之等關係權益ノ處置及方針如何

(ロ) 官有林野解放其ノ他ニ關スル件

第一點

宮崎縣ハ前述ノ如ク國有林野ノ面積ハ頗ル歴大ニシテ其ノ經營ハ今日著シク公企業化シ寧ろ産業行政タルコトヨリモ財務行政ニ主力ヲ注キ收入本位トナル傾向アル爲却テ直接間接地方財政及産業ニ影響スル所少カラス亦實際問題トシテ公企業ヨリモ私企業ニ移スコトニ依テ有利ノ點多シ仍テ將來地方財政ノ財源涵養又ハ産業資源開發ノ目的ヲ以テ適當ニ國有林野ノ解放拂下ヲ斷行セラレタシ政府ノ所見如何

第二點

若將來廣大ナル國有林野ノ拂下又ハ部分林制度ノ擴大施行等ヲ爲サス更ニ公企業化スル場合ニ於ケル之カ保護監視ハ地元民ノ愛護ニ俟タサルヘカラス此ノ見地ヨリ關係地元町村ニ對スル交付金ヲ増額セラルルハ當然ナリ政府ノ所見如何

第三點

部分林制度ノ擴大ノ意思ナキヤ尙部分林伐採後跡地ヲ緣故拂下ヲ爲シ引續キ造林セシメテハ

如何即チ部分林ハ少クトモ伐採期ニ至ルマテ五十年、其ノ間造林者ハ其ノ土地ニ手入シ且樹木ヲ愛護シタルモノニシテ伐採後ト雖其ノ跡地ニ對スル愛著心ハ頗ル濃厚ナルナリ此ノ意味ヨリ以上ノ方針ヲ希望スルモノナリ政府ノ所見如何

第四點

國有林野中作付適地多ク之ヲ田又ハ畑地トスルコトニ依リ其ノ利用率増大スルモノナレハ之カ合理化ノ爲開墾豫定地ヲ擴大シ而モ其ノ貸付ノ簡易化ヲ計リ農山村ノ救助ニ資シテハ如何

第五點

海岸空地利用ハ現時早熟作物ノ栽培及各種特用作物ノ作付ノ上ニ頗ル有利ノ點多シ海岸空地ノ利用厚生ハ決シテ等閑ニ付スヘキモノニ非ス積極的ニ拂下ケテハ如何

第六點

官有林、立木ノ拂下、賣却ニ當リテハ從來資本家ノ獨占ナリシ弊ヲ改メ農山村救濟更生ニ重點ヲ置キ特ニ木炭用原料木ノ拂下ノ如キハ地方ノ産業組合員ニ利用セシメ資金ノ供給、製品ノ販賣ヲ組合中心トスルノ要アリ又之ニ依リテ雙方トモ頗ル有利ナリ政府ノ所見如何

第七點

各河川及海岸地ニ於ケル土石及砂利ノ賣却料金ハ從來大藏内務兩省ノ收入トナリタルモ其ノ

關係町村ノ財源ニ之ヲ充當セシムルヲ要ス政府ノ所見如何
右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月八日伊東光男君提出ス同月二十三日結城大藏大臣、山崎農林大臣、兒玉遞信大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ右ノ答辯ヲ爲ス

(イ) 發電水利使用ニ關スル特種財源保有ノ件

第一點及第二點

河川法ニ依リ徵收スル發電水利使用料ハ從來發電ノ理論馬力ヲ標準トシ常時一理論馬力ニ對シ年額一圓常時理論馬力ト最大理論馬力トノ差ニ對シ年額五十錢ヲ徵收シ得ルモノト定メ其ノ範圍内ニ於テ徵收スルコトヲ認メ來レリ宮崎縣ハ前記徵收額ノ最高額ヲ徵收シ來レルモノナルモ水利使用料ヲ徵收スルハ需力會社ノ一部ニ過ギズ他ノ大部分ノモノニ對シテハ水利使用料ニ代ヘ最大一理論馬力ニ對シ年額一圓ノ割ヲ以テ寄附金ヲ納付セシメ今日ニ至リタリ此ノ寄附金ハ普通ノ場合ニ比シ高率ニ上ルモノニシテ、昭和十三年度ヨリ當然水利使用料ニ改ムベキモノナルモ窮迫セル宮崎縣ノ財政ニ重大ナル影響アルコトハ政府ニ於テモ認ムル所ナルヲ以テ政府ハ之等諸點ヲ併セ考慮シテ適當ナル措置ヲ爲サムトス

第三點

電氣事業ノ國營ガ實現スルモ、電力會社ヨリ徵收シ得ベキ水利使用料ニ相當スル金額ハ之ヲ可及的府縣ニ收納セシムルノ方途ヲ講ジ府縣ノ財政ニ惡影響ナキ様考慮セムトス

(ロ) 官有林野解放其ノ他ニ關スル件

第一點

國有林野ハ治水其ノ他國土保安上重要ナル關係ヲ有スルノミナラズ林利ヲ永遠ニ保續シ民業

ニ適セザル巨材、特殊用材ノ如キ材種ヲ生産シテ國民經濟ノ需要ニ備フルト共ニ他地元産業並ニ地元經濟ノ充足伸張ヲ圖ル方針ニ依リ一定ノ計畫ノ下ニ經營セルモノニシテ宮崎縣下ノ國有林野ハ十八万一千百餘町歩ニシテ此ノ中不要存置國有林野ハ地方ノ事情ニ順應シ拂下處分ノ見込ナルモ其ノ餘ノ要存置國有林野ハ前叙ノ國有林野本來ノ使命達成上必要ナル林野ニ屬シ永ク國有トシテ存置スルノ要アルモノナリ

第二點 國有林野ノ中管理上地元民ニ其ノ保護ヲ委託スルノ必要アルモノニ付テハ委託林ノ制度ヲ設ケ町村又ハ部落ニ其ノ保護ヲ委託シ之ガ代償トシテ自家用薪炭材及副産物ノ無償採取ヲ許可シ來リタル所ニシテ將來ニ於テモ本制度ノ活用ヲ計ル見込ナルヲ以テ保護委託ノ増加ヲ理由トシテ國有林野所在市町村交付金ヲ増額スルノ要ヲ認メズ

第三點 政府ハ地元産業ノ狀況竝從來ノ慣行等ヲ參酌シ必要ナル林野ハ部分林ノ設定ヲ許可シ現在宮崎縣下ニ於テハ一万七千餘町歩ヲ算スル現況ナリ而シテ之等部分林ノ伐採後ハ契約更新ヲ爲ス場合アルベキモ部分林地ノ拂下ニ付テハ考慮シ居ラザルモノナリ

第四點 國有林野中農耕適地ニ付テハ地元ノ狀況等ヲ參酌シ拂下又ハ貸付ノ方法ニ依リ之ガ耕地トシテ利用セシムル方針ナリ

第五點 海岸ニ所在スル農林省所管ノ國有林野ハ概ネ防潮防風保安林ナルヲ以テ農耕地トシテ拂下利用セシムベキ土地ハ存在セズ

第六點 國有林野所在ノ地元民ニ對スル自家用竝稼用ノ用薪材ノ供給ニ關シテハ其ノ實情ニ應ジ可及的地元ノ要望ニ副フ様努メツツアル所ニシテ又一面木炭金融竝販賣ノ合理化ヲ圖ル爲ニハ産業組合ヲ中心トシテ低資ノ供給販賣ノ斡旋ヲ爲サシメツツアリ

第七點 各河川及海岸地ニ於ケル土石及砂利ノ賣却料金ハ河川法ノ適用若ハ準用ナキモノハ國ノ收入トナリ居ルモノ之ヲ關係町村ノ財源ニ充當スルヤ否ヤニ付テハ尙考究ノ上決定スルノ要アルモノト認ム右及答辯候也

二 千葉縣綠海村ニ於ケル縣警察隊ノ部落封鎖小學校舍破壊教育勅語冒瀆竝無政府村ノ出現及學童迫害ニ關スル質問

近來地方人民共通ノ不滿ハ實ニ官僚獨尊ノ脅威ニアリ而シテ昨年千葉縣山武郡綠海村ニ起ル所謂房總七二六事件ハ地方ニ於ケル官僚獨尊ノ如何ニ恐ルヘキカヲ暴露シタルモノニシテ端ヲ小學校舍移築ニ對スル縣當局ノ輕卒非常識ナル措置ニ發シ一半ノ村民愕然トシテ反對陳情ノ舉ニ出ツルヤ縣當局ハ以テ官廳ノ威信ニ關スト爲シ警察權ヲ濫用シテ手段ヲ選ス反對部民ヲ彈壓シ威力ヲ以テ之ヲ懾伏セシメムトシテ果サス民間有志カ之ヲ憂ヘテ調停解決ニ乘出スヤ陽ニ之ヲ贊シテ陰ニ之ヲ忌ミ反對部民カ圓滿解決ヲ信シテ安心セルニ乘シ亂暴ニモ武力ヲ以テ之ヲ強行セムト企テ七月二十六日夜半縣下ノ警察官ヲ動員シテ一隊ヲ以テ反

對部落ヲ封鎖シ一隊ヲ以テ授業期間中ノ小學校舎ヲ包圍シ一舉ニ之ヲ破壊シテ他ニ撤去シ以テ學童及反對部落ヲシテ名狀スヘカラサル悲痛混亂ニ陥ラシメ遂ニ二千ノ反對部民ヲ驅リテ縣政ヨリ離レテ獨自ノ新村ヲ結成シ三百ノ學童ヲ私塾ニ擁シテ自ラ教育スルノ餘儀ナキニ至ラシメタリ爾來日ヲ經ルコト既ニ九箇月村民ハ有ラユル迫害ニ對シテ頑然死守シテ屈セス縣當局ハ威信兩ツナカラ地ニ墜チテ今尙策ノ出ツル所ヲ知ラス甚シキハ校舍破壞ノ際恐レ多クモ教育勅語謄本ノ奉安ニ關シ重大ナル不敬ノ失態ヲ演シナカラ極力之ヲ曲庇シテ責任回避ノ態度ニ出ツ抑々警察隊ヲ以テ自治體及教育機關ヲ襲撃破壊スル既ニ空前ノ暴舉タリ之カ爲縣政ヨリ遊離セル無政府村ノ出現ヲ餘儀ナクセシメ陛下ノ赤子ヲ政澤ノ外ニ遺棄シテ今尙之ヲ迫害スルニ至リテハ聖代許スヘカラサル暴政ニ非スヤ況ヤ之カ爲未タ一人ノ責任者ヲ出サス監督ノ政府亦之ヲ放任スルニ至リテハ政府ハ本來何ノ爲ニ存在スルヤヲ疑ハサルヲ得ス仍テ左記事項ニ付內閣總理大臣、內務大臣及文部大臣ノ責任アル答辯ヲ求ム

一 綠海村ノ學校位置問題ハ十年來上側即チ純農部落ト下側即チ半農半漁部落ト爭ヒ來リタルモノニシテ六年前當時ノ村當局ハ多年ノ紛爭ヲ一掃セムト欲シ位置ノ公平ナル選定ヲ縣當局ニ仰キ縣カ専門的調査ニ依リテ最適當ト指定シタル場所ニ全村會一致ヲ以テ決定建築シタルモノナリ然ルニ一昨年新村當局カ上側村會議員ノ多數ニ依リ新築漸ク五年ヲ過キサ

ル前述ノ校舎ヲ僅々百餘間ノ上側ニ移築スルノ議ヲ決シ縣ノ認可ヲ求ムルヤ縣ハ下側村民カ情理ヲ悉クシテ其ノ不當ヲ哀訴陳情シタルニ拘ラス唯村會多數決ノ一事ヲ理由トシテ前任縣當局ノ苦心ヲ無視シ將來ノ影響ヲ慮ル所ナク輕卒ニモ之ニ認可ヲ與ヘ以テ今次紛爭ノ因ヲ作レリ素ヨリ多數決ハ會議政治ノ原則ナリト雖本件ノ如キ場合唯村會多數決ノミノ故ヲ以テ必ス之ヲ認可セサルヘカラストセハ縣ノ監督權ハ無用ノ存在ナルノミナラス將來村會勢力ノ消長毎ニ學校ノ位置ハ上轉下行シテ止マル所ナク實ニ自治ノ圓滿ナル發達ヲ害スルノミナラス小學教育機關ヲシテ町村爭覇ノ火中ニ投スルノ結果ヲ招來スヘシ政府ハ縣當局ノ措置ヲ以テ當ヲ得タリト爲スカ

二 縣ノ移築認可ニ對シ下側村民カ依然トシテ反對陳情ヲ繰返スヤ縣當局ハ綠海村ヲ管轄スル成東警察署長ニ態々下側ト反對ノ立場ニ在ル同村上側出身ノ齋藤某ヲ任命シ職權ヲ濫用シテ極力下側反對民ヲ彈壓セシメタリ例ヘハ反對民ニ對スル債權者ヲ警察署ニ招致シテ告訴ヲ要請シ以テ反對者ヲ窮地ニ陥レムト企テ債權者ノ義憤的拒絕ニ會ヒテ失敗シタルカ如キ又移築絕對反對ノ書面ヲ上側ノ一友ニ送レル下側ノ者ヲ捉ヘテ拘留ニ處シ釋放ニ先チ捕繩ヲ以テ胸部ヲ緊縛シ更ニ之ヲ椅子ニ括リ附ケテ署長ノ面前ニ据エ「君ニハ氣ノ毒ナルモ斯クセサレハ反對ハ屏息セス加之校舎移築ハ縣ノ絕對的指令ナルヲ以テ如何ナルコトア

ルモ必ス之ヲ斷行スヘシ萬一之ヲ妨クル者アラハ直ニ全縣下ノ警官ヲ動員シテ之ヲ壓伏スヘク必要ニ應シテ軍隊出動ノ用意モアリト威赫シタルカ如キ或ハ下側反對ノ村稅滯納者等ニ對シ警官三名カ村吏ヲ帶同シテ家宅ニ臨檢シ入口ノ障子其ノ他見易キ場所ニ長大ノ差押封印ヲ貼附シ其ノ後屢警官ヲ派遣シテ様子ヲ窺ハシメ偶々其ノ一部カ剝離セルヲ發見スルヤ數名ノ警官直ニ其ノ家ニ侵入シ主人ヲ引致シテ交換的ニ反對運動中止ヲ強要シタルカ如キ其ノ他一々之ヲ指擧スルヲ略スト雖以テ縣當局ノ人事行政ノ非常識ト警察ノ惡辣ナル職權濫用ノ一端ヲ窺知スルヲ得ヘシ政府ハ右警察署ノ行動ヲ以テ當ヲ得タリト爲スカ

三 成東警察署ノ彈壓痛ク下側反對民ノ憤怒ヲ買ヒ人心漸ク惡化スルヤ此ノ儘ニ推移セムカ他日遂ニ拔クヘカラサル禍根ヲ殘サムコトヲ憂ヒ有志ノ士ハ頻リニ縣當局、成東署及綠海村上側竝下側ノ間ヲ奔走シテ圓滿解決ニ乗出スニ至リ下側モ遂ニ其ノ誠意ニ動カサレ一切ヲ擧ケテ調停者ニ一任安堵シ調停ノ有志亦縣當局ト折衝ノ間ニ何事ソ縣當局ハ陽ニ之ヲ迎ヘテ圓滿解決ニ贊シナカラ陰ニ村及成東署ヲ指揮シテ遮ニ無二校舍ノ移築強行ヲ企テ竊ニ縣警察部巡查教習所其ノ他縣下ノ各署ヨリ百數十名ノ警官ヲ動員シ成東署員ト合シテ七月二十六日午前三時ヲ期シ突如一隊ヲ以テ下側部落ヲ戒嚴封鎖シ一隊ヲ以テ小學校ヲ包圍シ署長及村長指揮ノ下ニ百數十名ノ人夫ヲシテ警官ト協力シ疾風迅雷ノ勢ヲ以テ校舍ヲ破壊シ之

ヲ所定ノ上側ノ新築地ニ運搬ヲ始ムルニ至レリ黎明ニ及ヒ朝起會員トシテ校門前ノ道路掃除ニ來レル學童等ハ此ノ光景ヲ睹テ愕然色ヲ失ヒ警官叱咤ノ間ヲ縫ヒテ恰モ火事場ニ物ヲ探スカ如ク自己ノ學用品ヲ索メテ得ス悲叫シテ家ニ歸ルニ及ヒ部民ハ始メテ朝來物々シキ武裝警官隊ノ來往カ吾等ノ愛兒ノ校舍破壊ノ爲ノ吾等ノ部落封鎖ナルヲ知り卑怯極マル暗打的暴擧トシテ悲憤一時ニ激發シ各自警戒ヲ突破シテ決死ノ集合ヲ爲シ署長以下警官隊包圍ノ裡ニ異口同音官憲ノ暴狀斯ノ如シ吾等ハ最早ヤ本村ヨリ離レテ吾等ノ兒童ヲ吾等ノ手ニ依リテ教育スルノ外ナシト叫ヒ即時私學設立、村稅不納、警察排斥ノ議ヲ決シ獨立自營以テ縣ノ虐政ヨリ回避スルニ至レリ抑々警察ノ使命ハ社會生活ノ秩序ヲ維持スルニアリ然ルニ縣當局ハ上述ノ如ク反對部民カ圓滿解決ヲ信シテ安堵シ毫モ不穩ノ狀ナカリシニ拘ラス此ノ秩序維持ヲ使命トスル警察隊ヲ以テ夜陰ニ乘シテ包圍急襲シ一舉秩序ヲ破壊シテ無政府狀態ニ陥ラシメタルモノニシテ其ノ行動ハ之ヲ叛徒馬賊ニ比スヘク其ノ思想ハ庶民ヲ犬羊視スル昔日ノ暴吏ト選フ所ナシ部民カ呼ンテ以テ警匪ト爲シ今尙之ヲ怨敵視シテ毎月二十六日ヲ記念スル故ナキニ非ス若夫レ授業中ノ校舍ヲ豫告ナクシテ警察力ニ依リ急襲破壊セルコトカ如何ニ童心ニ影響シタルカニ至リテハ一度彼等ノ綴レル感想文ヲ讀ム者ヲシテ思ハス肌ニ粟ヲ生セシム政府ハ右縣當局及警察隊ノ行動竝學校破壊ヲ以テ當ヲ得タリト

四 前項ノ校舍破壊ニ際シテ起レル最恐懼ニ堪ヘサル一事ハ實ニ教育勅語謄本奉護ニ關スル失態ナリトス即チ當日午前三時十五分頃成東署長及綠海村長ハ多數ノ警官及人夫ヲ引率シテ突如校舍ニ乘込ミ先ツ使丁及宿直教員ヲ呼起シテ今ヨリ校舍ノ取壊シヲ行フヘキヲ以テ直ニ教室ニ入りテ机及校具ノ片付ヲ爲スヘシ校長モ迎ヘニヤリタルヲ以テ追テ來ルヘシト告ケ兩名カ直ニ教室ニ入りテ片付ケツアル間ニ早クモ多數ノ人夫ハ正面玄關脇ヨリ宿直室ノ屋根ニ上リテ瓦ノ剝離ヲ始メ以テ教育勅語謄本奉安ノ儘其ノ直上ノ屋根ヲ蹂躪取壊スノ失態ヲ惹起シ剩ヘ間モナク登校セル校長ニ依リテ他ノ書類ト共ニ玄關廊下ニ移サレタル勅語謄本ハ忽卒不用意ノ間ニ人夫ニ依リテ他ノ校具書類ト同様自轉車後部ノ荷附ニ結ヒテ上側ニ運搬セラレ次席訓導之ヲ發見シテ恐懼シテ人夫ヲ叱咤スルノ事態ヲ惹起スルニ至レリ思フニ斯ル失態ヲ醸スニ至リタルハ縣當局カ警察及村當局ト祕密ニ謀合シテ夜半急遽校舍ノ破壊搬出ヲ敢行セムトシタル結果ナリト雖苟モ教育勅語謄本カ同校ニ奉安シアルコトハ縣當局周知ノ事ニシテ從テ校舍取毀ニ先チ必ス之ヲ適當ノ場所ニ奉安スヘキ旨嚴重關係者ニ注意スヘカリシニ拘ラス當該校長職員ニスラ之ヲ嚴秘シテ如上ノ失態ヲ惹起スルニ至リタル以上現場ニ指揮セル村長署長等素ヨリ大責任アリト雖縣當局ノ責任最重シト謂ハサ

ルヲ得ス然ルニ縣當局ハ關係部民ヨリ屢々注意陳情ヲ受ケタルニ拘ラス只管其ノ責任ノ及ハムコトヲ恐レ縣會ニ於テモ事實ヲ曲庇シテ之ヲ瞞化スルノ態度ニ出テ部民ヲシテ縣當局果シテ皇室ニ對シ忠誠ノ念アリヤト憤慨セシムルニ至レリ抑々教育勅語ハ國民道德ノ大本ニシテ御下賜ノ謄本ハ 天皇陛下皇后陛下ノ御尊影ト同様最尊重シテ奉護スヘキコト文部當局累次ノ訓令ナルニ拘ラス今日上述ノ如ク關係者明知ノ失態ヲ看過セムカ文部ノ訓令ハ一片ノ反古ト化シ皇室ノ尊嚴ト教育勅語ノ神聖ハ冒瀆セラレ國民思想ニ及ホス影響實ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ況ヤ關係吏僚相結ンテ之ヲ曲庇スルニ至ツテハ不臣ノ罪斷シテ許スヘカラス政府ハ右ニ對シ如何ナル措置ヲ取リタルカ

五 校舍カ破壊撤去セラレ私立學校設置ノ報一度傳ハルヤ同情翕然トシテ被害部民ニ集リ中ニハ大ニ義憤ヲ感シテ校舍ハ勿論机腰掛及使丁宿舍マテ新造提供セル特志家アリ其ノ他遠近淨財ヲ贈リテ之ヲ後援スル者相繼クノ状態ナルニ反シ縣當局ハ私學ノ出現カ其ノ失政ノ結果トナルヲ恐レ教員ノ招聘ニモ一々警官ヲ派シテ之ヲ阻止セシメ部民カ已ムナク校長ヲ東京ヨリ招聘シ前月校舍破壊ノ日ヲ以テ清海小學塾トシテ開校式ヲ舉ケ九月一日三百餘名ノ學童ヲ收容シテ授業ヲ開始シ同時ニ縣ニ對シテ私立小學校設立認可ノ申請ヲ爲スヤ縣當局ハ右申請ヲ其ノ儘ニシテ百方手段ヲ盡クシテ在學兒童ノ切崩シヲ策シ遂ニ其ノ寸效ナキ

ヲ知ルヤ八箇月ヲ經タル去月中旬突如認可申請ヲ却下スルト共ニ一方縣下ノ中等學校ニ對シテ清海生徒入學拒絶ノ指令ヲ與ヘ他方清海塾生ハ全部落第セシムル旨ヲ新聞紙ニ宣傳シ以テ全面的ニ清海塾兒童ノ進出ヲ封鎖シ以テ塾ノ潰滅ヲ企ツルニ至レリ茲ニ於テカ上級生中ニハ中等學校入學ノ爲他村ノ親族ニ寄留シテ其ノ村校ニ入學スル者アルニ至ルヤ右情報ニ接セル縣當局ハ直ニ縣視學ヲ派シテ當該小學校長ニ對シ清海塾生ノ入學取消ヲ強要シ之カ爲折角入學シタル者モ拒絶セラレテ歸村ノ餘儀ナキニ至リ父兄ハ餘リニ執拗ナル縣當局ノ迫害ヲ怨ミ其ノ儘就學ヲ斷念セシムルニ至レリ抑々小學教育ハ次代國民養成ノ爲國家及父兄ニ課セラレタル重大ナル義務ナルニ拘ラス縣當局ハ校舍ヲ破壊シテ學童ヲ私學ニ據ルノ已ムナキニ至ラシメナカラ更ニ其ノ私學ヲ壓迫不認可トシテ尙飽足ラス今又新學期ヲ目前ニシテ飽ク迄之ヲ迫害スルニ至リテハ之ヲシモ文政當局ノ態度ナリト爲スカ竊ニ恐ルスノ如キ惡辣極マル迫害ハ孰レノ日カ民怨ノ爆發トナリテ遂ニ重大ナル結果ヲ生セムコトヲ政府ハ右縣當局ノ措置ヲ以テ當ヲ得タリト爲スカ

六 學校破壊ノ最後の結果ハ下側部民ニ依ル獨自ノ新村結成ナリ即チ警察隊ノ封鎖包圍ノ下ニ校舍ノ破壊撤去カ決行セラルルヤ部民ハ縣當局及警察ニ對シテハ勿論本村上側ニ對スル感情俄然惡化シ營業上ノ取引ハ勿論日常ノ交際殆ト杜絶シ兄弟血縁ノ間モ義絶ノ狀態ト

ナリ就中學童ニ在リテハ官憲及上側ニ對シテ極度ニ敵愾心ヲ抱キ上級學童ノ如キハ誓ツテ他日ノ報復ヲ期スト叫ヒ類齡ノ老婆亦涙ヲ振ツテ兒孫ヲ激勵スル有様ニシテ到底融和ノ望ナキノミナラス此ノ儘ニ經過スルハ上下雙方ノ不幸ニシテ寧ロ一日モ速ニ本村ヨリ分レテ新村ヲ結成スルコトカ現在ノ恐怖狀態ヨリ逃レテ將來ノ平和ヲ期スル唯一ノ途ナリトシテ側部落四百餘戸加盟調印ノ上清海村ノ名ニ於テ新村ノ結成ヲ宣言シ縣ニ向ツテ分村實現ノ陳情ヲ爲スト共ニ村長以下村會議員ヲ選任シテ近ク更ニ役場建設ノ計畫ヲ進メツツアリ然ルニ縣當局ハ斯ノ如キ事態カ自己ノ失敗ノ結果ナルヲ省ミス絶エス裏面的工作ニ依リテ之カ解消ヲ企テ其ノ全然不成功ニ終ルヤ最近方向ヲ學童及學校ニ轉換シ前項所述ノ如ク中等學校及他校ヘノ入學轉學ノ封鎖ニ依リテ清海村塾ノ攪亂ヲ策スルニ至リタル爲部民ハ憤慨ノ餘リ去月下旬大會ヲ急開シテ悽愴ナル光景ノ下ニ飽ク迄分村ノ貫徹ヲ期ス縣稅ハ納付セストノ決議ヲ爲シ以テ縣當局ノ壓迫ニ對抗スルニ至レリ抑々地方自治ノ要諦ハ村民ノ協調偕和ニ在リ然ルニ縣當局ハ自ラ暴力ヲ揮ツテ一村ヲ兩斷シ協調偕和ノ命脈ヲ斷チテ必然的ニ分村ノ基礎ヲ作りナカラ今ニ至ツテ進ンデ分村ヲ實現スルノ勇斷ナク退イテ責ヲ引クノ良心ナク縣政ヨリ遊離獨立スル無政府村ヲ出現セシメテ何等爲スナキニ至リテハ全然牧民ノ能力ヲ缺クモノト謂ハサルヲ得ス政府ノ所見如何

七 近時官界ノ通弊ハ吏僚多ク其ノ責任觀念ニ乏シキニ在リ而シテ綠海村事件ハ實ニ本邦自治制施行以來空前ノ暴舉ニシテ最ヨク官僚獨尊ノ脅威ヲ暴露シタルモノナリ單ナル一學校位置問題ノ解決ノ爲警察的武力ヲ以テ彈壓ノ一途ニ出テ其ノ間聖勅奉護ニ對スル不敬ノ失態ヲ惹起シ其ノ結果 陛下ノ赤子ヲ驅ツテ無政府村ニ逃避ヲ餘儀ナクセシメ荏苒九箇月ヲ過キテ何等解決セサルノミナラス當局官憲中一人ノ責ヲ負フ者ナキニ至リテハ豈天下ノ一大怪事ニ非スシテ何ソヤ往年德川幕府ノ治世千葉縣ニハ下總ニ佐倉騷動アリ安房ニ萬石騷動アリ孰レモ藩僚暴政ノ結果ニ出ツ而シテ前者ノ藩主ハ民怨ノ崇ル所トナリテ亂心狂死シ後者ノ藩主ハ領土ヲ奪ハレテ追放セラレ部下當局ノ藩僚ハ孰レモ罪死シ一方部民ノ願望ハ迅速且悉ク達セラレ忽々ニシテ和平ノ局ヲ結ヘリ幕府專制ノ時代ニ於テ尙斯ノ如シ聖世ノ當今下總ト安房ノ間ニ起レル未會有ノ暴政ニ對シ關係ノ吏僚未タ一人ノ責ヲ問ハレタル者ナク部民ノ願望年ヲ越エテ何等達セラルルナキニ至リテハ今日立憲政治却テ昔日幕府ノ專制政治ヨリモ劣ルニ非スヤ庶政ヲ一新シテ民心ヲ安ニスルハ實ニ現内閣ノ重要政綱ナリ政府ハ速ニ關係吏僚ノ責任ヲ糾明シテ官僚獨尊ノ病根ヲ切斷シ速ニ民怨ヲ解消シテ被害村民ヲシテ再ヒ天日ヲ仰クヲ得シムルノ意ナキヤ

右及質問候也

右質問主意書ハ昭和十二年三月八日土屋清三郎君提出ス同月二十三日林内閣總理大臣兼文部大臣及河原田内務大臣ハ書面ヲ以テ左ノ答辯ヲ爲ス

- 一、千葉縣山武郡綠海村ニ於テハ小學校位置問題ニ關シ多年紛爭ヲ續ケ來リシ處縣當局ハ之ガ融和解決ニ付種々腐心シ慎重調査ノ結果現在ノ位置ヲ指定シタルモノニシテ其ノ措置ニ付テハ何等不當トスベキ點ナシト認ム
- 二、警察官ノ行動ニ關シテハ同村ガ既往ニ於テ小學校位置問題ヲ中心ニ紛擾ヲ重ネ之ガ爲遂ニ警察事故ヲ惹起シタルコト一再ナラザルノ事實ニ鑑ミ昨年七月二十六日校舍移轉ニ際シテモ或ハ治安ヲ害スルガ如キ事態ノ發生センコトヲ虞レ警察官ヲ派シテ取締ノ萬全ヲ期シタルモノニシテ警察官自ラ手ヲ下シテ校舍ヲ破壊シタルガ如キコトハ無ク其ノ他特ニ本件ニ付干渉威嚇ヲ行ヒ又ハ職權ヲ濫用シタル等ノ事實ナシ
- 三、教育勅語謄本ニ關スル不敬問題ニ付テハ特ニ嚴密ナル調査ヲ行ハシメタルモ教育勅語謄本ハ移轉工事開始前職員ニ於テ無事上側校舍ニ奉還シタルモノニシテ質問ノ如キ事實ナシ
- 四、私立清海小學塾ノ問題ニ付テハ縣當局ニ於テ關係民ノ感情鎮靜ヲ期シ極力村立小學校ニ兒童ノ通學ヲ勸奨スル一方各般ノ事情ヲ慎重考慮ノ結果之ヲ認可セザルコトト爲シタルモノニシテ特ニ學童ヲ迫害シタルガ如キ事實ナシ
- 五、要スルニ本件ニ關シ縣當局ノ執リタル措置ニ付テハ特ニ不當ト認ムベキ事項ナク又分村問題ノ如キ慎重ナル考究ヲ遂ゲタル結果ニ基クモノニ非ズシテ偶發的感情ニ捉ハレタル一時的所論ト認メラルハヲ以テ目下縣當局ヲシテ銳意本件ノ解決ニ付努力セシメツツアリ時日ノ經過ト共ニ漸次事態ハ平靜ニ歸スルモノト認メラル

右及答辯候也